

平成 19 年度戸塚区区民意識調査

報告書

平成 19 年 11 月

横浜市戸塚区役所

戸塚区区民意識調査

目 次

調査概要.....	1
I. 回答者の属性.....	2
II. 集計分析結果(概要).....	10
生活環境全般に対する重要度・満足度.....	10
防災などについて.....	19
少子高齢化などについて.....	26
緑の保全などについて.....	31
区制 70 周年・開港 150 周年に向けた取組について.....	33
定住意向について.....	35
その他.....	36
III. 集計分析結果.....	40
生活環境全般に対する重要度・満足度.....	40
防災などについて.....	108
少子高齢化などについて.....	138
緑の保全などについて.....	155
区制 70 周年・開港 150 周年に向けた取組について.....	163
定住意向について.....	170
その他.....	174
自由意見一覧(問 23).....	180
調査票.....	201

戸塚区区民意識調査

調査概要

◆調査対象

調査対象数 3,000 人（戸塚区に居住する 16 歳以上の人・無作為抽出による）

回収数 1,410 件

回収率 47.0%

◆調査方法

郵送によるアンケート形式

◆調査期間

平成 19 年 8 月

◆調査実施機関

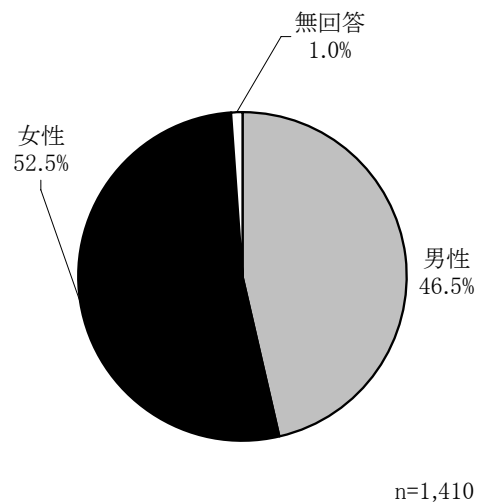
株式会社 地域環境計画

I. 回答者の属性

性別

- ・ 女性が 52.5% で、男性 46.5% より 6 ポイント多くなっている。

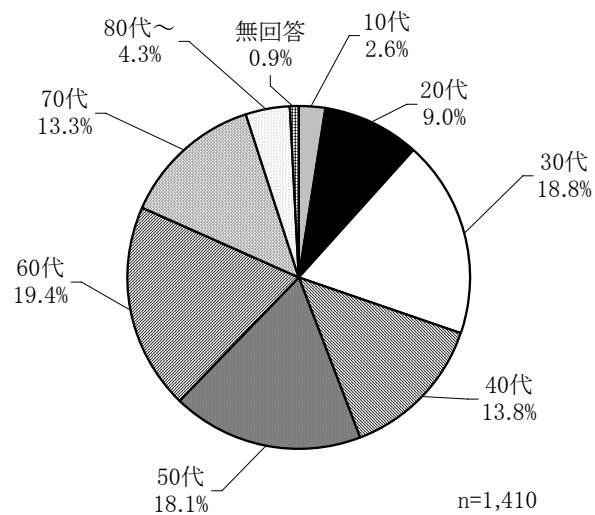
図 性別



年齢

- ・ 10 代 (2.6%)、20 代 (9.0%)、80 代以上 (4.3%) が少なくなっているが、他の世代はほぼ拮抗しており、多い方から 60 代 (19.4%)、30 代 (18.8%)、50 代 (18.1%)、40 代 (13.8%)、70 代 (13.3%) の順である。

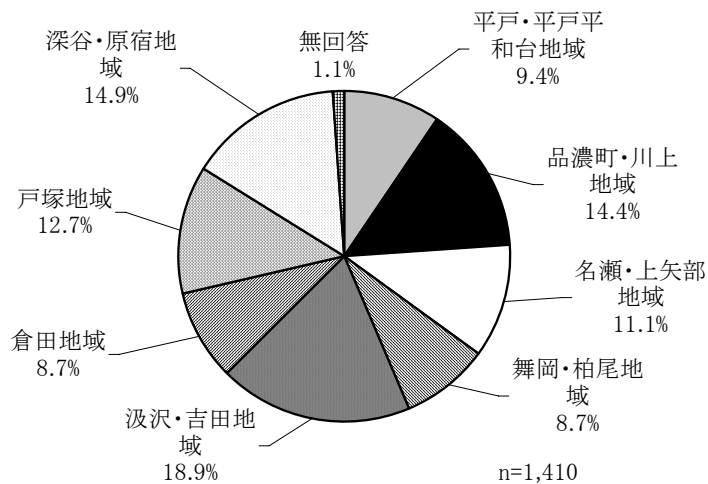
図 年齢



居住地域

- 最も多いのは「汲沢・吉田地域」の 18.9%、次いで「深谷・原宿地域」(14.9%)、「品濃町・川上地域」(14.4%)、「戸塚地域」(12.7%)、「名瀬・上矢部地域」(11.1%)、「平戸・平戸平和台地域」(9.4%) と続く。最も少ないのは「舞岡・柏尾地域」「倉田地域」で、共に 8.7%であった。

図 居住地域



※ 地域区分について

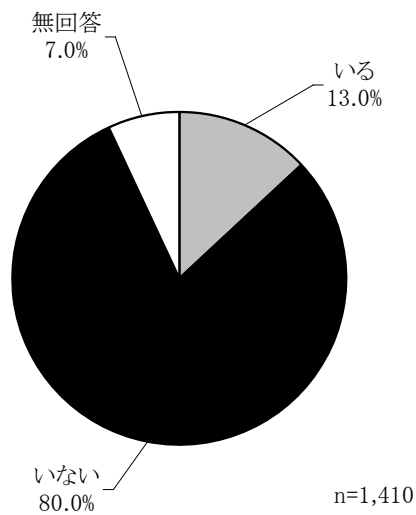
地域名	該当町丁目
平戸・平戸平和台地域	平戸町、平戸一～五丁目
品濃町・川上地域	品濃町、上品濃、川上町、前田町、秋葉町
名瀬・上矢部地域	名瀬町、上矢部町
舞岡・柏尾地域	舞岡町、南舞岡一～四丁目、柏尾町、上柏尾町
汲沢・吉田地域	汲沢町、汲沢一～八丁目、矢部町、鳥が丘、吉田町
倉田地域	上倉田町、下倉田町
戸塚地域	戸塚町
深谷・原宿地域	深谷町、俣野町、原宿一～五丁目、小雀町、東俣野町、影取町

家族について

A 同居している未就学児童の有無

- ・ 「いない」が80.0%で全体のちょうど8割を占める。「いる」は13.0%である。

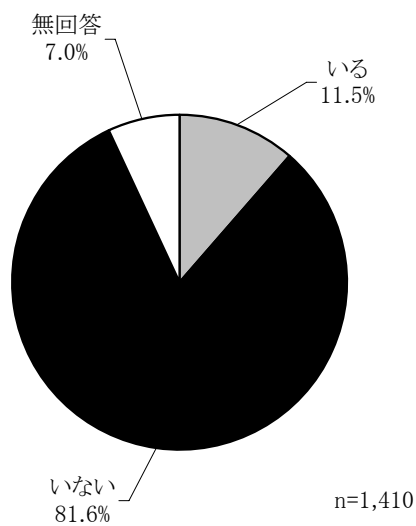
図 家族について — 同居している未就学児童の有無



B 同居している小学生児童の有無

- ・ 「いない」が81.6%で全体の8割を超え、「いる」は11.5%となっている。

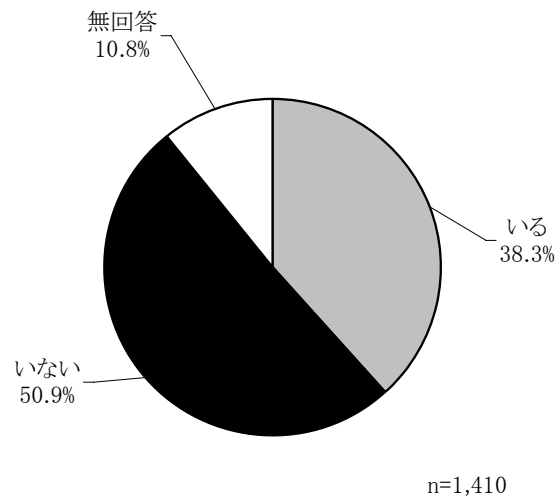
図 家族について — 同居している小学生児童の有無



C 同居・別居を問わず、65～74 歳の家族の有無

- ・ 「いない」が 50.9%とほぼ半数、「いる」は 38.3%となっている。

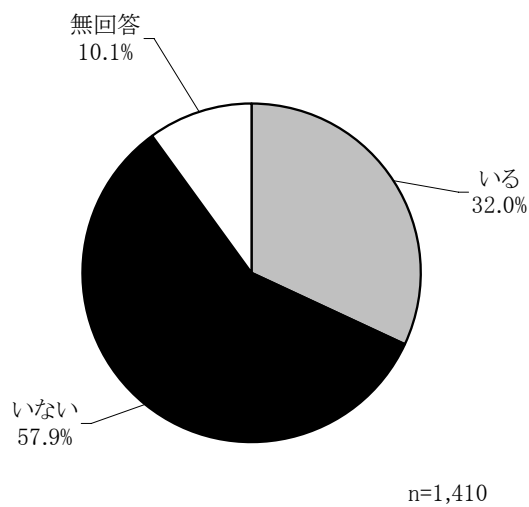
図 家族について — 同居・別居を問わず、65～74 歳の家族の有無



D 同居・別居を問わず、75 歳以上の家族の有無

- ・ 「いない」が 57.9%で6割弱となっている。「いる」は 32.0%で3割強である。

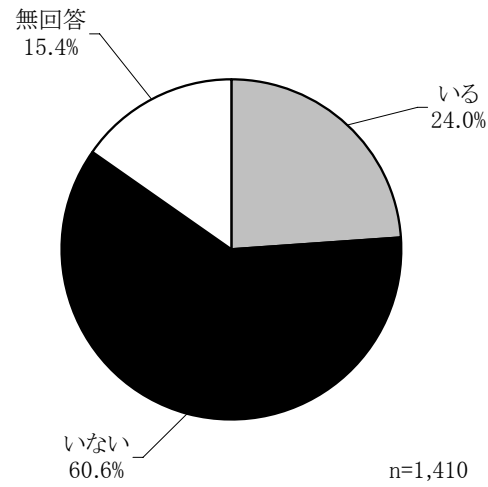
図 家族について — 同居・別居を問わず、75 歳以上の家族の有無



E 日中、家で子どもの世話をする人の有無

- ・ 「いない」が60.6%でほぼ6割、「いる」は24.0%で全体の4分の1弱である。

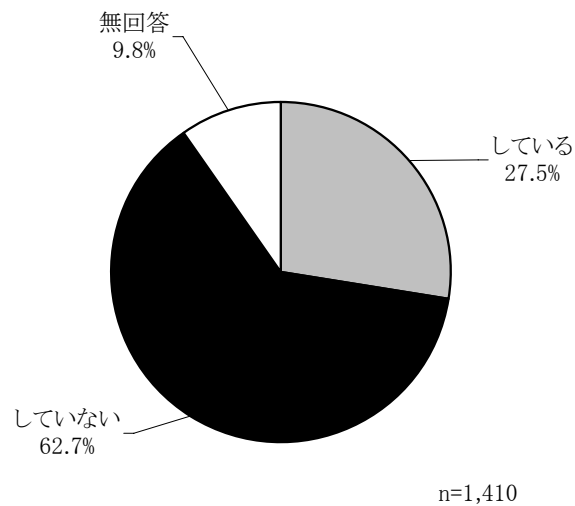
図 家族について — 日中、家で子どもの世話をする人の有無



F 共働きか否か

- ・ 「していない」の方が多く、62.7%と全体の6割強となっている。「している」は27.5%で全体の4分の1程度である。

図 家族について — 共働きか否か



家族構成

- ・ 親と子（2世代）が 55.0%で最も多く、全体の半数強を占める。次いで「夫婦だけ」（27.4%）、「祖父母と親と子（3世代）」（7.6%）、「ひとり暮らし」（6.5%）、「その他」（1.4%）と続く。

図 家族構成

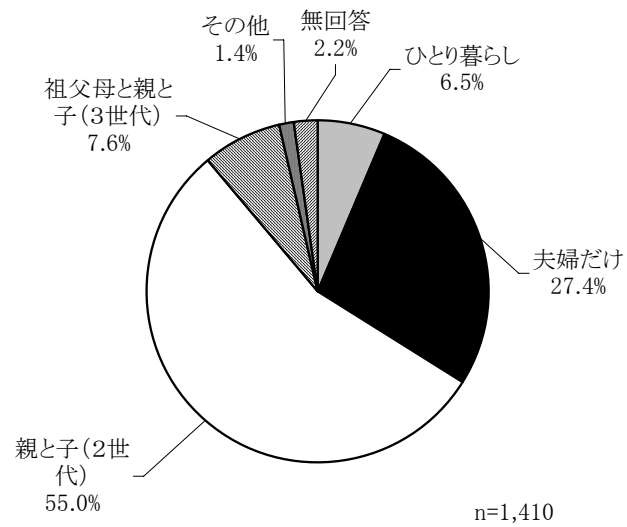


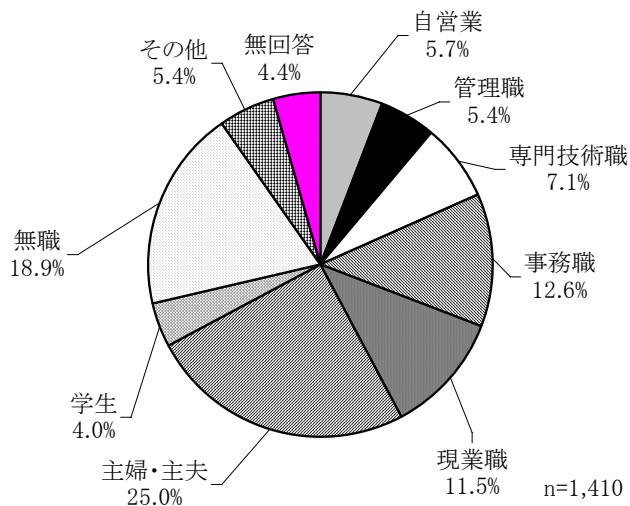
図 「その他」意見概要

意見内容	件数
兄弟姉妹	4
4世代	3
夫婦と夫の姉妹	2
夫婦、子、義理の弟	1
夫婦と祖母	1
父母、弟、姪	1
親戚と同居	1
婚約者と同居	1
友人（ルームシェア）	1
修道院	1
	16

職業

- ・ 「主夫・主婦」の25.0%が最も多く、次いで「無職」(18.9%)となっている。以下「事務職（事務職、営業職、教員など）」(12.6%)、「現業職（生産工程、販売・サービス、運転手、保安職などの従事者）」(11.5%)、「専門技術職（勤務医師、研究所研究員、技師など）」(7.1%)、「自営業（農林漁業、商工サービス業、自由業の自営業主および家族従業者）」(5.7%)、「管理職（会社の部長級以上、官公庁の課長級以上など）」(5.4%)、「その他」(共に5.4%)、「学生」(4.0%)と続いている。

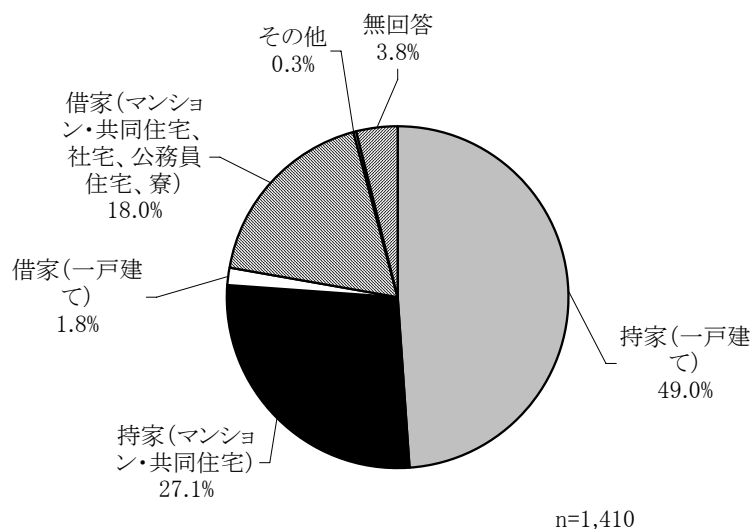
図 職業



住居形態

- ・ 「持家（一戸建て）」が49.0%で約半数を占め、最も多くなっている。次いで「持家（マンション・共同住宅）」(27.1%)で、持家率は76.1%と全体の4分の3以上にのぼる。以下、「借家（マンション・共同住宅、社宅、公務員住宅、寮）」(18.0%)、「借家（一戸建て）」(1.8%)、「その他」(0.3%)と続いている。

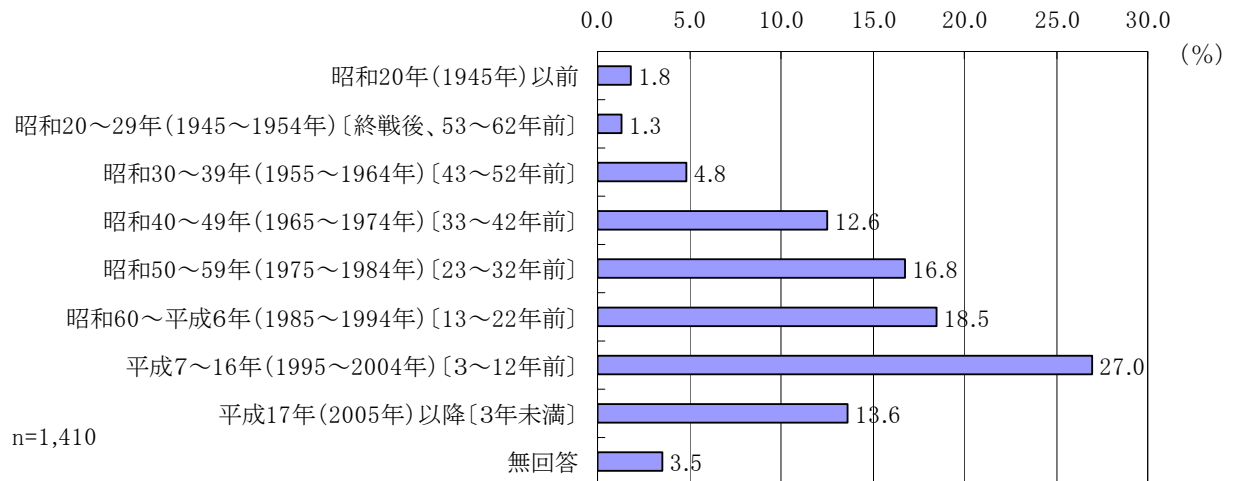
図 住居形態



居住年数

- 最も多いのは「平成7～16年（1995～2004年）〔3～12年前〕」の27.0%、次いで「昭和60～平成6年（1985～1994年）〔13～22年前〕」（18.5%）、「昭和50～59年（1975～1984年）〔23～32年前〕」（16.8%）などとなっており、現在に至るまで継続して増加傾向である。なお、17年（2005年）以降〔3年未満〕については直近3年分のデータであるが、既に昭和40～49年の数値を超えている。

図 居住年数



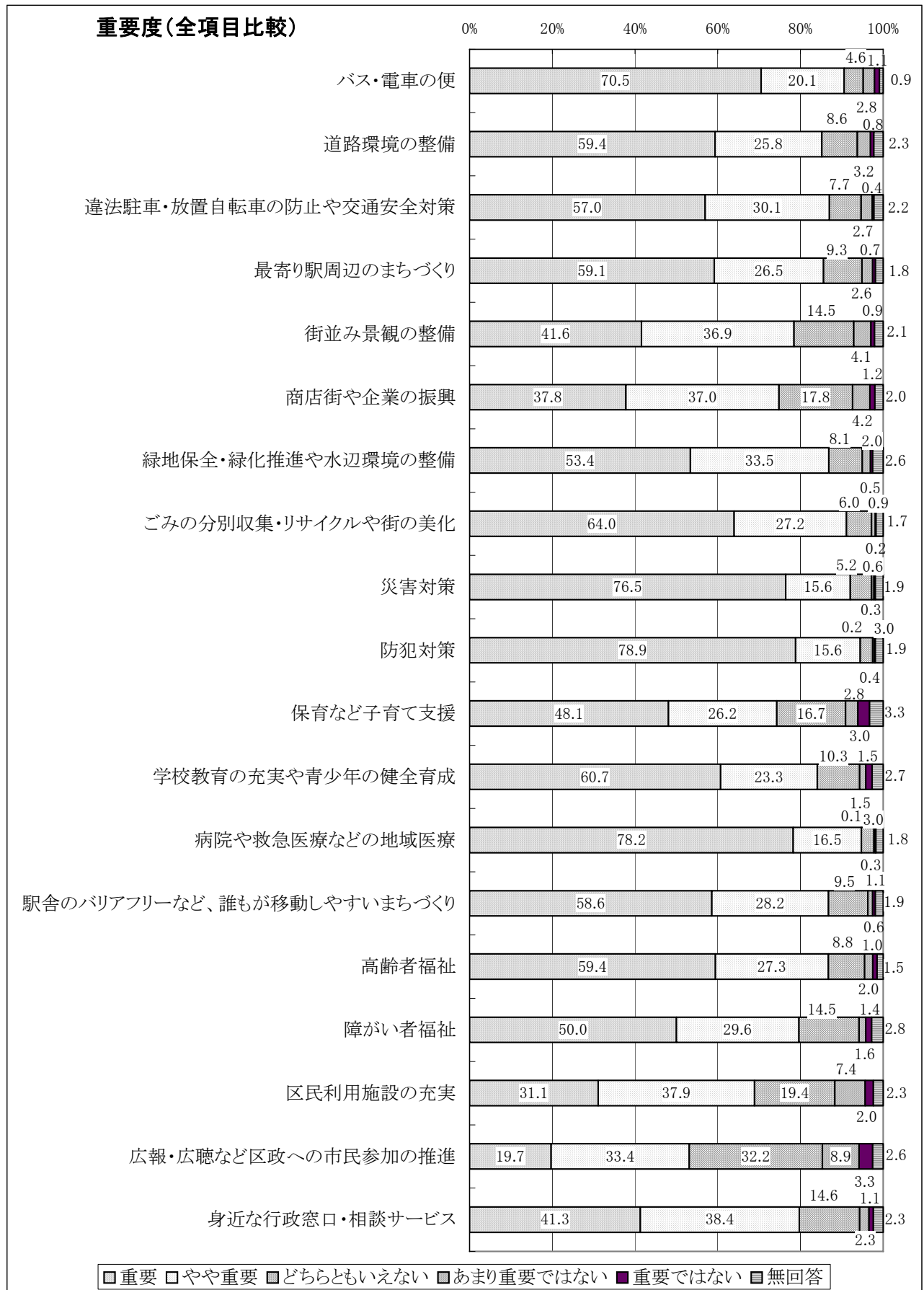
Ⅱ. 集計分析結果(概要)

生活環境全般に対する重要度・満足度

生活環境全般に対する重要度

- ・ 「道路・交通」に関する3つの項目では、いずれも重要とやや重要を合わせた割合が8割台後半～9割となっており、特に「①バス・電車の便」においては90.6%となっている。
- ・ 「まちづくり」に関する2つの項目を見ると、重要とやや重要の割合は「④最寄り駅周辺のまちづくり」で8割台半ば、「⑤街並み景観の整備」は7割台後半となっている。
- ・ 「産業」に関する項目である「⑥商店街や企業の振興」については、重要とやや重要の割合は7割台となっている。
- ・ 「環境」に関する2つの項目「⑦緑地保全・緑化推進や水辺環境の整備」「⑧ごみの分別収集・リサイクルや街の美化」は、共に8割台後半～9割の高い数値で、特に「⑧ごみの分別収集・リサイクルや街の美化」においては91.1%となっている。
- ・ 「防犯・防災」に関する2つの項目は、「⑨災害対策」「⑩防犯対策」とともに重要とやや重要の割合が9割以上となっており、中でも「⑩防犯対策」の重要性が94.5%と特に高くなっている。
- ・ 「教育・福祉・医療」に関する7項目については、「⑬病院や救急医療などの地域医療」で9割台前半の高い数値を示している。また、「⑫学校教育の充実や青少年の健全育成」「⑭駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり」「⑮高齢者福祉」が8割台、「⑯障がい者福祉」は8割弱である。「⑪保育など子育て支援」は7割台前半で、さほど高い数値になっていないほか、「⑰区民利用施設の充実」は7割に満たない。
- ・ 「行政」に関する2つの項目では、重要とやや重要の割合は「⑱広報・広聴など区政への市民参加の推進」で5割程度に留まっている。「⑲身近な行政窓口・相談サービス」は8割弱である。

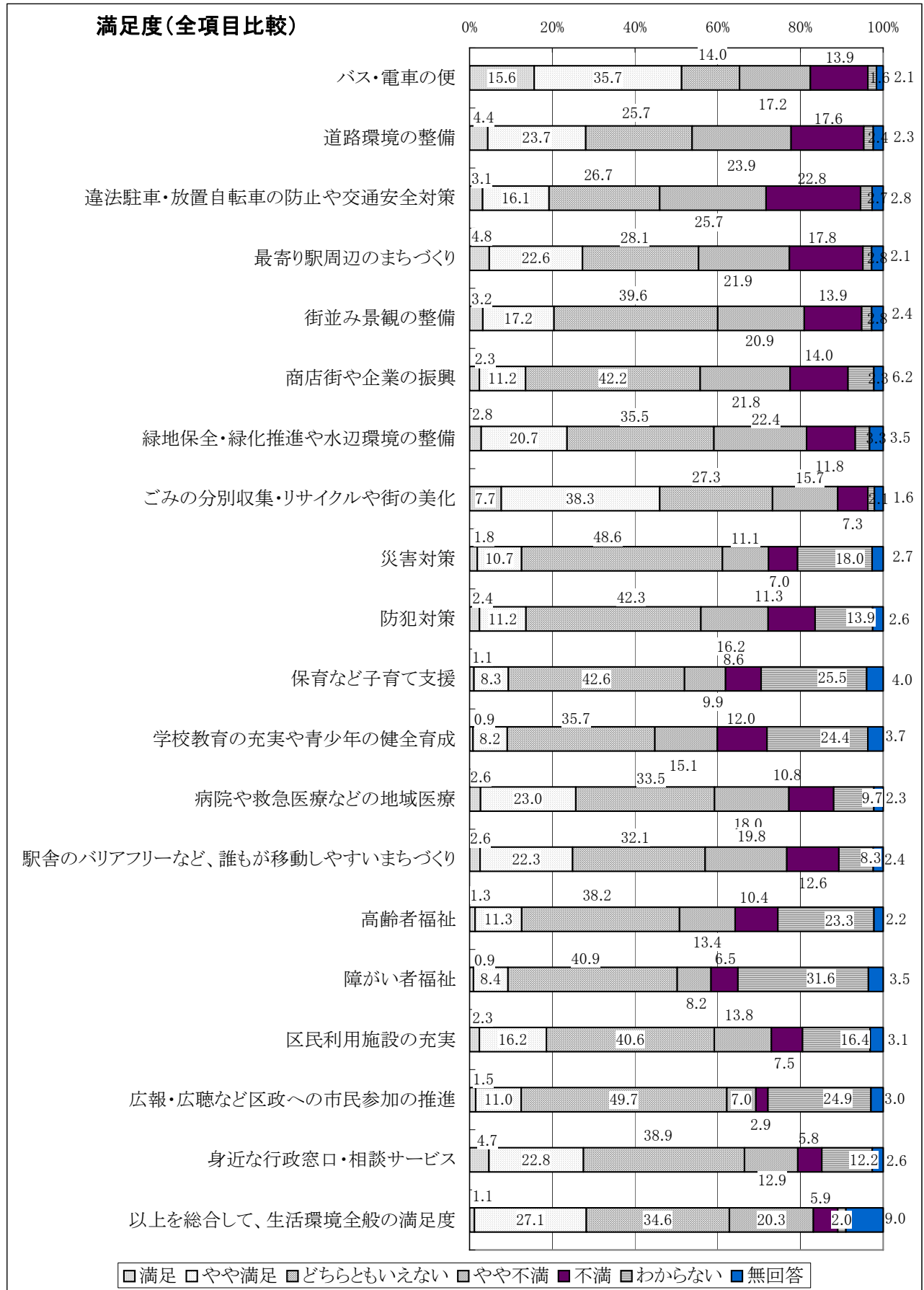
図 重要度(全項目比較)



生活環境全般に対する満足度

- ・ 「道路・交通」に関する3つの項目では、「①バス・電車の便」では満足とやや満足を合わせた割合が設問全体を通して最も高く5割を超え、不満とやや不満を合わせた割合を上回っているが、「②道路環境の整備」「③違法駐車・放置自転車の防止や交通安全対策」では不満とやや不満の割合が4割台と比較的高く、満足とやや満足の割合を上回っている。
- ・ 「まちづくり」に関する2つの項目を見ると、共に満足とやや満足の割合が2割台、不満とやや不満の割合が3割台で、不満の方が上回っている。
- ・ 「産業」に関する項目である「⑥商店街や企業の振興」については、満足とやや満足の割合は1割台、不満とやや不満の割合は3割台で、不満の方が上回っている。
- ・ 「環境」に関する2つの項目では、「⑦緑地保全・緑化推進や水辺環境の整備」では満足とやや満足を2割台、不満とやや不満が3割台で不満が上回っている。一方「⑧ごみの分別収集・リサイクルや街の美化」では、満足とやや満足を4割台で、不満とやや不満が2割台と、満足の方が上回っている。
- ・ 「防犯・防災」に関する2つの項目は、「⑨災害対策」「⑩防犯対策」とともに満足とやや満足の割合が1割台、不満とやや不満の割合がそれぞれ2割弱、3割弱となっており、不満の方が上回っている。
- ・ 「教育・福祉・医療」に関する項目については、7項目全てで、不満とやや不満が満足とやや満足を上回っている。特に「⑪保育など子育て支援」「⑫学校教育の充実や青少年の健全育成」「⑬障がい者福祉」では、満足とやや満足の割合は1割に満たない低い数値である。
- ・ 「行政」に関する2つの項目では、共に満足とやや満足の割合が、不満とやや不満の割合を上回っている。
- ・ 「以上を総合して、生活環境全般の満足度」については、満足とやや満足を28.2%、不満とやや不満が26.2%と、僅差ではあるが満足とやや満足の割合の方が高くなっている。

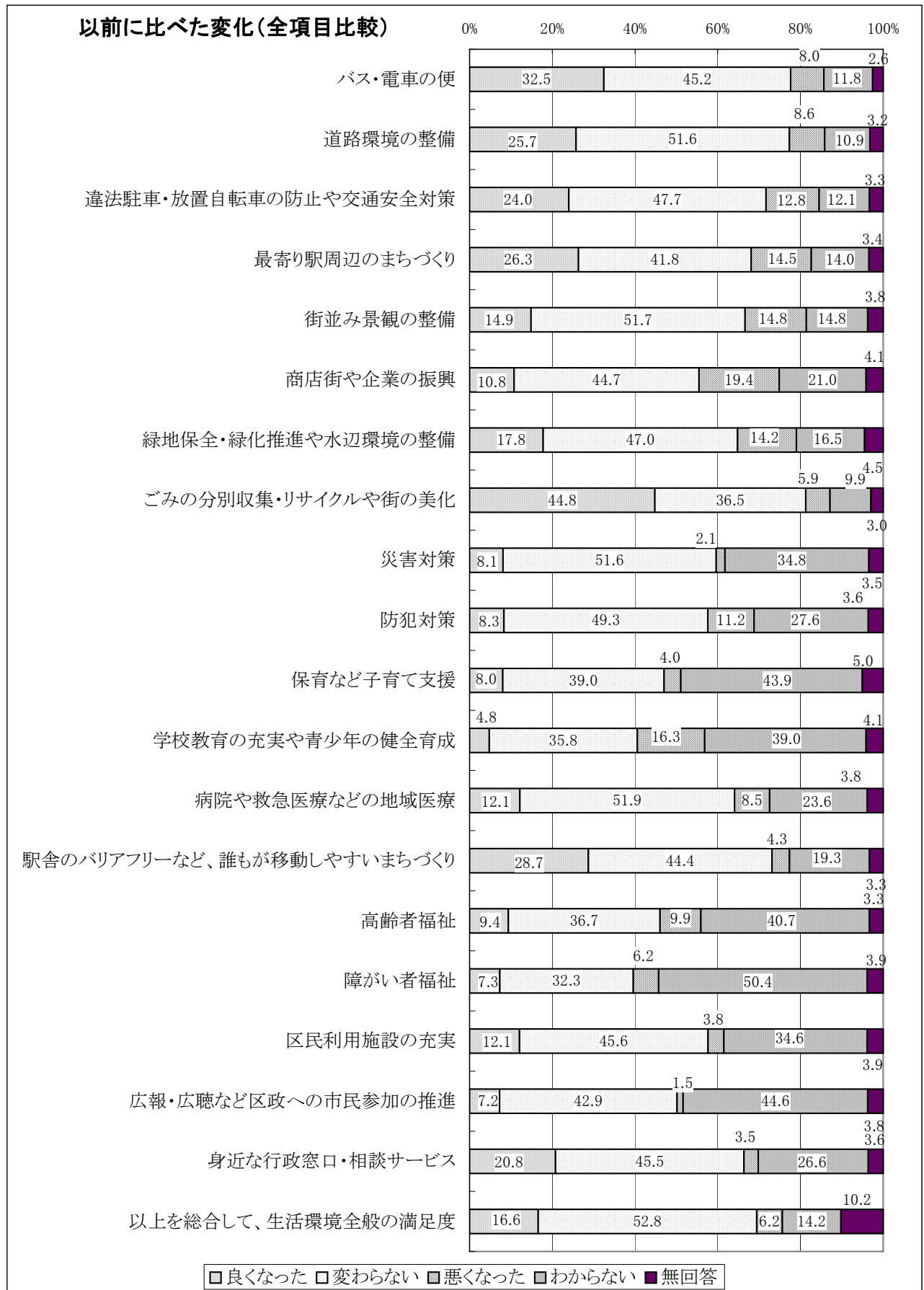
図 満足度(全項目比較)



生活環境全般の以前と比較した変化

- ・ 「道路・交通」に関する3つの項目では、いずれも「変わらない」が50%前後で最も多くなっているが、「①バス・電車の便」では「良くなった」が32.5%と比較的高く、「②道路環境の整備」「③違法駐車・放置自転車の防止や交通安全対策」でも全体の4分の1程度が「良くなった」としている。
- ・ 「まちづくり」に関する2つの項目では、いずれも「変わらない」が最も多いが、「④最寄り駅周辺のまちづくり」では「良くなった」が26.3%と比較的高い数値となっている。「⑤街並み景観の整備」では「良くなった」と「悪くなった」の数値が約15%でほぼ同じ割合となっている。
- ・ 「産業」に関する項目である「⑥商店街や企業の振興」については、「変わらない」が44.7%で最も多い。次いで「わからない」「悪くなった」「良くなった」の順となっている。
- ・ 「環境」に関する2つの項目では、「⑦緑地保全・緑化推進や水辺環境の整備」では「変わらない」(47.0%)が最も多く、「⑧ごみの分別収集・リサイクルや街の美化」は、「良くなった」(44.0%)が最も多い。設問全体を通して「良くなった」が最も多くなっているのは「⑧ごみの分別収集・リサイクルや街の美化」のみである。
- ・ 「防犯・防災」に関する2つの項目は、「⑨災害対策」「⑩防犯対策」とともに「変わらない」が5割前後を占め最も多く、次いで「わからない」が3割程度を占める。
- ・ 「教育・福祉・医療」に関する7項目では、「⑪保育など子育て支援」「⑫学校教育の充実や青少年の健全育成」「⑬高齢者福祉」「⑭障がい者福祉」については「わからない」が最も多くなっている。幼児・学童や高齢者、高齢者など、設問に該当する人が身近にいないと判断がしにくいためと考えられる。また、いずれも次に多いのは「変わらない」である。「⑬病院や救急医療などの地域医療」「⑭区民利用施設の充実」では「変わらない」が最も多く、次いで「わからない」となっている。「⑮駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり」では、「変わらない」が最も多いものの、「良くなった」も28.3%と比較的高い数値となっている。
- ・ 「行政」に関する2つの項目では、「⑯広報・広聴など区政への市民参加の推進」は「わからない」、「身近な行政窓口・相談サービス」では「変わらない」が共に4割台半ばで最も多い。
- ・ 「以上を総合して、生活環境全般の変化」については、「変わらない」が52.8%で全体の半分強を占める。次いで「良くなった」16.6%、「わからない」14.2%、「悪くなった」6.2%の順である。

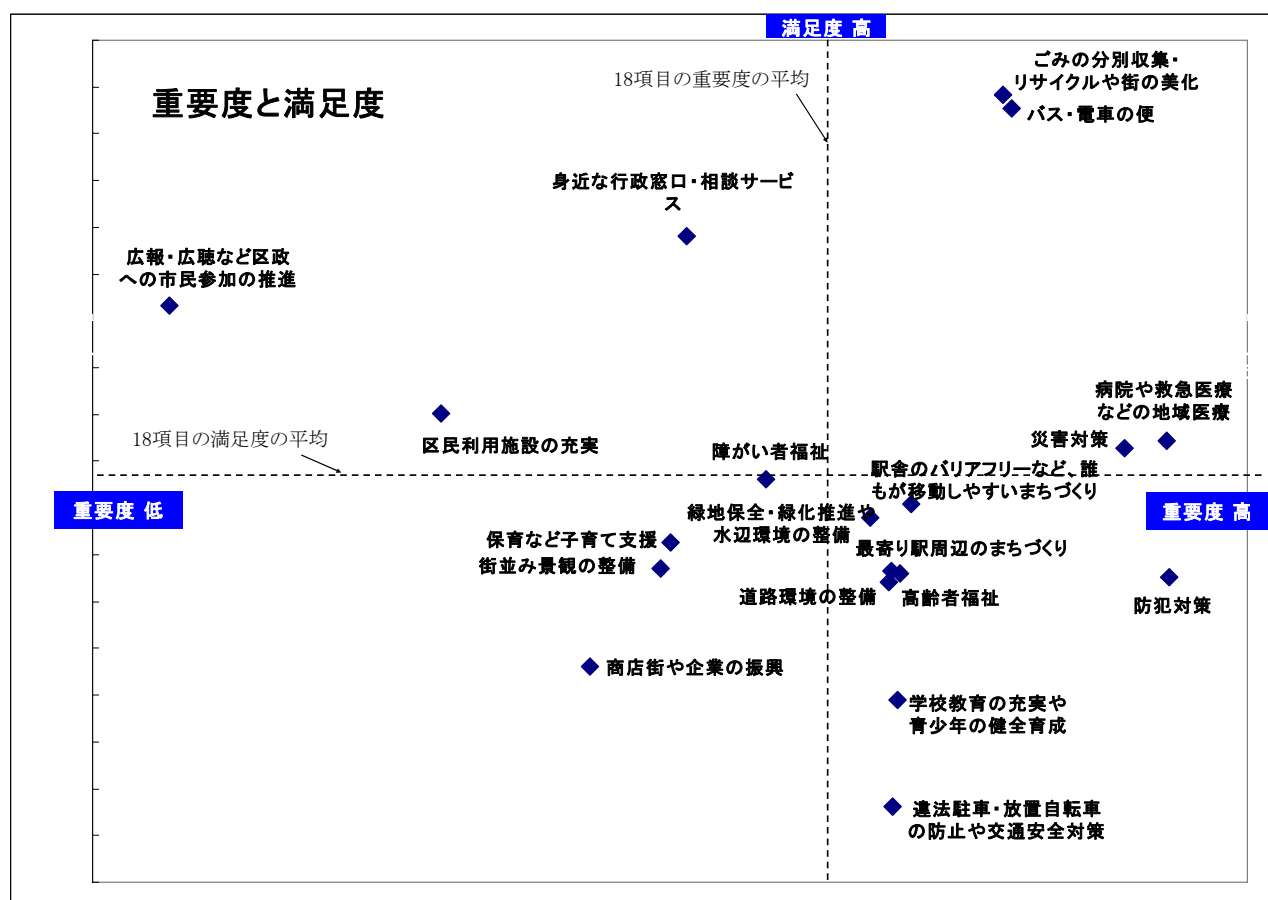
図 以前と比べた変化(全項目比較)



項目の重要度と満足度の関係

- 戸塚区民の 18 項目の指標に関する重要度と満足度を、全 18 項目の平均値を中心にその分布を見たものが下図である。(満足・重要+2 点、やや満足・やや重要+1 点、やや不満・あまり重要ではない-1 点、不満・重要ではない-2 点として項目ごとに重要度、満足度の得点を算出し、重要度、満足度の全項目の平均値を軸に指標間の比較をしたものである。)
- 重要度も満足度もそれぞれ全項目の平均より高かった項目、すなわち、比較的満足はしているが、さらに向上が必要とされている項目は、「ごみの分別収集・リサイクルや街の美化」「バス、電車の便」「病院や救急医療などの地域医療」「災害対策」の 4 指標であった。
- 満足度は比較的低く、重要度の比較的高い項目、すなわち、不満に感じていて、向上が期待されている項目は「駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり」「緑地保全・緑化推進や水辺環境の整備」「高齢者福祉」「最寄り駅周辺のまちづくり」「道路環境の整備」「防犯対策」「学校教育の充実や青少年の健全育成」「違法駐車・放置自転車の防止や交通安全対策」の 8 項目であった。
- 満足度は平均より高いが、重要度は平均より低かった項目、すなわち、比較的満足しており、向上を図る必要性は他の項目よりも低いとされている項目は、「身近な行政窓口・相談サービス」「広報・広聴など区政への市民参加の推進」の 2 項目であった。
- 満足度は比較的低く、重要度も比較的低かった項目、すなわち、満足はしていないが、向上がそれほど期待されていない項目は、「障がい者福祉」「保育など子育て支援」「街並み景観の整備」「商店街や企業の振興」の 4 項目であった。

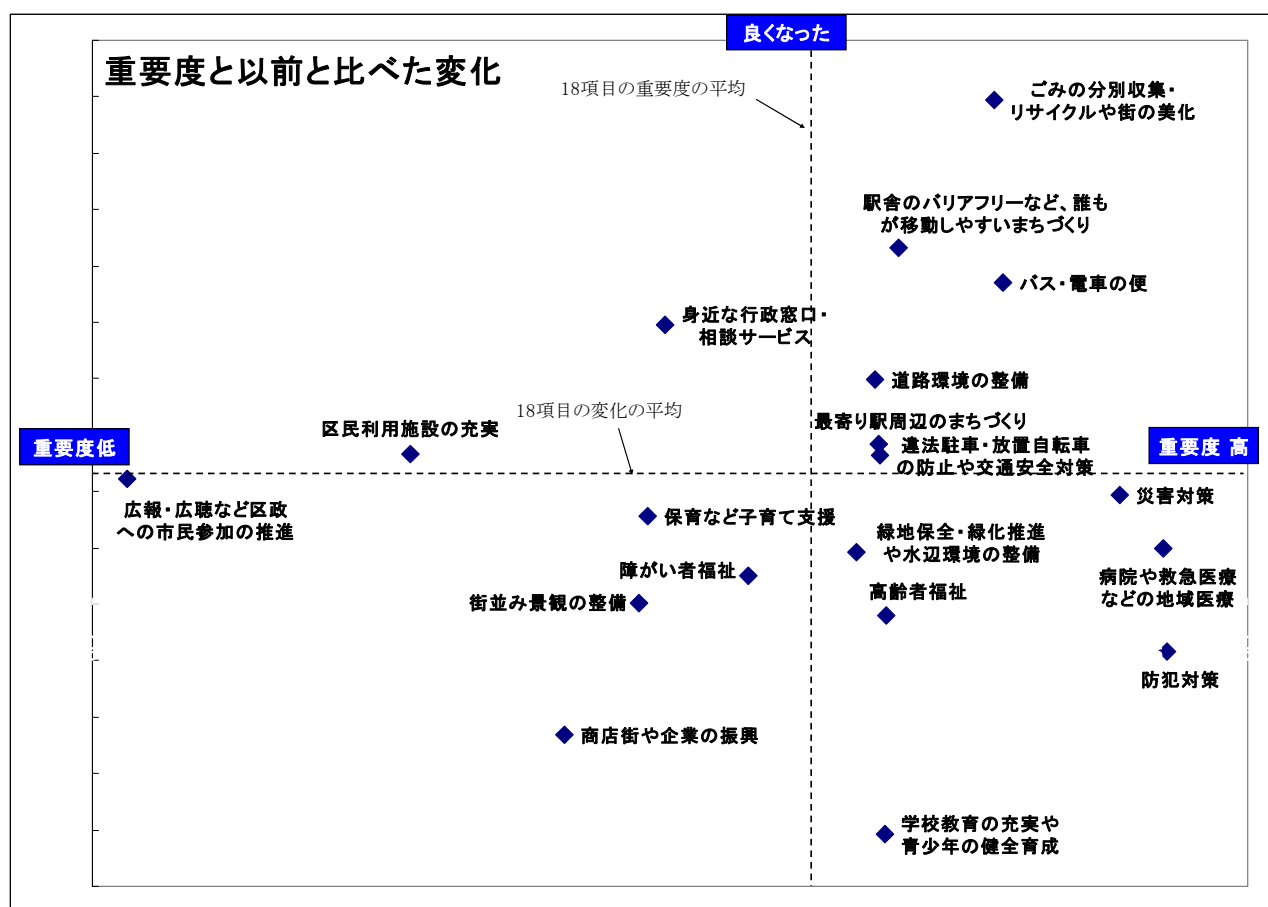
図 施策の重要度＜問 1＞と満足度＜問 2＞



項目の重要度と以前に比べた変化との関係

- 戸塚区民の18項目の指標に関する重要度と以前に比べた変化を、全18項目の平均値を中心にその分布を見たものが下図である。(重要+2点、やや重要+1点、あまり重要ではない-1点、重要ではない-2点、また、良くなった+1点、悪くなった-1点として項目ごとに重要度、変化の得点を算出し、重要度、変化の全項目の平均値を軸に指標間の比較をしたものである。)
- 重要度も変化の数値もそれぞれ全項目の平均より高かった項目、すなわち、比較的向上が期待されており、経過も良いとされている項目は、「ごみの分別収集・リサイクルや街の美化」「駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり」「バス、電車の便」「道路環境の整備」「最寄り駅周辺のまちづくり」「違法駐車・放置自転車の防止や交通安全対策」の6指標であった。
- 変化の数値は比較的低く、重要度の比較的高い項目、すなわち、向上が期待されているにもかかわらず状況があまり好転していない項目は「災害対策」「緑地保全・緑化推進や水辺環境の整備」「病院や救急医療などの地域医療」「高齢者福祉」「防犯対策」「学校教育の充実や青少年の健全育成」の6項目であった。
- 変化の数値は平均より高いが、重要度は平均より低かった項目、すなわち、状況が好転しているが、向上を図る必要性は他の項目よりも低いとされている項目は、「身近な行政窓口・相談サービス」「区民利用施設の充実」の2項目であった。
- 変化の数値は比較的低く、重要度も比較的低かった項目、すなわち、状況は好転していないが、向上がそれほど期待されていない項目は、「広報・広聴など区政への市民参加の推進」「保育など子育て支援」「障がい者福祉」「街並み景観の整備」「商店街や企業の振興」の5項目であった。

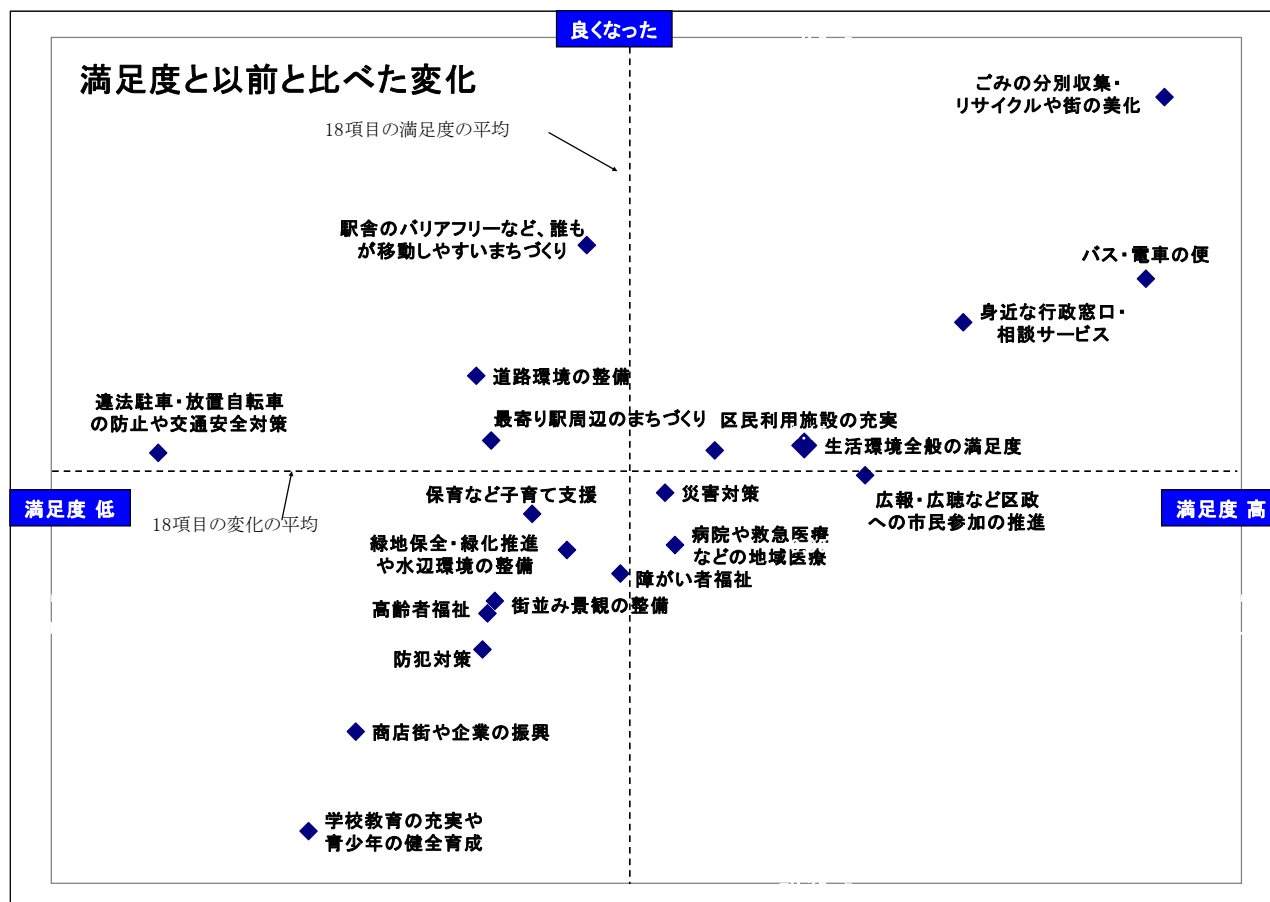
図 施策の重要度<問1>と以前に比べた変化<問3>



項目の満足度と以前に比べた変化との関係

- 戸塚区民の19項目の指標に関する満足度と以前に比べた変化を、全19項目の平均値を中心のその分布を見たものが下図である。(満足+2点、やや満足+1点、やや不満-1点、不満-2点、また、良くなった+1点、悪くなった-1点として項目ごとに満足度、変化の得点を算出し、重要度、変化の全項目の平均値を軸に指標間の比較をしたものである。)
- 満足度も変化の数値もそれぞれ全項目の平均より高かった項目、すなわち、比較的満足しており、経過も良いとされている項目は、「ごみの分別収集・リサイクルや街の美化」「バス、電車の便」「身近な行政窓口・相談サービス」「区民利用施設の充実」の4指標であった。なお、「生活環境全般」についてもここにあてはまる。
- 変化の数値は比較的低く、満足度の比較的高い項目、すなわち、比較的満足しているが、状況はあまり好転していない項目は「広報・広聴など区政への市民参加の推進」「災害対策」「病院や救急医療などの地域医療」の3項目であった。
- 変化の数値は平均より高いが、満足度は平均より低かった項目、すなわち、状況が好転しているが、まだ不満に感じている項目は、「駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり」「道路環境の整備」「最寄り駅周辺のまちづくり」「違法駐車・放置自転車の防止や交通安全対策」の4項目であった。
- 変化の数値は比較的低く、満足度も比較的低かった項目、すなわち、まだ満足していないが、状況も好転していない項目は、「保育など子育て支援」「緑地保全・緑化推進や水辺環境の整備」「障がい者福祉」「街並み景観の整備」「高齢者福祉」「防犯対策」「商店街や企業の振興」「学校教育の充実や青少年の健全育成」の8項目であった。

図 施策の満足度<問2>と以前に比べた変化<問3>

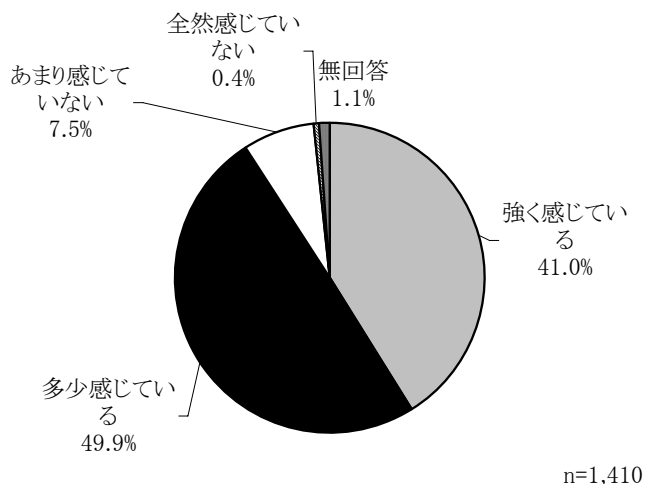


防災などについて

大地震への不安

- 最も多いのは「多少感じている」の 49.9%で、全体のほぼ半数である。次に「強く感じている」が 41.0%で、この2つを合わせると何らかの不安を感じている人は9割にのぼる。「あまり感じていない」は 7.5%、「全然感じていない」は 0.4%にとどまっている。

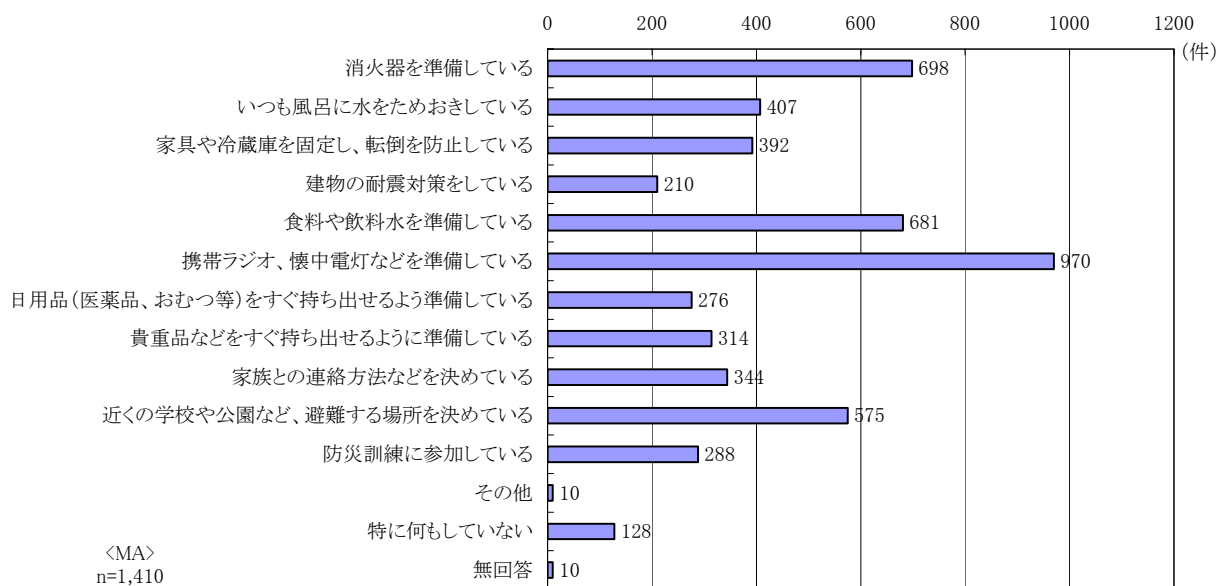
図 大地震への不安



災害に備えてとっている対策

- 最も多いのは「携帯ラジオ、懐中電灯などを準備している」の 970 件である。次いで「消火器を準備している」「食料や飲料水を準備している」がそれぞれ 698 件、681 件でほぼ並び、続いて「近くの学校や公園など、避難する場所を決めている」が 575 件となっている。

図 災害に備えてとっている対策

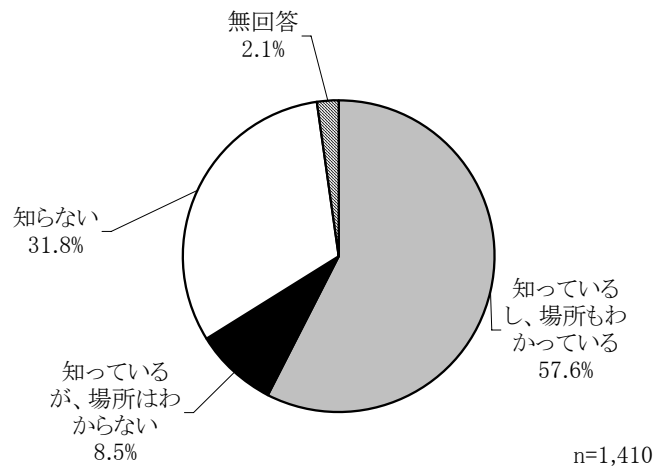


いつとき避難場所、広域避難場所、地域防災拠点、地域医療救護拠点の認知度

(1) いつとき避難場所

- ・ 「知っているし、場所もわかっている」が57.6%と6割近くにのぼる。次いで「知らない」(31.8%)、「知っているが、場所はわからない」(8.5%)となっている。

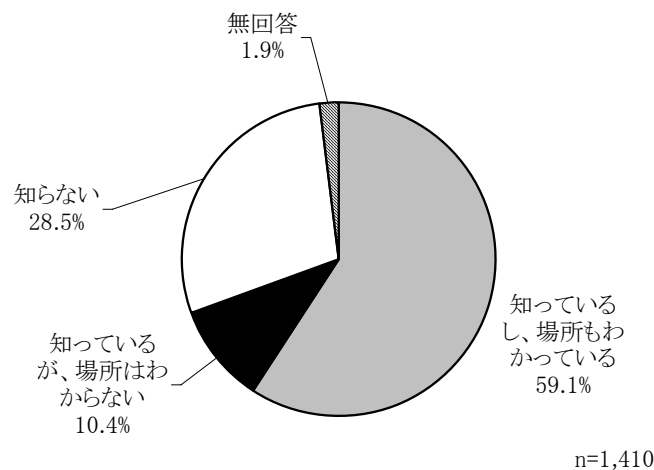
図 いつとき避難場所の認知度



(2) 広域避難場所

- ・ 「知っているし、場所もわかっている」が59.1%とほぼ6割に達し、広域避難場所の認知度は比較的高くなっている。次いで「知らない」(28.5%)、「知っているが、場所はわからない」(10.4%)となっている。

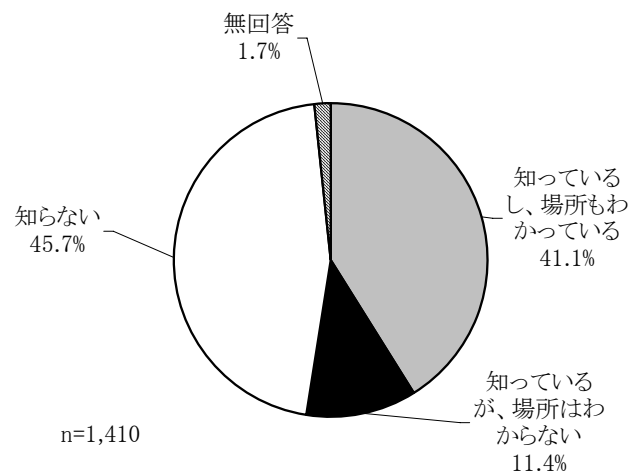
図 広域避難場所の認知度



(3) 地域防災拠点

- ・ 「知らない」が45.7%で最も多く、「知っているし、場所もわかっている」の41.1%をやや上回っている。「知らない」は11.4%となっている。

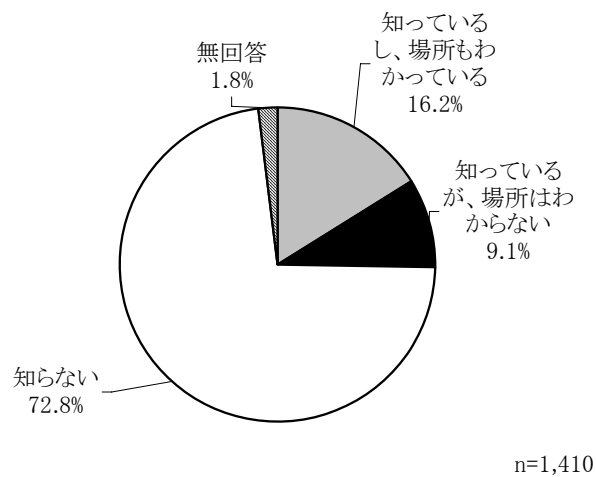
図 地域防災拠点の認知度



(4) 地域医療救護拠点

- ・ 「知らない」が72.8%で圧倒的に多い。「知っているが、場所はわからない」は9.1%、「知っているし、場所もわかっている」は16.2%に留まっており、地域医療救護拠点の認知度は低い。

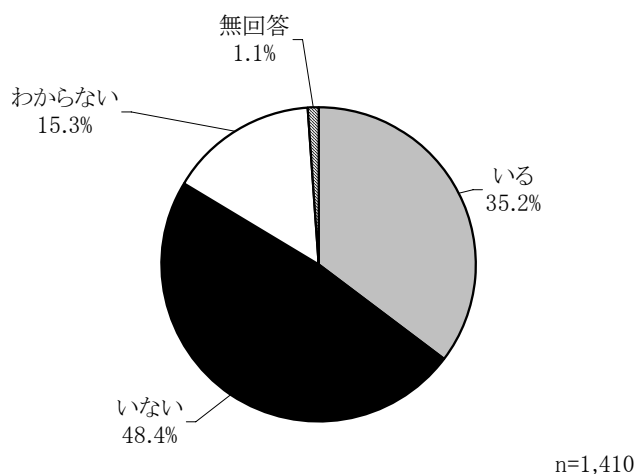
図 地域医療救護拠点の認知度



災害時にひとりで避難することが困難な人の有無

- ・ 半数近くの 48.4%が「いない」としているが、「いる」も 35.2%にのぼっている。「わからない」が 15.3%である。

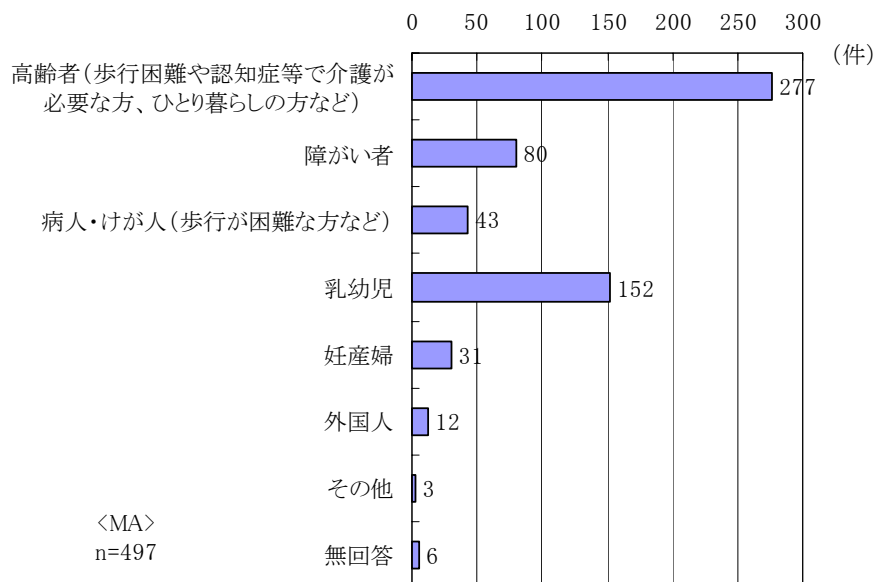
図 災害時にひとりで避難することが困難な人の有無



災害時にひとりで避難することが困難な人

- ・ 「高齢者（歩行困難や認知症等で介護が必要な方、ひとり暮らしの方など）」が 277 件で突出して多い。次いで「乳幼児」（152 件）、「障がい者」（80 件）、「病人・けが人（歩行が困難な方など）」（43 件）、「妊産婦」（31 件）、「外国人」（12 件）、「その他」（3 件）の順となっている。

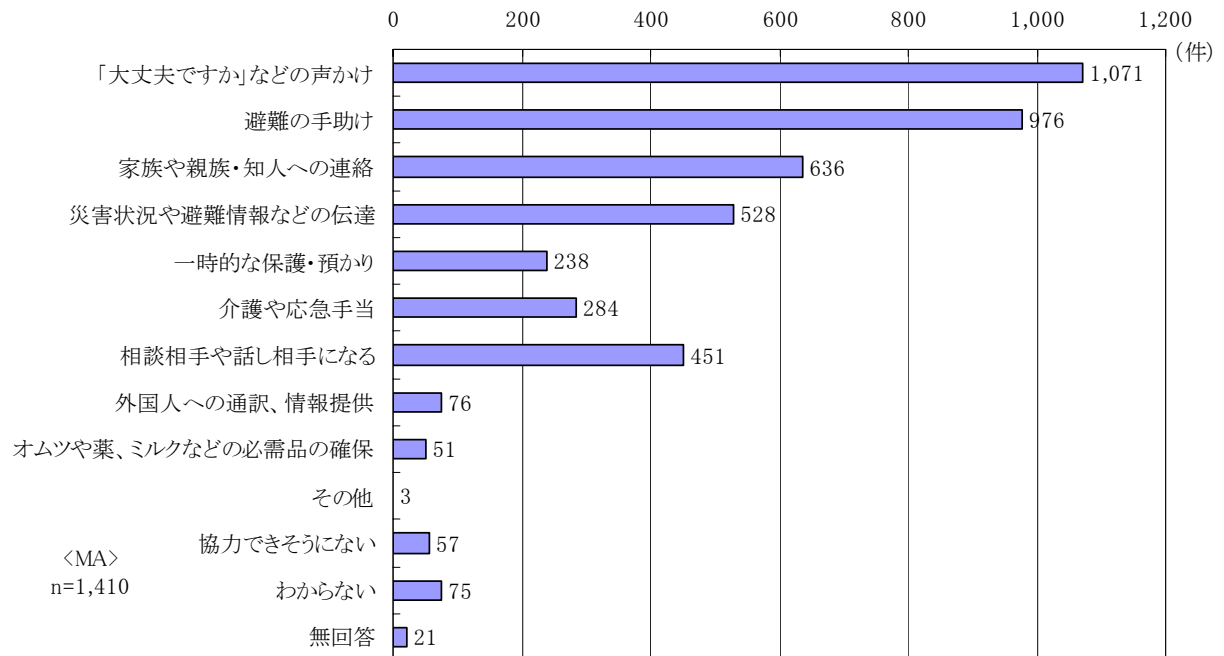
図 災害時にひとりで避難することが困難な人



災害時に援護が必要な人に対する協力

- ・ 「『大丈夫ですか』などの声かけ」が 1,071 件、「避難の手助け」が 976 件で、この 2 つが特に多くなっている。次いで「家族や親族・知人への連絡」(636 件)、「災害状況や避難情報などの伝達」(528 件)、「相談相手や話し相手になる」(451 件)、「介護や応急手当」(284 件)、「一時的な保護・預かり」(238 件)などと続く。「協力できそうにない」は 57 件、「わからない」は 75 件あった。

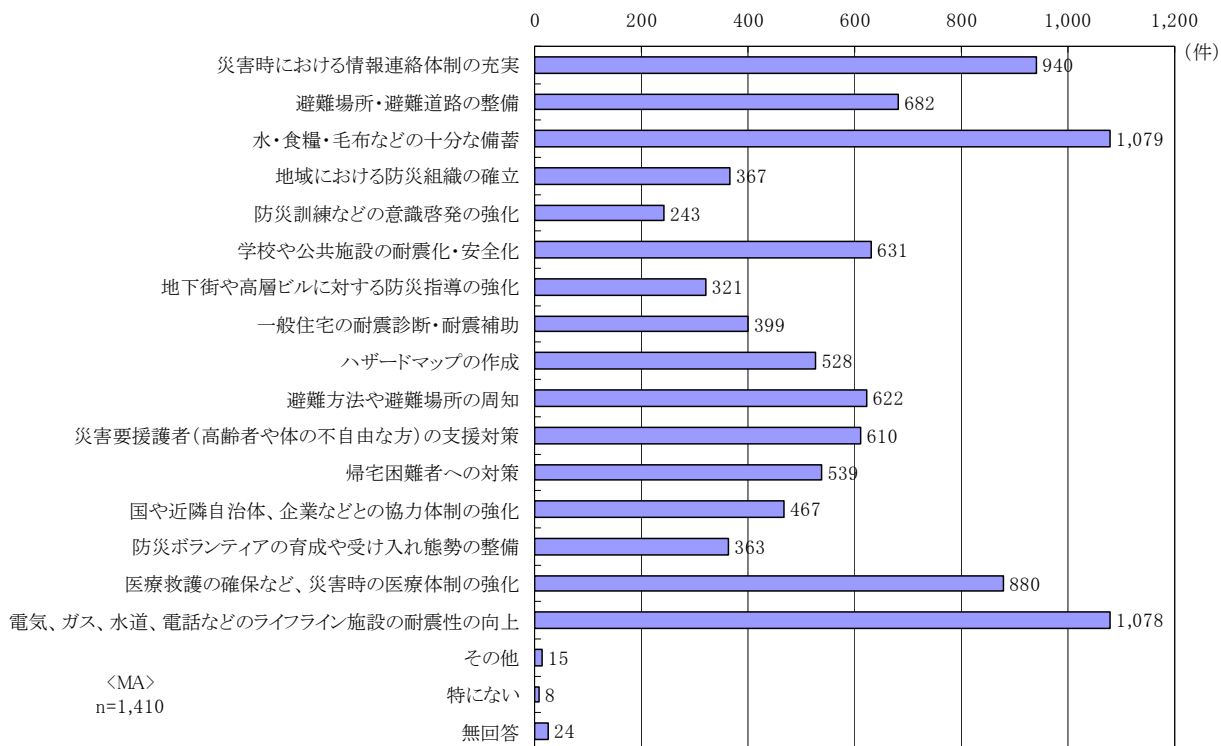
図 災害時に援護が必要な人に対する協力



防災に関して行政に力をいれてもらいたいこと

- ・ 「水・食糧・毛布などの十分な備蓄」が1,079件、「電気、ガス、水道、電話などのライフライン施設の耐震性の向上」が1,078件でほぼ同数となっており、次いで「災害時における情報連絡体制の充実」(940件)、「医療救護の確保など、災害時の医療体制の強化」(880件)で、この4件が目立って多くなっている。以下「避難場所・避難道路の整備」(682件)、「学校や公共施設の耐震化・安全化」(631件)、「避難方法や避難場所の周知」(622件)、「災害要援護者(高齢者や体の不自由な方)の支援対策」(610件)などとなっている。

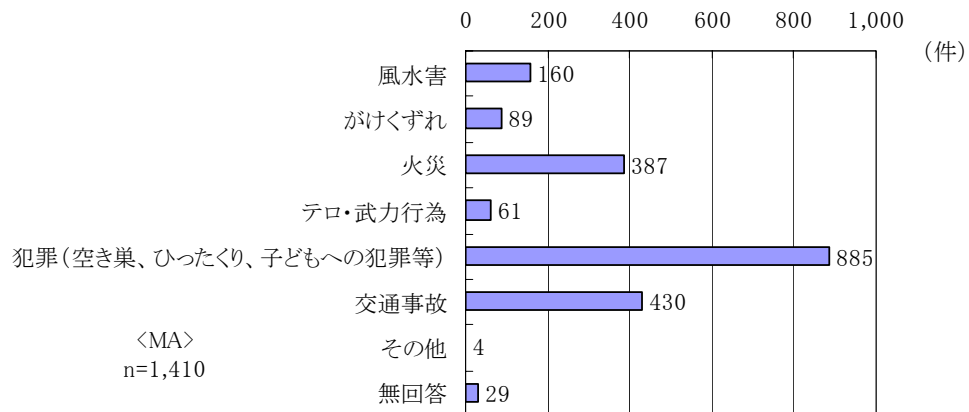
図 防災に関して行政に力をいれてもらいたいこと



地震以外で身近に感じる不安

- ・ 「犯罪（空き巣、ひったくり、子どもへの犯罪等）」が 885 件で、次点の「交通事故」（430 件）を倍以上上回り、抜きん出て多くなっている。以下、「火災」（387 件）、「風水害」（160 件）、「がけくずれ」（89 件）、「テロ・武力行為」（61 件）、「その他」（4 件）の順となっている。

図 地震以外で身近に感じる不安

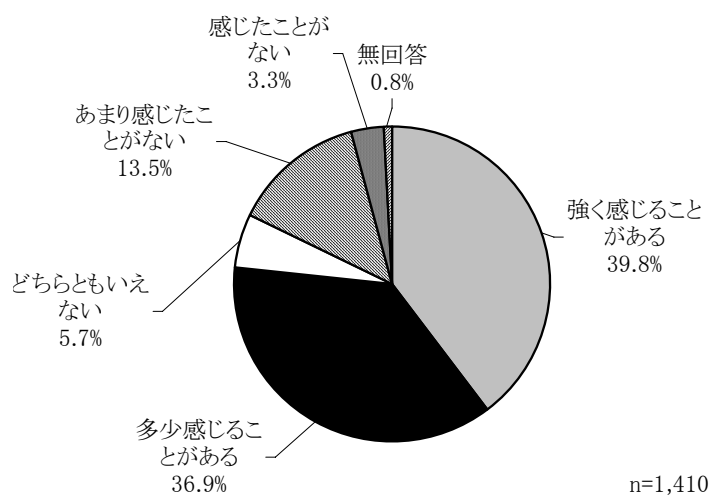


少子高齢化などについて

高齢化の進行を感じているか

- ・ 「強く感じることもある」が最も多く 39.8%、小差で「多少感じることもある」(36.9%)が続いており、多少なりとも高齢化を感じている割合が4分の3を超える。一方「あまり感じたことがない」は 13.5%、「感じたことがない」は 3.3%で、これらを合わせても2割に満たない。「どちらともいえない」は 5.7%であった。

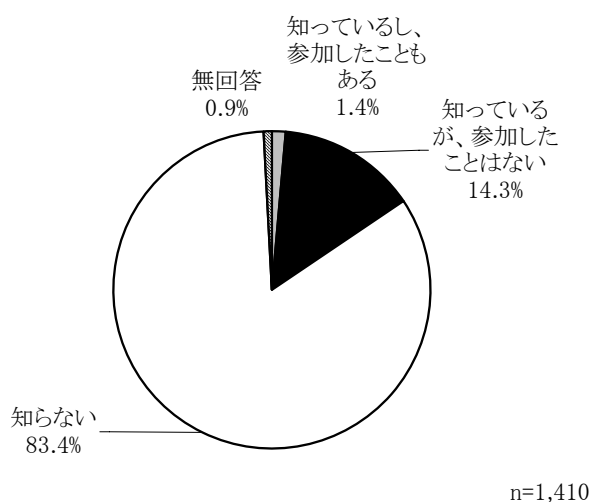
図 高齢化の進行を感じているか



認知症予防教室の認知度

- ・ 「知らない」が 83.4%で圧倒的に多い。次いで「知っているが、参加したことはない」が 14.3%、「知っているし、参加したこともある」は 1.4%であった。

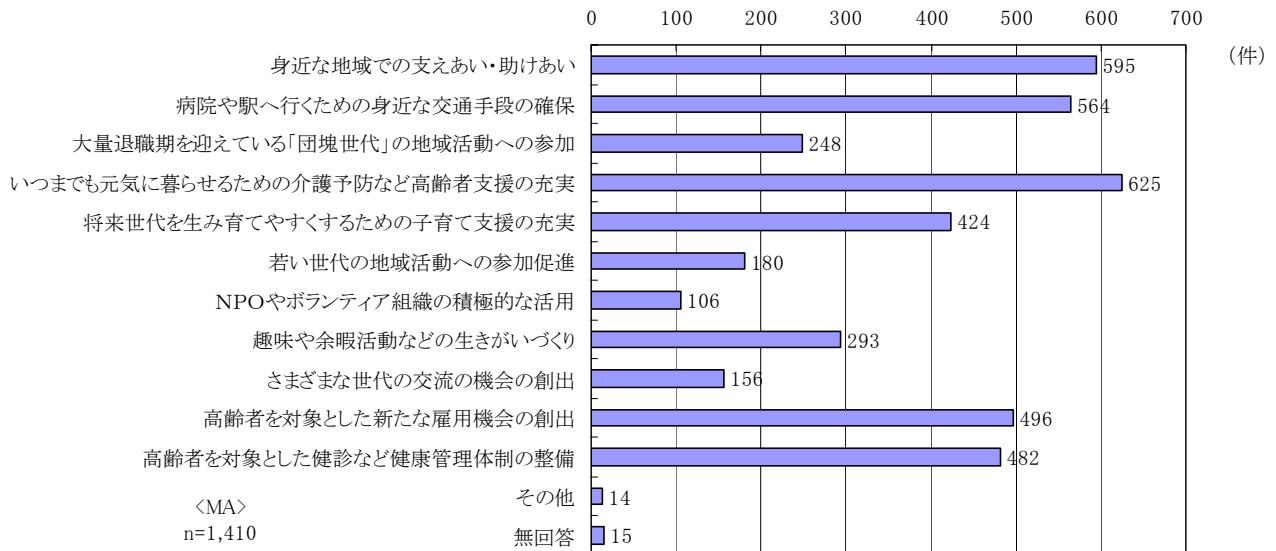
図 認知症予防教室の認知度



「超高齢社会」を迎えるにあたって、持続可能な地域社会のために必要なこと

- ・ 「いつまでも元気に暮らせるための介護予防など高齢者支援の充実」が 625 件で最も多い。次いで「身近な地域での支えあい・助けあい」(595 件)、「病院や駅へ行くための身近な交通手段の確保」(564 件)、「高齢者を対象とした新たな雇用機会の創出」(496 件)、「高齢者を対象とした健診など健康管理体制の整備」(482 件)、「将来世代を生み育てやすくするための子育て支援の充実」(424 件) などが多くなっている。

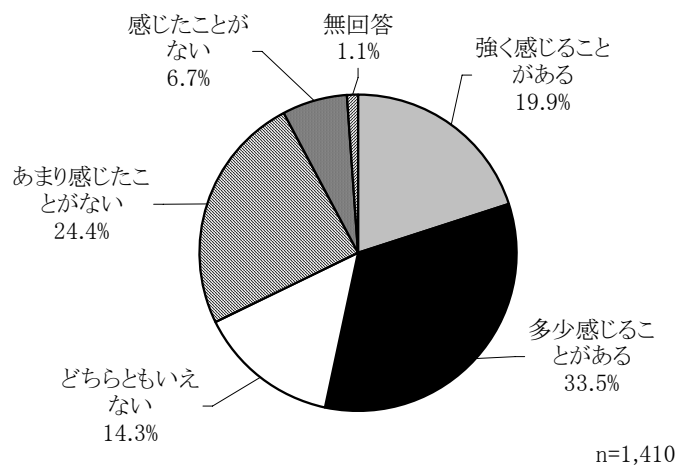
図 「超高齢社会」を迎えるにあたって、持続可能な地域社会のために必要なこと



少子化の進行を感じているか

- ・ 「多少感じることもある」が 33.5%で最も多い。次いで「あまり感じたことがない」(24.4%)、「強く感じることもある」(19.9%)、「どちらともいえない」(14.3%)、「感じたことがない」(6.7%)の順となっている。「強く感じることもある」「多少感じることもある」は合わせて 53.4%、「あまり感じたことがない」「感じたことがない」は 31.5%となっており、何らかの形で少子化を実感している層は半数を超えている。

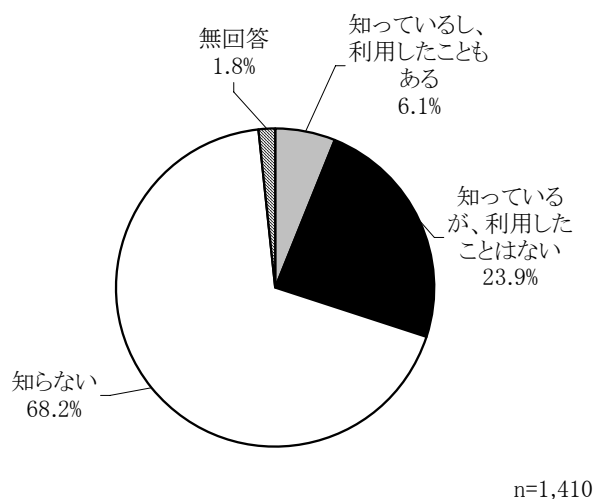
図 少子化の進行を感じているか



「遊び場・しゃべり場・ほっとタイム」の認知度

- ・ 「知らない」が 68.2%で、7割弱である。次いで「知っているが、参加したことはない」が 23.9%、「知っているし、参加したこともある」は 6.1%であった。

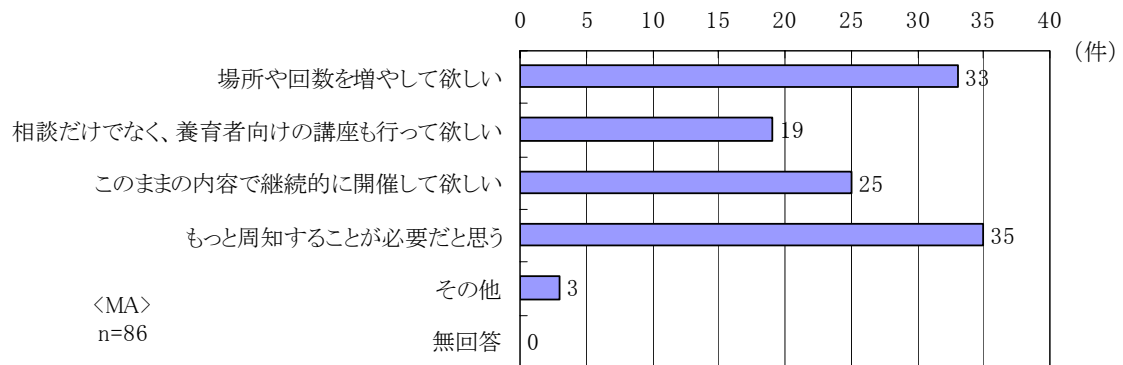
図 「遊び場・しゃべり場・ほっとタイム」の認知度



「遊び場・しゃべり場・ほっとタイム」に今後望むこと

- ・ 「もっと周知することが必要だと思う」が 35 件、「場所や回数を増やして欲しい」が 33 件である。以下「このままの内容で継続的に開催して欲しい」（25 件）、「相談だけでなく、養育者向けの講座も行って欲しい」（19 件）、「その他」（3 件）となっている。

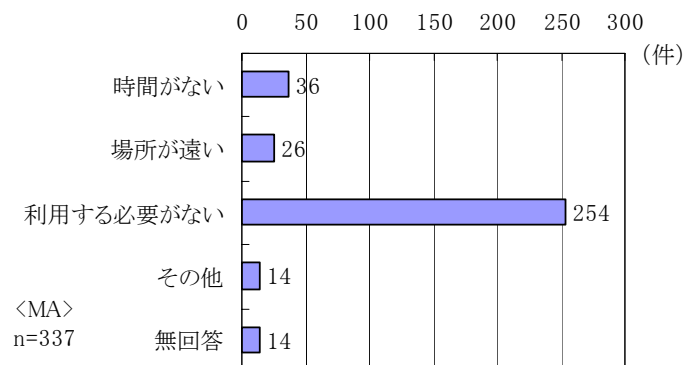
図 「遊び場・しゃべり場・ほっとタイム」に今後望むこと



「遊び場・しゃべり場・ほっとタイム」を利用しない理由

- ・ 「利用する必要がない」が 254 件で、この一点に回答は集中している。以下「時間がない」（36 件）、「場所が遠い」（26 件）、「その他」（14 件）である。

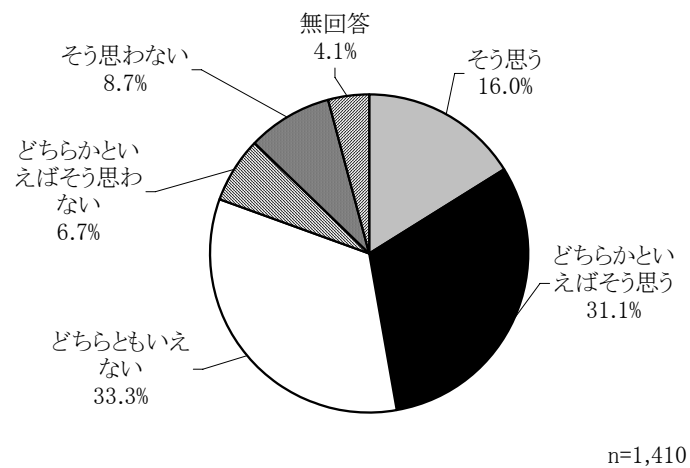
図 「遊び場・しゃべり場・ほっとタイム」を利用しない理由



自分の力を地域活動で生かしていきたいと思うか

- ・ 「どちらともいえない」が 33.3%で最も多く、「どちらかといえばそう思う」が 31.1%と僅差でこれに続いている。以下「そう思う」(16.0%)、「そう思わない」(8.7%)、「どちらかといえばそう思わない」(6.7%)と続く。また、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は合わせて 47.1%であり、自分の力を地域活動に活かしたいと思っている割合は半数近くに達している。

図 自分の力を地域活動で生かしていきたいと思うか

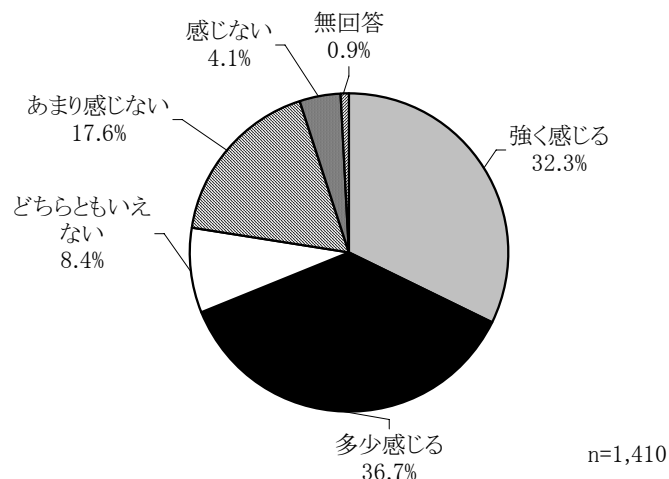


緑の保全などについて

身近な緑が減ってきたと感じるか

- ・ 「多少感じる」が36.7%で最も多く、次いで「強く感じる」が32.3%と、緑の減少を実感している割合は7割近くに達している。「あまり感じない」は17.6%、「感じない」は4.1%で、合わせて4分の1弱となっている。「どちらともいえない」は8.4%である。

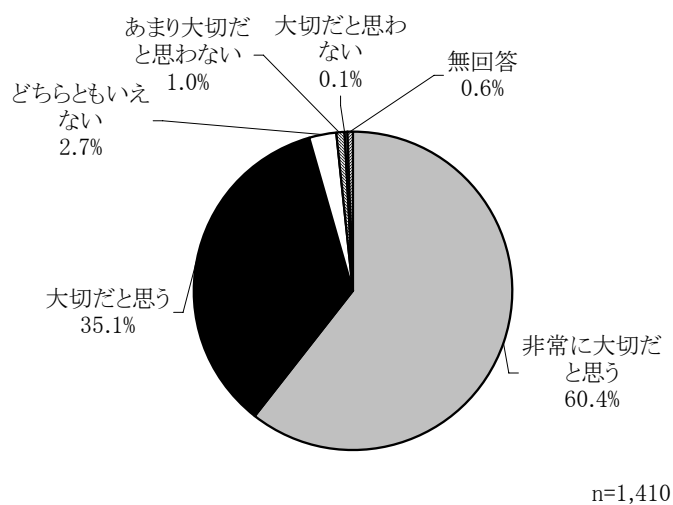
図 身近な緑が減ってきたと感じるか



身近な緑を保全し増やしていくことの重要性

- ・ 「非常に大切だと思う」が60.4%で最も多く、全体の約6割である。次いで「大切だと思う」が35.1%で続き、緑の保全が大切だとする層は全体の95%以上を占める。「どちらともいえない」は2.7%、「あまり大切だと思わない」は1.0%、「大切だと思わない」は0.1%で、大切だと思わない層は全体の1%程度に留まった。

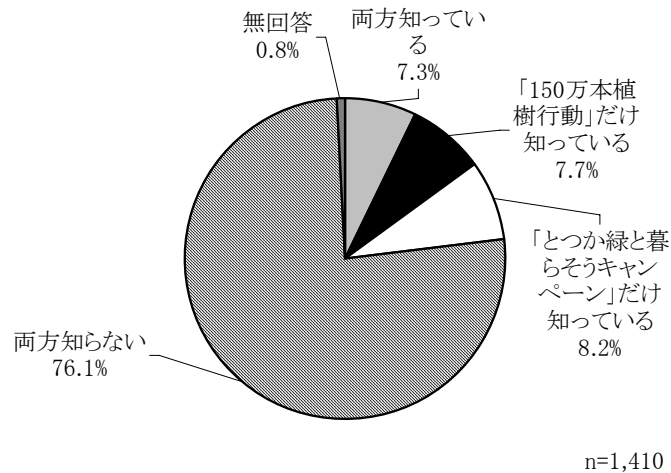
図 身近な緑を保全し増やしていくことの重要性



「150万本植樹行動」「とつか緑と暮らそうキャンペーン」の認知度

- ・ 「両方知らない」が 76.1%で、4分の3強を占めている。次いで「『とつか緑と暮らそうキャンペーン』だけ知っている」が 8.2%、「『150万本植樹行動』だけ知っている」は 7.7%で、2事業の認知度にはさほど大きな差は見られない。「両方知っている」は 7.3%であった。

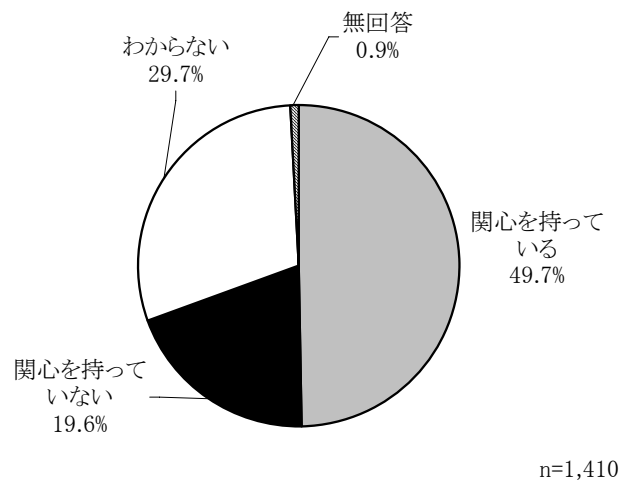
図 「150万本植樹行動」「とつか緑と暮らそうキャンペーン」の認知度



「農」に関する取組への関心度

- ・ 「関心を持っている」が 49.7%で、半数弱を占める。次いで「わからない」が 29.7%、「関心を持っていない」は 19.6%であった。

図 「農」に関する取組への関心度

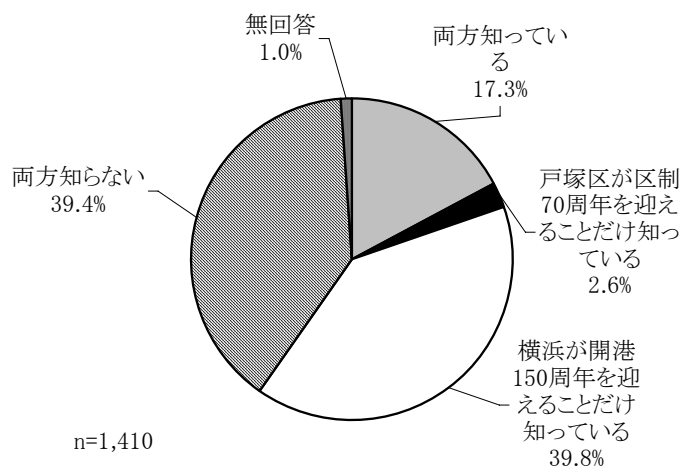


区制 70 周年・開港 150 周年に向けた取組について

戸塚区制 70 周年、横浜開港 150 周年の認知度

- ・ 「横浜が開港 150 周年を迎えることだけ知っている」が 39.8%で最も多く、開港 150 周年についてはある程度の認知度を得ているといえる。以下「両方知らない」(39.4%)、「両方知っている」(17.3%)で、「戸塚区が区制 70 周年を迎えることだけ知っている」は 2.6%であった。

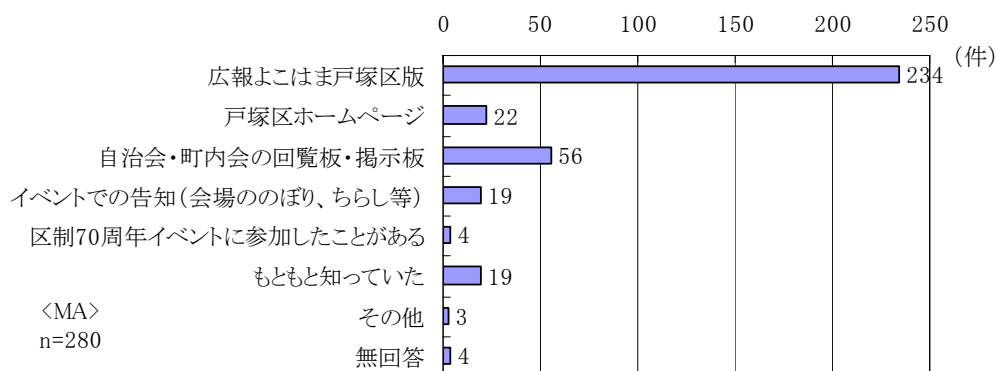
図 戸塚区制 70 周年、横浜開港 150 周年の認知度



区制 70 周年について知った場所

- ・ 「広報よこはま戸塚区版」が 234 件で突出している。以下「自治会・町内会の回覧板・掲示板」(56 件)、「戸塚区ホームページ」(22 件)、「イベントでの告知(会場ののぼり、ちらし等)」(19 件)、「もともと知っていた」(共に 19 件)、「区制 70 周年イベントに参加したことがある」(4 件)、「その他」(3 件)の順となっている。

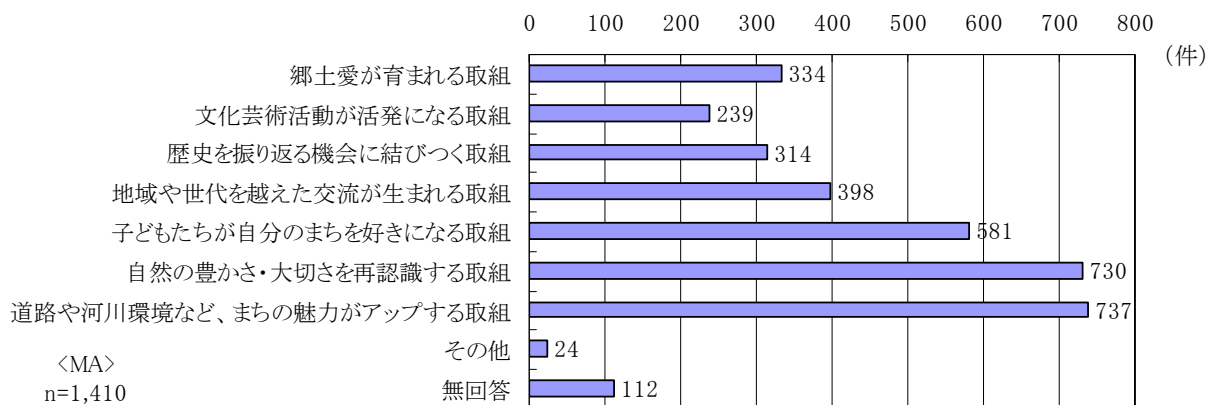
図 区制 70 周年について知った場所



区制 70 周年で区役所が区民と行うとよいこと

- ・ 「道路や河川環境など、まちの魅力がアップする取組」(737 件)、「自然の豊かさ・大切さを再認識する取組」(730 件) の 2 点が特に多くなっている。次いで「子どもたちが自分のまちを好きになる取組」(581 件)、「地域や世代を越えた交流が生まれる取組」(398 件)、「郷土愛が育まれる取組」(334 件)、「歴史を振り返る機会に結びつく取組」(314 件)、「文化芸術活動が活発になる取組」(239 件)、「その他」(24 件) の順となっている。

図 区制 70 周年で区役所が区民と行うとよいこと

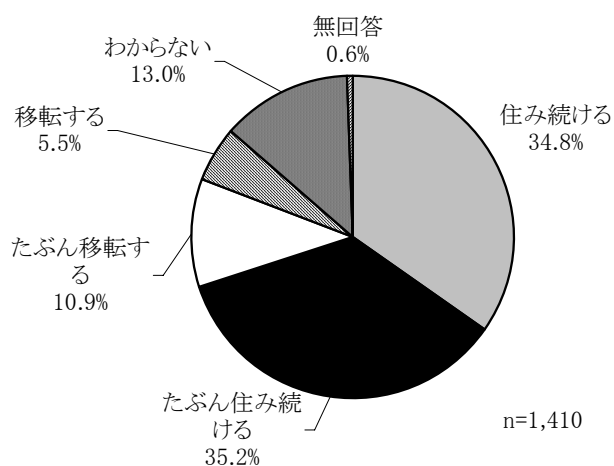


定住意向について

戸塚区への定住意向

- ・ 「たぶん住み続ける」が最も多く 35.2%、「住み続ける」の 34.8%を合わせると、約 7 割が定住意向を持っている。「わからない」は 13.0%である。「たぶん移転する」は 10.9%、「移転する」は 5.5%で、移転意向は 2 割に達していない。

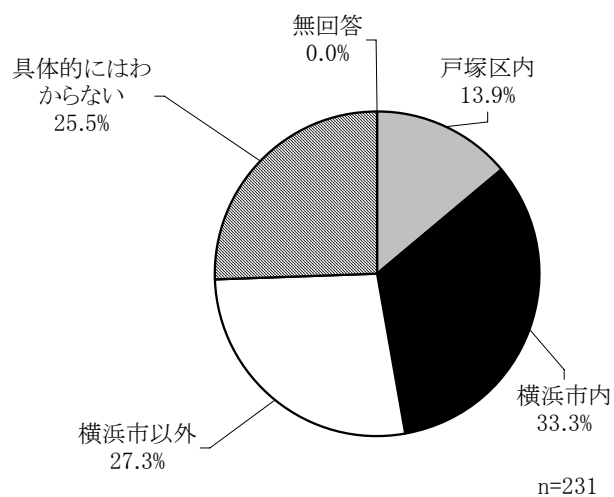
図 戸塚区への定住意向



希望する移転先

- ・ 「横浜市内」が最も多く 33.3%である。以下「横浜市以外」(27.3%)、「具体的にはわからない」(25.5%)と続き、「戸塚区内」は 13.9%であった。

図 希望する移転先

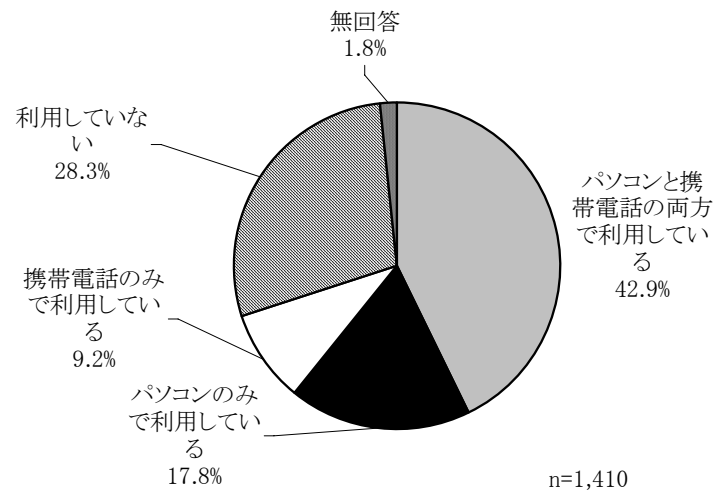


その他

インターネット利用の有無

- ・ 「パソコンと携帯電話の両方で利用している」が最も多く 42.9%で、全体の4割以上に達するが、次に多かったのは「利用していない」(28.3%)の3割弱であった。「パソコンのみで利用している」は17.8%、「携帯電話のみで利用している」は9.2%であった。

図 インターネット利用の有無



戸塚区政に対する自由意見

- ・ 戸塚区についての意見や提案として、420 件の具体的な記述があり、計 713 件の意見が出された。
- ・ 大分類別の内訳としては、「施設・区政・地域」221 件、「緑・街並み・駅開発」182 件、「道路・交通・電車・駅」170 件、「子育て・教育」60 件、「医療・福祉」41 件、「防犯・防災」39 件となっており、施設・区政・地域に対する意見が最も多かった。
- ・ 中分類を見ると、「施設・区政・地域」の「区政・税金など」90 件が最も多かった。同じく「施設・区政・地域」の「区民利用施設の充実」は 62 件、「緑・街並み・駅開発」の「最寄り駅周辺のまちづくり」68 件、「道路・交通・電車・駅」の「バス・電車の便」61 件、「道路環境の整備」60 件なども多くなっている。
- ・ さらに個別に小分類の内容を見ると、最も多く出されていたのは「戸塚駅」65 件（「緑・街並み・駅開発－最寄り駅周辺のまちづくり」）、次いで「区政」38 件（「施設・区政・地域－区政・税金など」）、「バス」（「道路・交通・電車・駅－バス・電車の便」）30 件などとなっている（次ページ表を参照）。

図 戸塚区についての意見・提案(大分類・中分類)

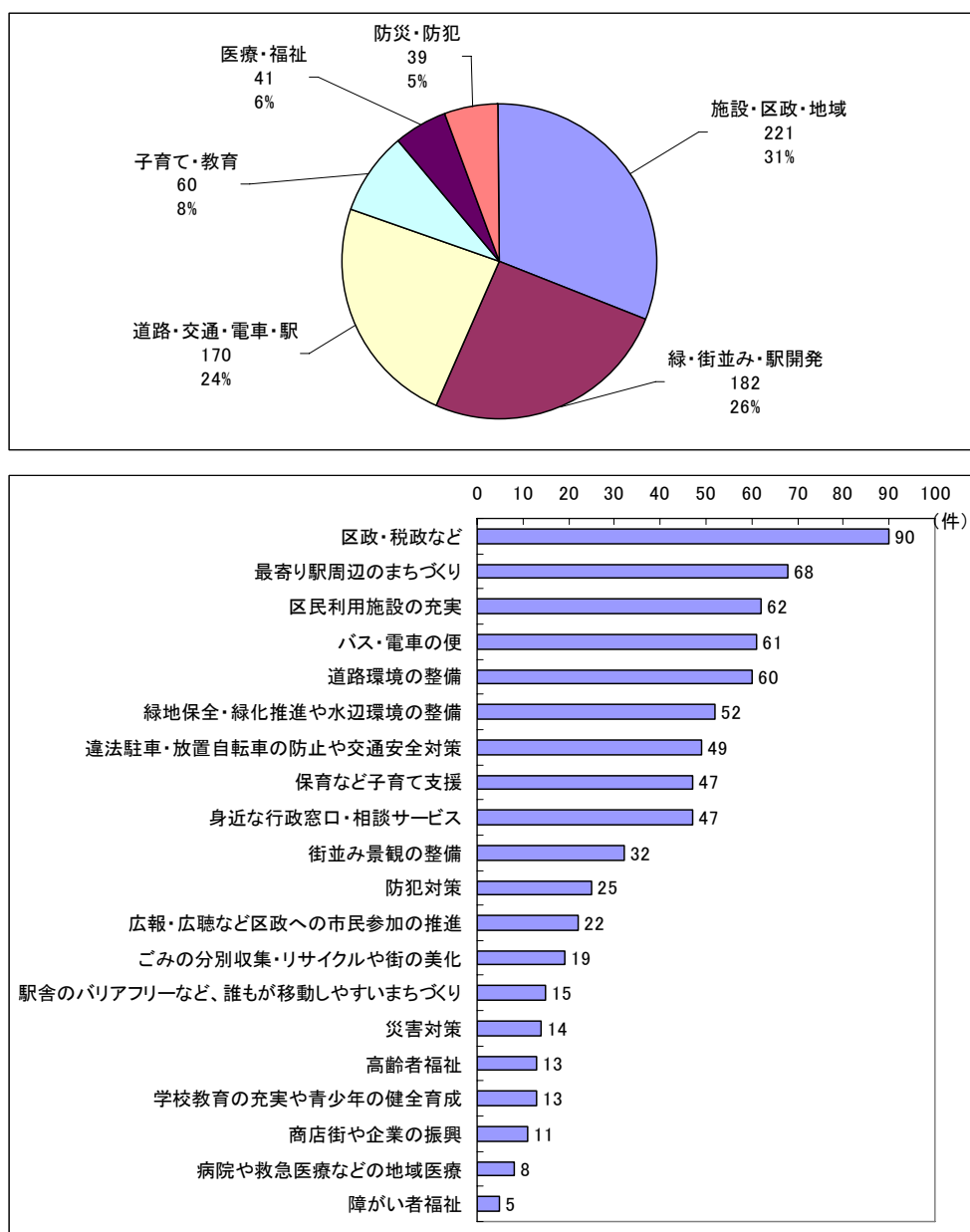


図 戸塚区についての意見・提案(一覧)

大分類		中分類		小分類		大分類		中分類		小分類					
施設・区政・地域	221	区政・税政など	90	区政	38	道路・交通・電車・バス	170	バス・電車の便	61	バス	30				
				財政関係	26					東戸塚駅	21				
				情報周知	9					戸塚駅	5				
				その他	8					電車	3				
				アンケート	6					駅	1				
				職員	2					乗り継ぎ	1				
				市民の声を反映	1					道路	27				
				区民利用施設の充実	62					区役所	18	道路環境の整備	60	歩道	24
										図書館	11			踏み切り	3
	地区センター	8	自転車					2							
	コンサートホール	5	信号					2							
	運動施設	4	電車					1							
	イベント	3	歩行					1							
	施設の充実	3	違法駐車・放置自転車の防止や交通安全対策					49	駐輪場	11					
	区役所支所	2							路上喫煙	10					
	憩いの場	2							違法駐車	9					
	市民ギャラリー	2							危ない車	5					
	トイレ	1							危ないバイク	3					
	プール	1							危ない自転車	3					
	身近な行政窓口・相談サービス	47	選挙投票所	1	取り締まり強化			3							
			郵便局	1	安全対策			2							
広報・広聴など区政への市民参加の推進			22	区職員対応	23			放置自転車	2						
				行政サービス	13			駐車場	1						
				区職員教育	4	子育て支援	21								
情報周知			4	保育園	11										
便利性の強化			3	児童公園	8										
地域交流			15	健診	3										
市民ボランティア			6	母子家庭	2										
市民活動	1	イベント	1												
緑・街並み・駅開発	182	最寄り駅周辺のまちづくり	68	戸塚駅	65	学校教育の充実や青少年の健全育成	13	学童保育	1						
				東戸塚駅	2			学校環境	6						
				戸塚駅・東戸塚駅	1			学校教育	5						
		緑地保全・緑化推進や水辺環境の整備	52	緑地保全	19			学校給食	1						
				柏尾川	10			健全育成	1						
				環境整備	7			全体	5						
				公園	6			バリアフリー	3						
				河川環境	5			バス	2						
				遊歩道	2			駅	2						
	阿久和川			1	歩道	2									
	環境改善			1	横断歩道	1									
	空き地利用			1	医療・福祉	41	高齢者福祉	13	高齢者福祉	10					
	環境整備	14	施設の充実	3											
	文化保存	9	病院不足	4											
	街並み景観の整備	32	マンション乱立	6			病院や救急医療などの地域医療	8	健康診断	2					
			街並み整備	3					病院の駐車場	1					
			ごみ収集	11					病院の入院	1					
	ごみの分別収集・リサイクルや街の美化	19	産業廃棄物投棄	4	障がい者福祉	5	障害者福祉	4							
			リサイクル	1			障害者の居場所	1							
			街の美化	1			防災・防犯	39	防犯対策	25	治安の維持	9			
	具体例	1	街路灯	7											
落書き	1	少年非行	4												
商店街や企業の振興	11	商店街	9	災害対策	14	交番			3						
		環境規制	1			パトロール			2						
		企業	1			災害対策			9						
総計					713										

Ⅲ. 集計分析結果

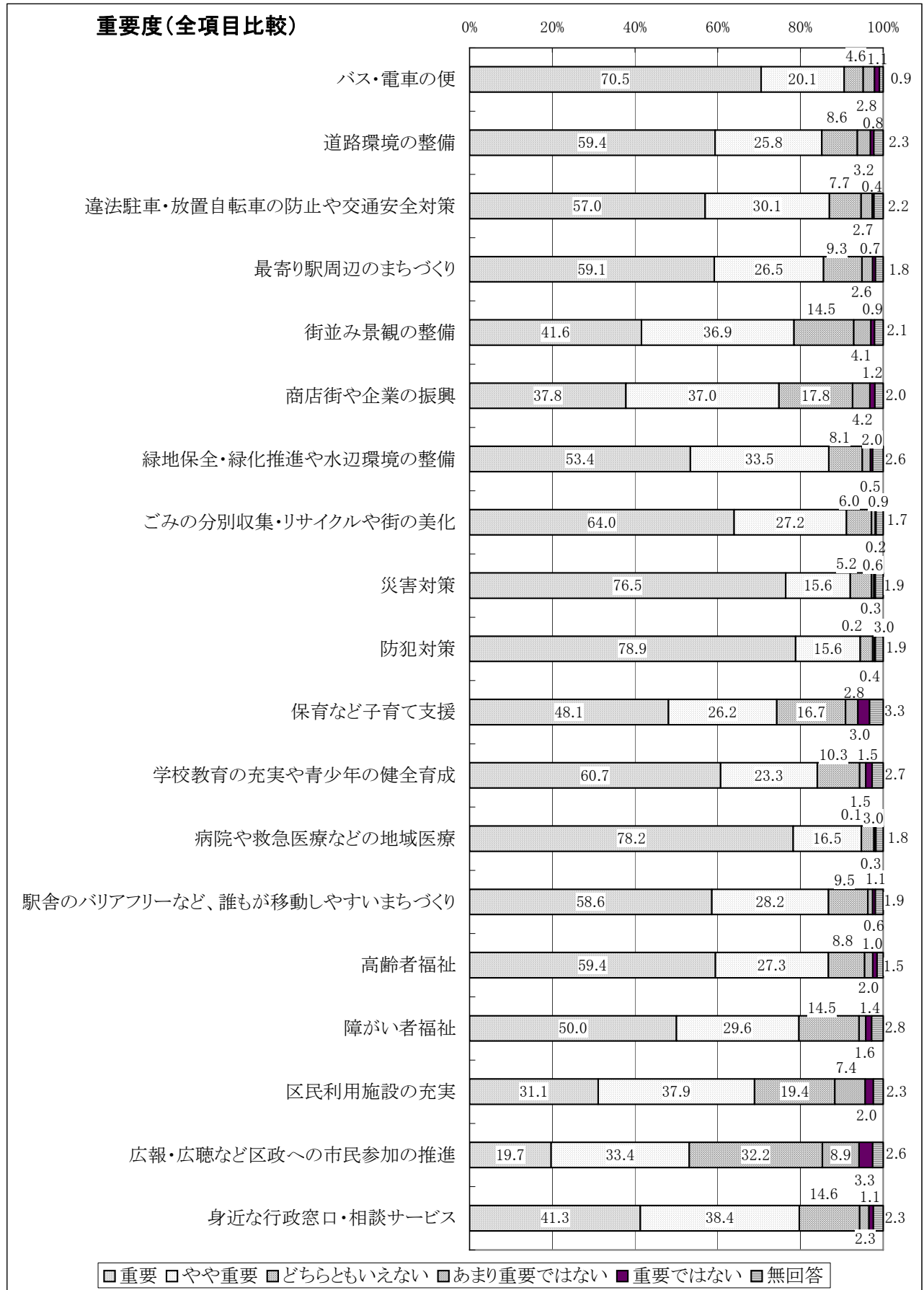
生活環境全般に対する重要度・満足度

問1 あなたは以下(①～⑳)のことがらについて、

【1】あなたにとって、どの程度重要だと思いますか。

- ・ 「道路・交通」に関する3つの項目では、いずれも重要とやや重要を合わせた割合が8割台後半～9割となっており、特に「①バス・電車の便」においては90.6%となっている。
- ・ 「まちづくり」に関する2つの項目を見ると、重要とやや重要の割合は「④最寄り駅周辺のまちづくり」で8割台半ば、「⑤街並み景観の整備」は7割台後半となっている。
- ・ 「産業」に関する項目である「⑥商店街や企業の振興」については、重要とやや重要の割合は7割台となっている。
- ・ 「環境」に関する2つの項目「⑦緑地保全・緑化推進や水辺環境の整備」「⑧ごみの分別収集・リサイクルや街の美化」は、共に8割台後半～9割の高い数値で、特に「⑧ごみの分別収集・リサイクルや街の美化」においては91.1%となっている。
- ・ 「防犯・防災」に関する2つの項目は、「⑨災害対策」「⑩防犯対策」とともに重要とやや重要の割合が9割以上となっており、中でも「⑩防犯対策」の重要性が94.5%と特に高くなっている。
- ・ 「教育・福祉・医療」に関する7項目については、「⑬病院や救急医療などの地域医療」で9割台前半の高い数値を示している。また、「⑫学校教育の充実や青少年の健全育成」「⑭駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり」「⑮高齢者福祉」が8割台、「⑯障がい者福祉」は8割弱である。「⑪保育など子育て支援」は7割台前半で、さほど高い数値になっていないほか、「⑰区民利用施設の充実」は7割に満たない。
- ・ 「行政」に関する2つの項目では、重要とやや重要の割合は「⑱広報・広聴など区政への市民参加の推進」で5割程度に留まっている。「⑲身近な行政窓口・相談サービス」は8割弱である。

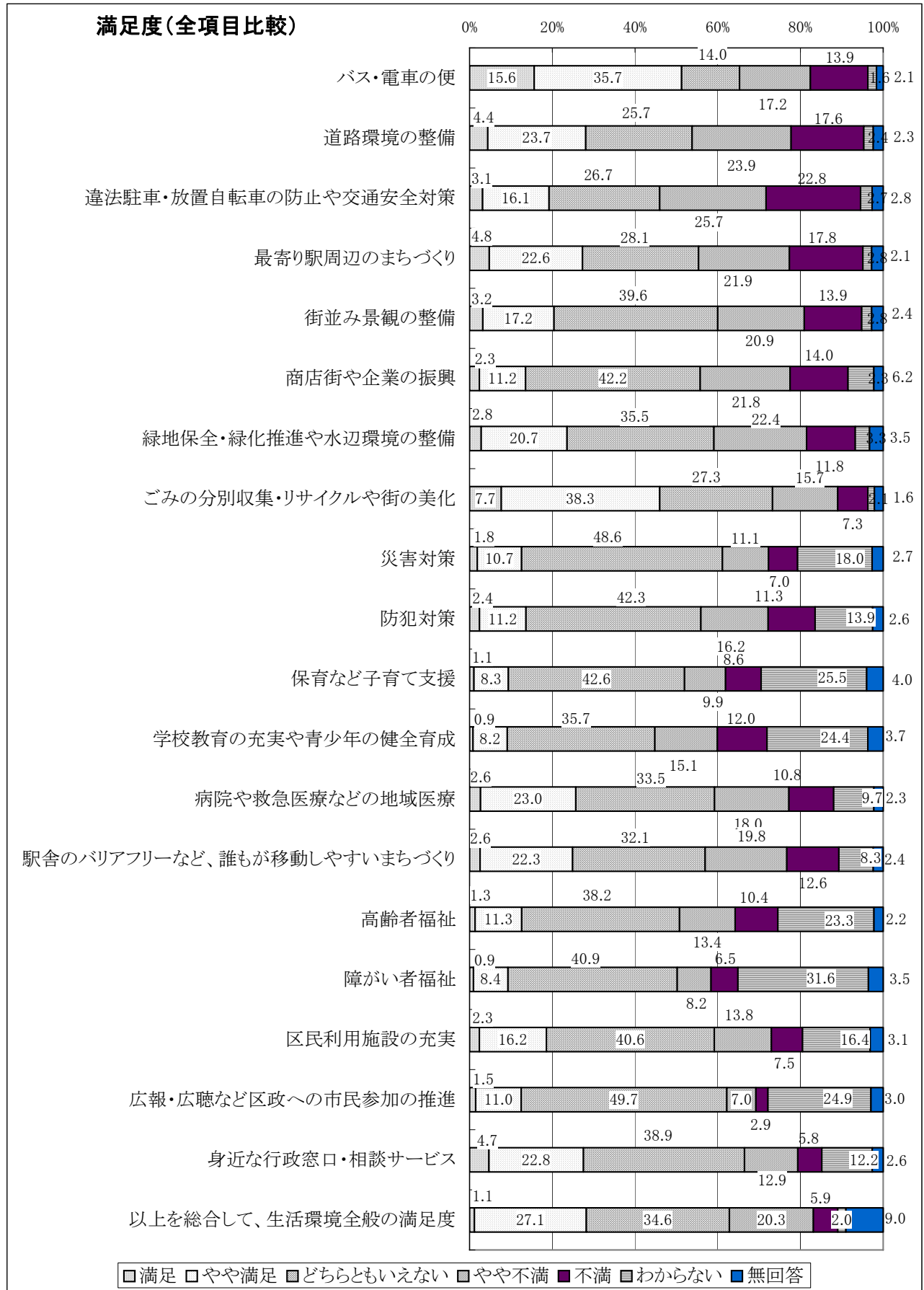
図 重要度(全項目比較)



【2】現在、どの程度満足していますか。

- ・ 「道路・交通」に関する3つの項目では、「①バス・電車の便」では満足とやや満足を合わせた割合が設問全体を通して最も高く5割を超え、不満とやや不満を合わせた割合を上回っているが、「②道路環境の整備」「③違法駐車・放置自転車の防止や交通安全対策」では不満とやや不満の割合が4割台と比較的高く、満足とやや満足の割合を上回っている。
- ・ 「まちづくり」に関する2つの項目を見ると、共に満足とやや満足の割合が2割台、不満とやや不満の割合が3割台で、不満の方が上回っている。
- ・ 「産業」に関する項目である「⑥商店街や企業の振興」については、満足とやや満足の割合は1割台、不満とやや不満の割合は3割台で、不満の方が上回っている。
- ・ 「環境」に関する2つの項目では、「⑦緑地保全・緑化推進や水辺環境の整備」では満足とやや満足を2割台、不満とやや不満が3割台で不満が上回っている。一方「⑧ごみの分別収集・リサイクルや街の美化」では、満足とやや満足を4割台で、不満とやや不満が2割台と、満足の方が上回っている。
- ・ 「防犯・防災」に関する2つの項目は、「⑨災害対策」「⑩防犯対策」とともに満足とやや満足の割合が1割台、不満とやや不満の割合がそれぞれ2割弱、3割弱となっており、不満の方が上回っている。
- ・ 「教育・福祉・医療」に関する項目については、7項目全てで、不満とやや不満が満足とやや満足を上回っている。特に「⑪保育など子育て支援」「⑫学校教育の充実や青少年の健全育成」「⑬障がい者福祉」では、満足とやや満足の割合は1割に満たない低い数値である。
- ・ 「行政」に関する2つの項目では、共に満足とやや満足の割合が、不満とやや不満の割合を上回っている。
- ・ 「以上を総合して、生活環境全般の満足度」については、満足とやや満足を28.2%、不満とやや不満が26.2%と、僅差ではあるが満足とやや満足の割合の方が高くなっている。

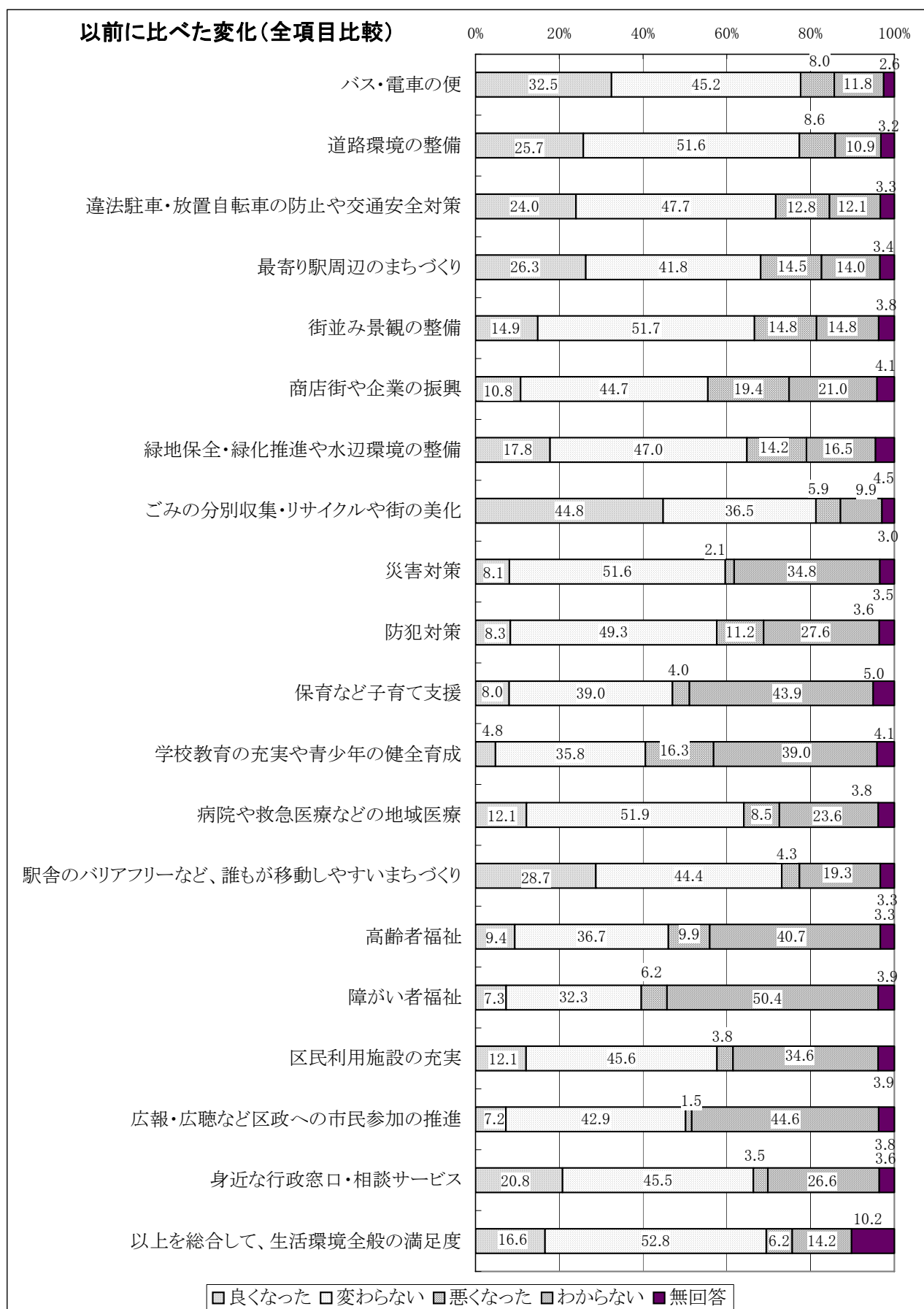
図 満足度(全項目比較)



【3】また、以前に比べてどのように変化していると思いますか。

- ・ 「道路・交通」に関する3つの項目では、いずれも「変わらない」が50%前後で最も多くなっているが、「①バス・電車の便」では「良くなった」が32.5%と比較的高く、「②道路環境の整備」「③違法駐車・放置自転車の防止や交通安全対策」でも全体の4分の1程度が「良くなった」としている。
- ・ 「まちづくり」に関する2つの項目では、いずれも「変わらない」が最も多いが、「④最寄り駅周辺のまちづくり」では「良くなった」が26.3%と比較的高い数値となっている。「⑤街並み景観の整備」では「良くなった」と「悪くなった」の数値が約15%でほぼ同じ割合となっている。
- ・ 「産業」に関する項目である「⑥商店街や企業の振興」については、「変わらない」が44.7%で最も多い。次いで「わからない」「悪くなった」「良くなった」の順となっている。
- ・ 「環境」に関する2つの項目では、「⑦緑地保全・緑化推進や水辺環境の整備」では「変わらない」(47.0%)が最も多く、「⑧ごみの分別収集・リサイクルや街の美化」は、「良くなった」(44.0%)が最も多い。設問全体を通して「良くなった」が最も多くなっているのは「⑧ごみの分別収集・リサイクルや街の美化」のみである。
- ・ 「防犯・防災」に関する2つの項目は、「⑨災害対策」「⑩防犯対策」とともに「変わらない」が5割前後を占め最も多く、次いで「わからない」が3割程度を占める。
- ・ 「教育・福祉・医療」に関する7項目では、「⑪保育など子育て支援」「⑫学校教育の充実や青少年の健全育成」「⑬高齢者福祉」「⑭障がい者福祉」については「わからない」が最も多くなっている。幼児・学童や高齢者、高齢者など、設問に該当する人が身近にいないと判断がしにくいためと考えられる。また、いずれも次に多いのは「変わらない」である。「⑬病院や救急医療などの地域医療」「⑭区民利用施設の充実」では「変わらない」が最も多く、次いで「わからない」となっている。「⑮駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり」では、「変わらない」が最も多いものの、「良くなった」も28.3%と比較的高い数値となっている。
- ・ 「行政」に関する2つの項目では、「⑯広報・広聴など区政への市民参加の推進」は「わからない」、「身近な行政窓口・相談サービス」では「変わらない」が共に4割台半ばで最も多い。
- ・ 「以上を総合して、生活環境全般の変化」については、「変わらない」が52.8%で全体の半分強を占める。次いで「良くなった」16.6%、「わからない」14.2%、「悪くなった」6.2%の順である。

図 以前と比べた変化(全項目比較)

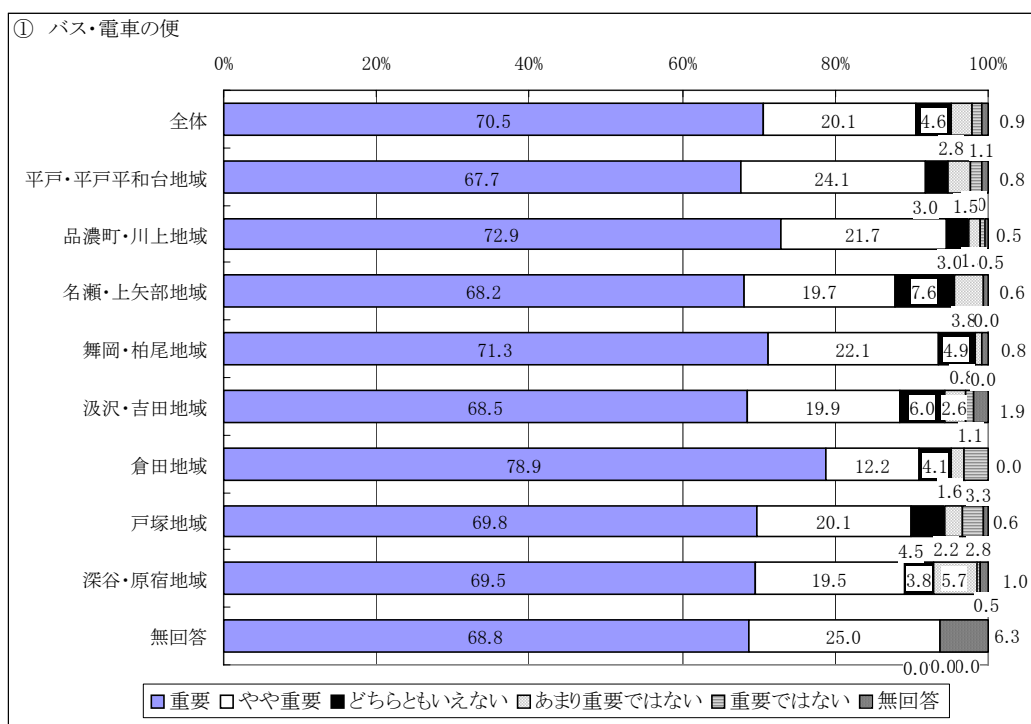
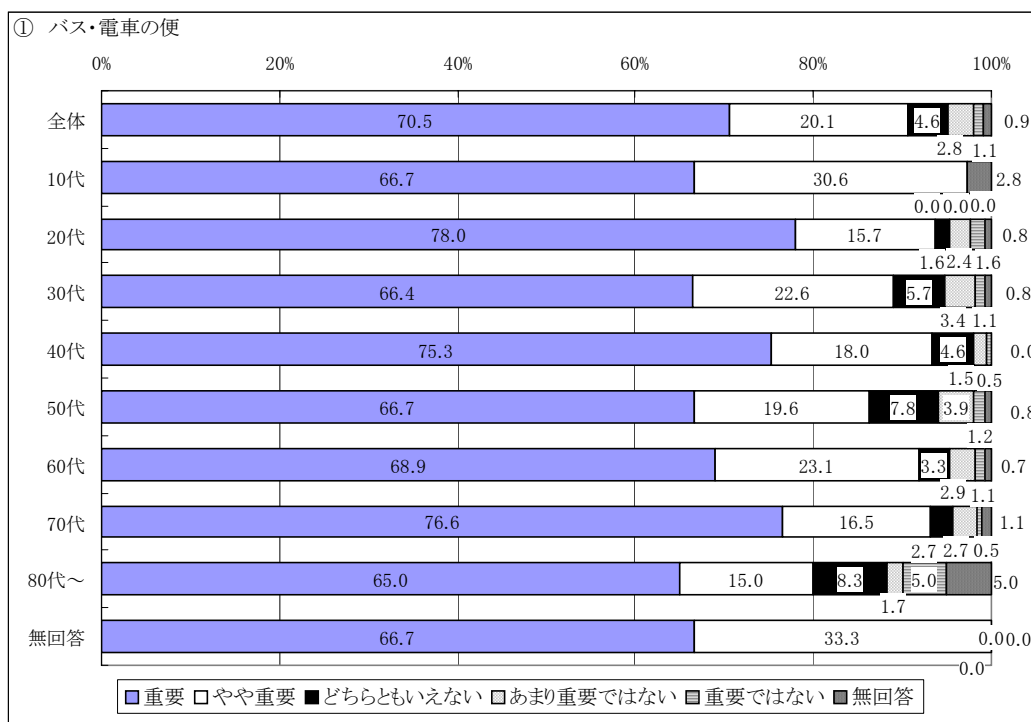


年齢・地域別 重要度・満足度・以前と比べた変化

① バス・電車の便

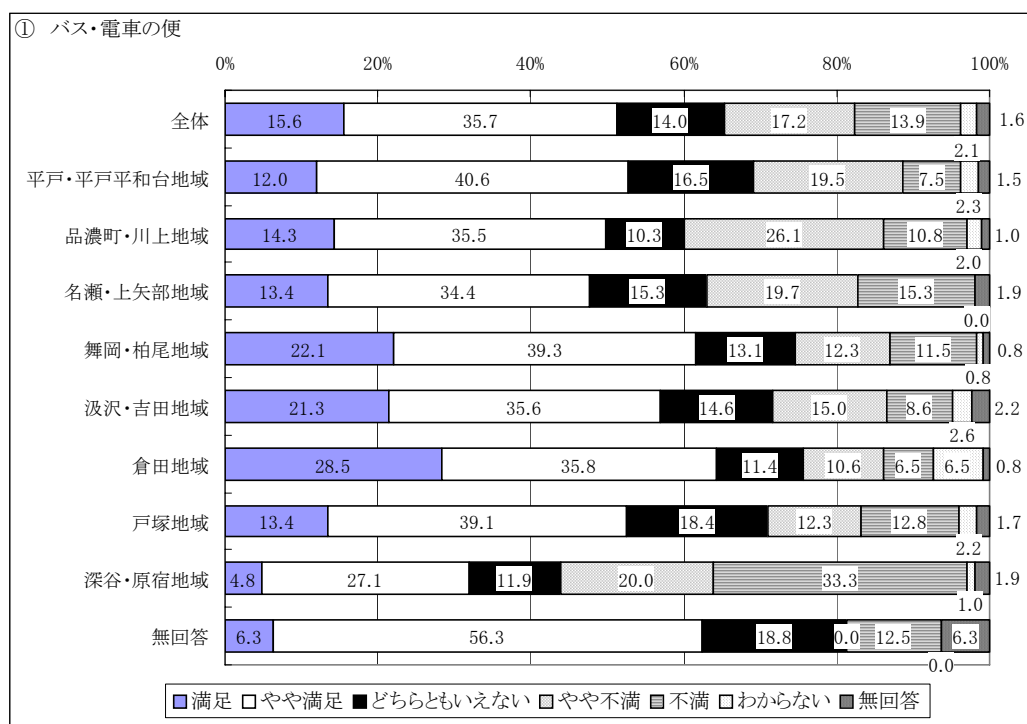
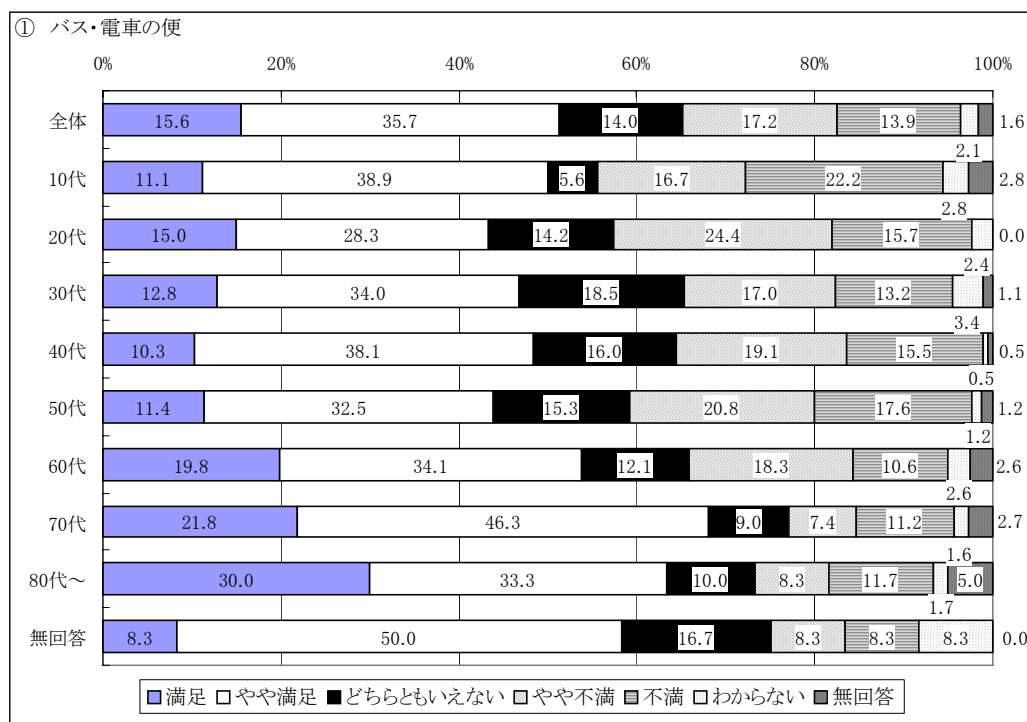
<重要度>

- ・ 「バス・電車の便」の重要度は、戸塚区全体としては、重要とする割合が90.6%（「重要」と「やや重要」の合計、以下同様とする）、重要でないとする割合が3.9%（「あまり重要ではない」と「重要ではない」の合計、以下同様とする）と、重要な割合が非常に高い。
- ・ 年代別では、30代、50代、80代以上では区全体の数値より重要度が低く、それ以外では区の数値よりも高い。特に10代での数値が高く、重要ではないとする割合は0である。
- ・ 地域別では、区全体より重要度が高くなっている地域は、平戸・平戸平和台地域、品濃町・川上地域、舞岡・柏尾地域、倉田地域である。低い地域は名瀬・上矢部地域、汲沢・吉田地域、戸塚地域、深谷・原宿地域であるが、区の数値との差は小さくなっている。



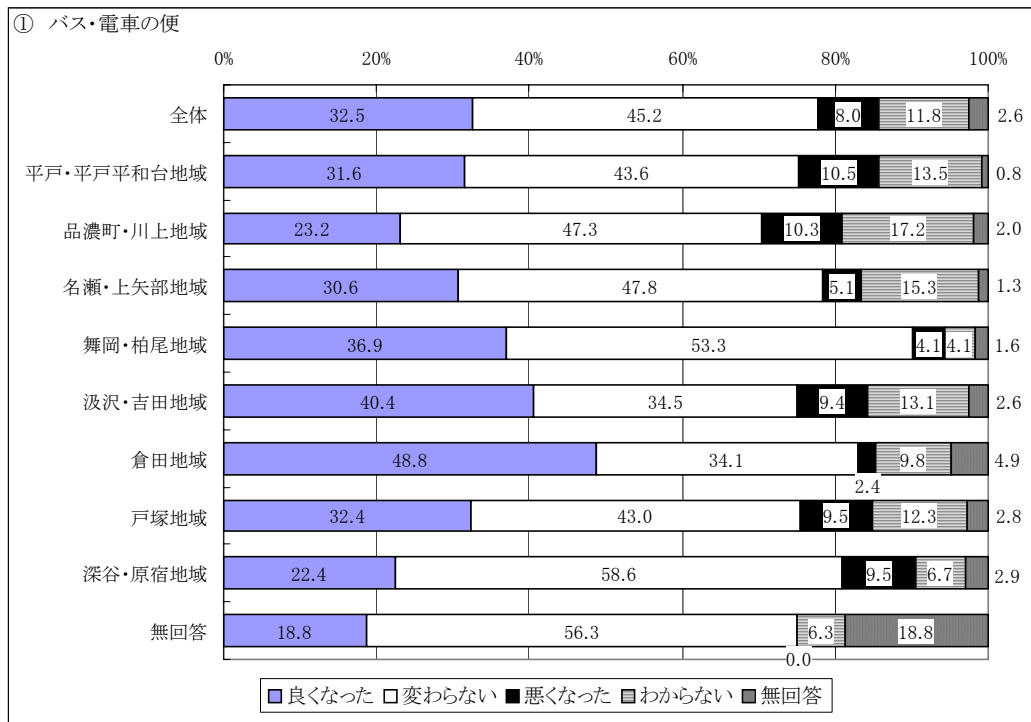
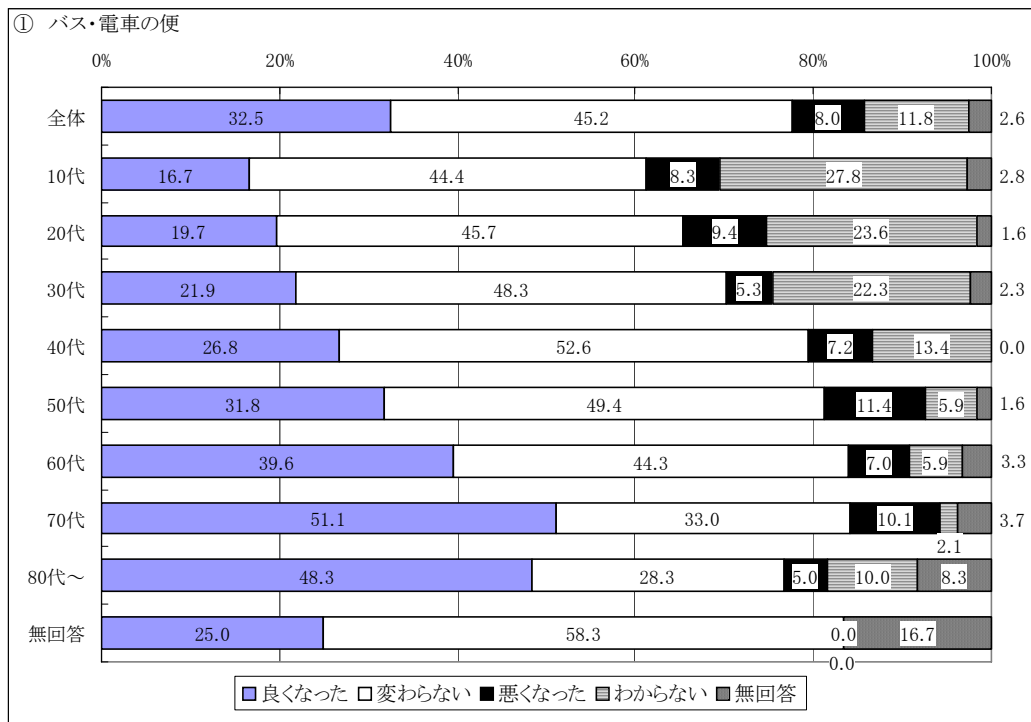
<満足度>

- ・ 「バス・電車の便」の満足度は、戸塚区全体としては、満足とする割合が51.3%（「満足」と「やや満足」の合計、以下同様とする）、不満とする割合が31.1%（「やや不満」と「不満」の合計、以下同様とする）と、満足の割合が高くなっている。
- ・ 年代別では、60代以上の世代では区全体の数値より満足度が高いが、それ以外では区の数値よりも低くなっている。
- ・ 地域別では、区全体より満足度が高くなっている地域は、平戸・平戸平和台地域、舞岡・柏尾地域、汲沢・吉田地域、倉田地域、戸塚地域である。低い地域は品濃町・川上地域、名瀬・上矢部地域、深谷・原宿地域では区の数値より低く、特に深谷・原宿地域は不満の割合が満足の割合を上回っている。



＜以前と比べた変化＞

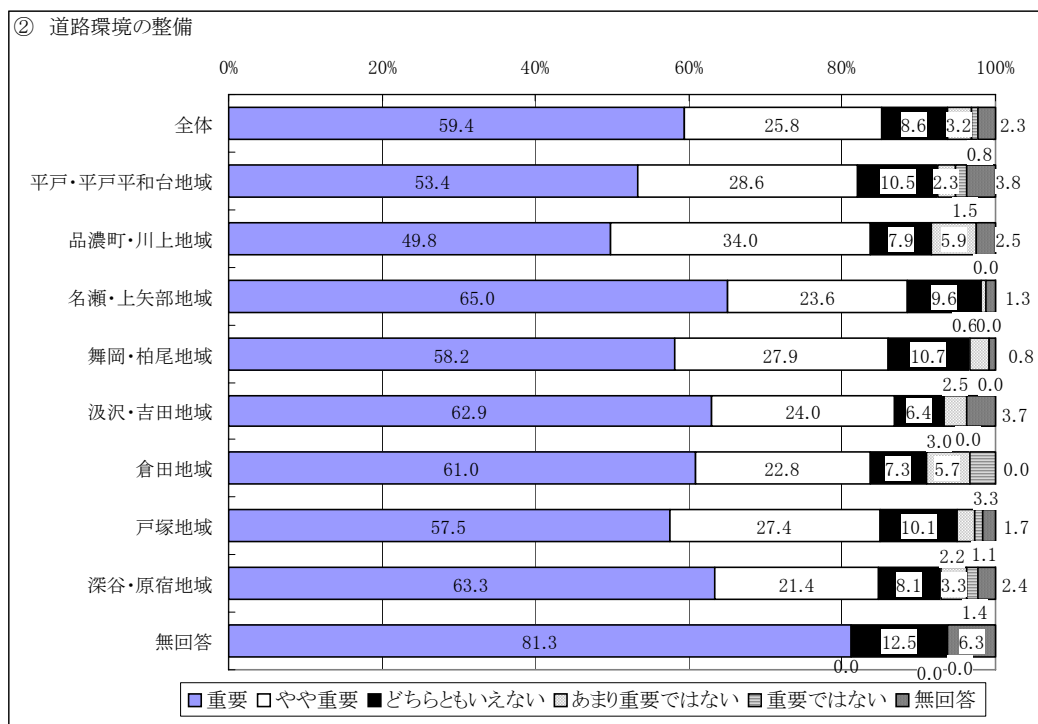
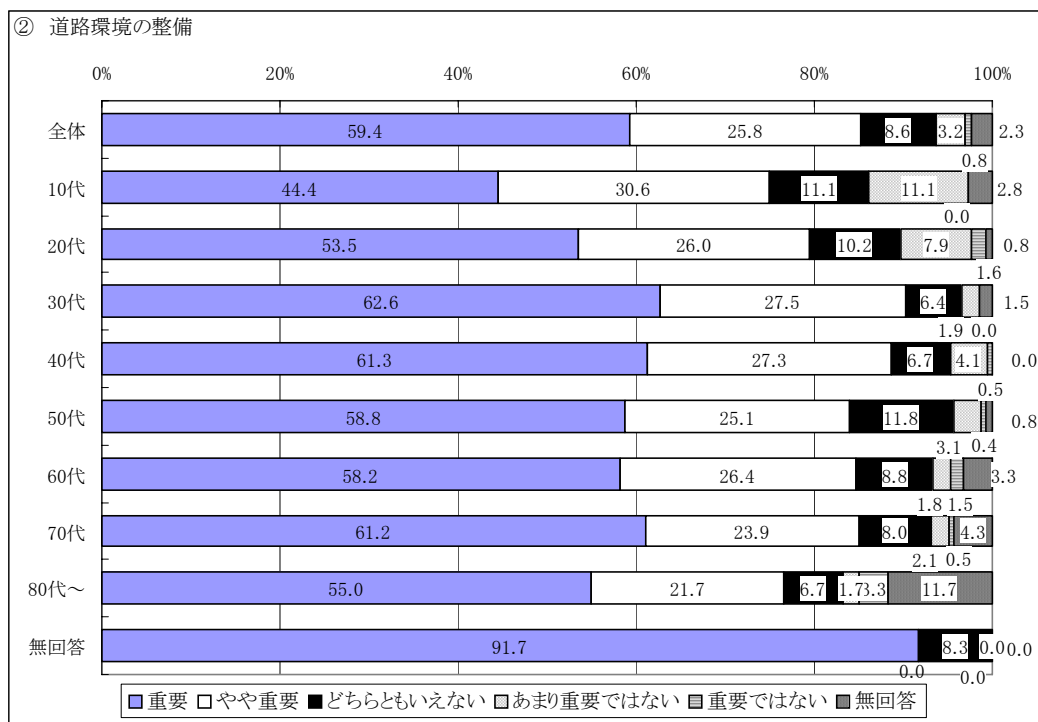
- ・ 「バス・電車の便」の以前と比べた変化は、戸塚区全体としては、「変わらない」の割合が最も高くなっている。
- ・ 年代別では、10代から60代までの世代では「変わらない」が、70代以上の世代では「良くなった」が最も多くなっている。10代から30代まででは「わからない」の数値も高い。
- ・ 地域別では、汲沢・吉田地域、倉田地域で「良くなった」が最も多くなっている以外は「変わらない」が最も多い。



② 道路環境の整備

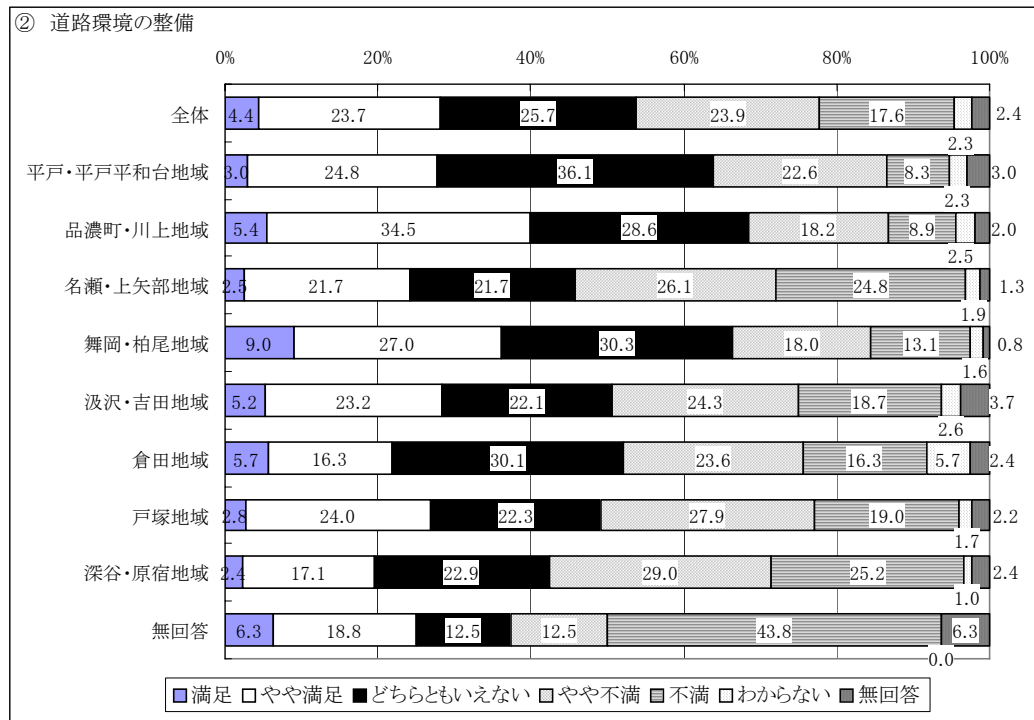
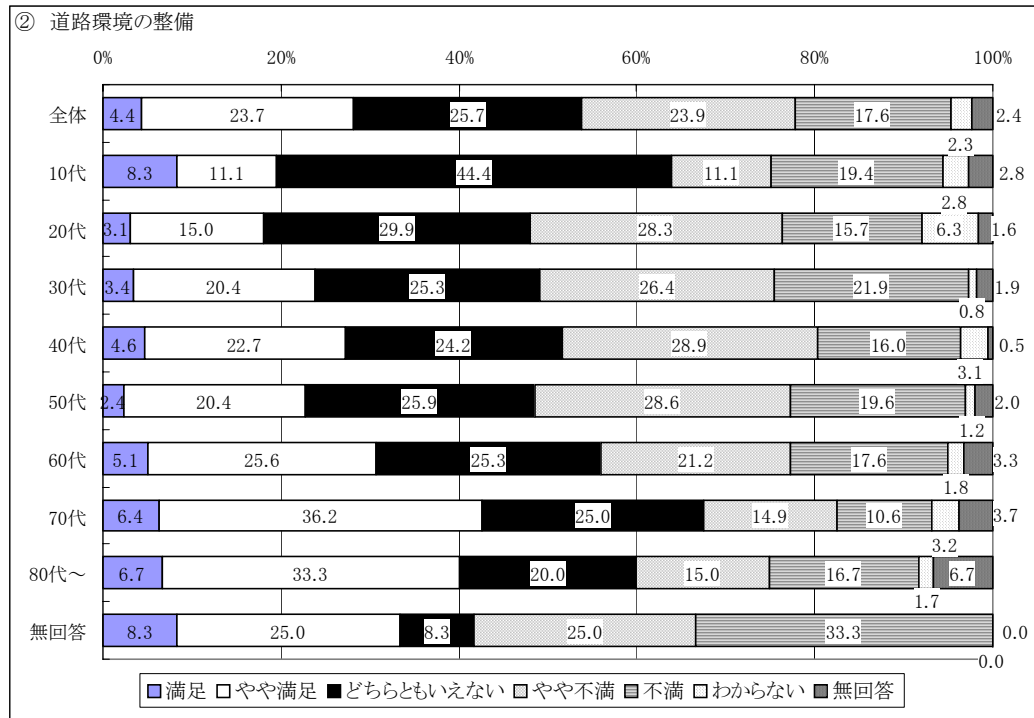
<重要度>

- ・ 「道路環境の整備」の重要度は、戸塚区全体としては、重要とする割合が85.2%、重要でないとする割合が4.0%と、重要の割合が高い。
- ・ 年代別では、30代、40代で重要度が区の数値よりも高くなっている。
- ・ 地域別では、区全体より重要度が高くなっている地域は、名瀬・上矢部地域、舞岡・柏尾地域、汲沢・吉田地域である。低い地域は平戸・平戸平和台地域、品濃町・川上地域、倉田地域、戸塚地域、深谷・原宿地域であるが、区の数値とさほど大きな差異は見られない。



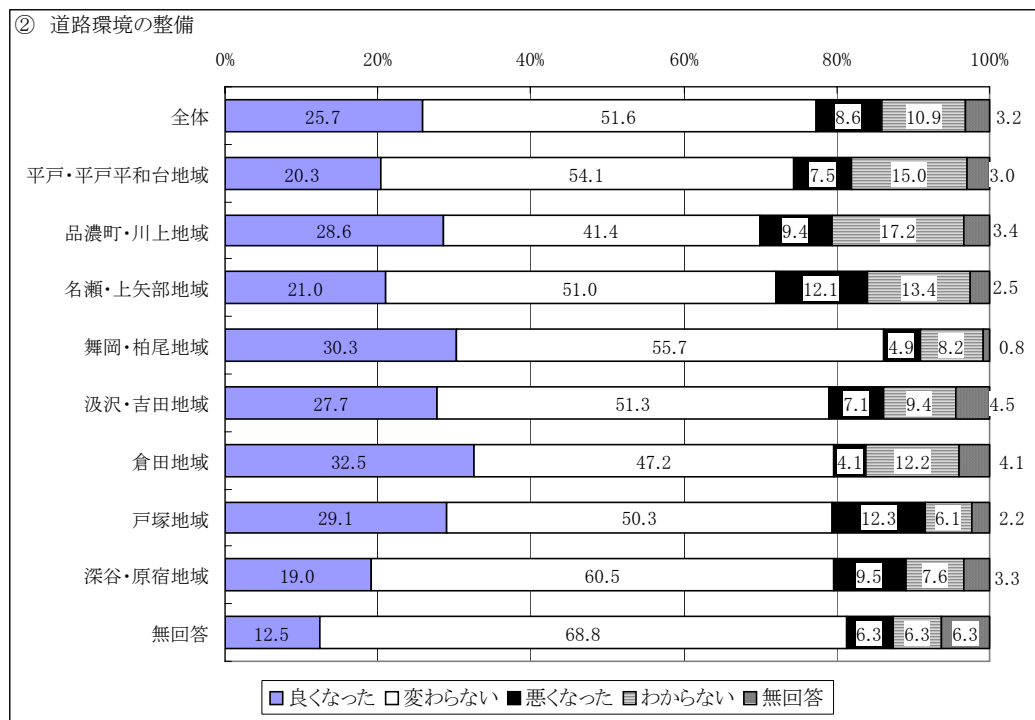
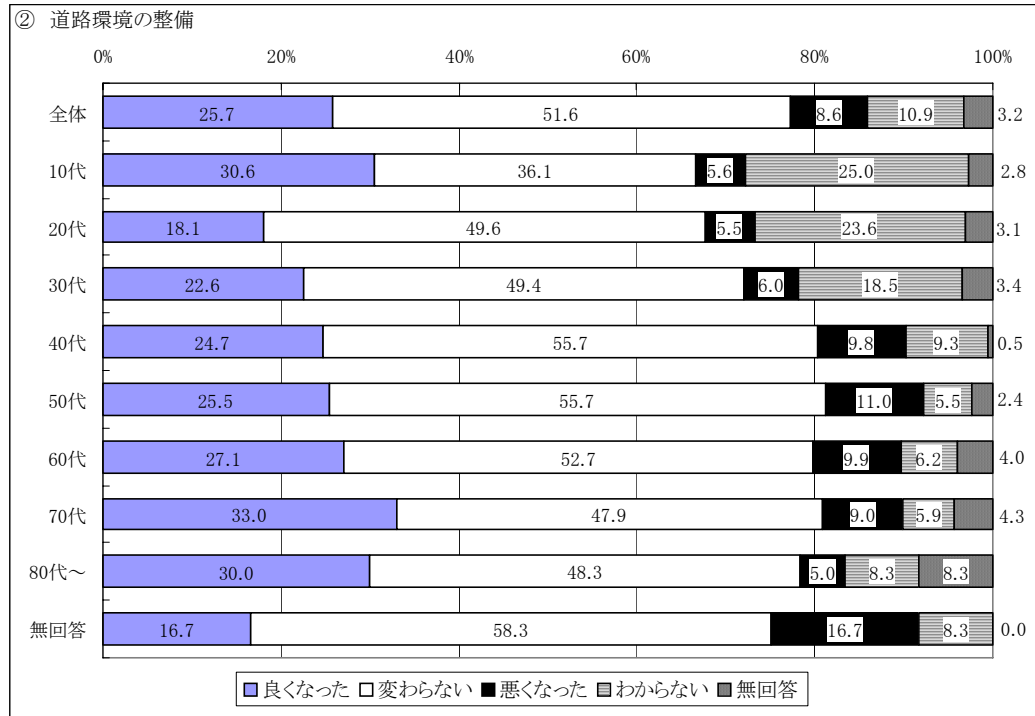
＜満足度＞

- ・ 「道路環境の整備」の満足度は、戸塚区全体としては、満足とする割合が28.1%、不満とする割合が41.5%と、不満の割合が高くなっている。
- ・ 年代別では、60代以上の世代で満足度が区の数値より高く、このうち70代、80代以上の高齢者世代では、満足の割合が不満を上回っている。また10代では「どちらともいえない」の数値が他に比べて特に高い。
- ・ 地域別では、区全体より満足度が高くなっている地域は、品濃町・川上地域、舞岡・柏尾地域、汲沢・吉田地域で、このうち品濃町・川上地域、舞岡・柏尾地域では満足の方が不満より高い割合となっている。一方、名瀬・上矢部地域、深谷・原宿地域では不満の割合が他に比べて高い。



＜以前と比べた変化＞

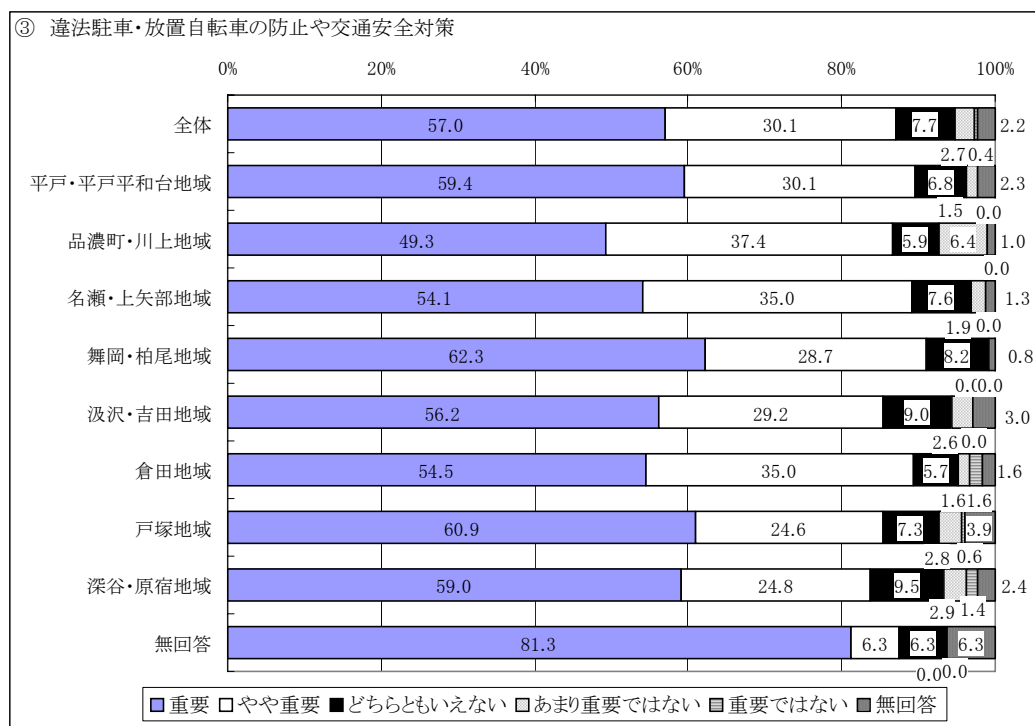
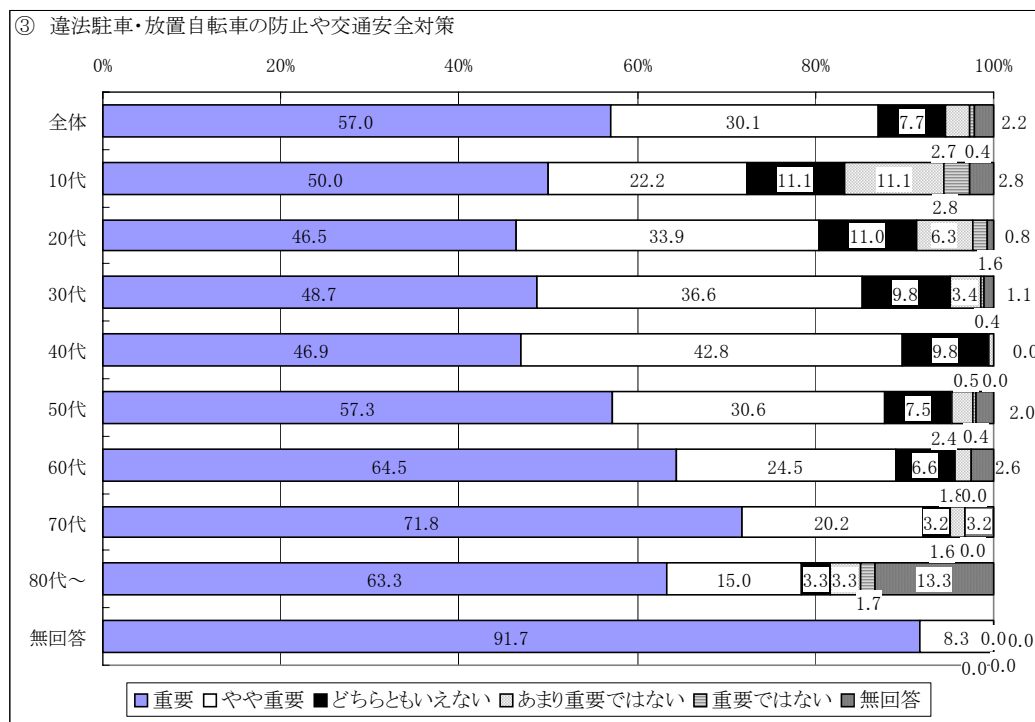
- ・ 「道路環境の整備」の以前と比べた変化は、戸塚区全体としては、「変わらない」の割合が最も高くなっている。
- ・ 年代別では、いずれの世代も「変わらない」が最も多くなっている。また10代、20代では他に比べて「わからない」の数値が高い。
- ・ 地域別では、いずれの地域も「変わらない」が最も多い。



③ 違法駐車・放置自転車の防止や交通安全対策

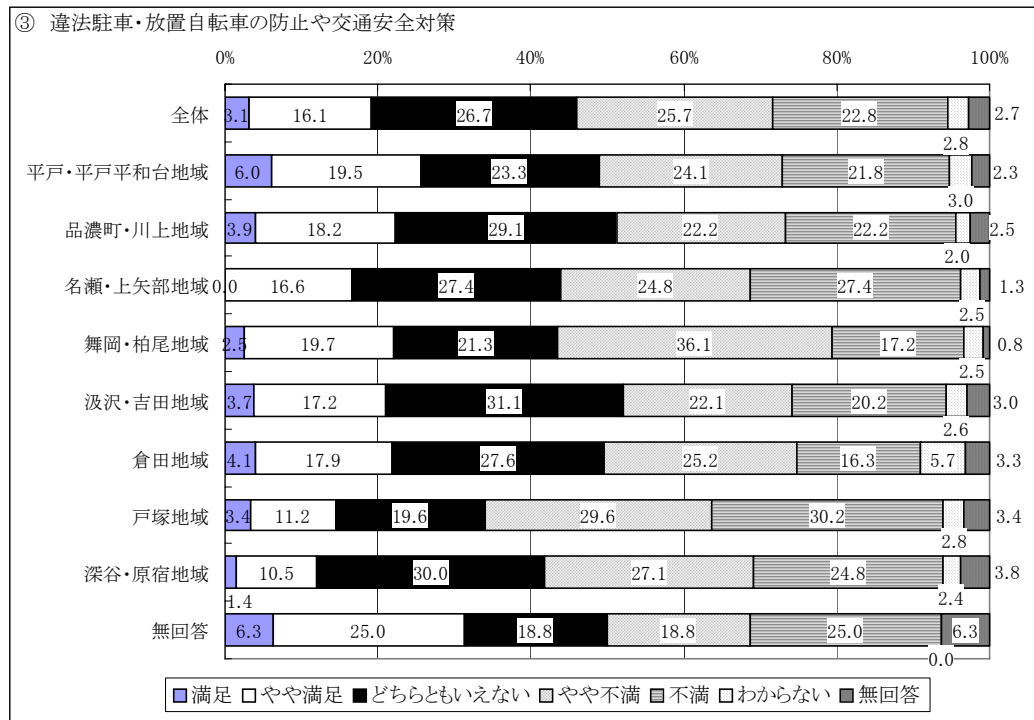
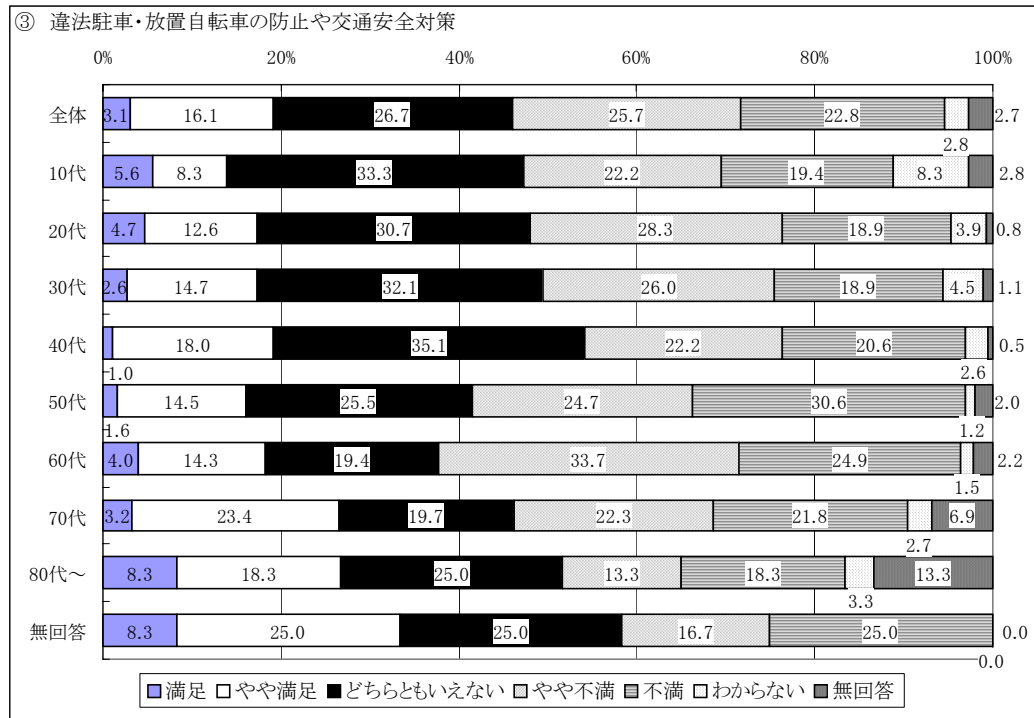
<重要度>

- ・ 「違法駐車・放置自転車の防止や交通安全対策」の重要度は、戸塚区全体としては、重要とする割合が87.0%、重要でないとする割合が3.1%と、重要の割合が高い。
- ・ 年代別では、40代から70代にかけての世代で区の数値よりも高く、それ以外の年代では低くなっている。また10代では重要でないとする数値が他に比べて高い。
- ・ 地域別では、区全体より重要度が高くなっている地域は、平戸・平戸平和台地域、名瀬・上矢部地域、舞岡・柏尾地域、倉田地域、低い地域は品濃町・川上地域、汲沢・吉田地域、戸塚地域、深谷・原宿地域であるが、区の傾向と大きな差はない。また、舞岡・柏尾地域では重要ではないとする数値が0である。



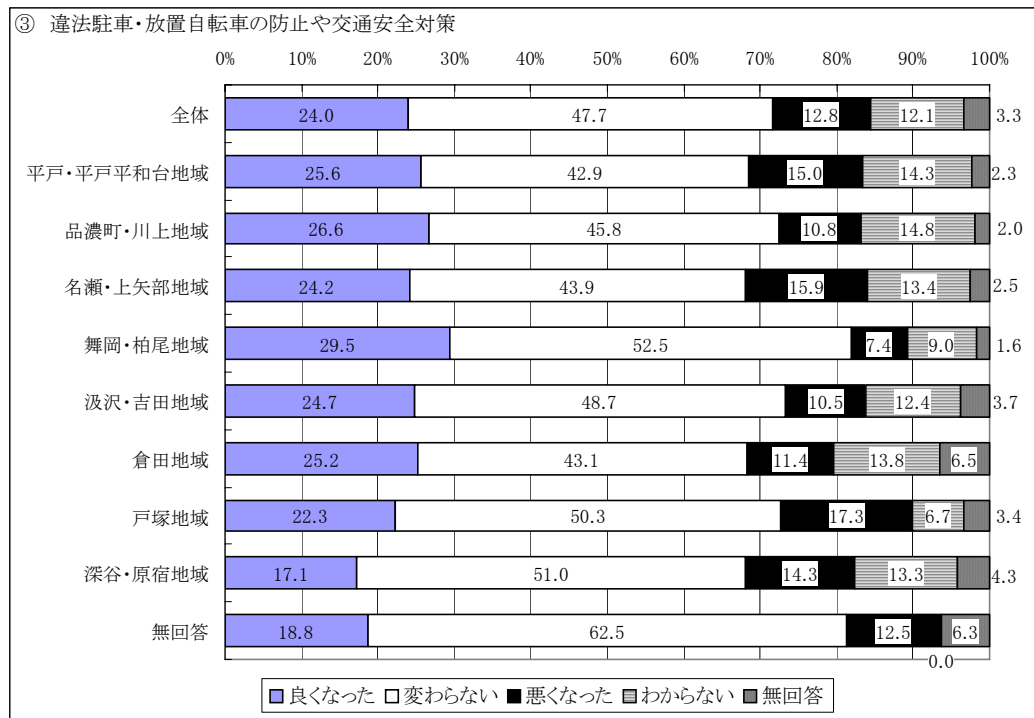
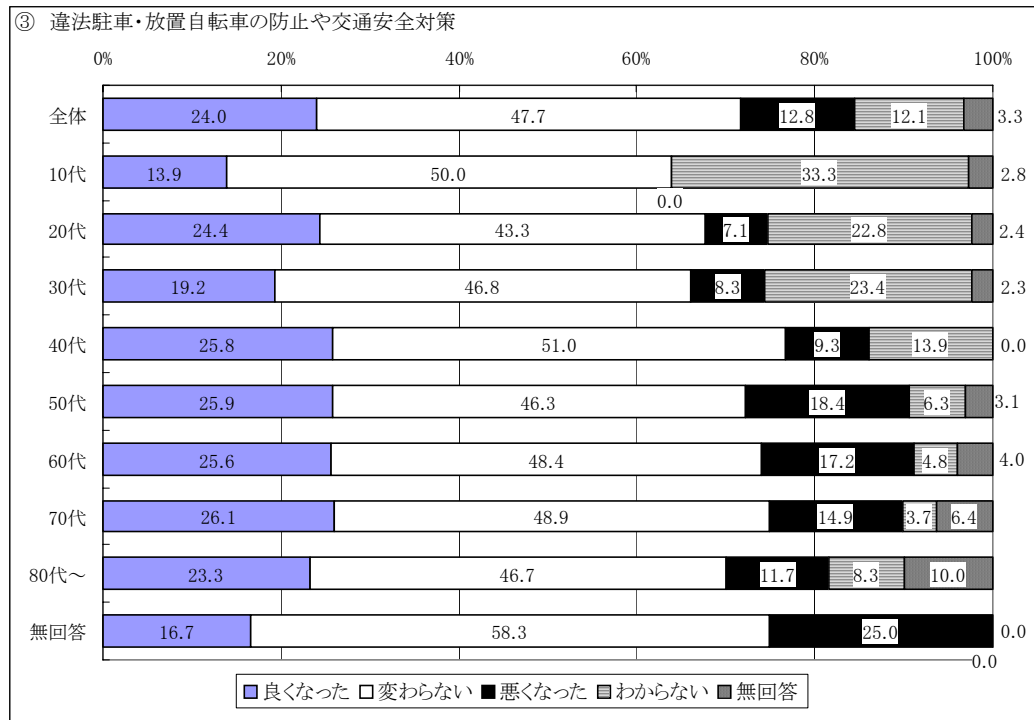
＜満足度＞

- ・ 「違法駐車・放置自転車の防止や交通安全対策」の満足度は、戸塚区全体としては、満足とする割合が19.2%、不満とする割合が48.6%と、不満の割合が高くなっている。
- ・ 年代別では、70代以上の世代で満足度が区の数値より高くなっている。これ以外は区全体の数値より満足度が低い。60代では不満の割合が他に比べて高くなっている。
- ・ 地域別では、区全体より満足度が高くなっている地域は、平戸・平戸平和台地域、品濃町・川上地域、舞岡・柏尾地域、汲沢・吉田地域、倉田地域の5地域である。但し舞岡・柏尾地域では、不満とする割合もやや高くなっている。区全体より満足度が低いのは名瀬・上矢部地域、戸塚地域、深谷・原宿地域である。また、戸塚地域では不満とする割合が他に比べて高い。



＜以前と比べた変化＞

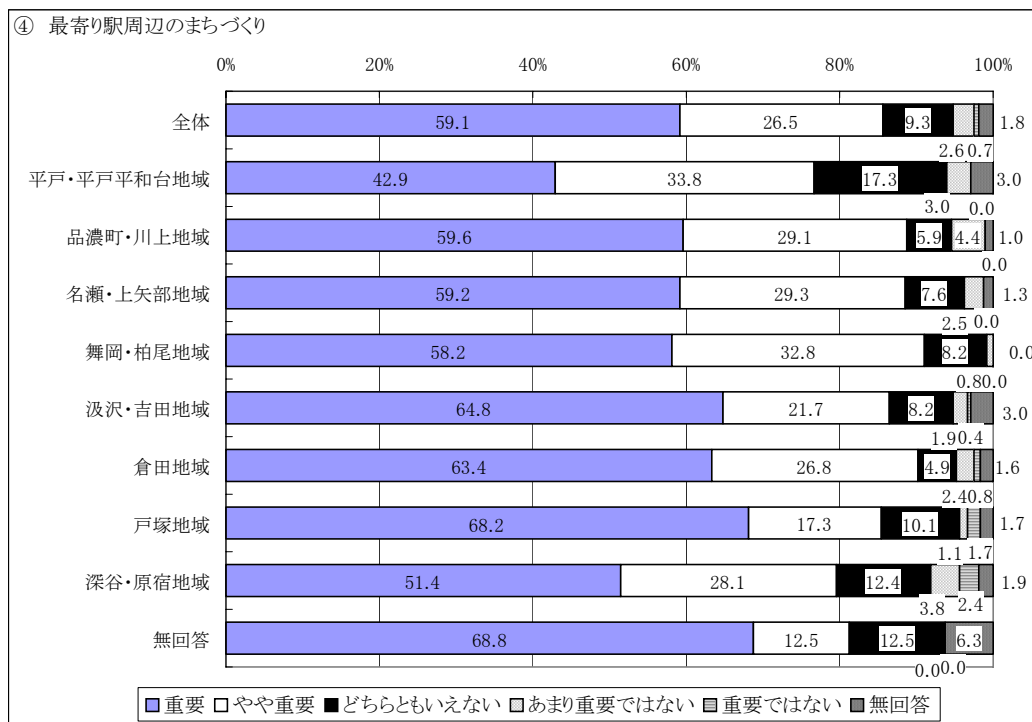
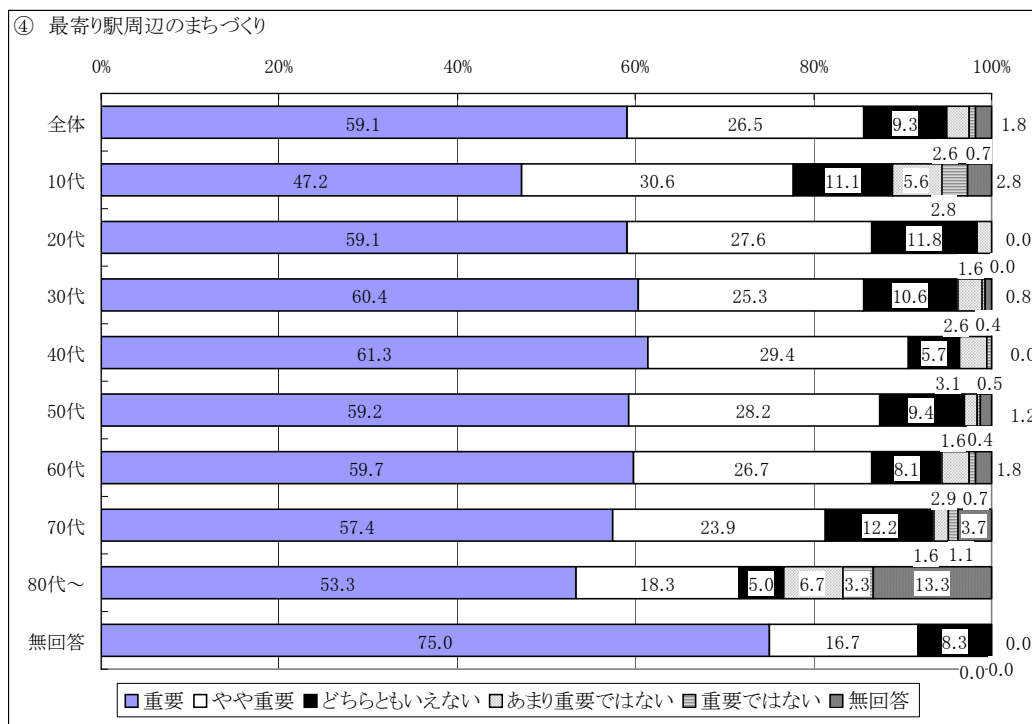
- ・ 「違法駐車・放置自転車の防止や交通安全対策」の以前と比べた変化は、戸塚区全体としては、「変わらない」の割合が最も高くなっている。
- ・ 年代別では、いずれの世代も「変わらない」が最も多くなっている。また10代では「良くなった」「悪くなった」の数値が低く、特に「悪くなった」の数値は0となっており、「わからない」の数値が高い。20代、30代でも「わからない」の数値は高くなっている。
- ・ 地域別では、いずれの地域も「変わらない」が最も多い。



④ 最寄り駅周辺のまちづくり

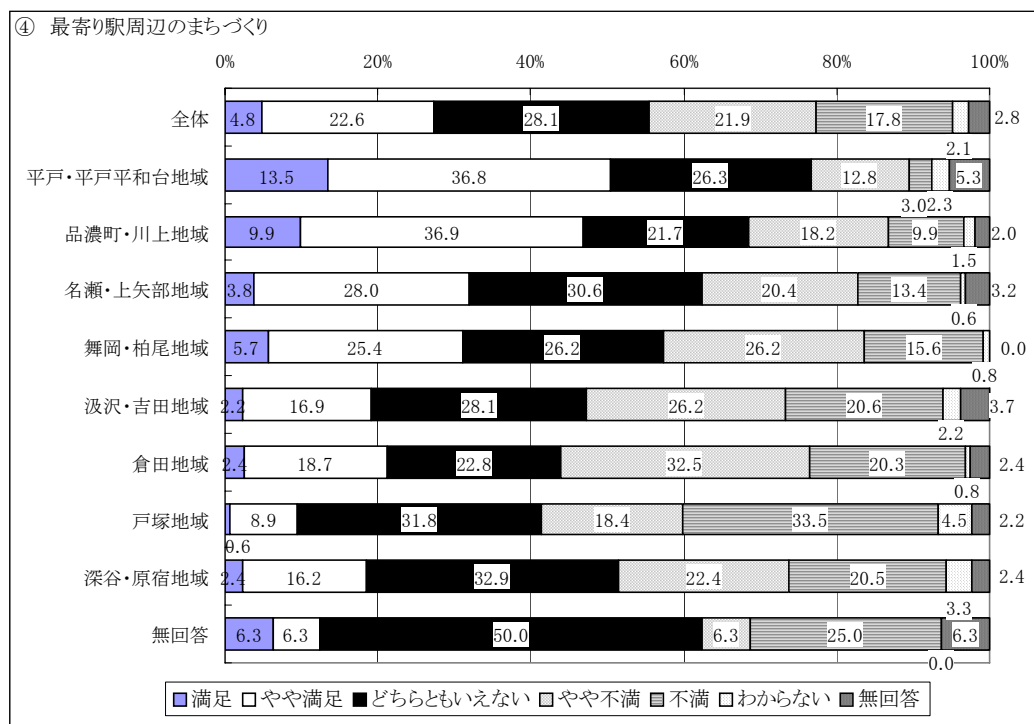
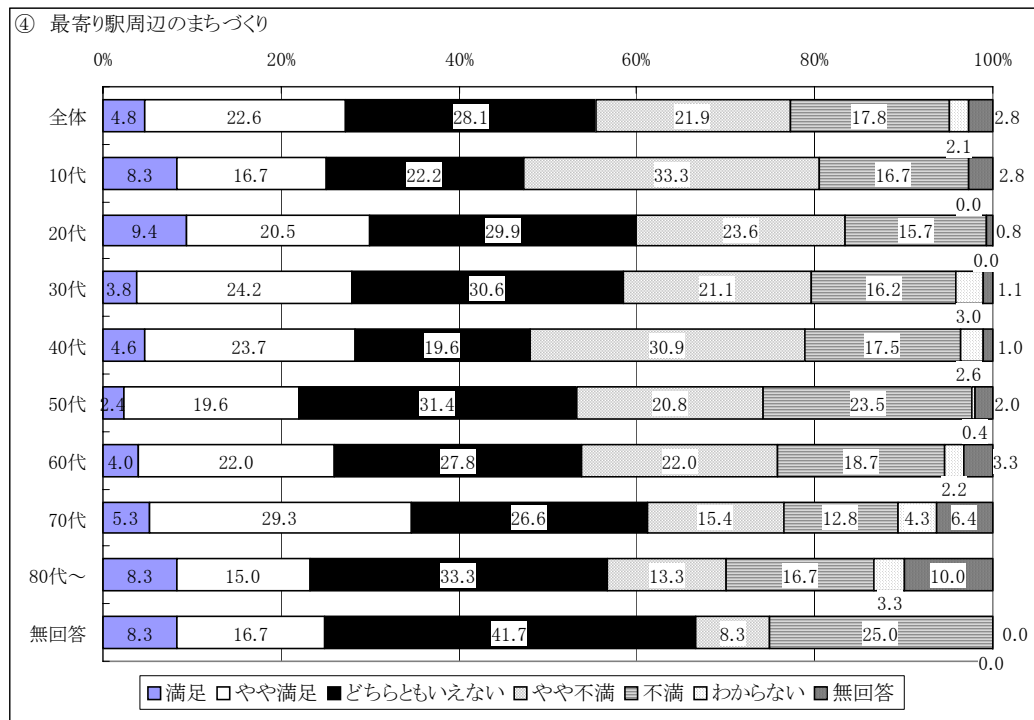
<重要度>

- ・ 「最寄り駅周辺のまちづくり」の重要度は、戸塚区全体としては、重要とする割合が85.6%、重要でないとする割合が3.3%と、重要の割合が高い。
- ・ 年代別では、20代から60代にかけての世代で区の数値よりも高く、それ以外の年代では低くなっており、特に80代以上では数値が低くなっている。
- ・ 地域別では、区全体より重要度が高くなっている地域は、品濃町・川上地域、名瀬・上矢部地域、舞岡・柏尾地域、汲沢・吉田地域、倉田地域、低い地域は平戸・平戸平和台地域、戸塚地域、深谷・原宿地域で、特に平戸・平戸平和台地域での重要度がやや低い。



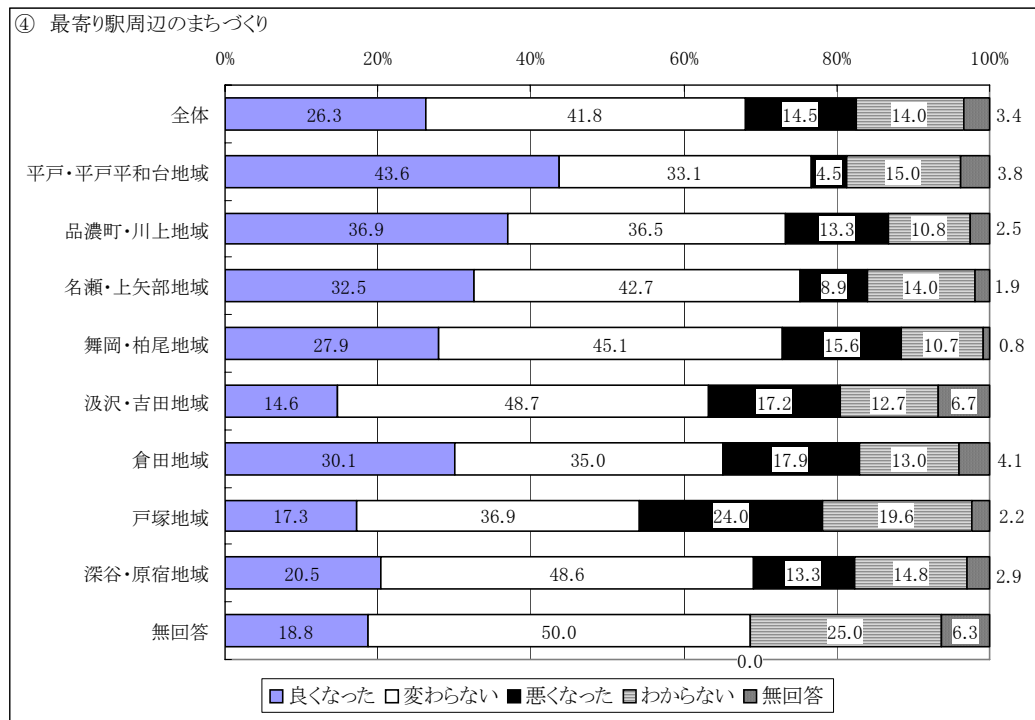
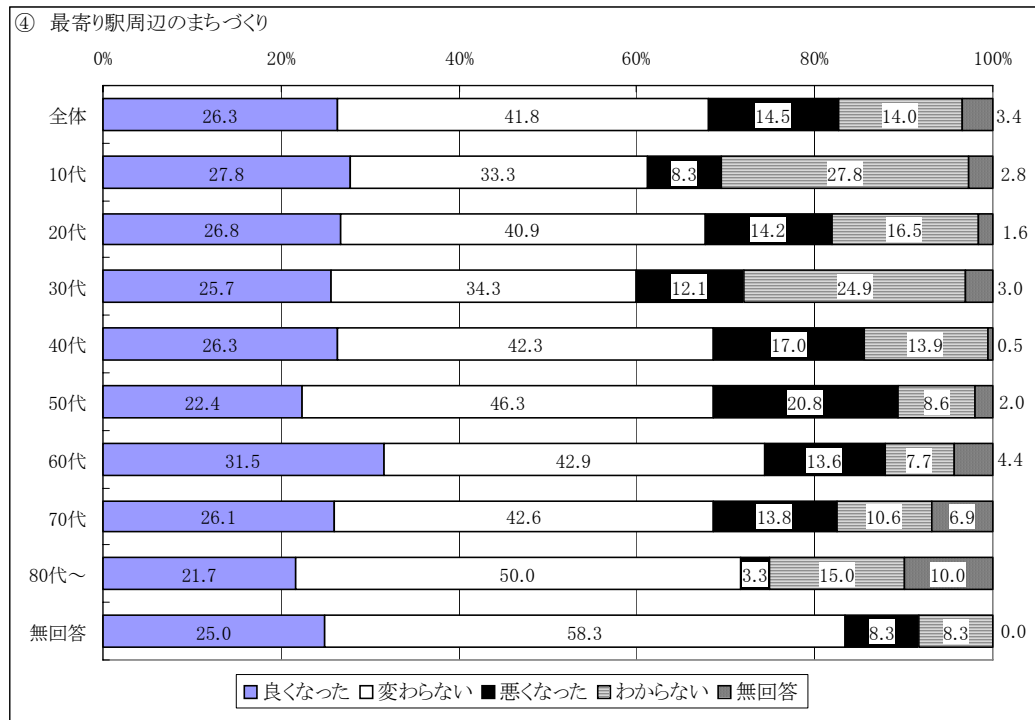
<満足度>

- ・ 「最寄り駅周辺のまちづくり」の満足度は、戸塚区全体としては、満足とする割合が27.3%、不満とする割合が39.7%と、不満の割合が高くなっている。
- ・ 年代別では、20代、40代、70代で満足度が区の数値より高く、特に70代では満足の割合が不満の割合を上回っている。これ以外は区全体の数値より満足度が低い。10代では不満の割合が他に比べて高くなっている。
- ・ 地域別では、区全体より満足度が高くなっている地域は、平戸・平戸平和台地域、品濃町・川上地域、名瀬・上矢部地域、舞岡・柏尾地域の4地域で、このうち平戸・平戸平和台地域、品濃町・川上地域では満足とする割合の方が不満より多くなっている。一方、汲沢・吉田地域、倉田地域、戸塚地域、深谷・原宿地域では満足度が低い。特に戸塚地域では満足の数値が非常に低く、倉田地域、戸塚地域において不満の割合が他に比べて高い。



＜以前と比べた変化＞

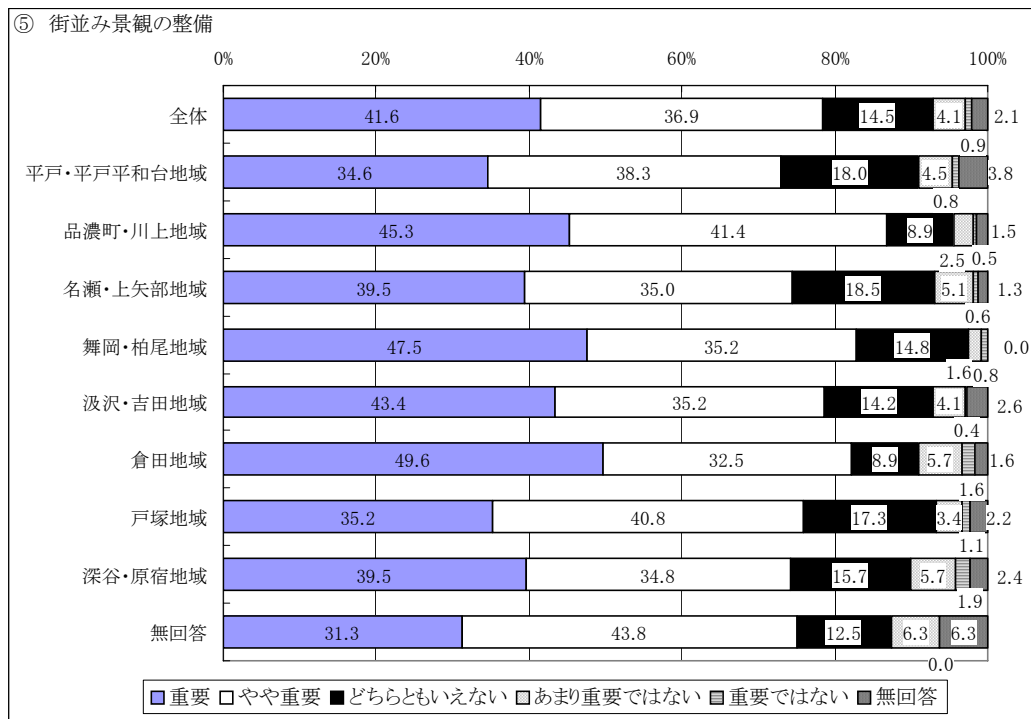
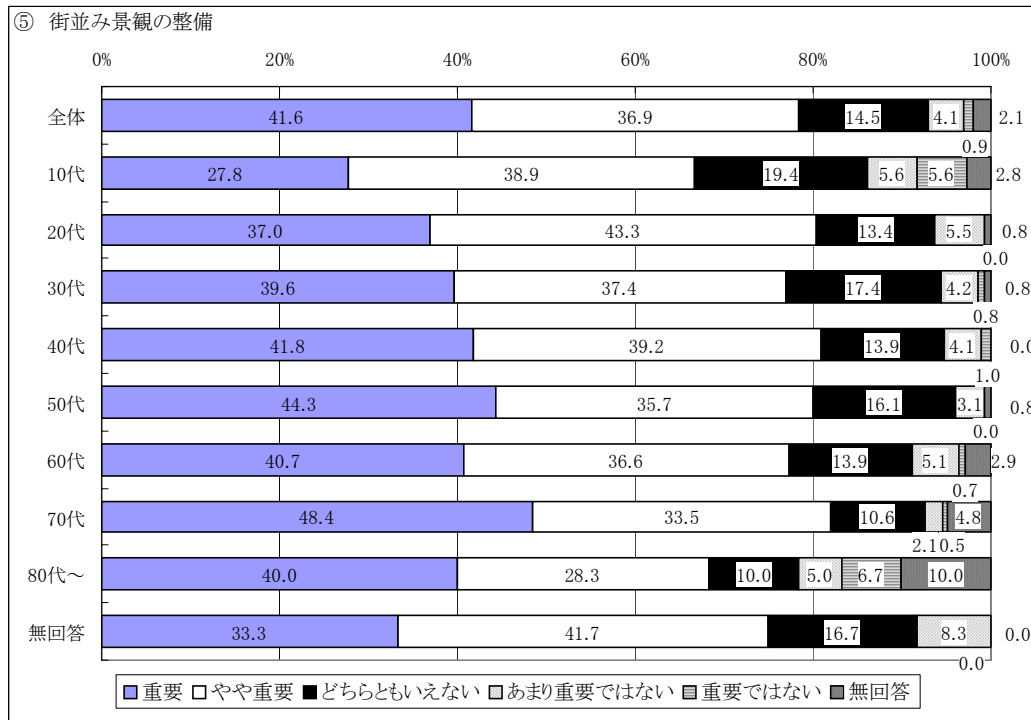
- ・ 「最寄り駅周辺のまちづくり」の以前と比べた変化は、戸塚区全体としては、「変わらない」の割合が最も高くなっている。
- ・ 年代別では、いずれの世代も「変わらない」が最も多くなっている。また10代、30代では他の世代に比べて「わからない」の数値が高い。
- ・ 地域別では、平戸・平戸平和台地域、品濃町・川上地域では「良くなった」が最も多く、それ以外の地域では「変わらない」が最も多い。また戸塚地域では、他に比べて「悪くなった」の割合がやや高くなっている。



⑤ 街並み景観の整備

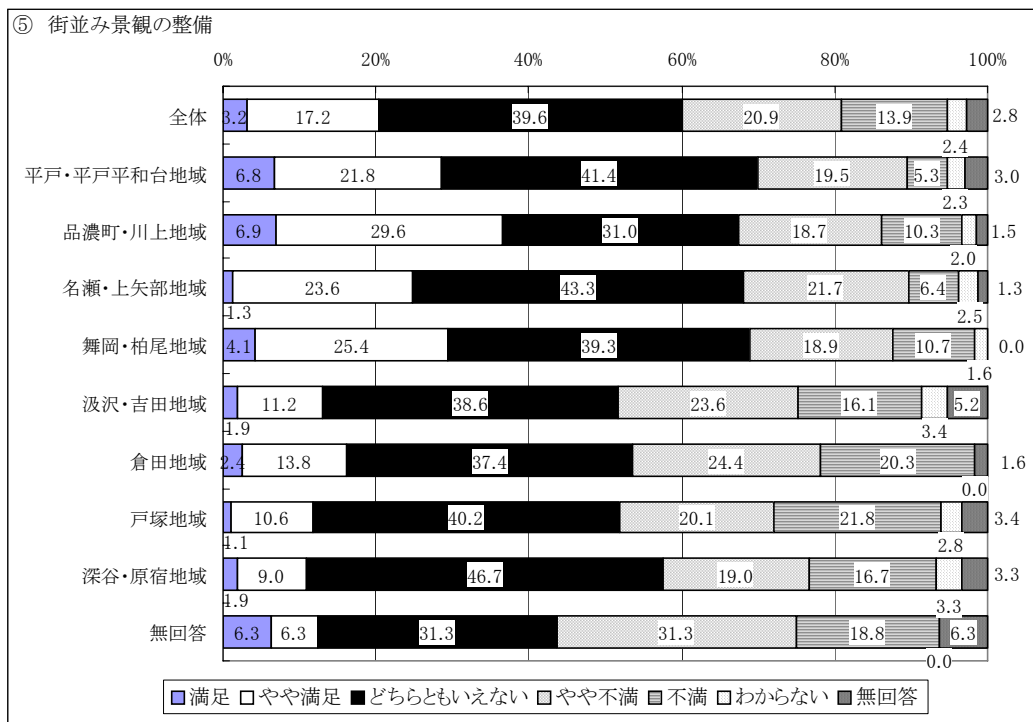
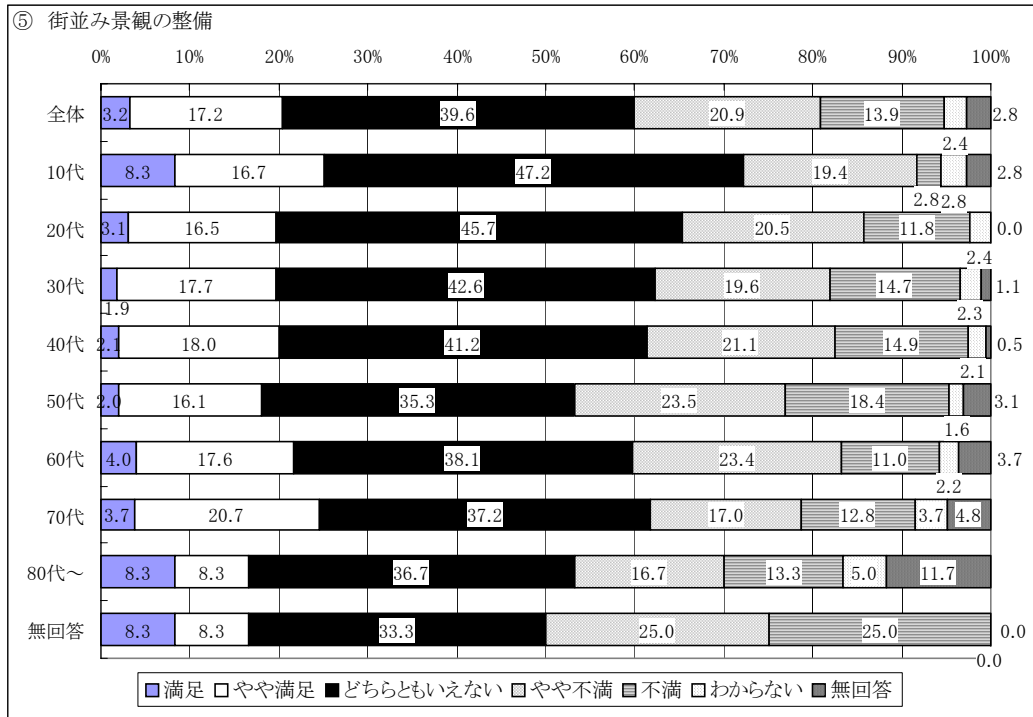
<重要度>

- ・ 「街並み景観の整備」の重要度は、戸塚区全体としては、重要とする割合が78.4%、重要でないとする割合が5.0%と、重要の割合が高い。
- ・ 年代別では、20代、40代、50代、70代で区の数値よりも重要度が高い。それ以外の年代では低くなっており、特に10代、80代以上では数値が低くなっている。
- ・ 地域別では、区全体より重要度が高くなっている地域は、品濃町・川上地域、舞岡・柏尾地域、汲沢・吉田地域、倉田地域、低い地域は平戸・平戸平和台地域、名瀬・上矢部地域、戸塚地域、深谷・原宿地域である。



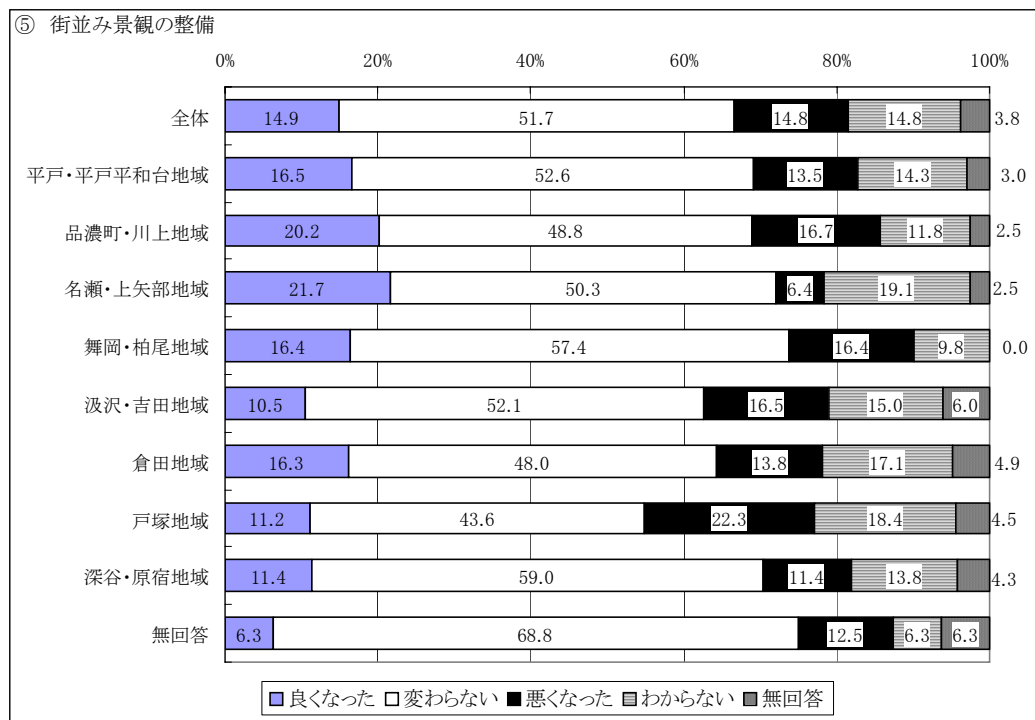
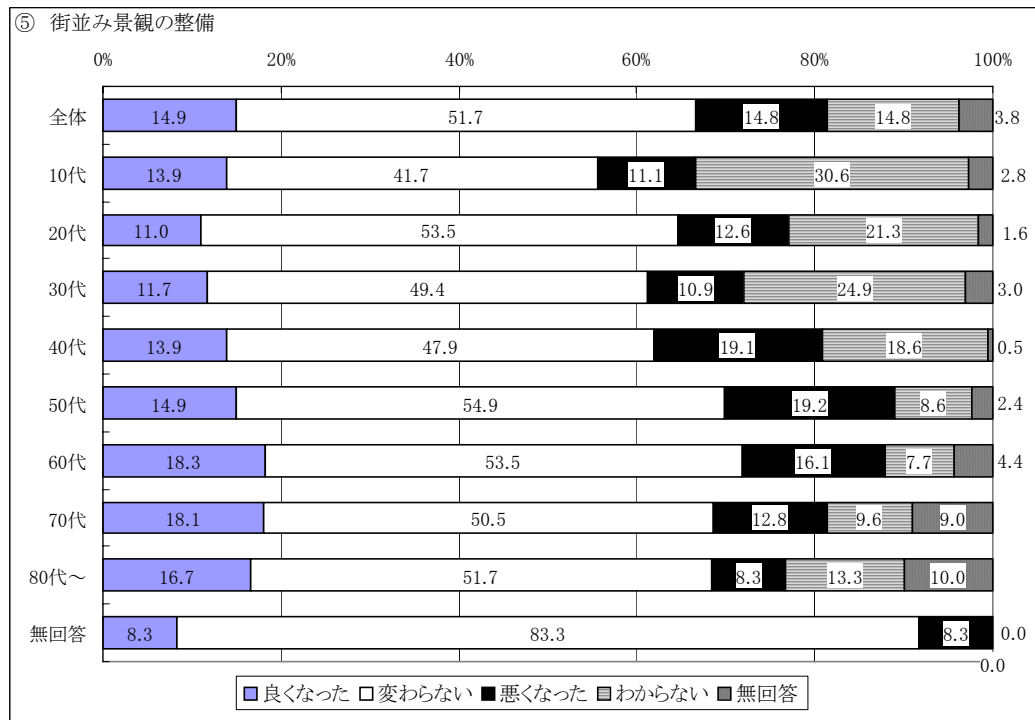
<満足度>

- ・ 「街並み景観の整備」の満足度は、戸塚区全体としては、満足とする割合が20.4%、不満とする割合が34.8%と、不満の割合が高くなっている。
- ・ 年代別では、10代、60代、70代で満足度が区の数値より高く、特に10代では満足の割合が不満の割合を上回っている。これ以外は区全体の数値より満足度が低い。また、若い世代では「どちらともいえない」の数値が高い傾向にある。
- ・ 地域別では、区全体より満足度が高くなっている地域は、平戸・平戸平和台地域、品濃町・川上地域、名瀬・上矢部地域、舞岡・柏尾地域の4地域で、このうち平戸・平戸平和台地域、品濃町・川上地域では満足とする割合の方が不満より多く、舞岡・柏尾地域では満足と不満が同率となっている。これ以外は区全体より満足度が低く、特に深谷・原宿地域で満足の数値が他に比べてやや低いほか、倉田地域では不満の割合が他に比べてやや高い。



＜以前と比べた変化＞

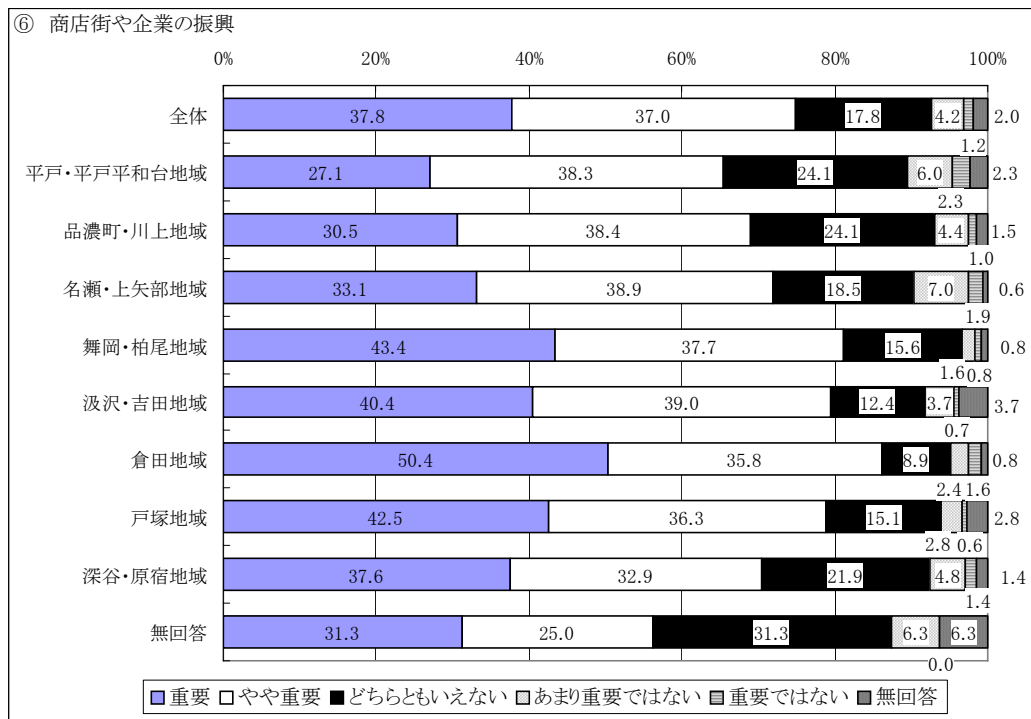
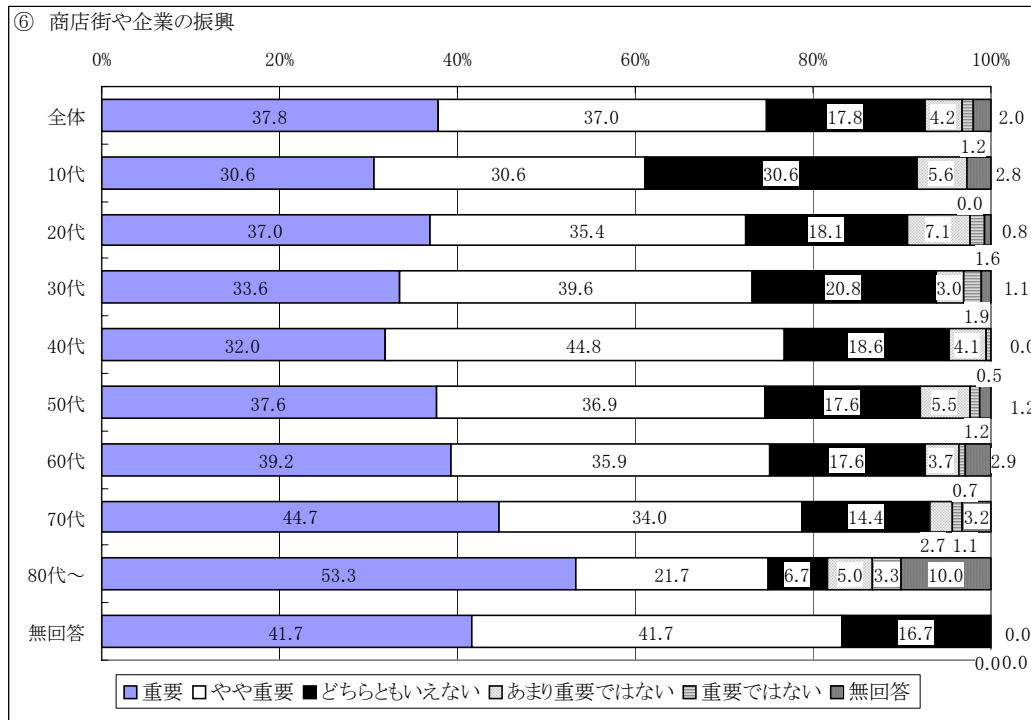
- ・ 「街並み景観の整備」の以前と比べた変化は、戸塚区全体としては、「変わらない」の割合が最も高くなっている。
- ・ 年代別では、いずれの世代も「変わらない」が最も多くなっている。また10代、30代では他の世代に比べて「わからない」の数値が高い。
- ・ 地域別では、いずれの地域も「変わらない」が最も多い。



⑥ 商店街や企業の振興

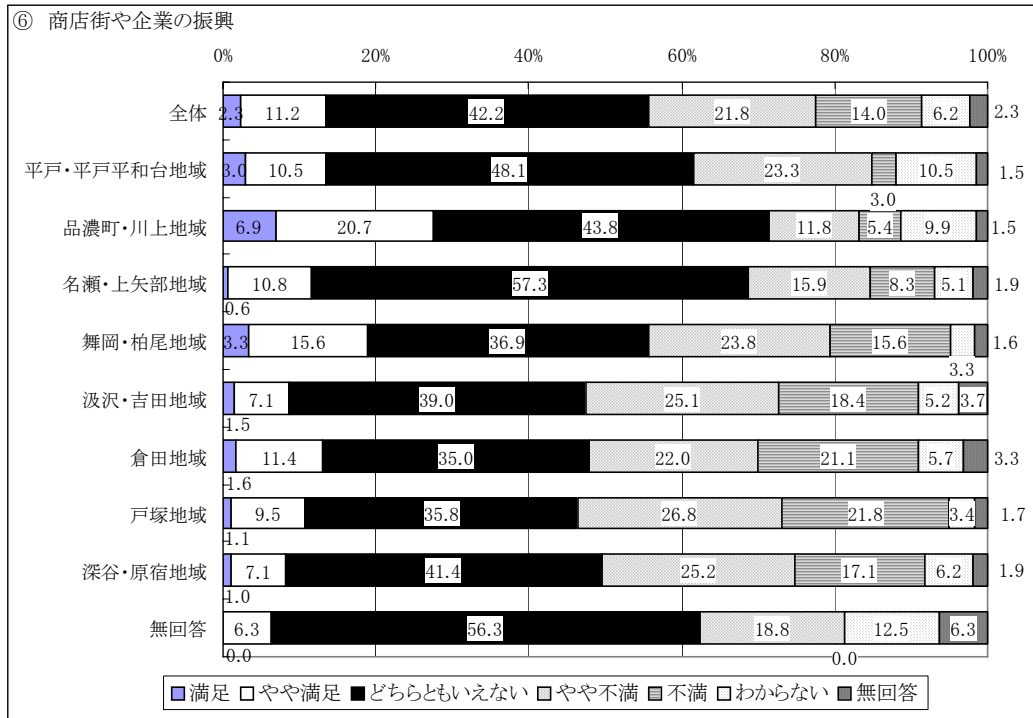
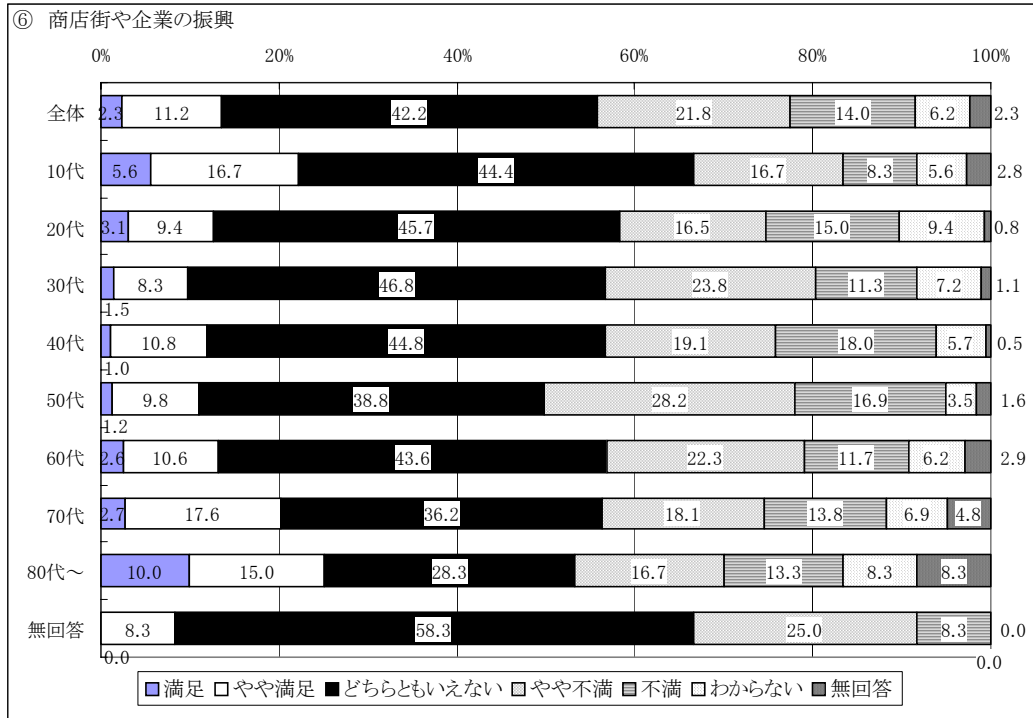
<重要度>

- ・ 「商店街や企業の振興」の重要度は、戸塚区全体としては、重要とする割合が74.8%、重要でないとする割合が5.4%と、重要の割合が高い。
- ・ 年代別では、40代、60代、70代で区の数値よりも重要度が高い。それ以外の年代では低くなっており、特に10代では数値が低くなっている。
- ・ 地域別では、区全体より重要度が高くなっている地域は、舞岡・柏尾地域、汲沢・吉田地域、倉田地域、戸塚地域で、特に倉田地域での数値が高い。低い地域は平戸・平戸平和台地域、品濃町・川上地域、名瀬・上矢部地域、深谷・原宿地域である。



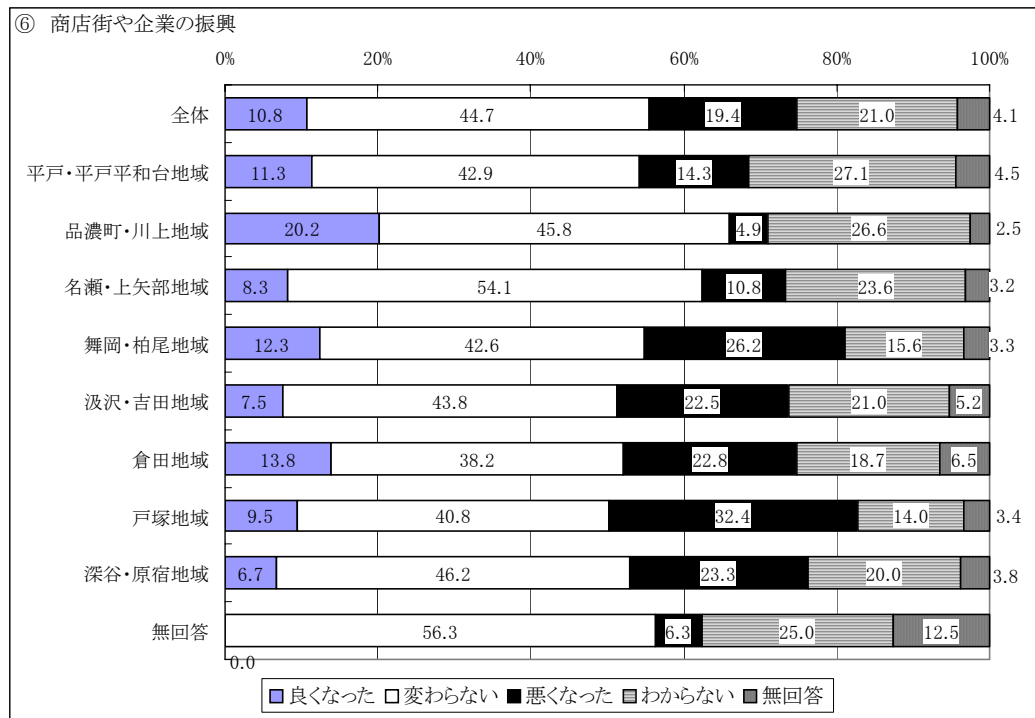
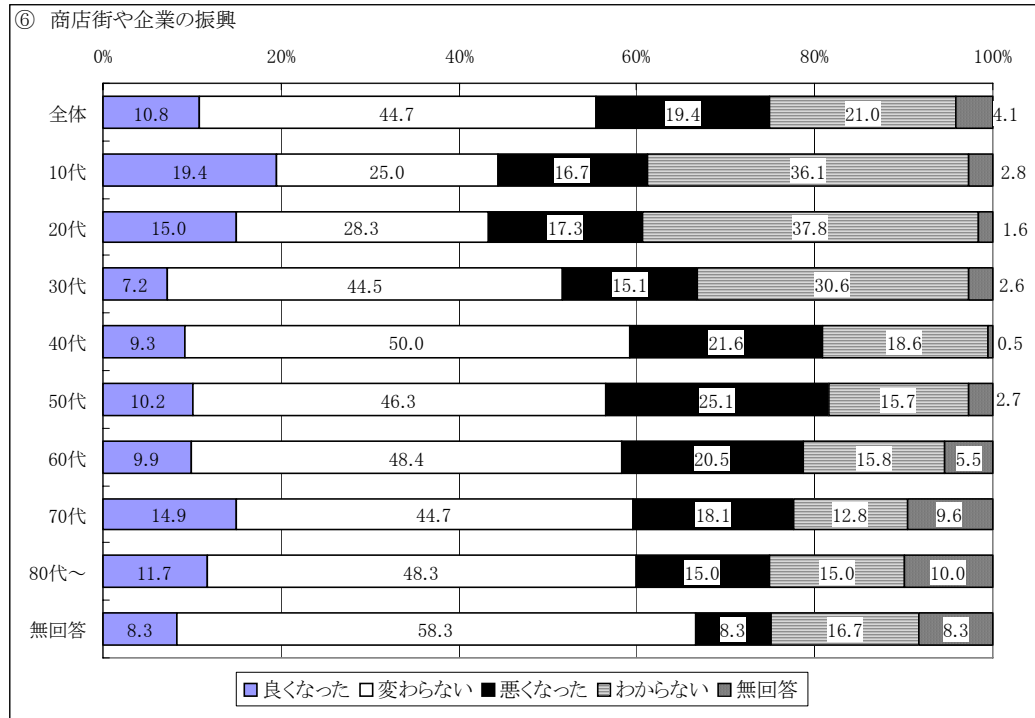
<満足度>

- ・ 「商店街や企業の振興」の満足度は、戸塚区全体としては、満足とする割合が13.5%、不満とする割合が35.7%と、不満の割合が高くなっている。
- ・ 年代別では、10代、70代、80代以上では満足度が区の数値より高くなっているが、これ以外は区全体の数値より満足度が低い。また50代では不満の数値が他世代よりやや高い。
- ・ 地域別では、区全体より満足度が高くなっている地域は、品濃町・川上地域、舞岡・柏尾地域で、このうち品濃町・川上地域では満足とする割合の方が不満を上回っている。それ以外の地域は区全体の数値より満足度が低く、戸塚地域では不満の割合が他に比べてやや高い。名瀬・上矢部地域では「どちらともいえない」の数値が他に比べて高くなっている。



＜以前と比べた変化＞

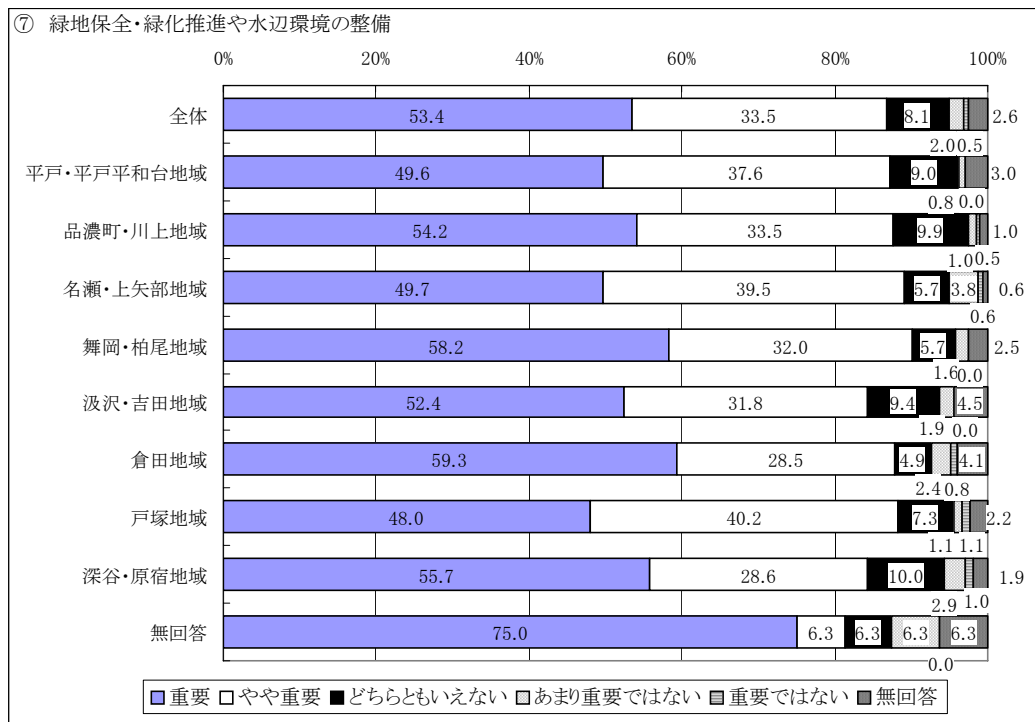
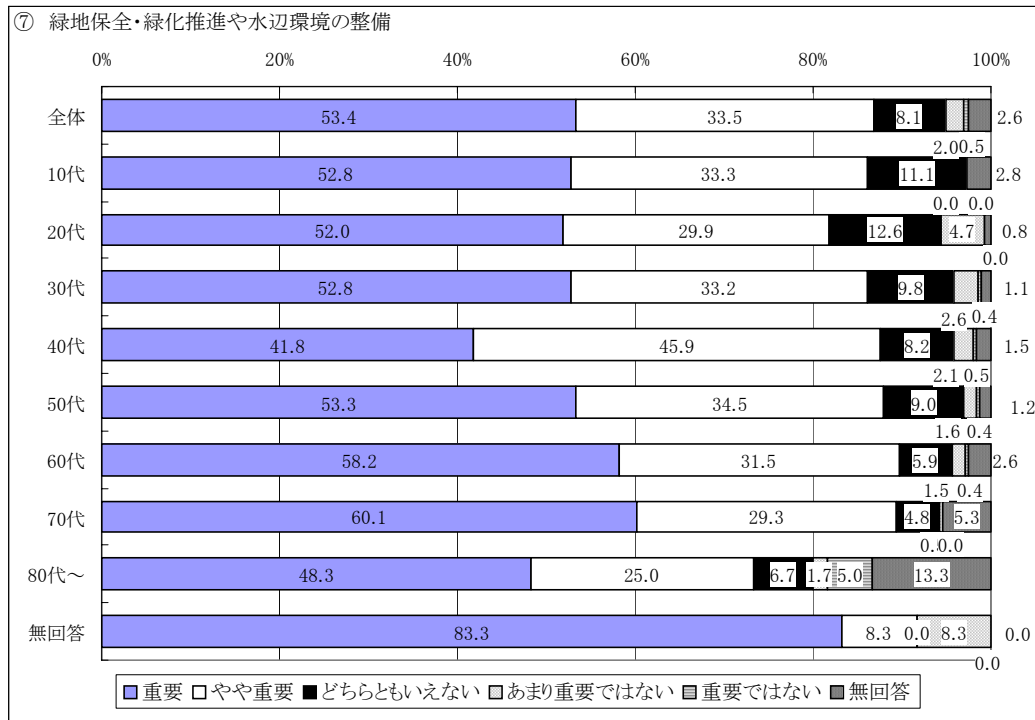
- ・ 「商店街や企業の振興」の以前と比べた変化は、戸塚区全体としては、「変わらない」の割合が最も高くなっている。
- ・ 年代別では、10代、20代では「わからない」が、それ以上の世代では「変わらない」が最も多くなっている。なお10代では「良くなった」が他に比べてやや高い。
- ・ 地域別では、いずれの地域も「変わらない」が最も多い。また、品濃町・川上地域では「良くなった」、戸塚地域では「悪くなった」の割合が、それぞれ他の地域に比べて高くなっている。



⑦ 緑地保全・緑化推進や水辺環境の整備

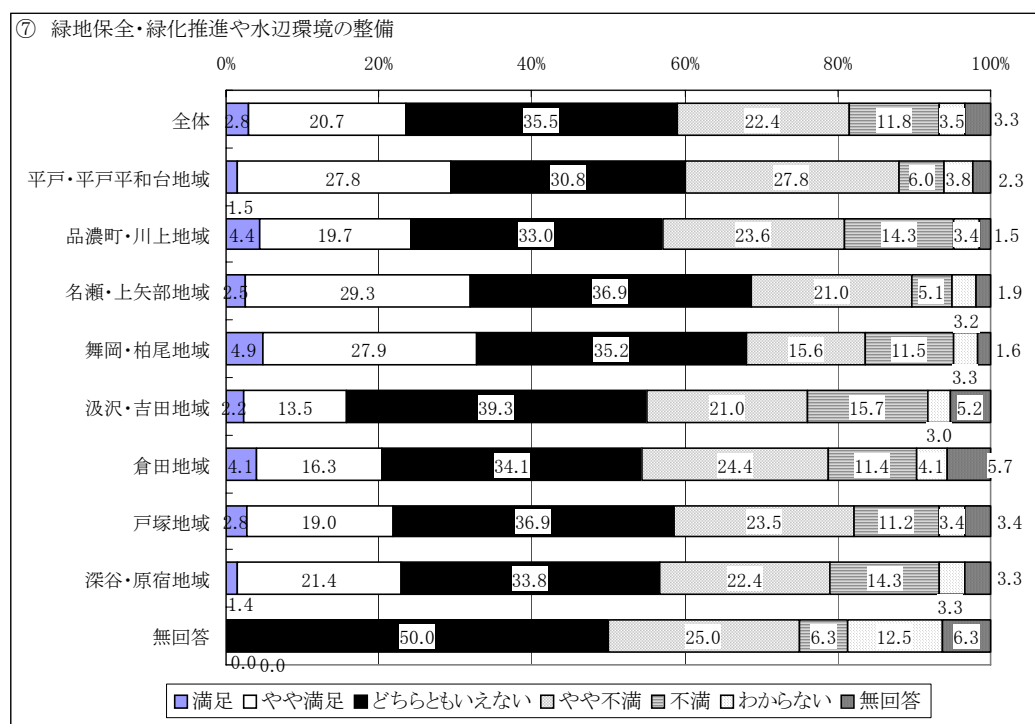
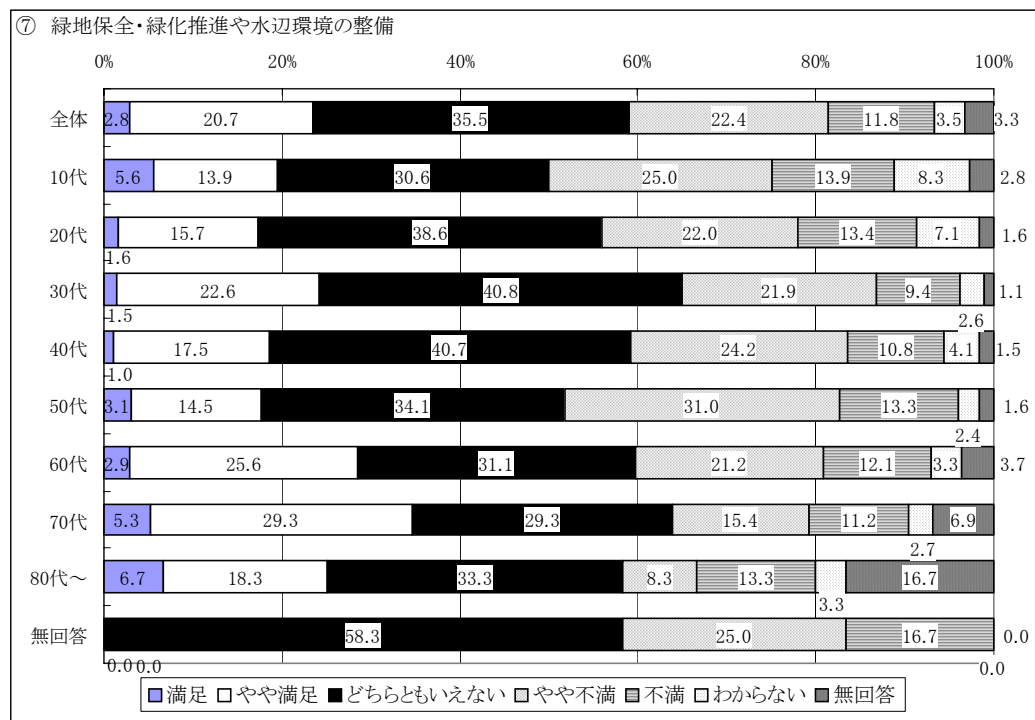
<重要度>

- ・ 「緑地保全・緑化推進や水辺環境の整備」の重要度は、戸塚区全体としては、重要とする割合が86.9%、重要でないとする割合が2.5%と、重要の割合が高い。
- ・ 年代別では、40代から70代にかけての世代で区の数値よりも重要度が高く、それ以外の年代では低くなっており、特に80代以上で数値が低くなっている。ただし、10代では重要でないとする数値が0である。
- ・ 地域別では、汲沢・吉田地域、深谷・原宿地域で区全体より重要度が低くなっているのを除き、重要度が高くなっている。



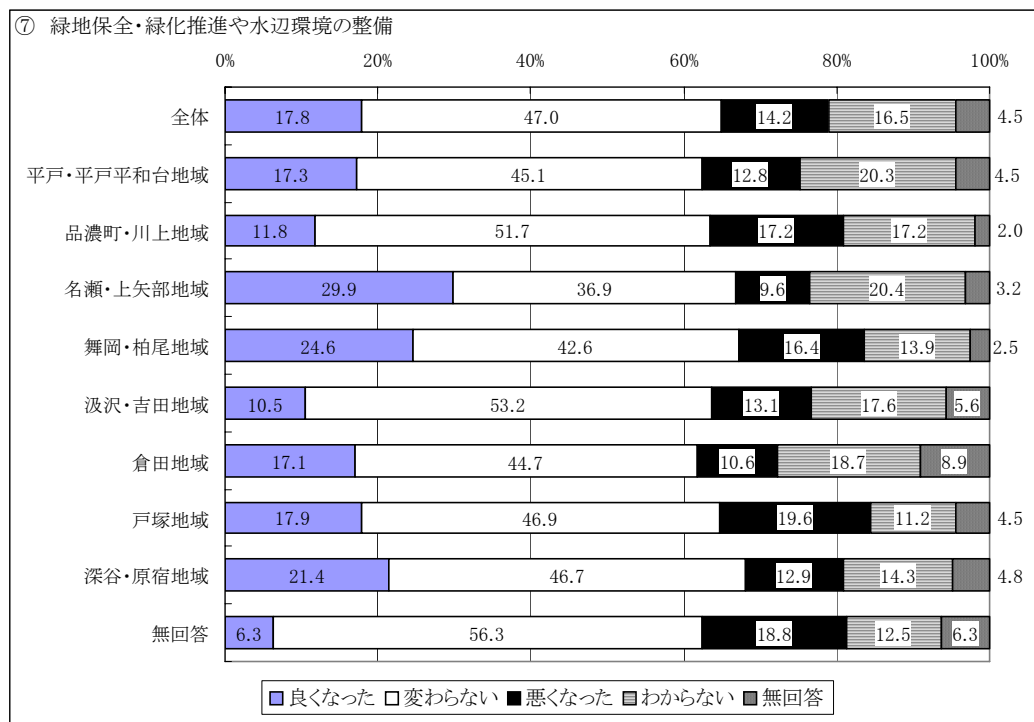
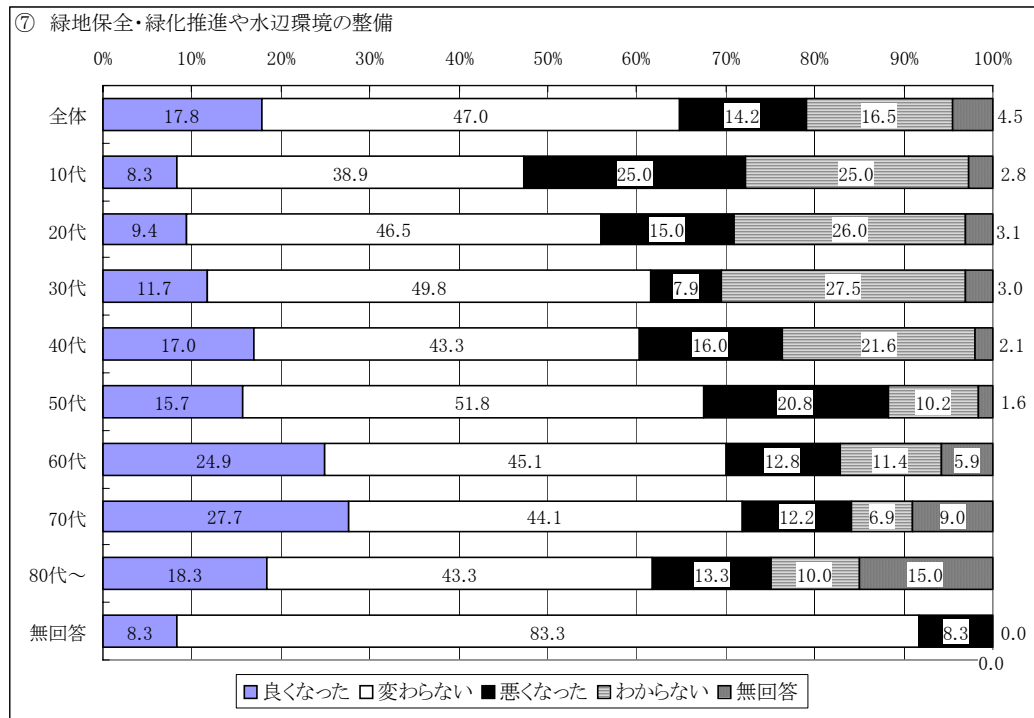
<満足度>

- ・ 「緑地保全・緑化推進や水辺環境の整備」の満足度は、戸塚区全体としては、満足とする割合が13.5%、不満とする割合が35.7%と、不満の割合が高くなっている。
- ・ 年代別では、30代、60代、70代、80代以上では満足度が区の数値より高く、70代以上の高齢者においては満足度が不満を上回っている。これ以外は区全体の数値より満足度が低い。また、50代では不満度が他に比べて高くなっている。
- ・ 地域別では、区全体より満足度が高くなっている地域は、平戸・平戸平和台地域、品濃町・川上地域、名瀬・上矢部地域、舞岡・柏尾地域の4地域で、このうち名瀬・上矢部地域、舞岡・柏尾地域では満足とする割合の方が不満を上回っている。汲沢・吉田地域、倉田地域、戸塚地域、深谷・原宿地域の4地域では区全体より満足度が低くなっている。



＜以前と比べた変化＞

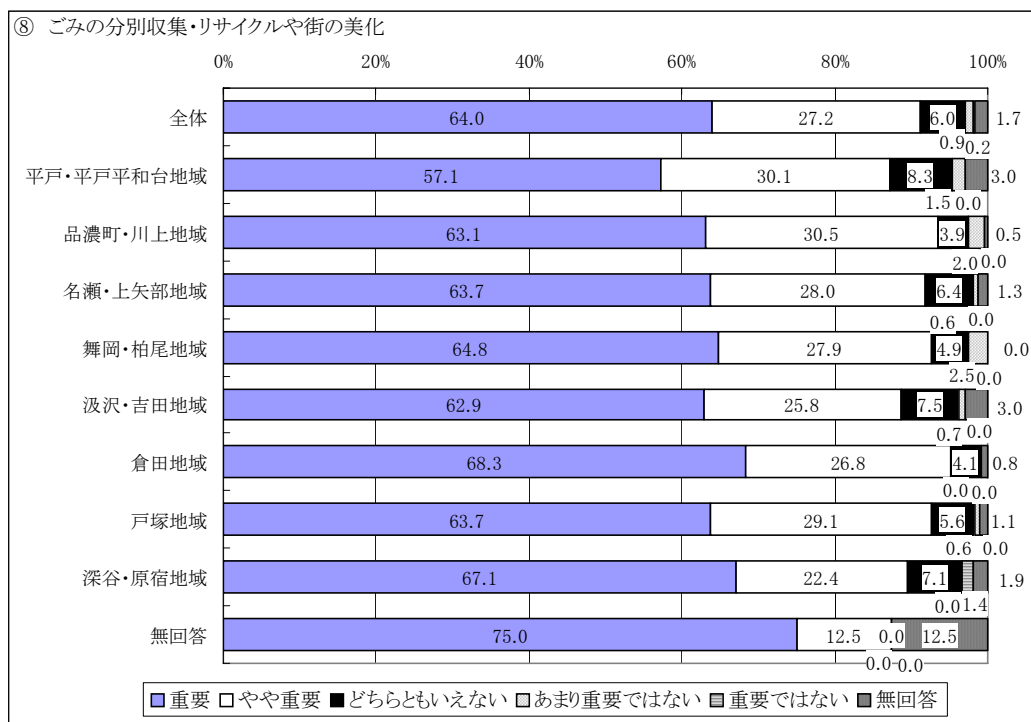
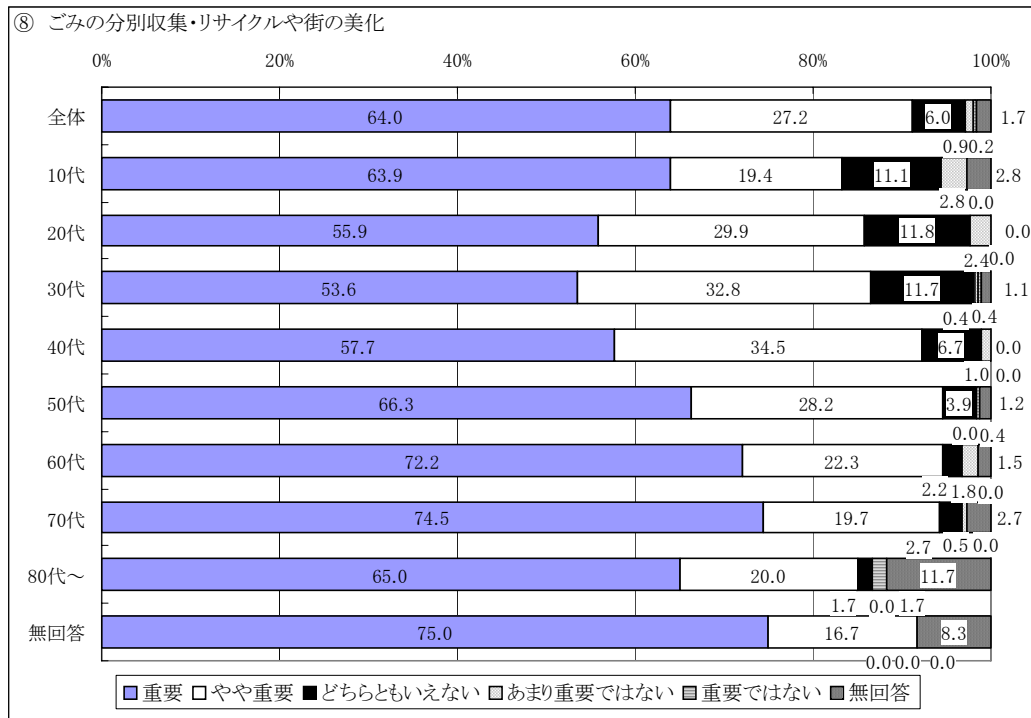
- ・ 「緑地保全・緑化推進や水辺環境の整備」の以前と比べた変化は、戸塚区全体としては、「変わらない」の割合が最も高くなっている。
- ・ 年代別では、いずれの世代も「変わらない」が最も多くなっている。また、70代では「良くなった」、10代で「悪くなった」、10代から30代の若い世代で「わからない」の割合が、それぞれ他の世代に比べて高くなっている。
- ・ 地域別では、いずれの地域も「変わらない」が最も多い。また、名瀬・上矢部地域では「良くなった」の割合が他の地域に比べて高くなっている。



⑧ ごみの分別収集・リサイクルや街の美化

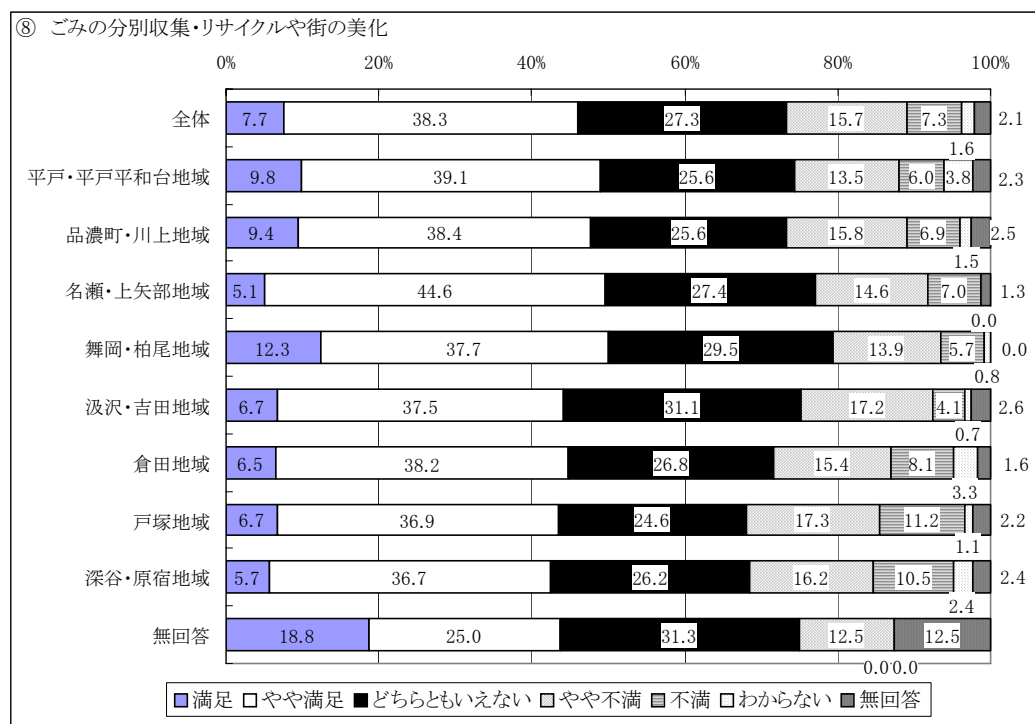
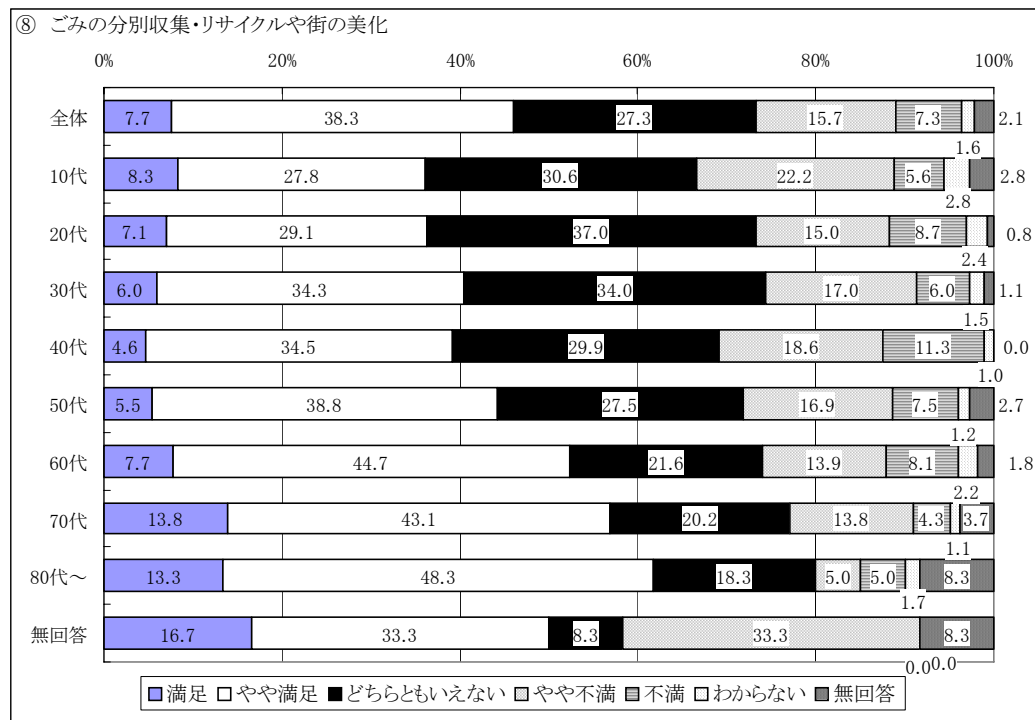
<重要度>

- ・ 「ごみの分別収集・リサイクルや街の美化」の重要度は、戸塚区全体としては、重要とする割合が91.1%、重要でないとする割合が1.1%と、重要の割合が非常に高い。
- ・ 年代別では、40代から70代にかけての世代で区の数値よりも重要度が高く、それ以外の年代では低くなっている。
- ・ 地域別では、平戸・平戸平和台地域、汲沢・吉田地域、深谷・原宿地域を除き、区全体より重要度が高くなっているが、いずれも区の傾向と特に大きな数値の差はない。



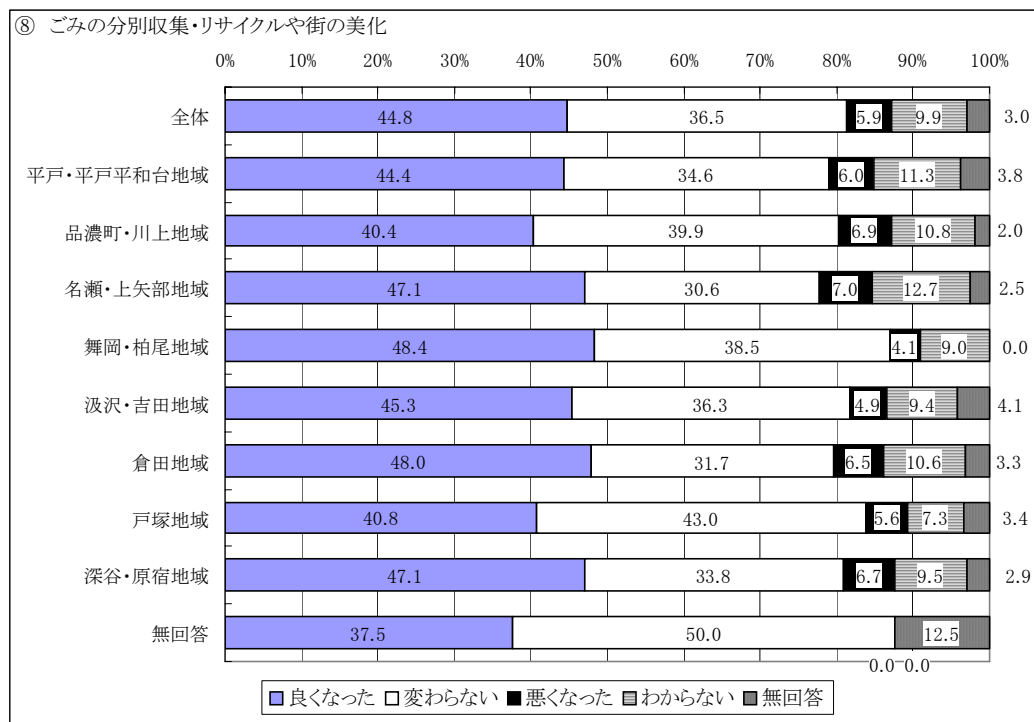
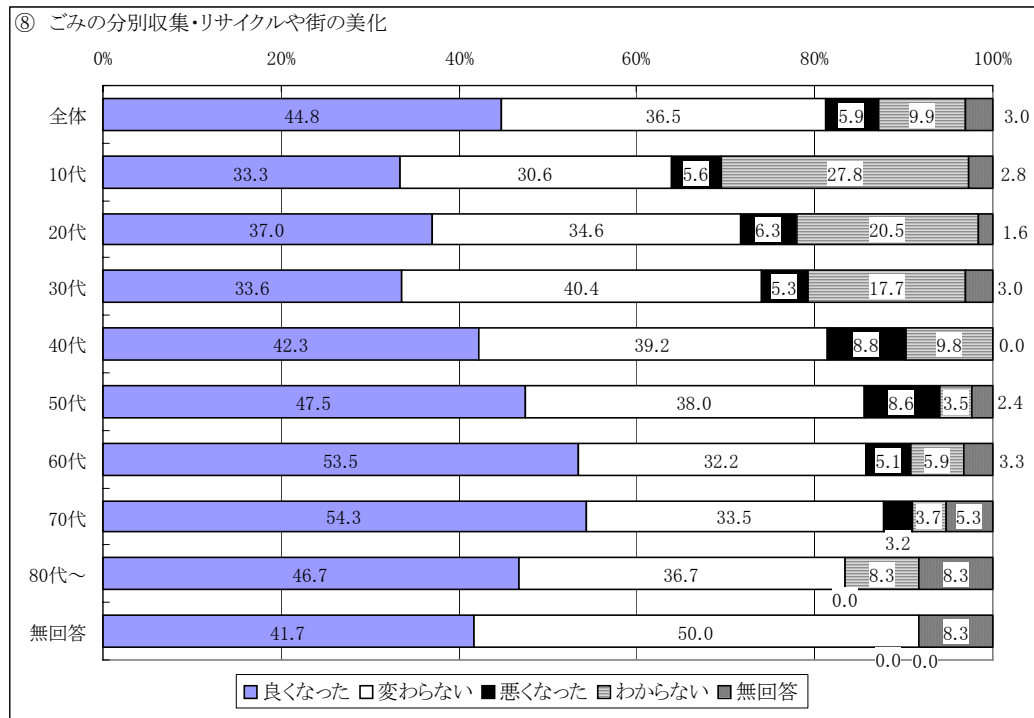
<満足度>

- ・ 「ごみの分別収集・リサイクルや街の美化」の満足度は、戸塚区全体としては、満足とする割合が46.0%、不満とする割合が23.0%と、満足の割合が高くなっている。
- ・ 年代別では、60代以上の世代において満足度が区の数値より高く、60代未満では区全体の数値より満足度が低い。年齢が上がるほど満足度が高い傾向となっている。
- ・ 地域別では、区全体より満足度が高くなっている地域は、平戸・平戸平和台地域、品濃町・川上地域、名瀬・上矢部地域、舞岡・柏尾地域である。それ以外は区全体の数値より満足度は低い、さほど大きな数値の開きはみられない。



＜以前と比べた変化＞

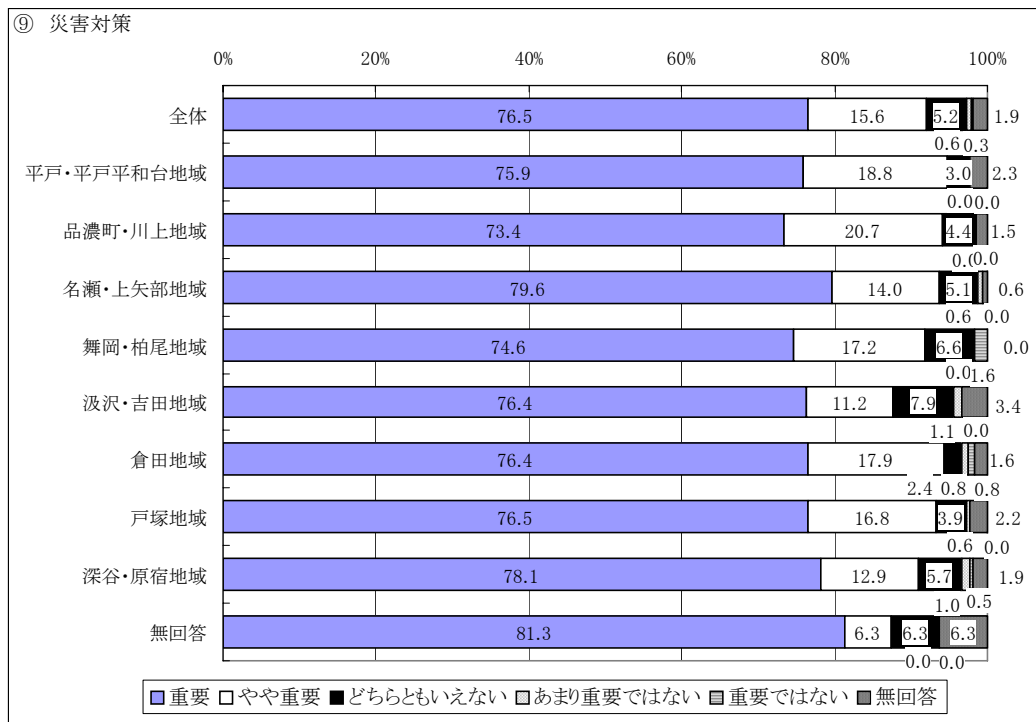
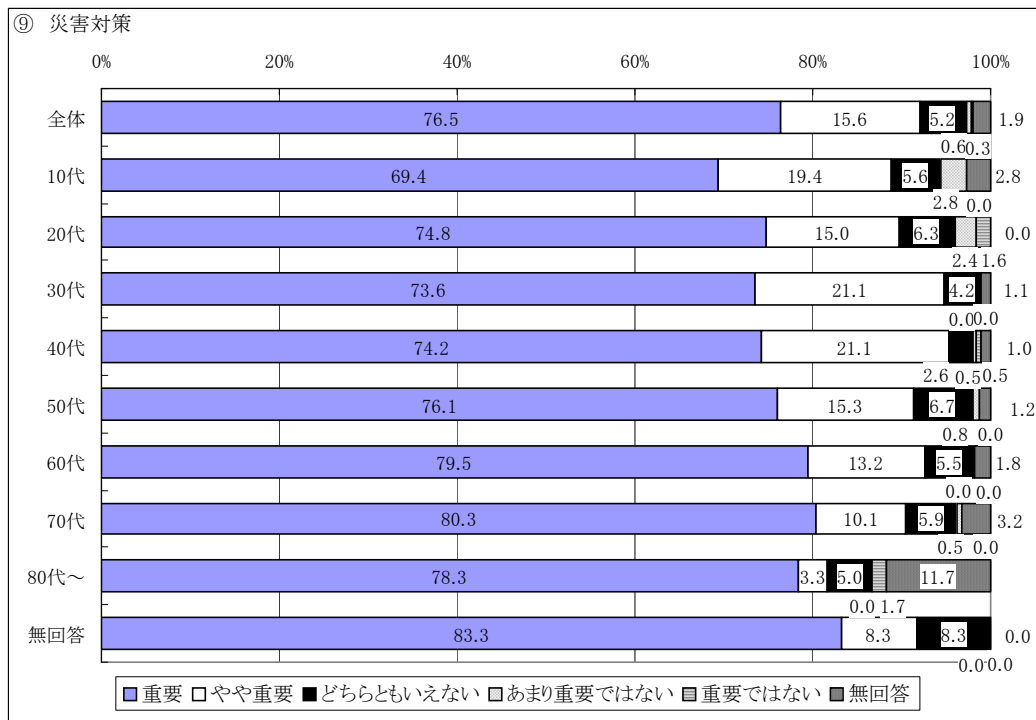
- ・ 「ごみの分別収集・リサイクルや街の美化」の以前と比べた変化は、戸塚区全体としては、「良くなった」の割合が最も高くなっている。
- ・ 年代別では、30代を除き、「良くなった」が最も多くなっている。30代では「変わらない」が最も多い。また、10代、20代では「わからない」の数値が高くなっている。80代以上では「悪くなった」の数値が0である。
- ・ 地域別では、戸塚地域で「変わらない」が最も多くなっているのを除き、いずれの地域も「良くなった」が最も多い。



⑨ 災害対策

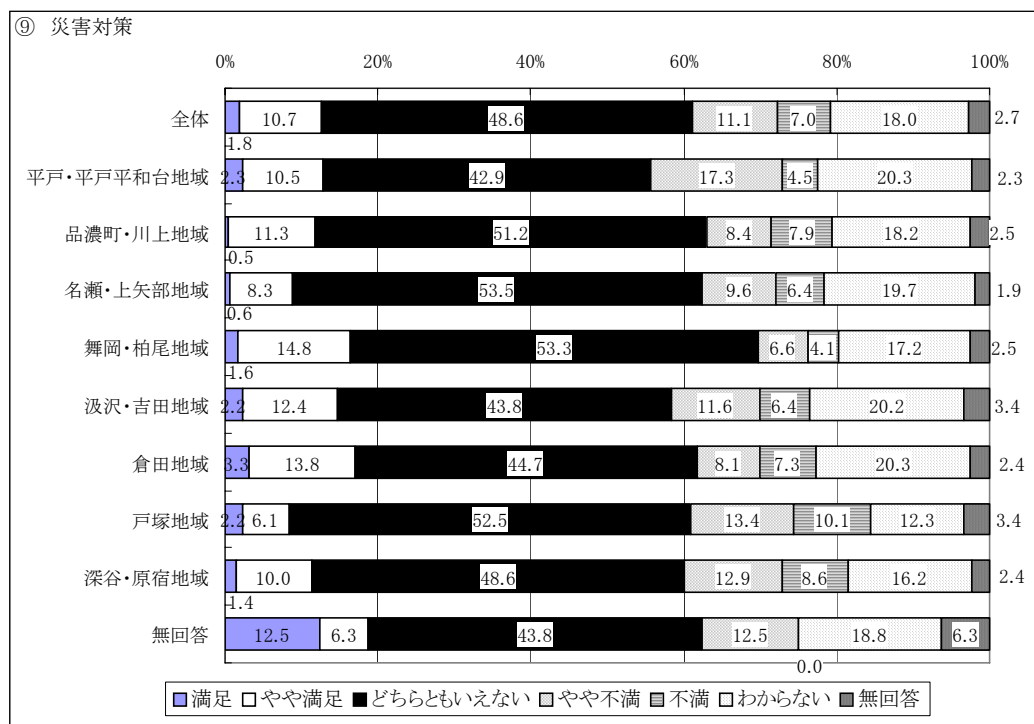
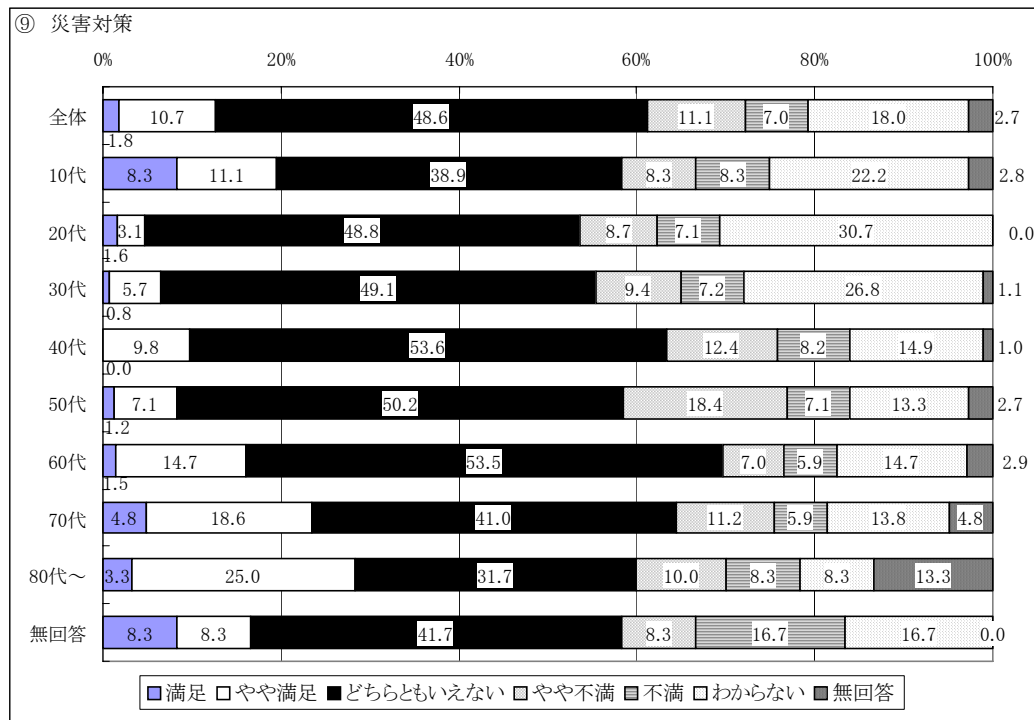
<重要度>

- ・ 「災害対策」の重要度は、戸塚区全体としては、重要とする割合が92.1%、重要でないとする割合が0.9%と、重要の割合が非常に高い。
- ・ 年代別では、30代、40代、60代で区の数値よりも重要度が高く、それ以外の年代では低くなっている。80代以上では数値がやや低いが、それ以外の年齢層については区の傾向とほぼ同様である。また、30代では重要でないとする数値が0である。
- ・ 地域別では、平戸・平戸平和台地域、品濃町・川上地域、名瀬・上矢部、倉田地域で区全体より重要度が高く、それ以外は低くなっているが、いずれも区の傾向と大きな数値の差は見られない。また、平戸・平戸平和台地域、品濃町・川上地域では重要でないとする数値が0である。



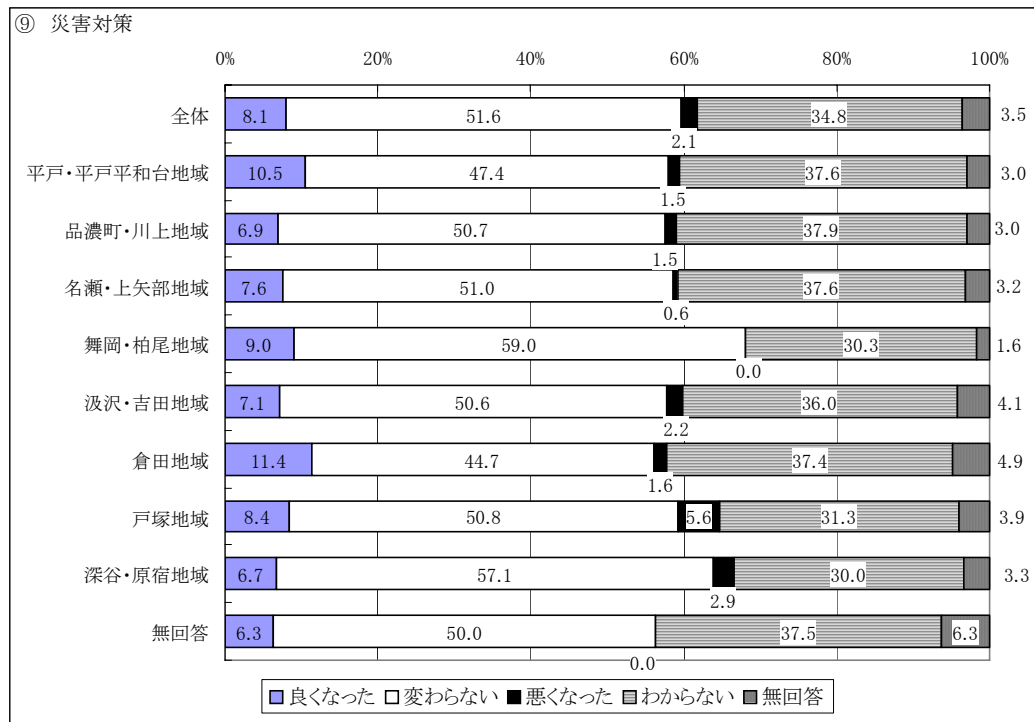
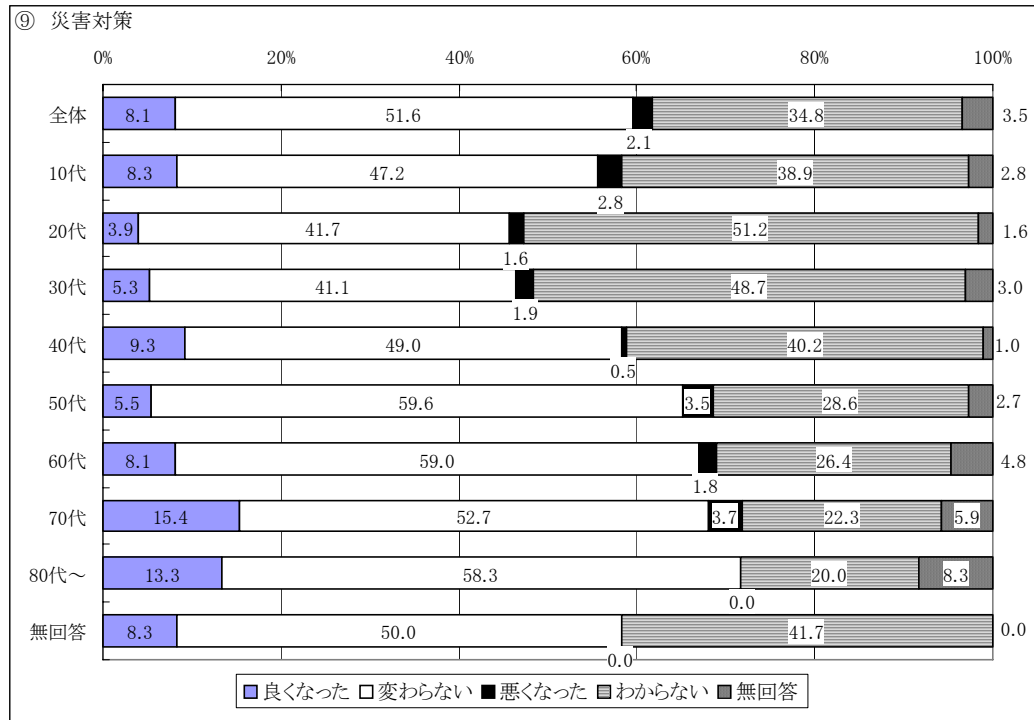
<満足度>

- 「災害対策」の満足度は、戸塚区全体としては、満足とする割合が 12.6%、不満とする割合が 18.2%と、不満の割合が高くなっている。また「どちらともいえない」の数値が全体的に高いのも特徴である。
- 年代別では、10 代と 60 代以上の世代において満足度が区の数値より高く、これらではいずれも満足度が不満の割合を上回っている。20 代から 50 代までの世代では区全体の数値より満足度が低い。
- 地域別では、区全体より満足度が高くなっている地域は、舞岡・柏尾地域、汲沢・吉田地域、倉田地域で、平戸・平戸平和台地域も、区全体の数値をわずかに上回っている。また、このうち舞岡・柏尾地域と倉田地域では満足度の方が不満を上回っている。これ以外の地域では区全体よりも満足度が低い。



＜以前と比べた変化＞

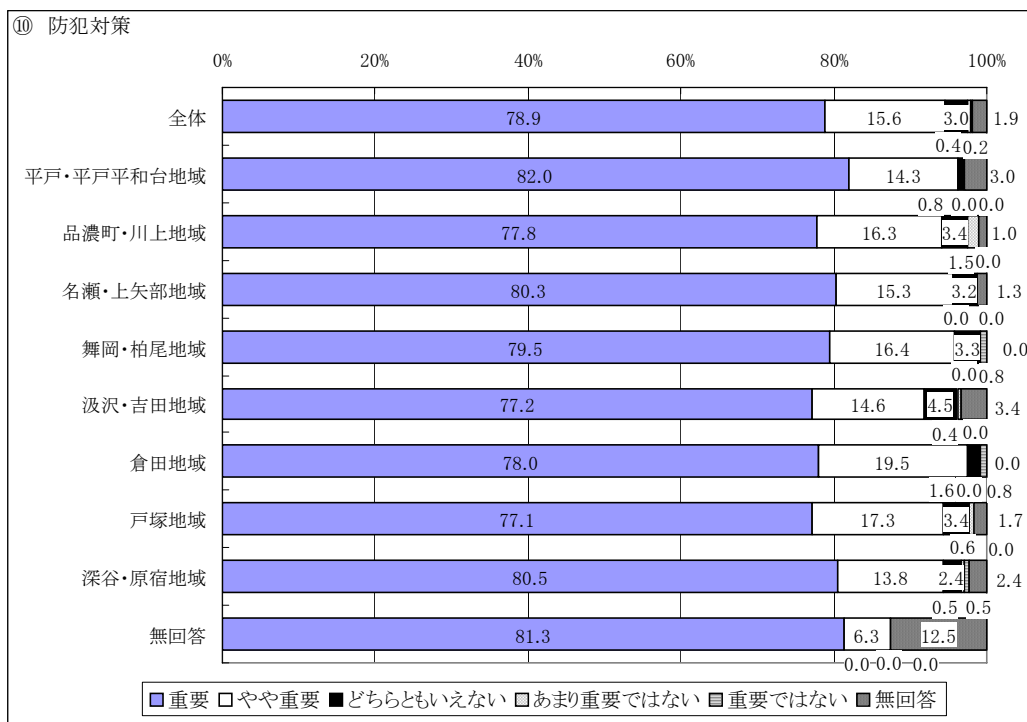
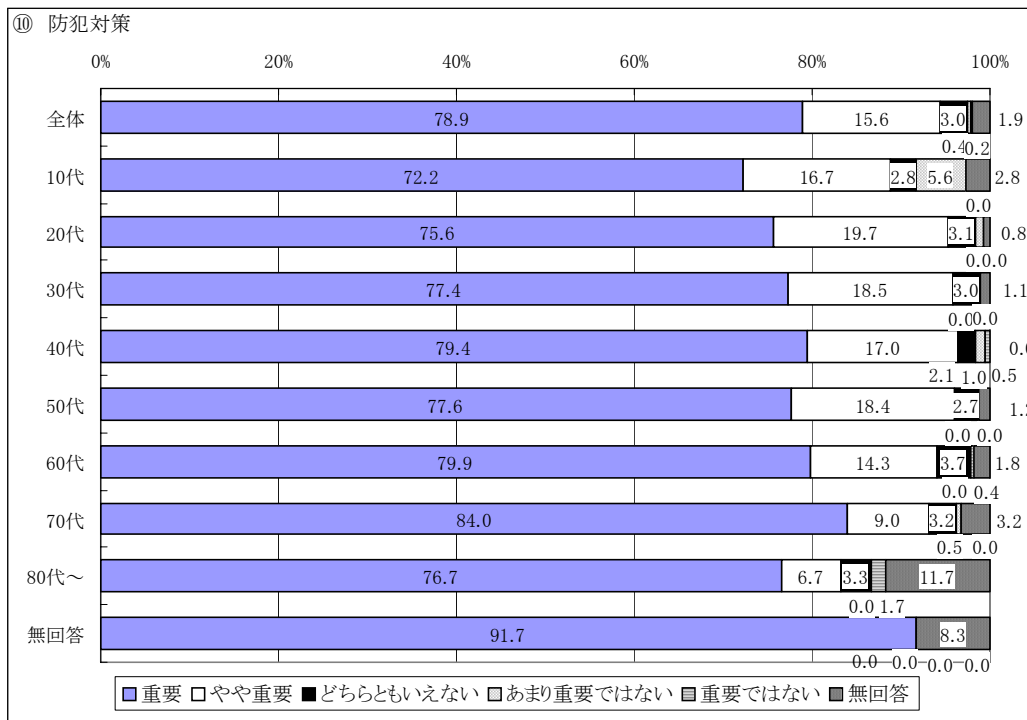
- ・ 「災害対策」の以前と比べた変化は、戸塚区全体としては、「変わらない」の割合が最も高くなっている。
- ・ 年代別では、20代、30代では「わからない」が、それ以外の世代では「変わらない」が最も多くなっている。80代以上では「悪くなった」の数値が0である。
- ・ 地域別では、いずれの地域も「変わらない」が最も多くなっている。また「舞岡・柏尾地域」では「悪くなった」の数値が0である。



⑩ 防犯対策

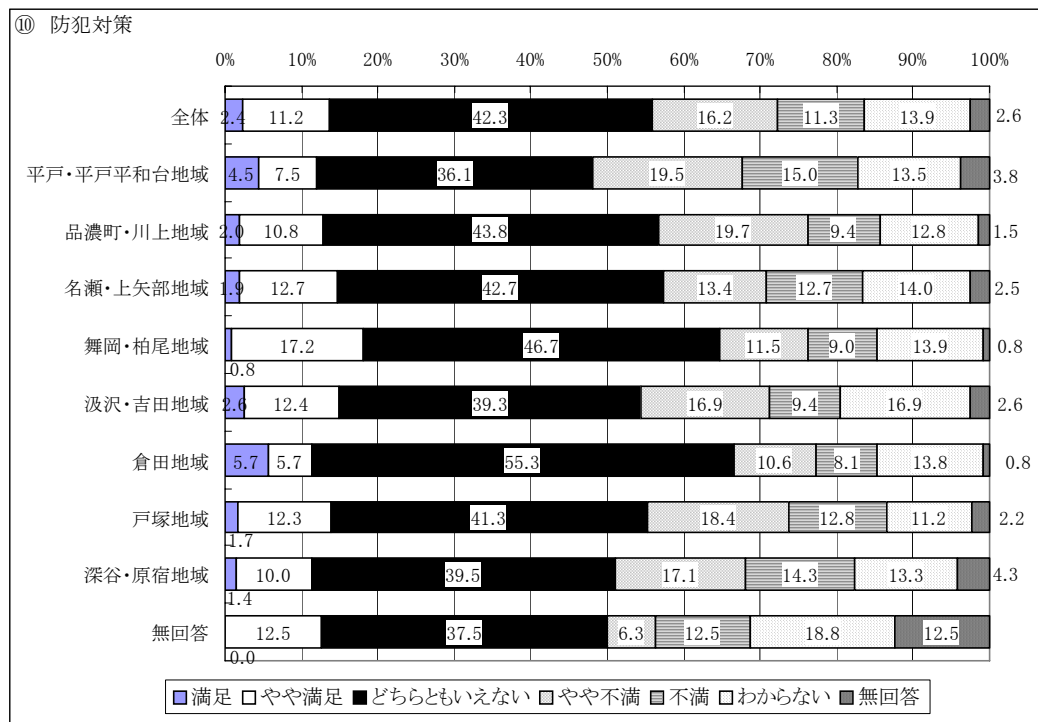
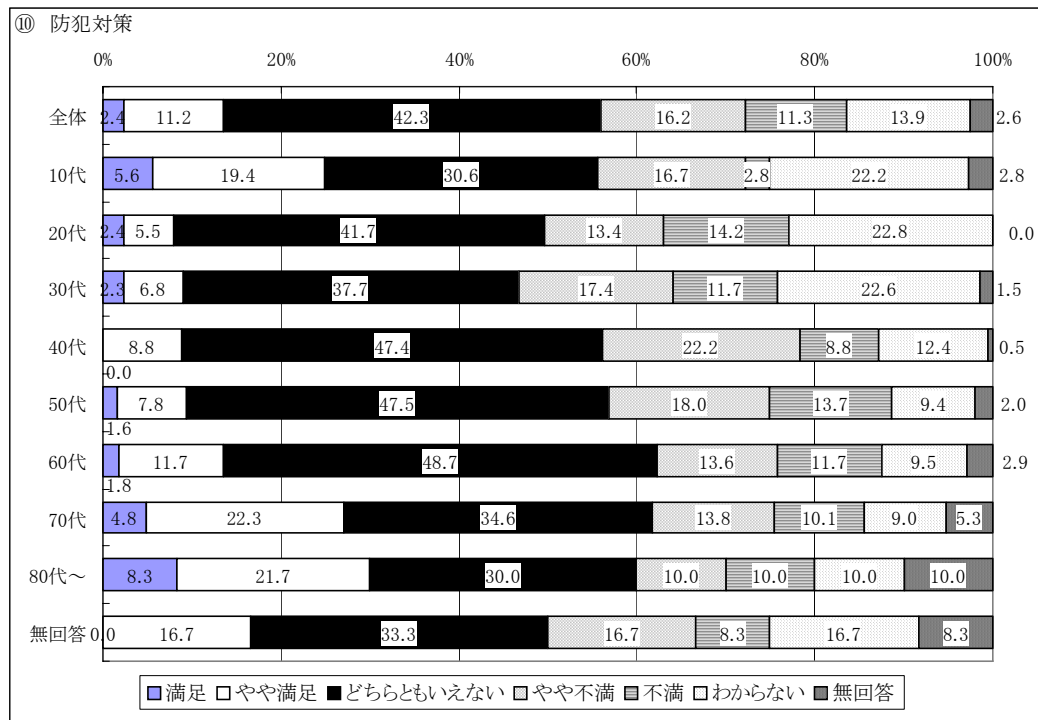
<重要度>

- ・ 「防犯対策」の重要度は、戸塚区全体としては、重要とする割合が94.5%、重要でないとする割合が0.6%と、重要の割合が圧倒的に高くなっている。
- ・ 年代別では、20代から50代にかけての世代で区の数値よりも重要度が高く、それ以外の年代では低くなっている。80代以上では数値が低い、それ以外の世代では区の数値と大きな差はない。なお、30代と50代で重要でないとする数値が0である。
- ・ 地域別では、平戸・平戸平和台地域、名瀬・上矢部地域、舞岡・柏尾地域、倉田地域で区全体より重要度が高く、それ以外は低くなっているが、数値の差はわずかである。なお、平戸・平戸平和台地域、名瀬・上矢部地域では重要でないとする数値が0となっている。



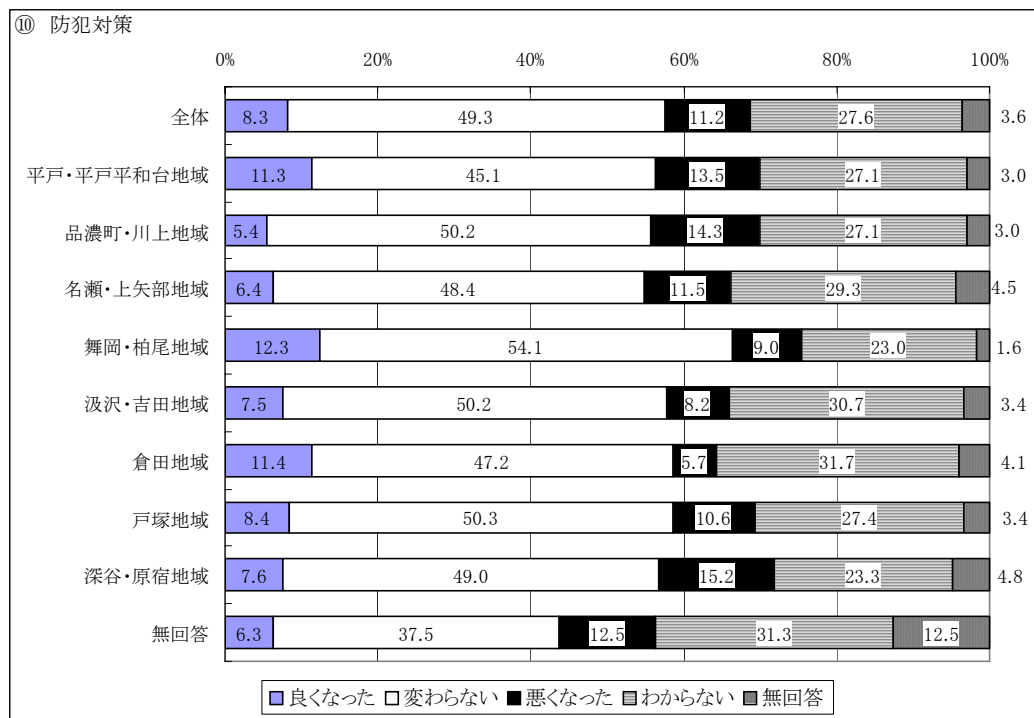
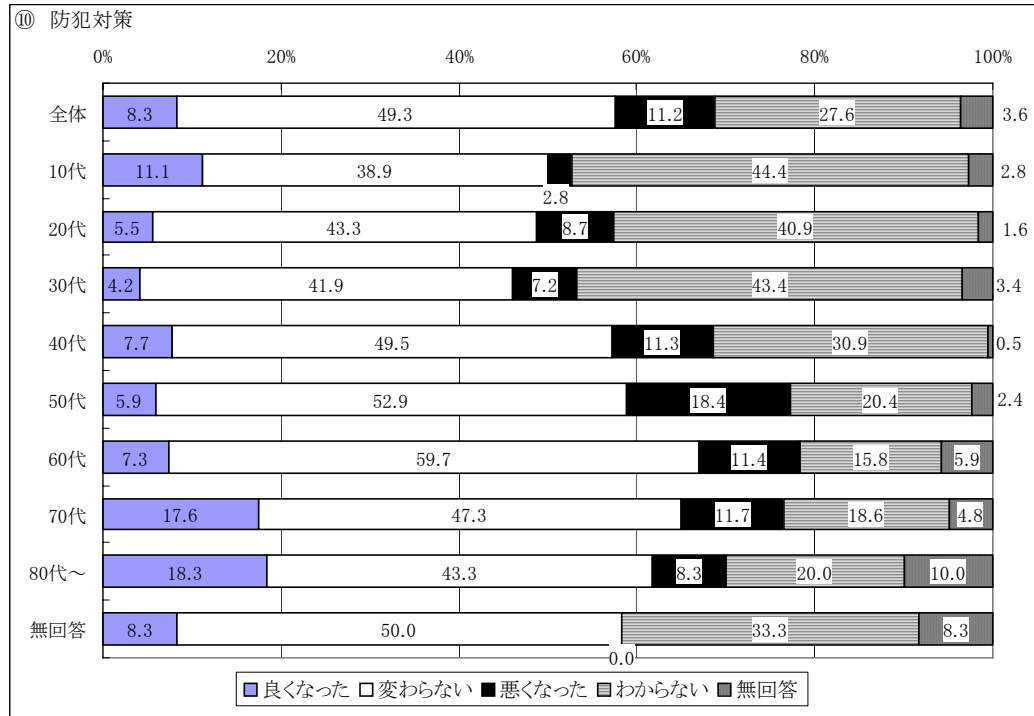
<満足度>

- ・ 「防犯対策」の満足度は、戸塚区全体としては、満足とする割合が 13.6%、不満とする割合が 27.6%と、不満の割合が高くなっている。また「どちらともいえない」の数値が高い傾向にある。
- ・ 年代別では、10代と60代以上の世代において満足度が区の数値より高く、このうち10代、70代、80代以上では満足度が不満の割合を上回っている。20代から50代までの世代では区全体の数値より満足度が低い。
- ・ 地域別では、名瀬・上矢部地域、舞岡・柏尾地域、汲沢・吉田地域、戸塚地域で区全体より満足度が高くなっている。それ以外の地域では区全体よりも満足度が低い。なお、倉田地域では「どちらともいえない」の数値が他に比べて高い。



＜以前と比べた変化＞

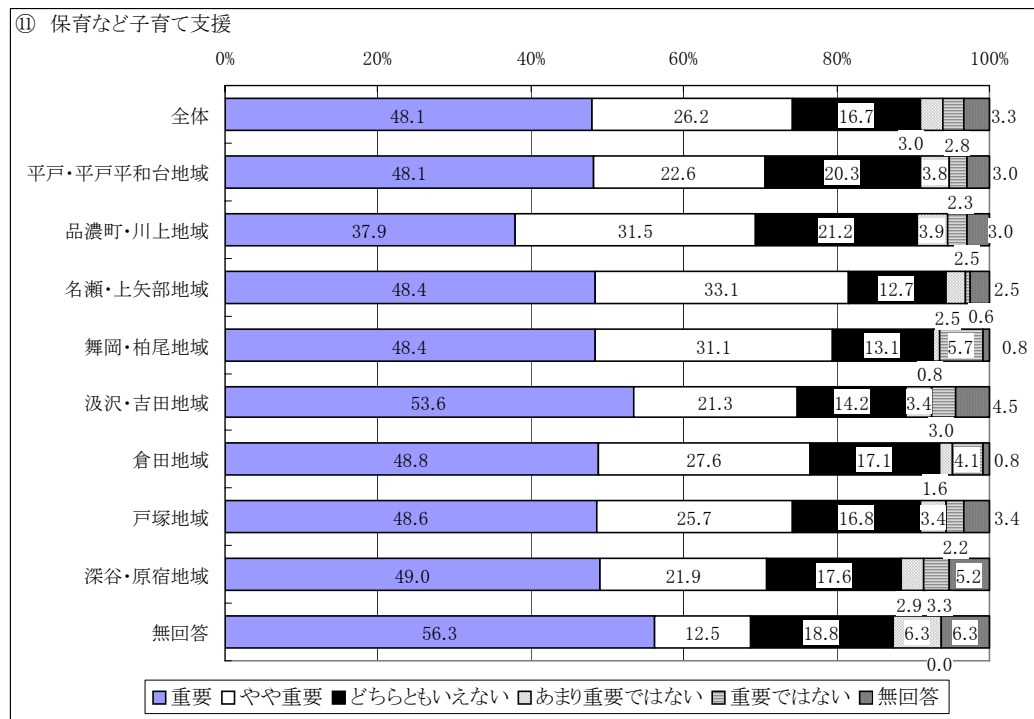
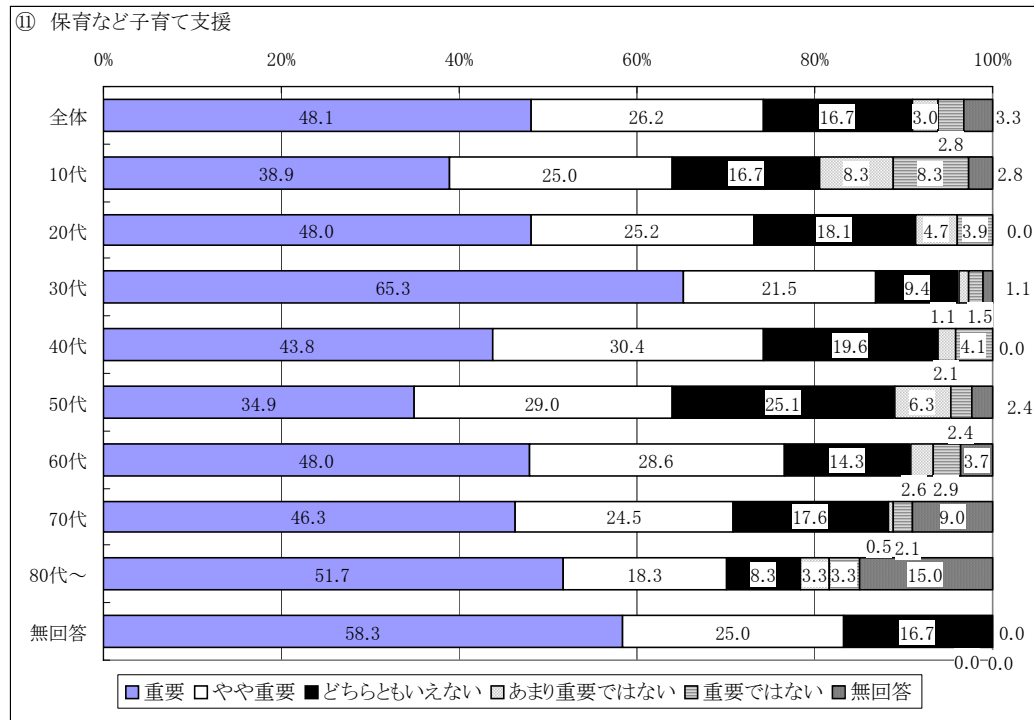
- ・ 「防犯対策」の以前と比べた変化は、戸塚区全体としては、「変わらない」の割合が最も高くなっている。
- ・ 年代別では、10代と30代で「わからない」が、それ以外の世代では「変わらない」が最も多くなっている。また、70代、80代以上では「良くなった」の割合が他に比べてやや高い。
- ・ 地域別では、いずれの地域も「変わらない」が最も多く、概ね区全体と同傾向である。



⑪ 保育など子育て支援

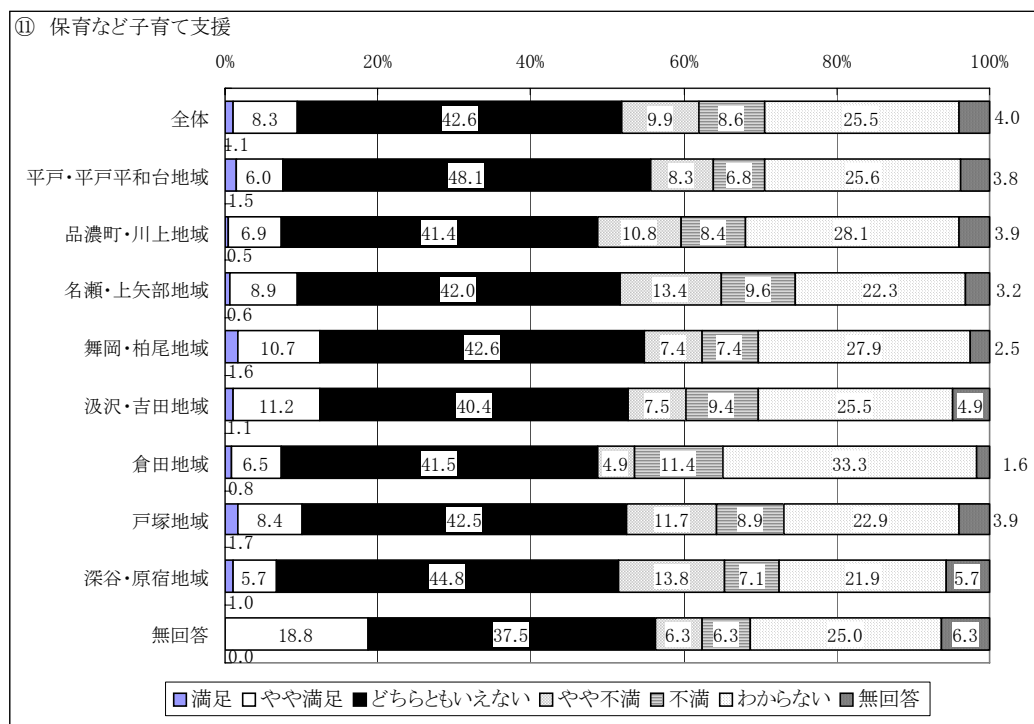
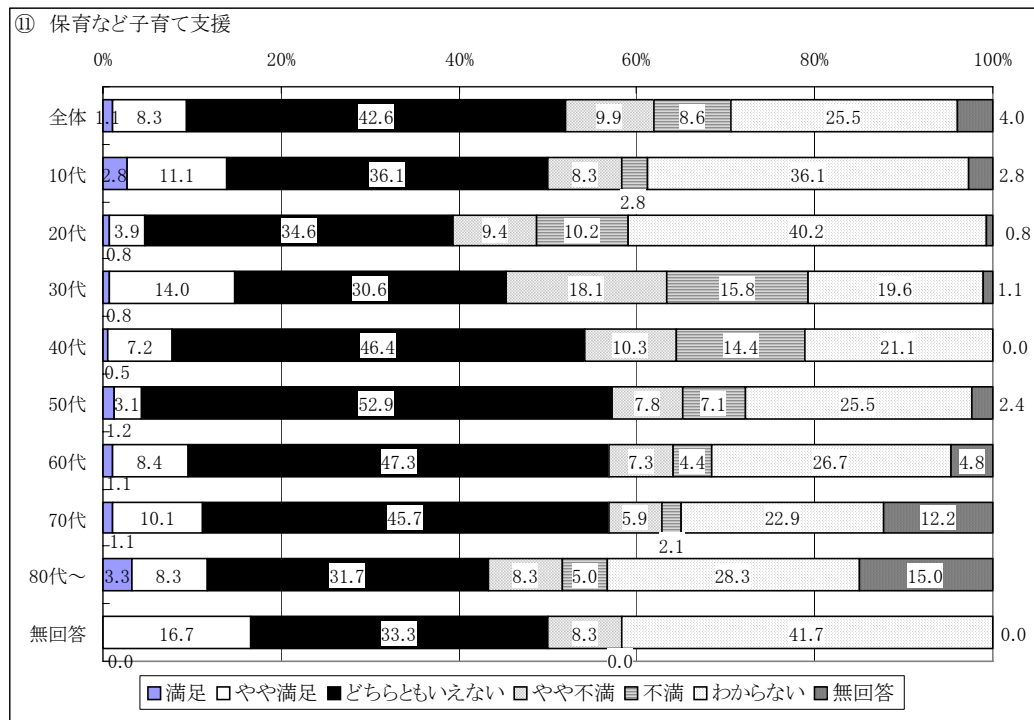
<重要度>

- ・ 「保育など子育て支援」の重要度は、戸塚区全体としては、重要とする割合が74.3%、重要でないとする割合が5.8%と、重要の割合が高くなっている。
- ・ 年代別では、30代と60代で区の数値よりも重要度が高く、それ以外の年代では低くなっており、特に10代、50代では数値が低い。また10代では「重要でない」とする割合が他に比べて高くなっている。
- ・ 地域別では、名瀬・上矢部地域、舞岡・柏尾地域、汲沢・吉田地域、倉田地域で区全体より重要度が高く、戸塚地域で区全体と同率、それ以外では低くなっている。



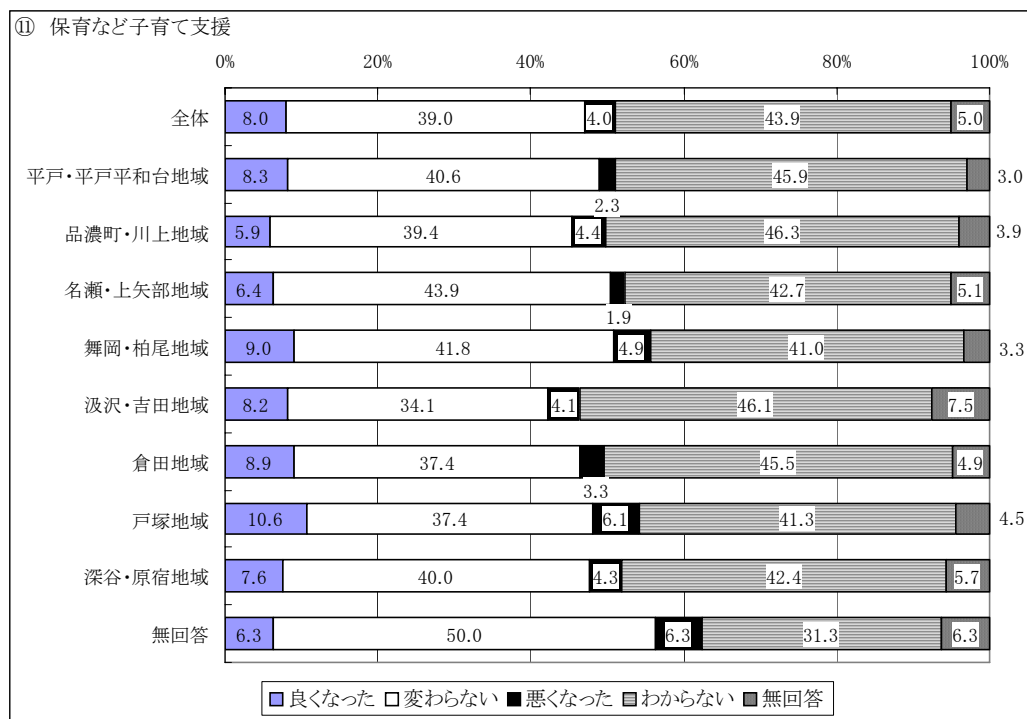
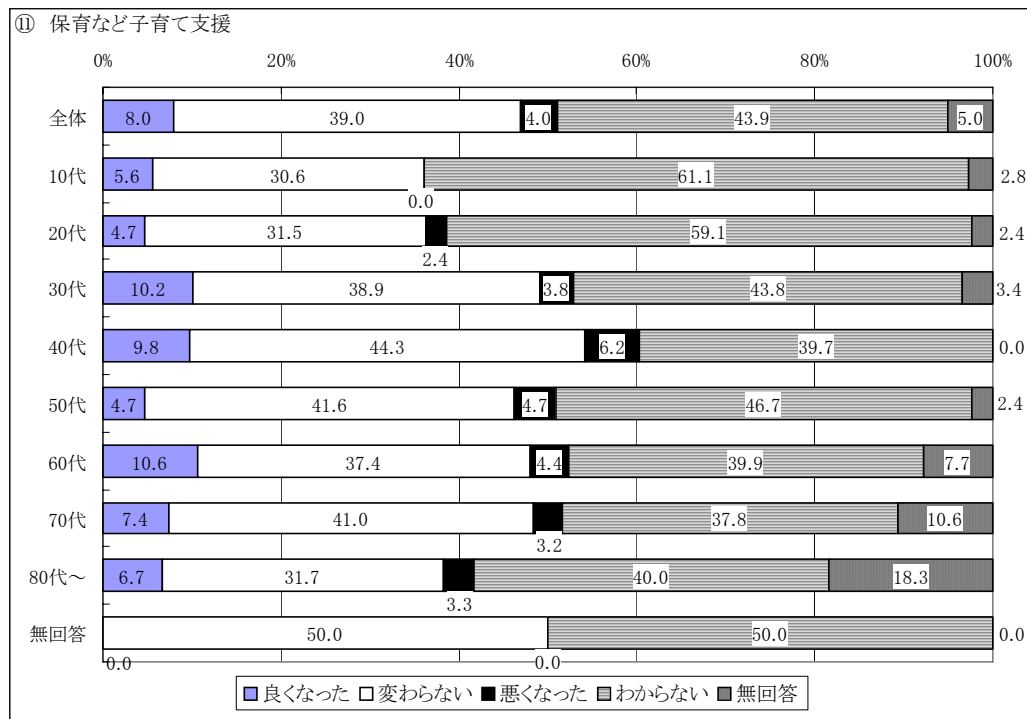
<満足度>

- 「保育など子育て支援」の満足度は、戸塚区全体としては、満足とする割合が 9.4%、不満とする割合が 18.5%と、不満の割合が高くなっている。また「どちらともいえない」の数値が高くなっている。
- 年代別では、10 代、30 代、70 代、80 代以上で満足度が区の数値より高く、このうち 10 代、70 代では満足度が不満の割合を上回っている。ただし 30 代では不満の数値も他世代より突出して高い。20 代、40 代、50 代、60 代では区全体の数値より満足度が低い。
- 地域別では、舞岡・柏尾地域、汲沢・吉田地域、戸塚地域で区全体より満足度が高くなっている。名瀬・上矢部地域では区全体よりわずかに満足の数値は高いものの、不満についても他よりやや高い傾向にある。その他の地域では区全体より低い数値となっている。



＜以前と比べた変化＞

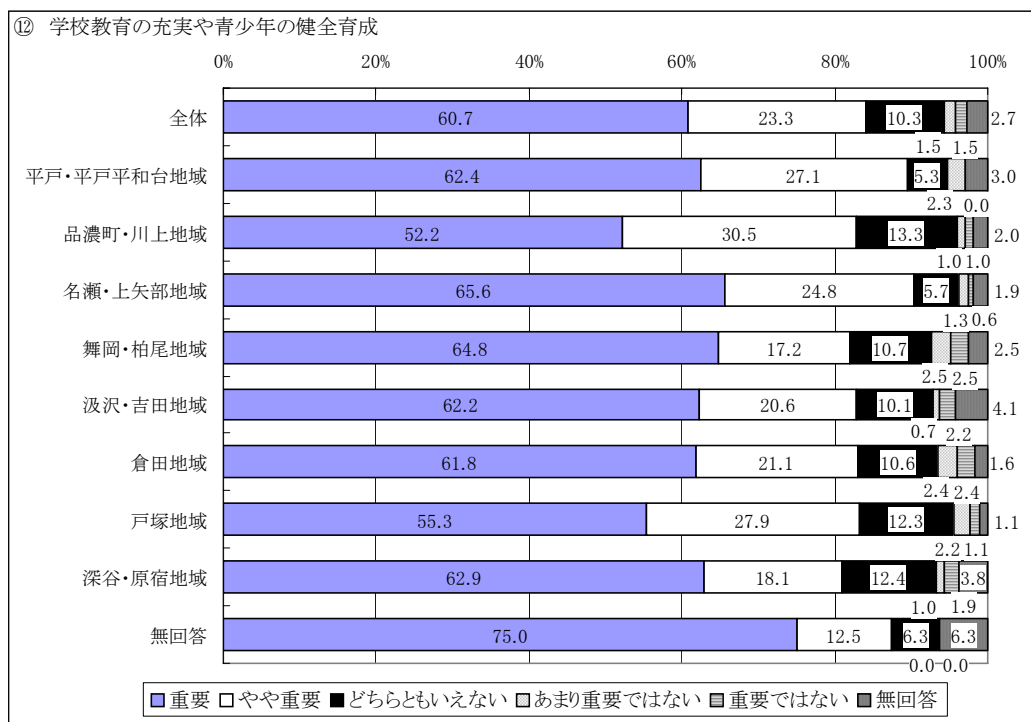
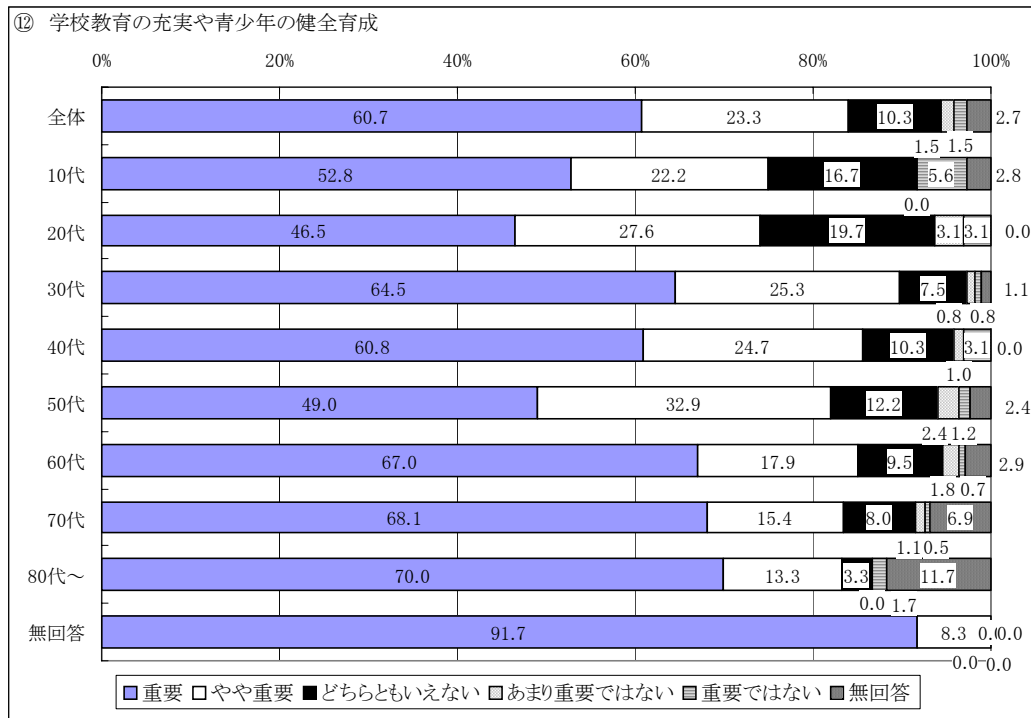
- ・ 「保育など子育て支援」の以前と比べた変化は、戸塚区全体としては、「わからない」の割合が最も高く、次いで「変わらない」となっている。
- ・ 年代別では、40代と70代で「変わらない」が、それ以外の世代では「わからない」が最も多くなっている。また、10代では「悪くなった」の数値が0である。
- ・ 地域別では、名瀬・上矢部地域、舞岡・柏尾地域では「変わらない」が、その他の地域では「わからない」が最も多くなっている。



⑫ 学校教育の充実や青少年の健全育成

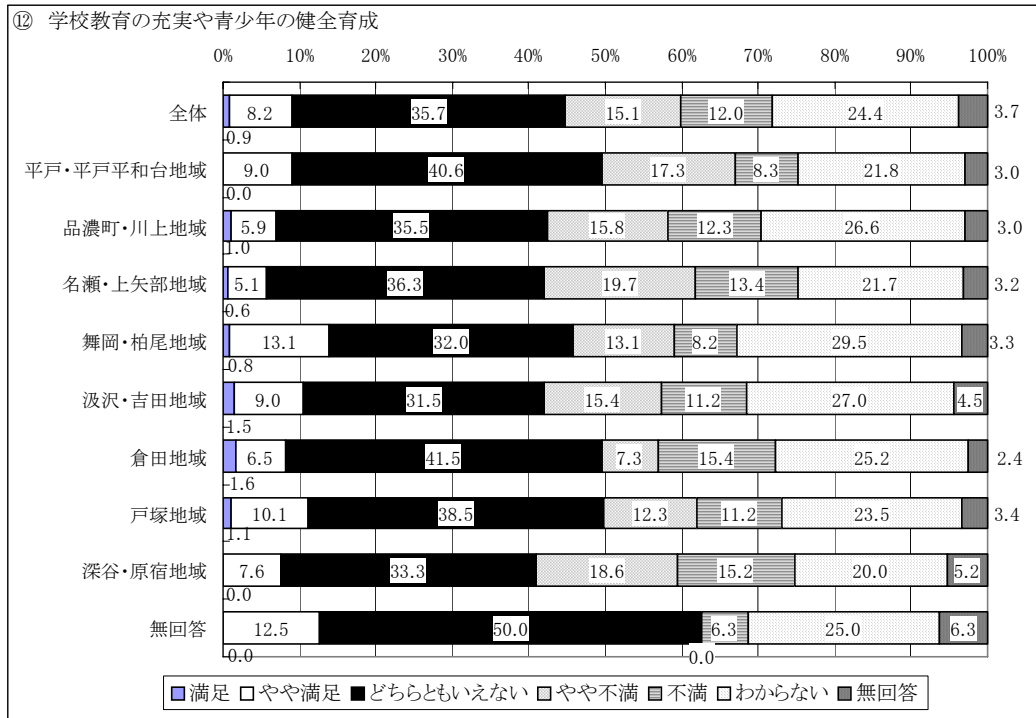
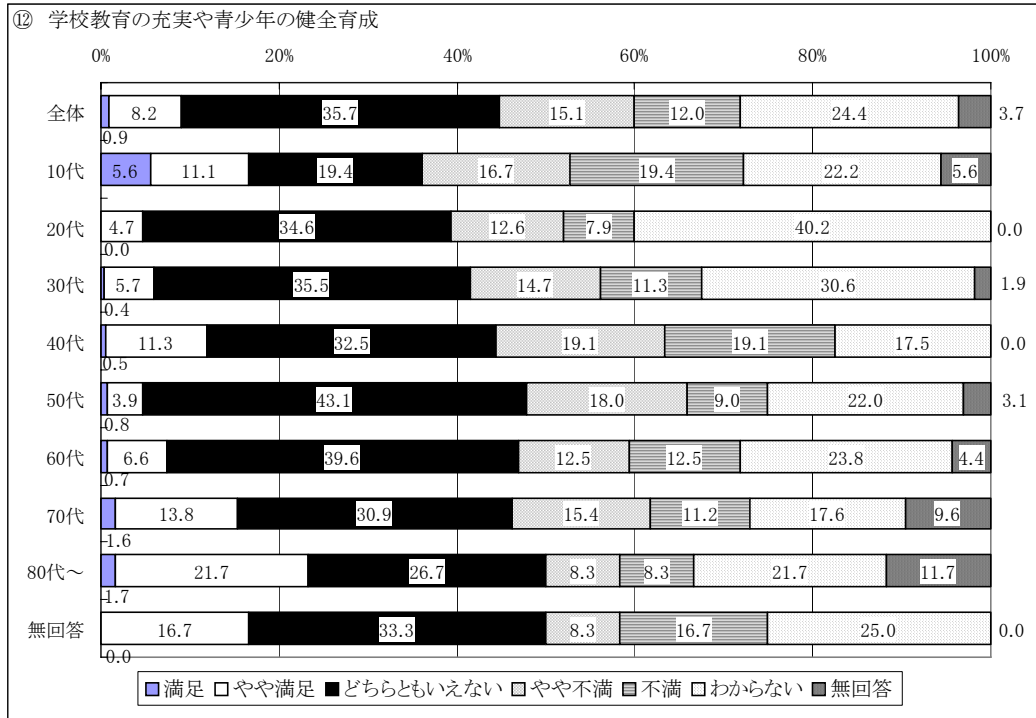
<重要度>

- ・ 「学校教育の充実や青少年の健全育成」の重要度は、戸塚区全体としては、重要とする割合が84.0%、重要でないとする割合が3.0%と、重要の割合が高くなっている。
- ・ 年代別では、30代、40代と60代で区の数値よりも重要度が高く、それ以外の年代では低くなっており、特に10代、20代の若者世代で数値が低い。
- ・ 地域別では、平戸・平戸平和台地域、名瀬・上矢部地域では区全体より重要度が高くなっているが、それ以外では区の数値をやや下回っている。



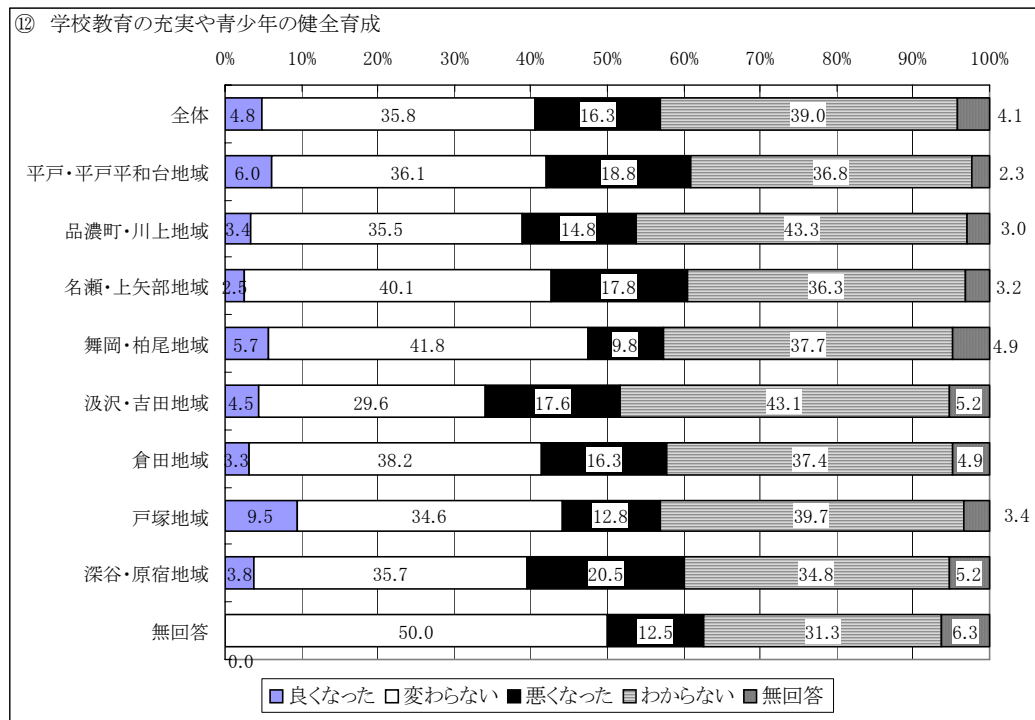
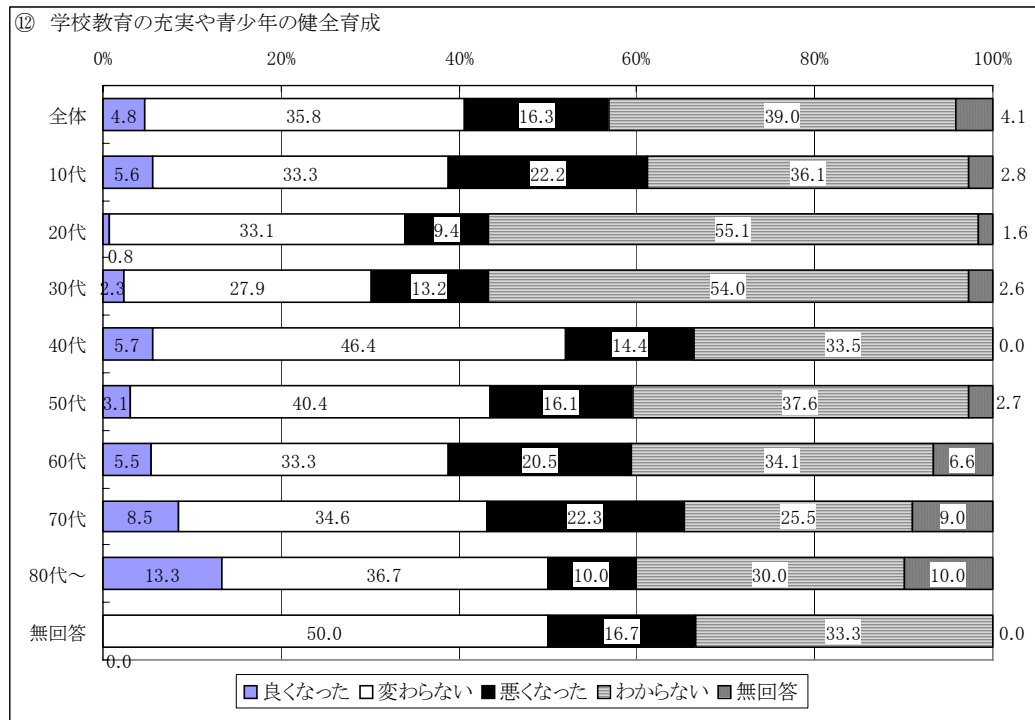
<満足度>

- ・ 「学校教育の充実や青少年の健全育成」の満足度は、戸塚区全体としては、満足とする割合が9.1%、不満とする割合が27.1%と、不満の割合が高くなっている。
- ・ 年代別では、10代、40代、70代、80代以上で満足度が区の数値より高く、このうち80代以上では満足度が不満の割合を上回っている。ただし40代では不満の数値も他世代より突出して高い。20代、30代、50代、60代では区全体の数値より満足度が低い。また20代では「わからない」の数値が他に比べて高くなっている。
- ・ 地域別では、舞岡・柏尾地域、汲沢・吉田地域、戸塚地域で区全体より満足度が高くなっている。その他の地域では区全体より低い数値となっている。



＜以前と比べた変化＞

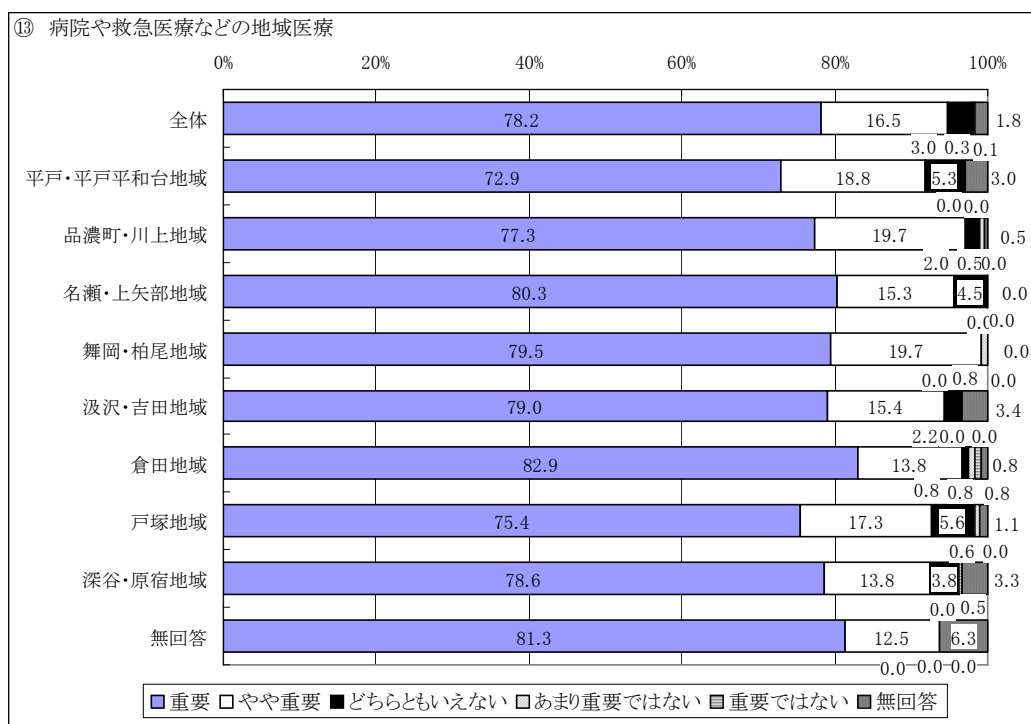
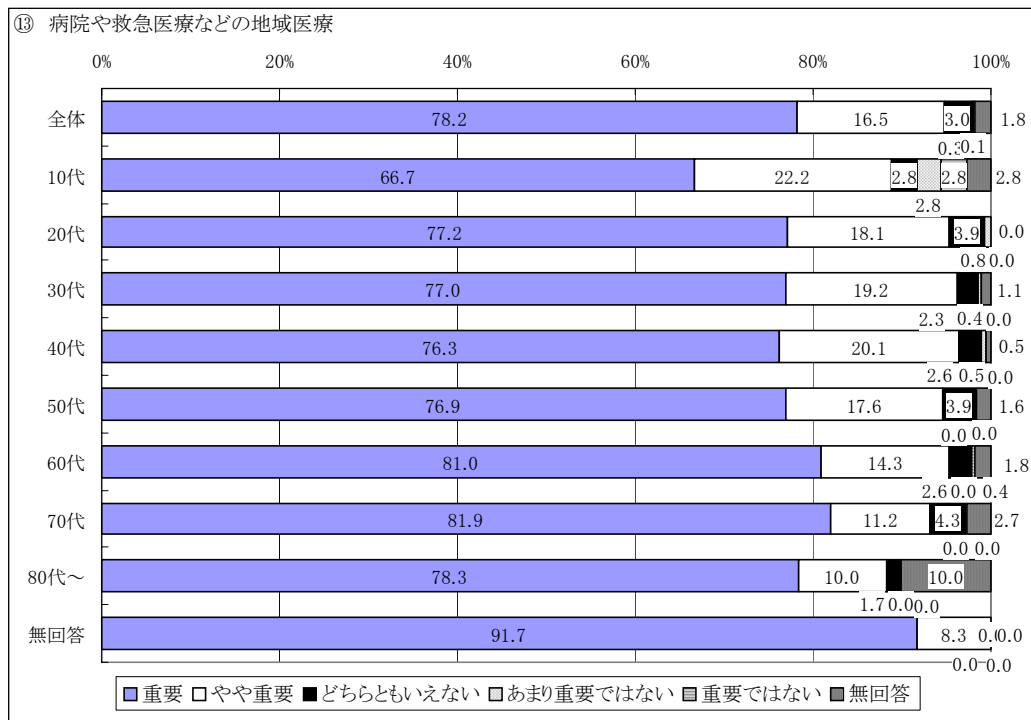
- ・ 「学校教育の充実や青少年の健全育成」の以前と比べた変化は、戸塚区全体としては、「わからない」の割合が、次点の「変わらない」をやや上回っている。
- ・ 年代別では、10代から30代までの世代と60代で「わからない」、40代、50代、70代、80代以上では「変わらない」が最も多くなっている。また80代以上では「良くなった」の割合が他の世代に比べて高い。
- ・ 地域別では、名瀬・上矢部地域、舞岡・柏尾地域、倉田地域、深谷・原宿地域では「変わらない」が最も多くなっている。



⑬ 病院や救急医療などの地域医療

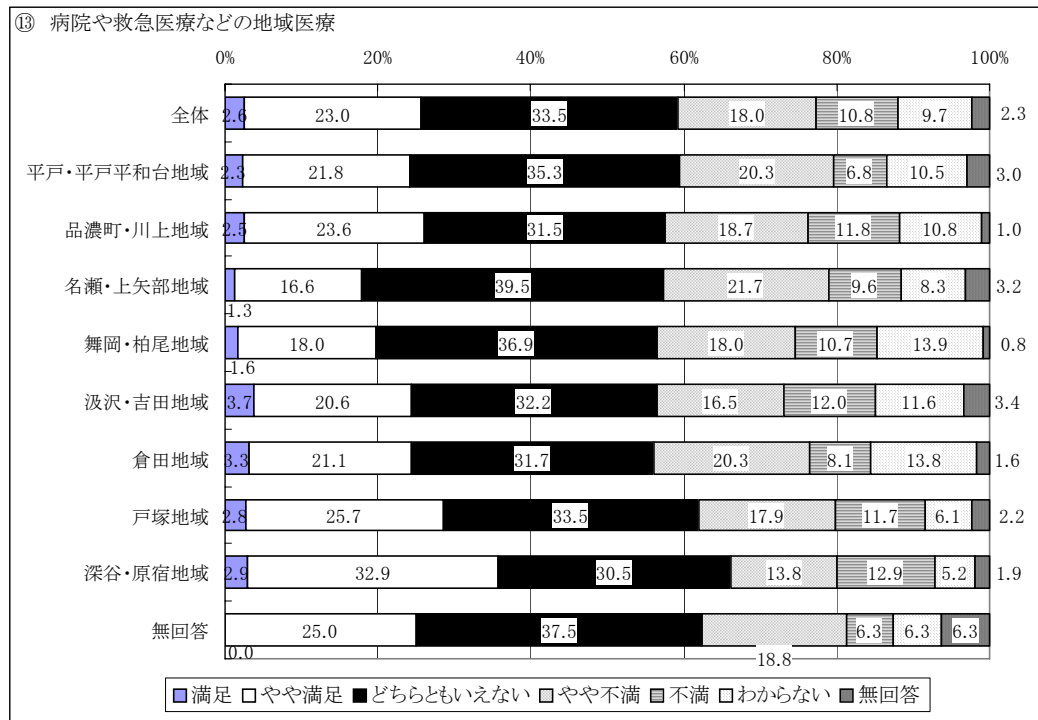
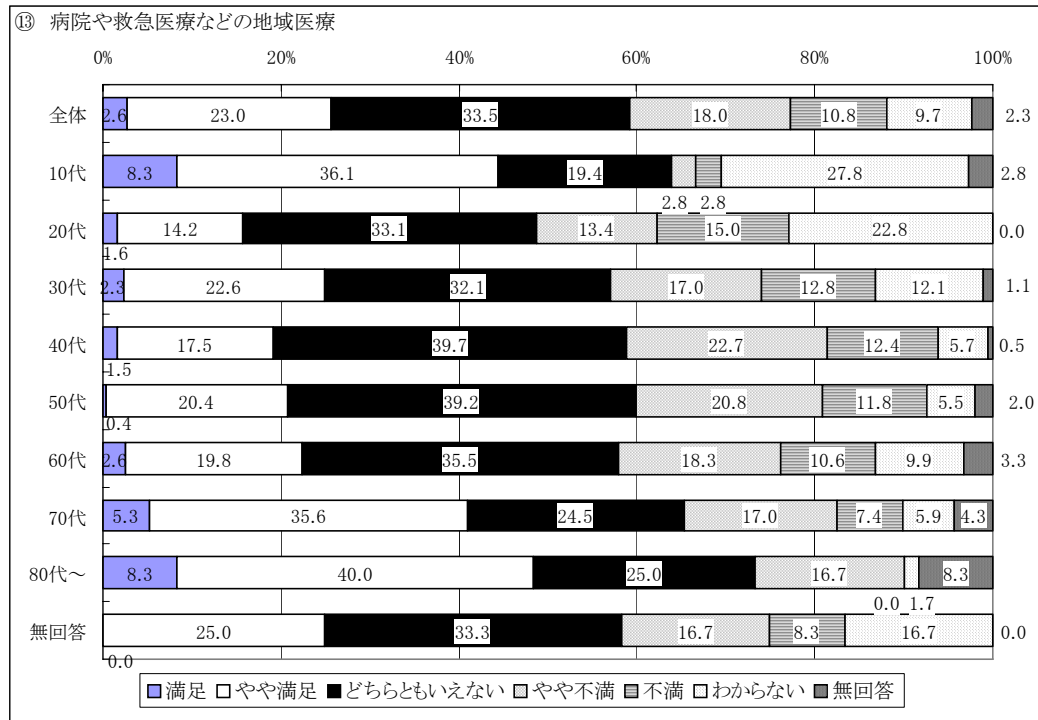
<重要度>

- ・ 「病院や救急医療などの地域医療」の重要度は、戸塚区全体としては、重要とする割合が94.8%、重要でないとする割合が0.4%と、重要の割合が圧倒的に高い。
- ・ 年代別では、20代から40代にかけての世代と60代で区の数値よりも重要の割合が高く、10代、50代、70代以上の世代では低くなっている。但し、50代、70代、80代以上では、重要でないとする数値が0となっている。
- ・ 地域別では、品濃町・川上地域、名瀬・上矢部地域、舞岡・柏尾地域、倉田地域で区全体より重要の割合が高く、それ以外では区の数値をやや下回っている。いずれも重要でないとする数値は低くなっている。



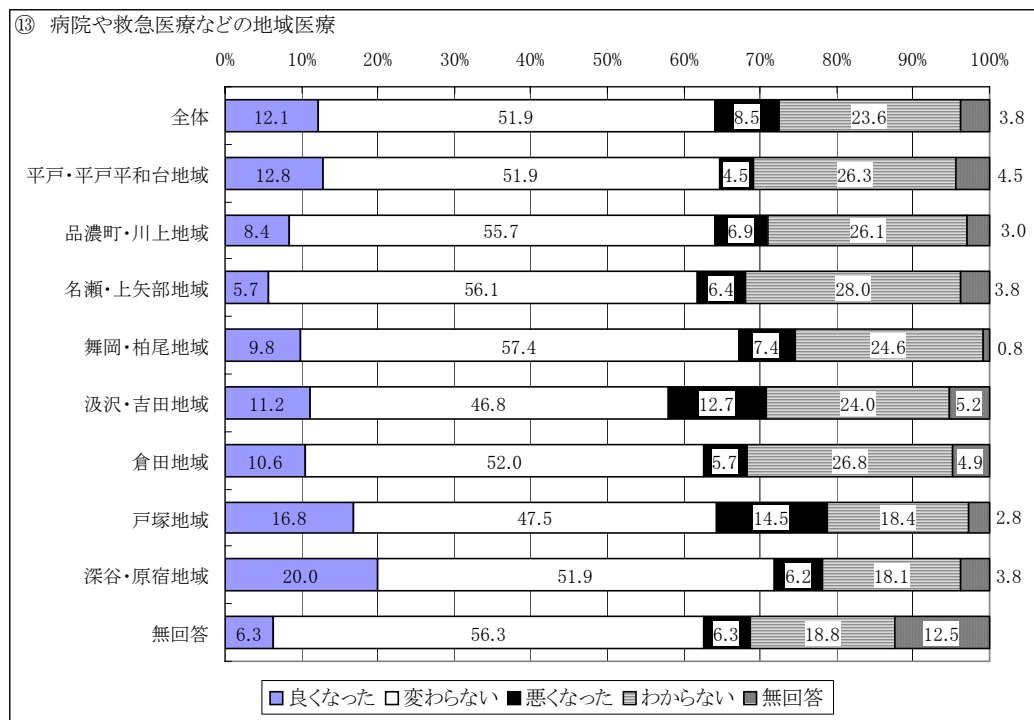
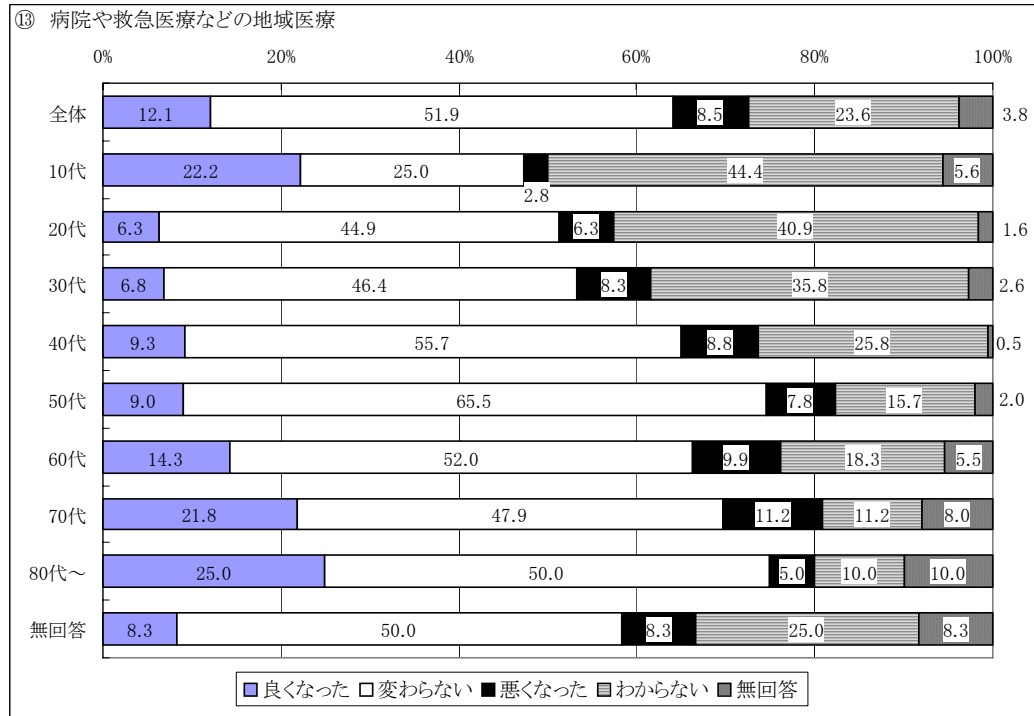
<満足度>

- ・ 「病院や救急医療などの地域医療」の満足度は、戸塚区全体としては、満足とする割合が25.7%、不満とする割合が28.8%と、不満の割合がわずかに高くなっている。
- ・ 年代別では、10代、70代、80代以上で満足度が区の数値より高く、これらはいずれも満足度が不満の割合を上回っている。20代から60代までの世代では区全体の数値より満足度が低く、特に20代の数値が低いほか、若年層ほど「わからない」が他に比べて高くなっている。
- ・ 地域別では、品濃町・川上地域、戸塚地域、深谷・原宿地域で区全体より満足度が高く、このうち深谷・原宿地域では満足度が不満の割合を上回っている。その他の地域では区全体より低い数値ではあるが、名瀬・上矢部地域の満足度がやや低いものの概ね区全体と同様の傾向にある。



＜以前と比べた変化＞

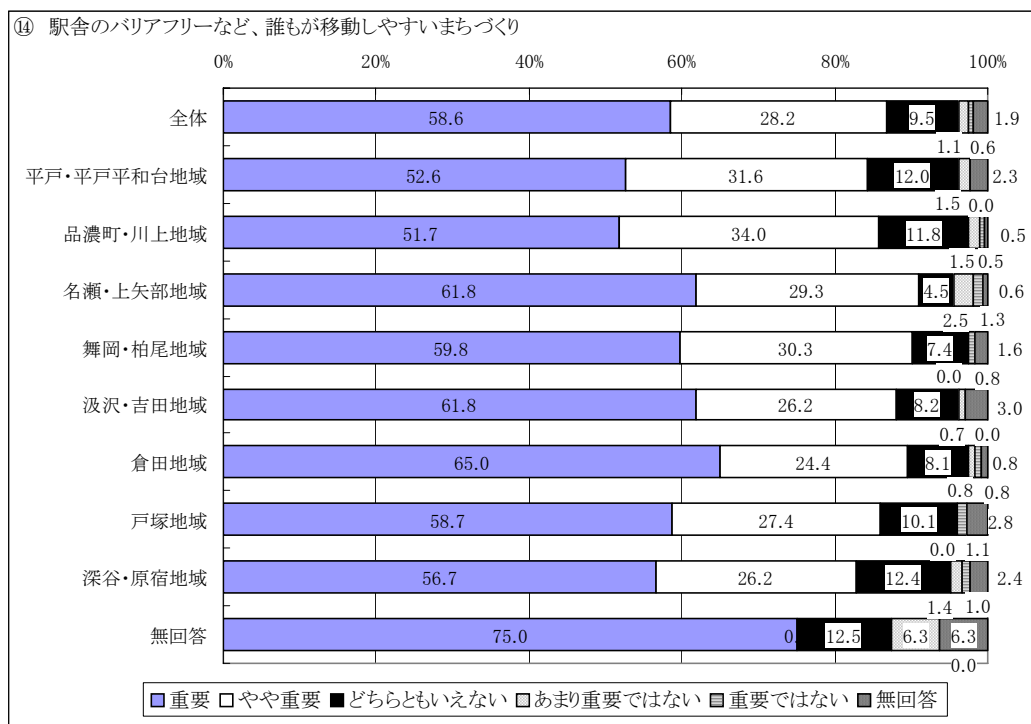
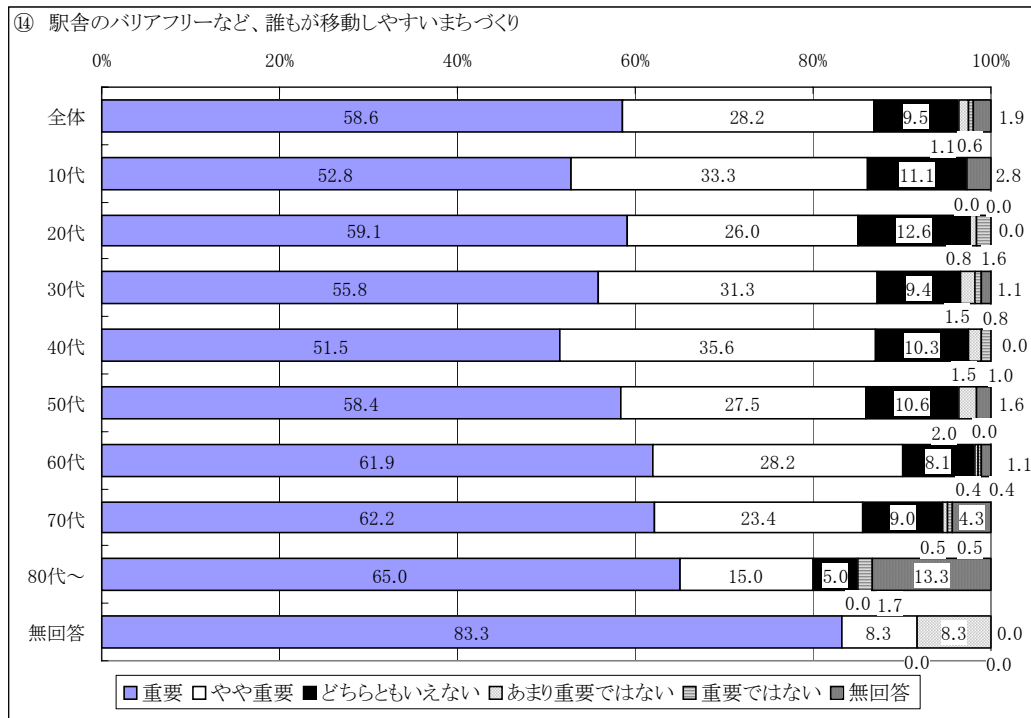
- ・ 「病院や救急医療などの地域医療」の以前と比べた変化は、戸塚区全体としては「変わらない」が最も多くなっている。
- ・ 年代別では、10代で「わからない」が最も多くなっているのを除き、「変わらない」が最も多い。10代、70代、80代以上で「良くなった」の割合が他の世代に比べて高くなっている。
- ・ 地域別では、いずれの地域も「変わらない」が最も多くなっている。



⑭ 駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり

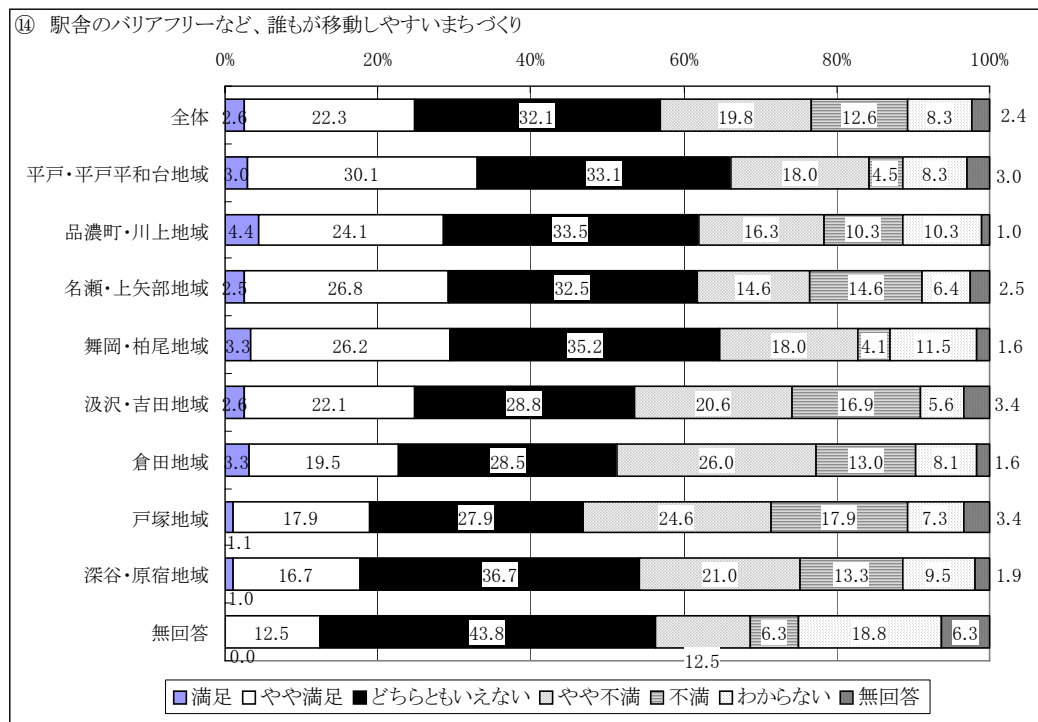
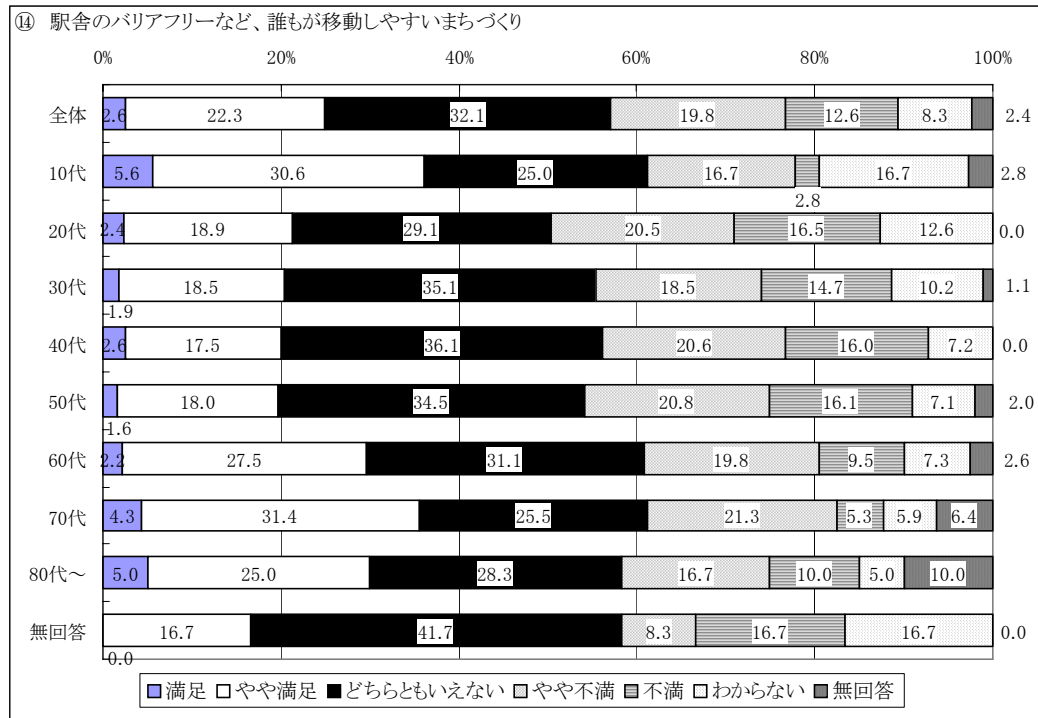
<重要度>

- ・ 「駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり」の重要度は、戸塚区全体としては、重要とする割合が 86.8%、重要でないとする割合が 1.8%と、重要の割合が高い。
- ・ 年代別では、30 代、40 代と 60 代で区の数値よりも重要度が高く、それ以外の年代では低くなっている。なお、10 代では重要でないとする数値が 0 となっている。
- ・ 地域別では、名瀬・上矢部地域、舞岡・柏尾地域、汲沢・吉田地域、倉田地域で区全体より重要度が高く、それ以外では区の数値をやや下回っている。



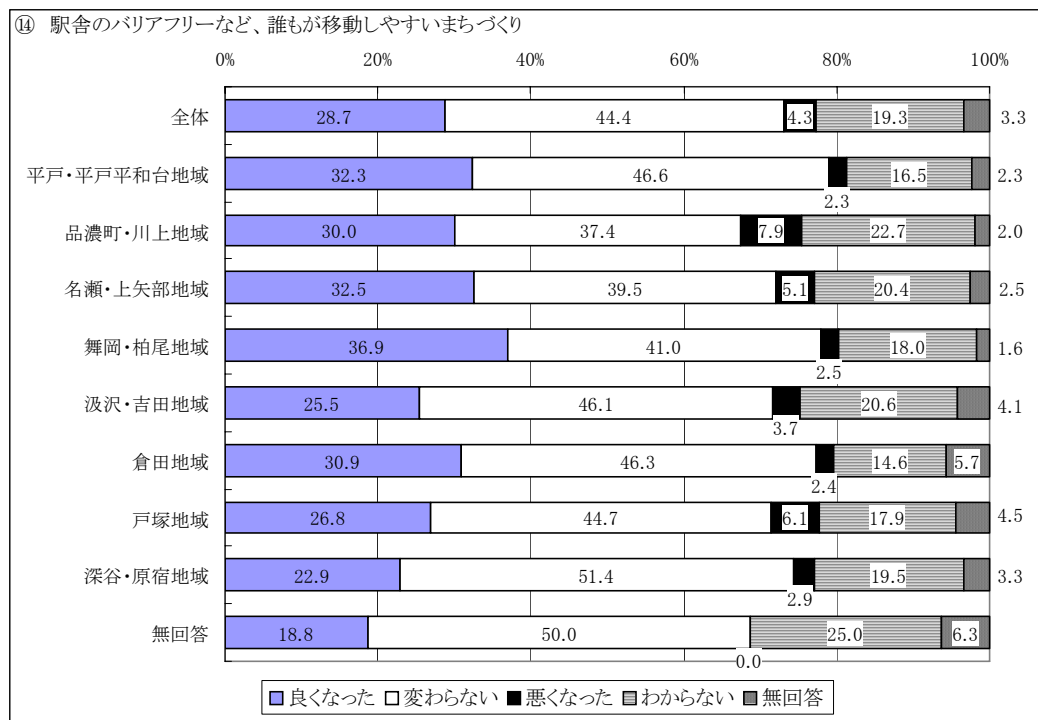
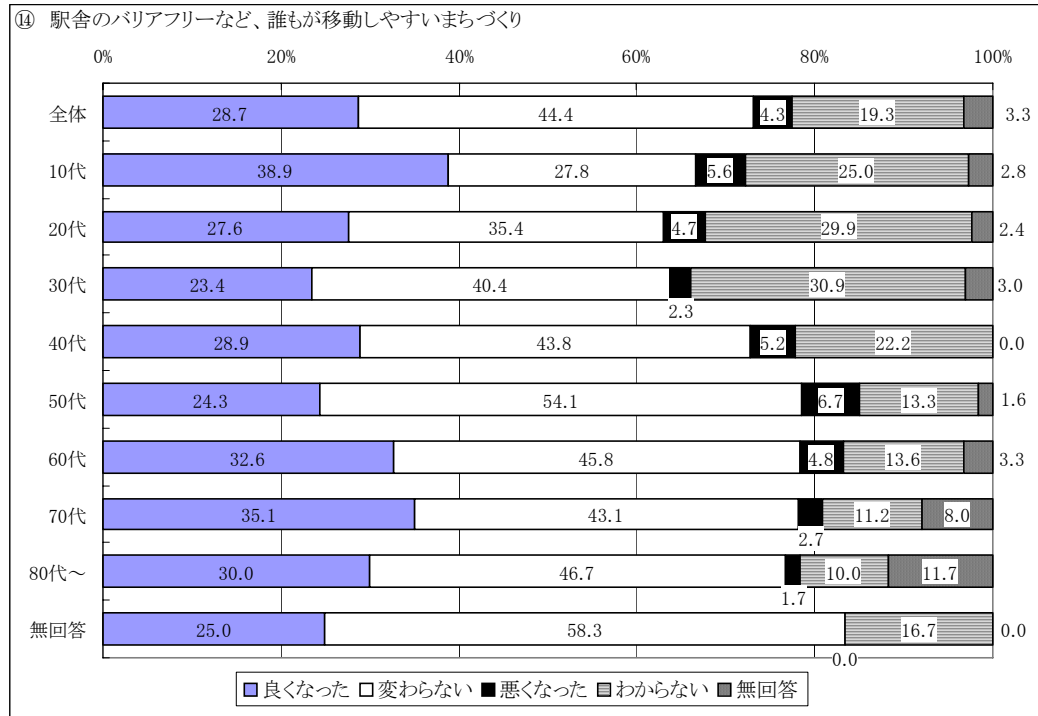
<満足度>

- 「駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり」の満足度は、戸塚区全体としては、満足とする割合が24.9%、不満とする割合が32.3%と、不満の割合が高くなっている。
- 年代別では、10代と60代以上の世代で満足度が区の数値より高く、これらはいずれも満足度が不満の割合を上回っている。20代から50代までの世代では区全体の数値より満足度が低くなっている。
- 地域別では、平戸・平戸平和台地域、品濃町・川上地域、名瀬・上矢部地域、舞岡・柏尾地域で区全体より満足度が高く、これらはいずれも満足度が不満の割合を上回っている。その他の地域では区全体より低い数値である。また、特に戸塚地域では、不満の割合が他に比べて高い。



＜以前と比べた変化＞

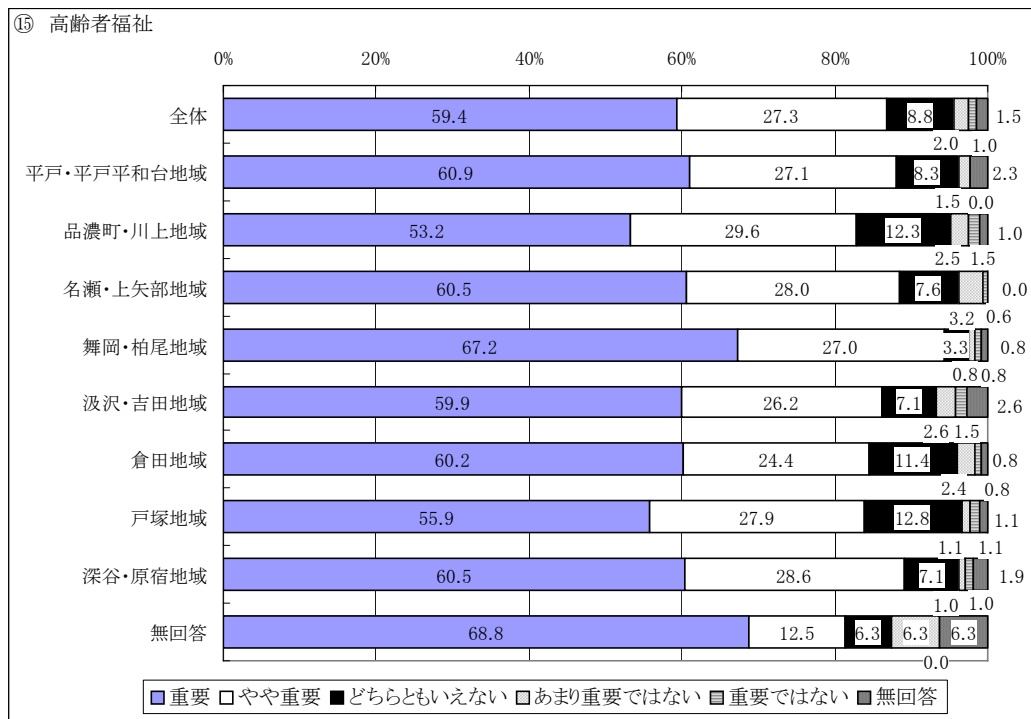
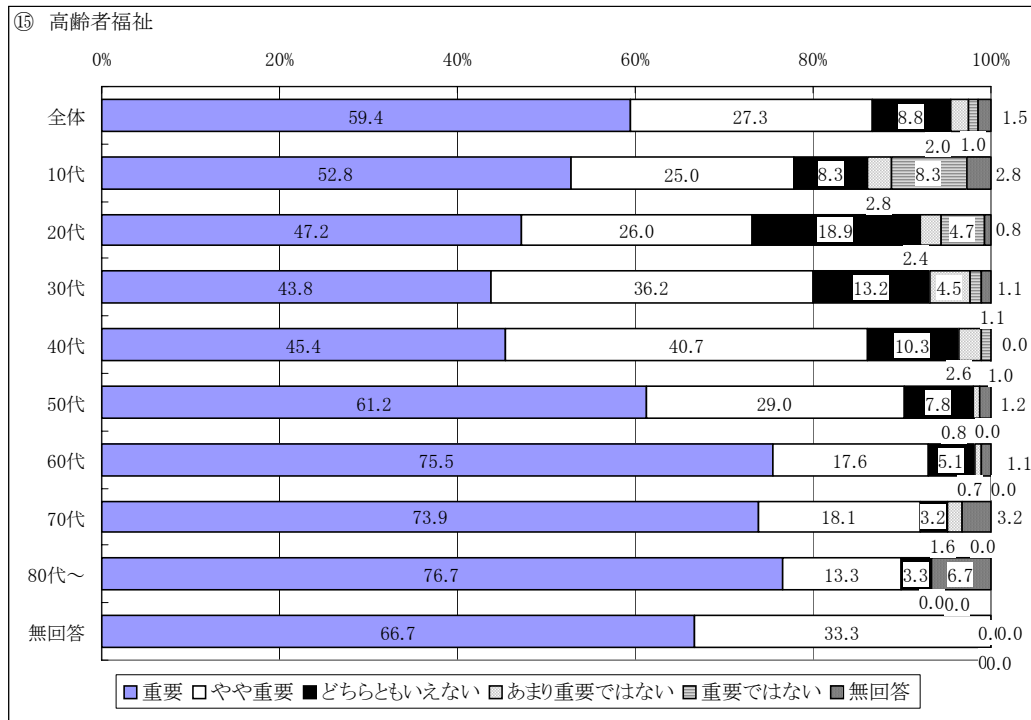
- ・ 「駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり」の以前と比べた変化は、戸塚区全体としては「変わらない」が最も多くなっている。
- ・ 年代別では、10代で「良くなった」が最も多くなっているのを除き、「変わらない」が最も多い。20代、30代で「わからない」の割合が他の世代に比べて高くなっている。
- ・ 地域別では、いずれの地域も「変わらない」が最も多くなっている。



⑮ 高齢者福祉

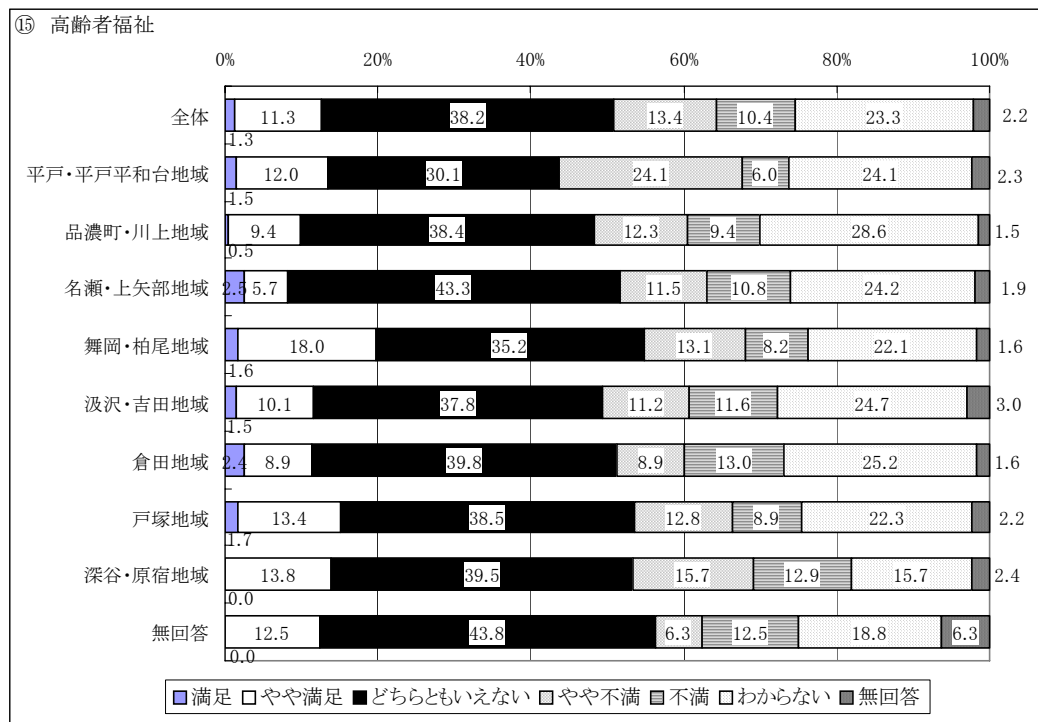
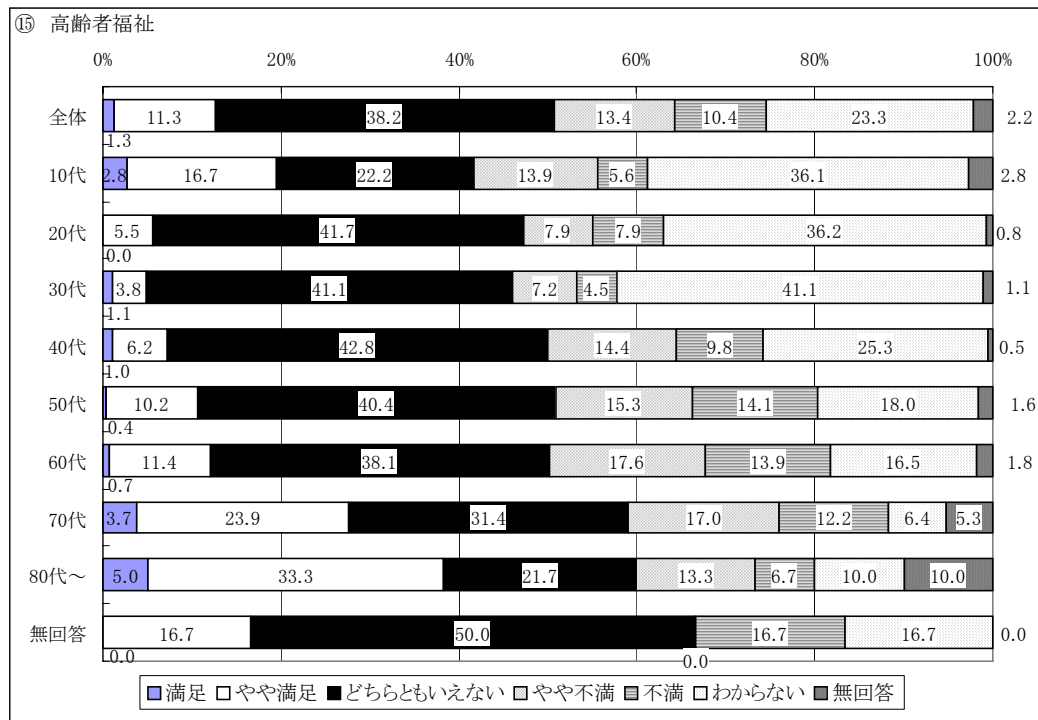
<重要度>

- ・ 「高齢者福祉」の重要度は、戸塚区全体としては、重要とする割合が86.7%、重要でないとする割合が3.0%と、重要の割合が高い。
- ・ 年代別では、50代以上の世代で区の数値よりも重要度が高く、それ以下の年代では低くなっている。特に10代、20代では他に比べて重要度が低く捉えられている。また、80代以上では重要でないとする数値が0となっている。
- ・ 地域別では、平戸・平戸平和台地域、名瀬・上矢部地域、舞岡・柏尾地域、深谷・原宿地域で区全体より重要度が高く、それ以外では区の数値よりやや低くなっている。



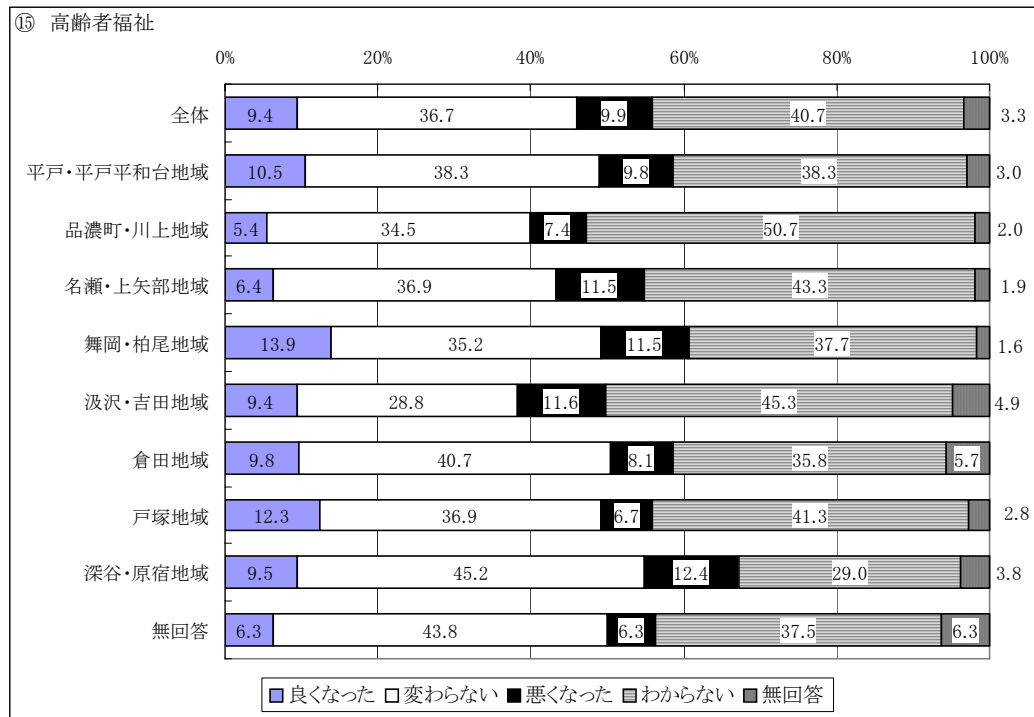
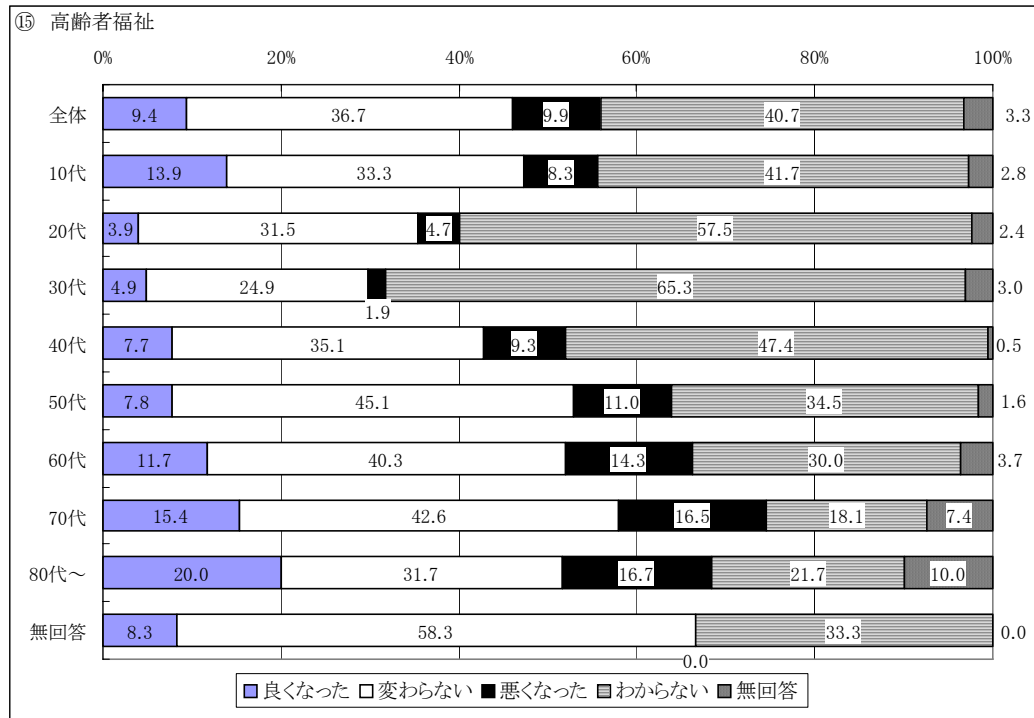
<満足度>

- ・ 「高齢者福祉」の満足度は、戸塚区全体としては、満足とする割合が 12.6%、不満とする割合が 23.8%と、不満の割合の方が高い。
- ・ 年代別では、10代と70代、80代以上で満足度が区の数値より高く、特に高齢者世代での数値が高いほか、10代と80代以上では満足度が不満の割合を上回っている。20代から50代までの世代では区全体の数値より満足度が低くなっているほか、「どちらともいえない」「わからない」の数値が高い傾向にある。
- ・ 地域別では、平戸・平戸平和台地域、舞岡・柏尾地域、戸塚地域、深谷・原宿地域で区全体より満足度が高く、その他の地域では区全体より数値がやや下回っている。



＜以前と比べた変化＞

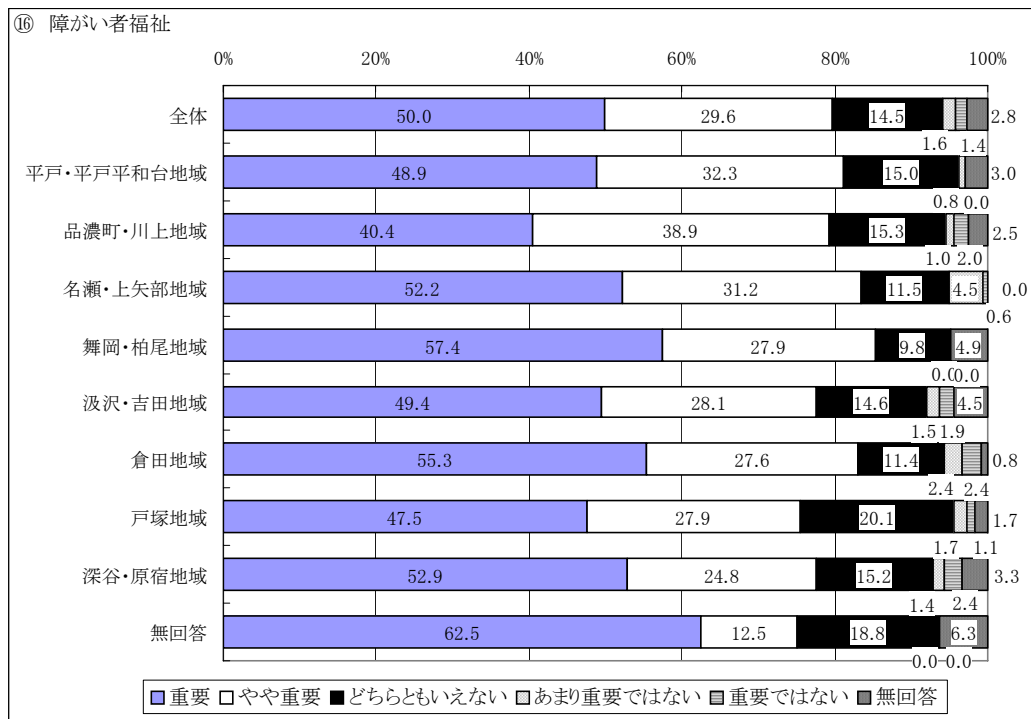
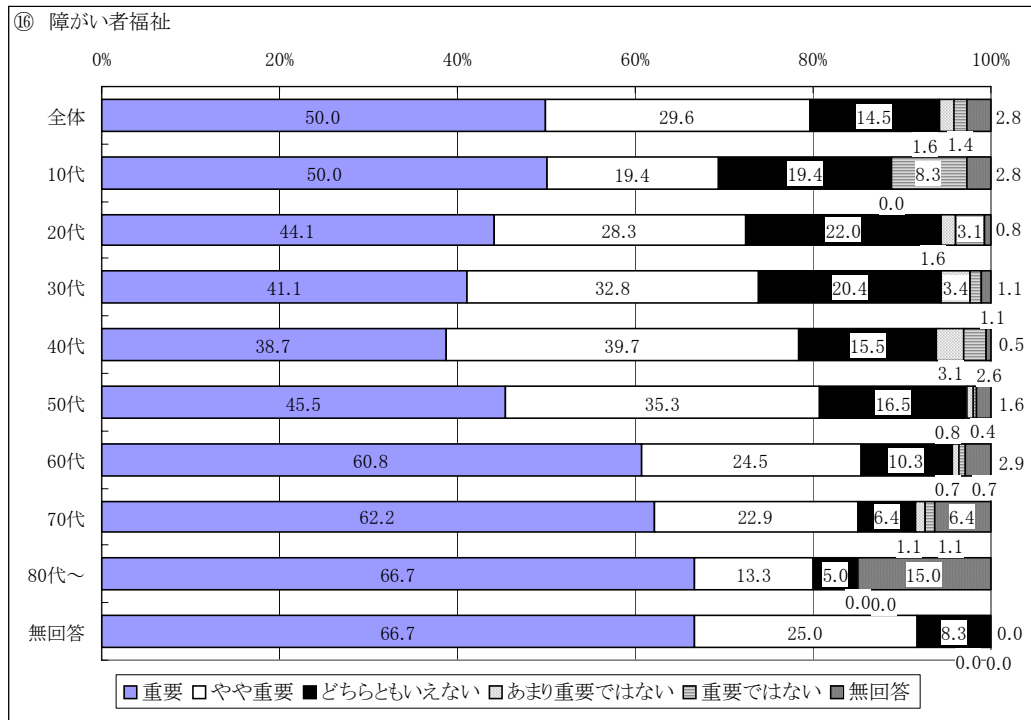
- ・ 「高齢者福祉」の以前と比べた変化は、戸塚区全体としては「わからない」が最も多く、次いで「変わらない」となっている。
- ・ 年代別では、10代から40代までの世代では「わからない」が最も多く、50代以上の世代では「変わらない」が最も多くなっている。また、80代以上で「良くなった」の割合が他の世代に比べて高くなっている。
- ・ 地域別では、倉田地域、深谷・原宿地域で「変わらない」、品濃町・川上地域、名瀬・上矢部地域、舞岡・柏尾地域、汲沢・吉田地域、戸塚地域で「わからない」が最も多く、平戸・平戸平和台地域ではこれが同率となっている。



⑯ 障がい者福祉

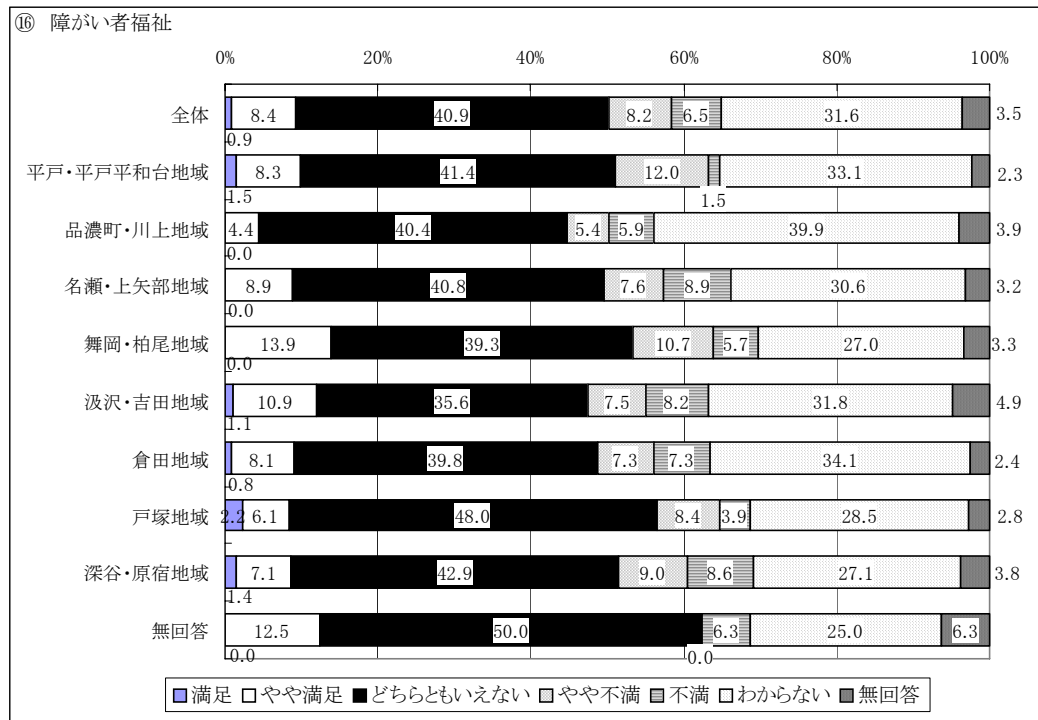
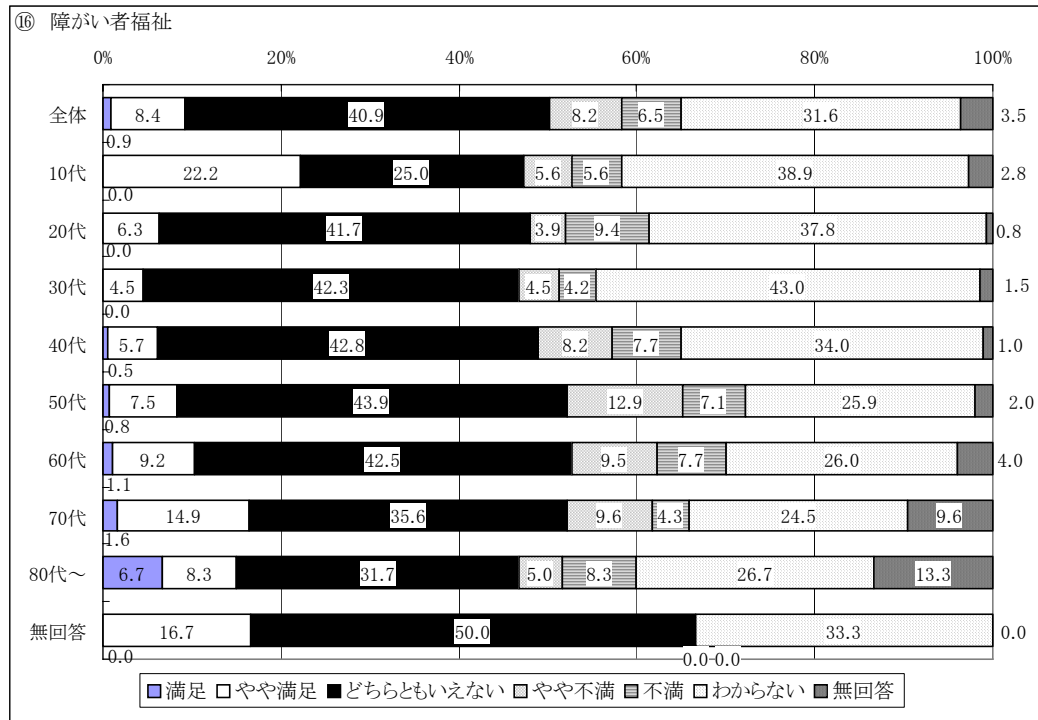
<重要度>

- ・ 「障がい者福祉」の重要度は、戸塚区全体としては、重要とする割合が79.6%、重要でないとする割合が3.0%と、重要の割合が高い。
- ・ 年代別では、50代以上の世代で区の数値よりも重要度が高く、それ以下の年代では低くなっている。特に10代で他に比べて数値が低い。
- ・ 地域別では、平戸・平戸平和台地域、名瀬・上矢部地域、舞岡・柏尾地域、倉田地域で区全体より重要度が高く、それ以外では区の数値よりやや低くなっている。また、舞岡・柏尾地域では重要でないとする数値が0である。



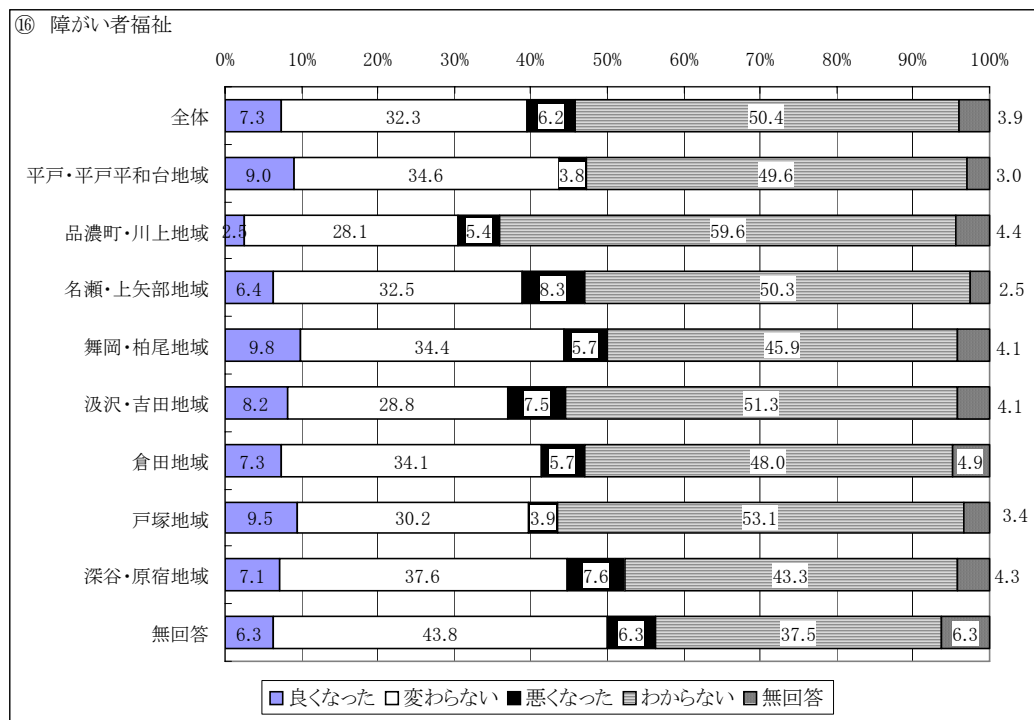
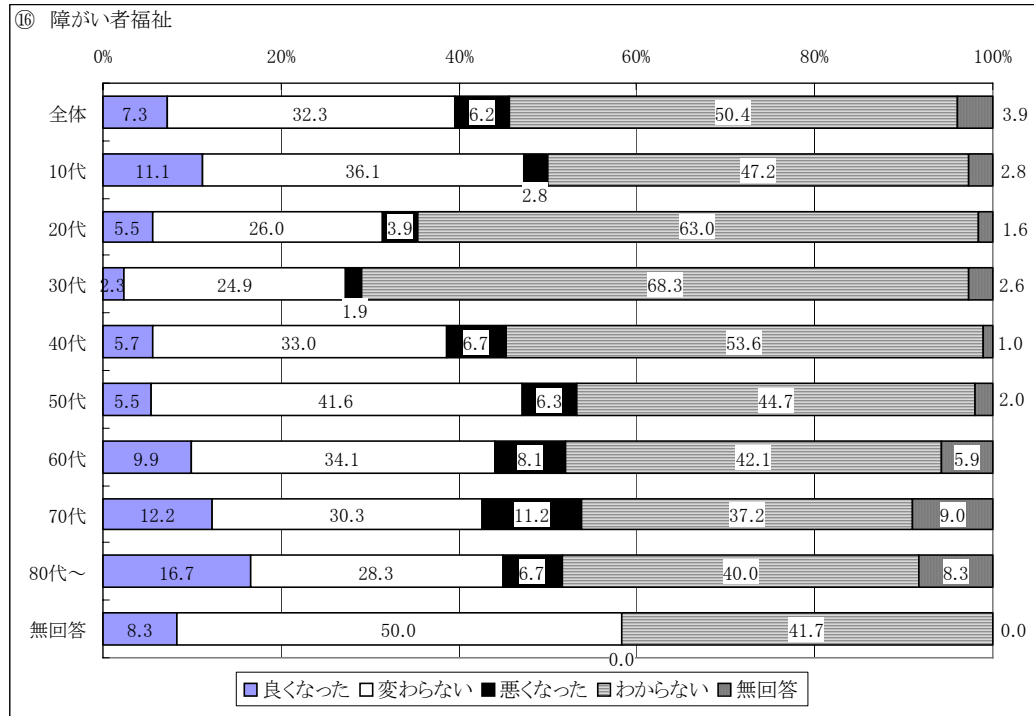
<満足度>

- ・ 「障がい者福祉」の満足度は、戸塚区全体としては、満足とする割合が 9.3%、不満とする割合が 14.7%と、不満の割合が高い。また「どちらともいえない」「わからない」の数値がともに高くなっている。
- ・ 年代別では、10代と60代以上の世代で満足度が区の数値より高く、10代と70代、80代以上では満足度が不満の割合を上回っている。20代から50代までの世代では区全体の数値より満足度が低くなっている。30代では「わからない」の数値が特に高い。
- ・ 地域別では、平戸・平戸平和台地域、舞岡・柏尾地域、汲沢・吉田地域で区全体より満足度が高く、その他の地域では区全体より数値がやや下回っている。



＜以前と比べた変化＞

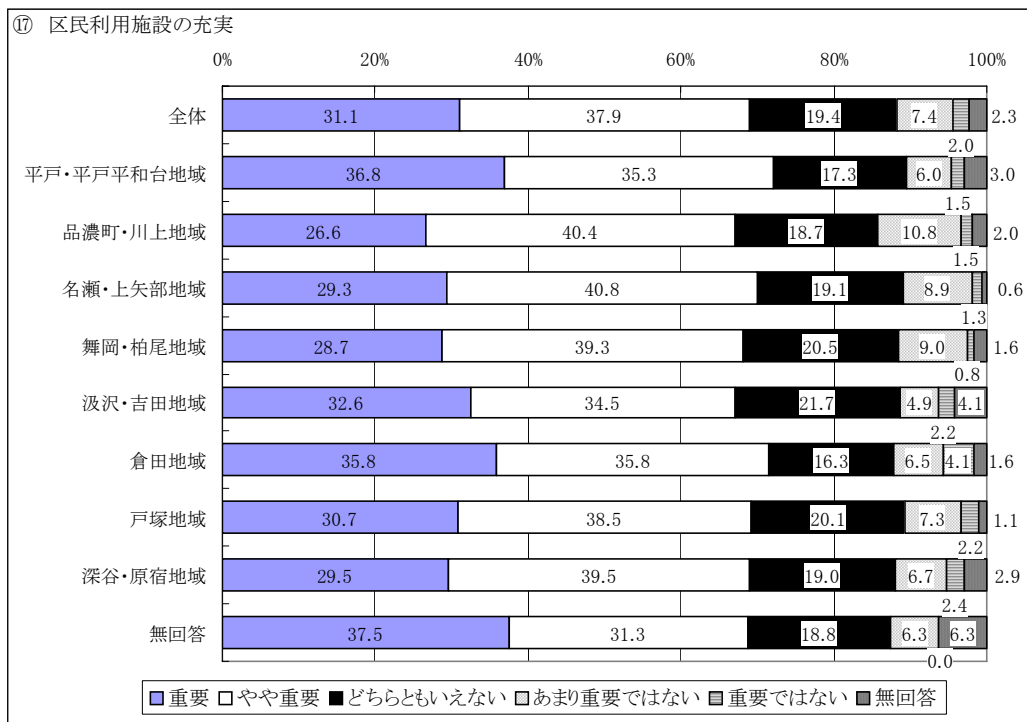
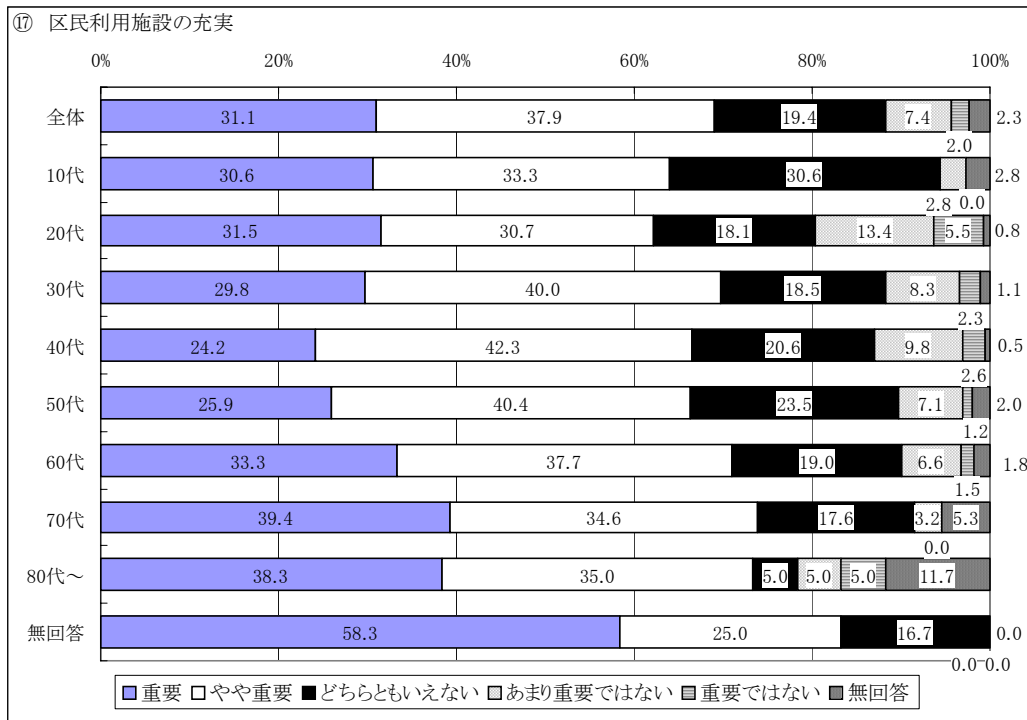
- ・ 「障がい者福祉」の以前と比べた変化は、戸塚区全体としては「わからない」が最も多く、次いで「変わらない」となっている。
- ・ 年代別では、いずれの世代も「わからない」が最も多く、次いで「変わらない」となっている。また80代以上では「良くなった」が他の世代に比べてやや高い。
- ・ 地域別では、いずれの地域も「わからない」が最も多く、次いで「変わらない」となっている。



⑪ 区民利用施設の充実

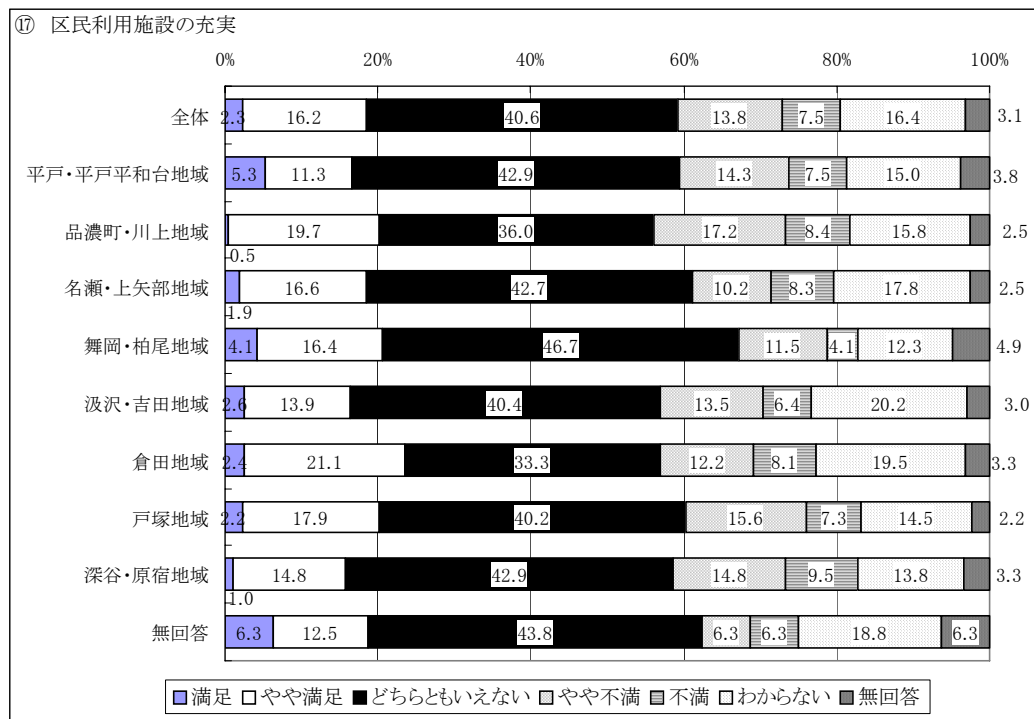
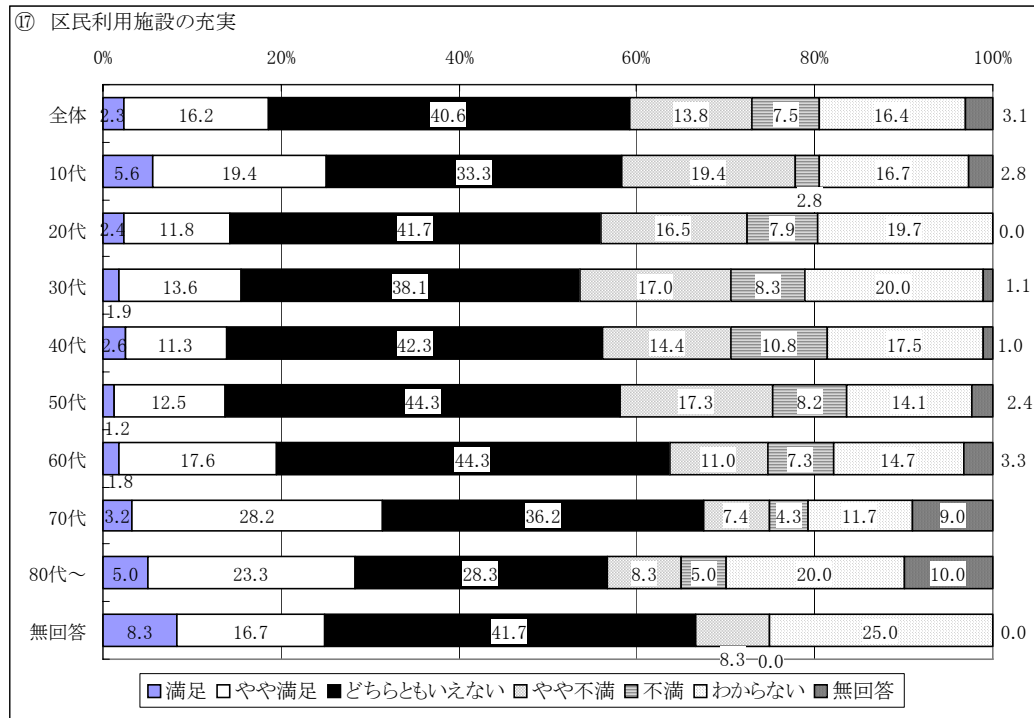
<重要度>

- ・ 「区民利用施設の充実」の重要度は、戸塚区全体としては、重要とする割合が 68.9%、重要でないとする割合が 9.4%と、重要の割合が高い。
- ・ 年代別では、30 代と 60 代以上の世代で区の数値よりも重要度が高く、それ以外の年代では低くなっている。特に 20 代では、「重要でない」とする数値が他に比べて高い。
- ・ 地域別では、平戸・平戸平和台地域、名瀬・上矢部地域、倉田地域、戸塚地域、深谷・原宿地域で区全体より重要度が高く、それ以外では区の数値よりやや低い、大きな地域差は見られない。



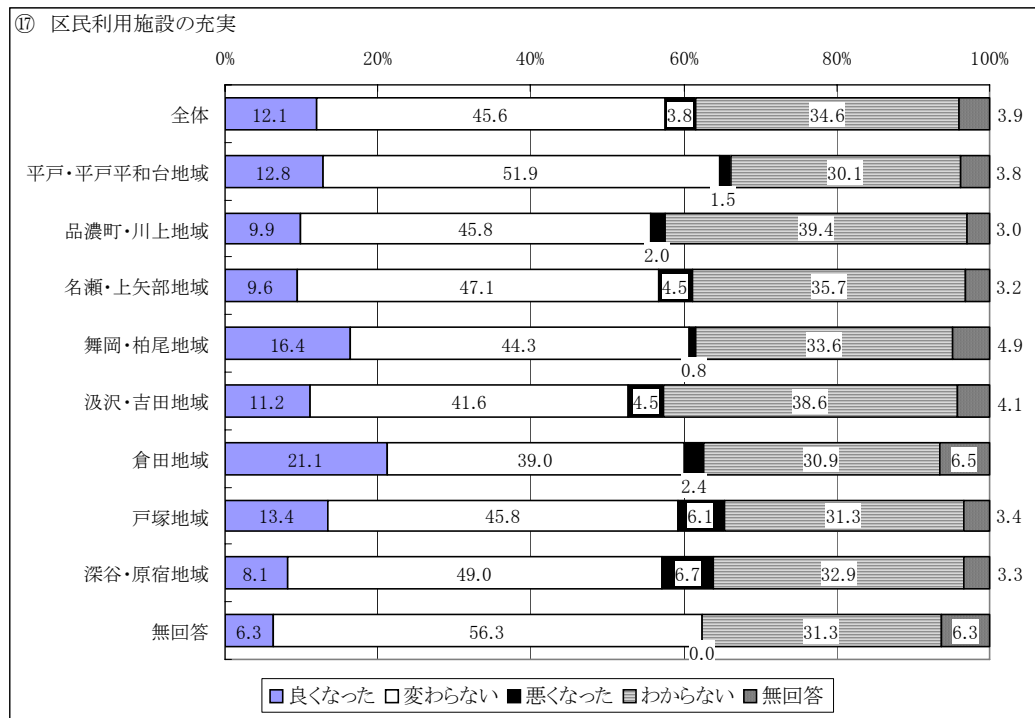
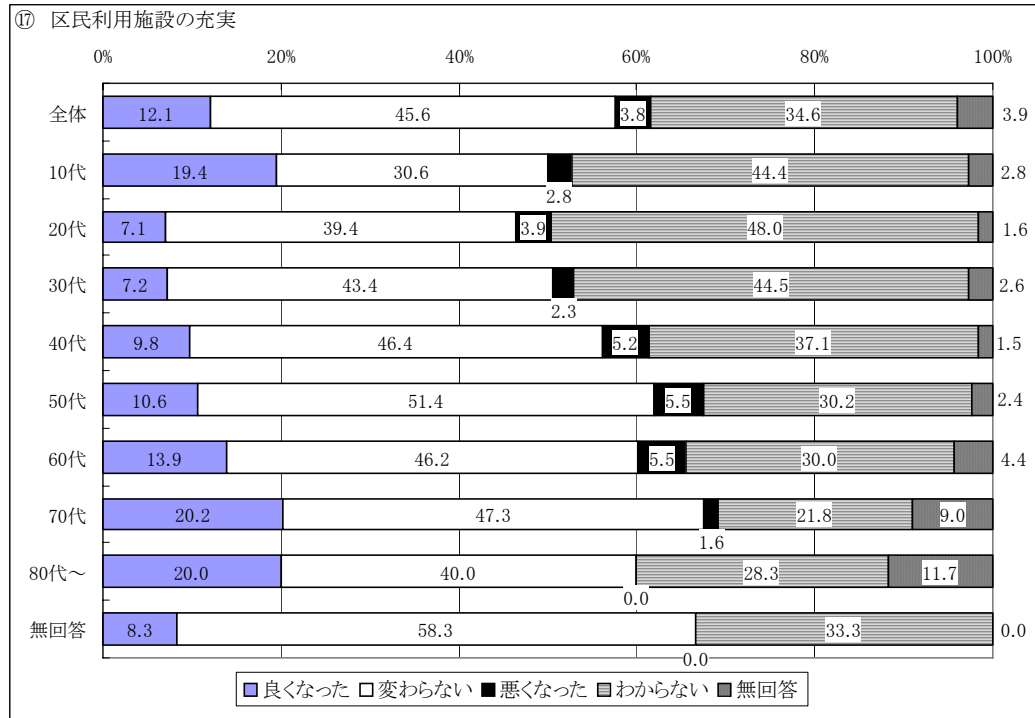
<満足度>

- ・ 「区民利用施設の充実」の満足度は、戸塚区全体としては、満足とする割合が18.6%、不満とする割合が21.3%と、不満の割合がやや高い。
- ・ 年代別では、10代と60代以上の世代で満足度が区の数値より高く、10代と70代、80代以上では満足度が不満の割合を上回っている。20代から50代までの世代では区全体の数値より満足度が低くなっている。
- ・ 地域別では、品濃町・川上地域、舞岡・柏尾地域、倉田地域、戸塚地域で区全体より満足度が高く、舞岡・柏尾地域と倉田地域では満足度が不満を上回っている。その他の地域では区全体より数値がやや下回っている。



＜以前と比べた変化＞

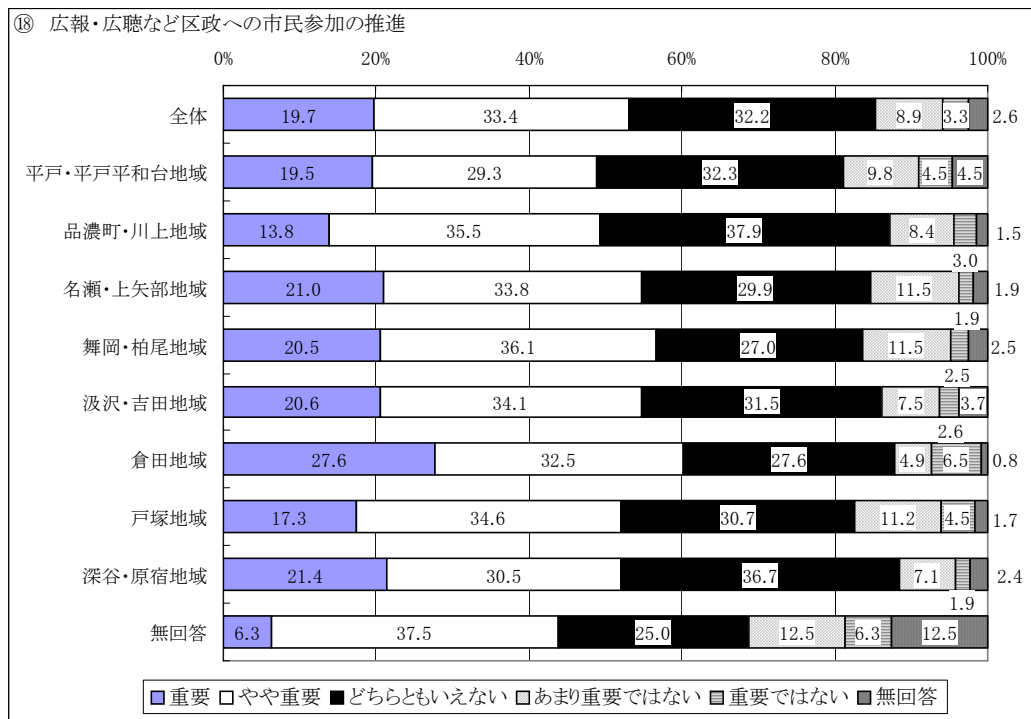
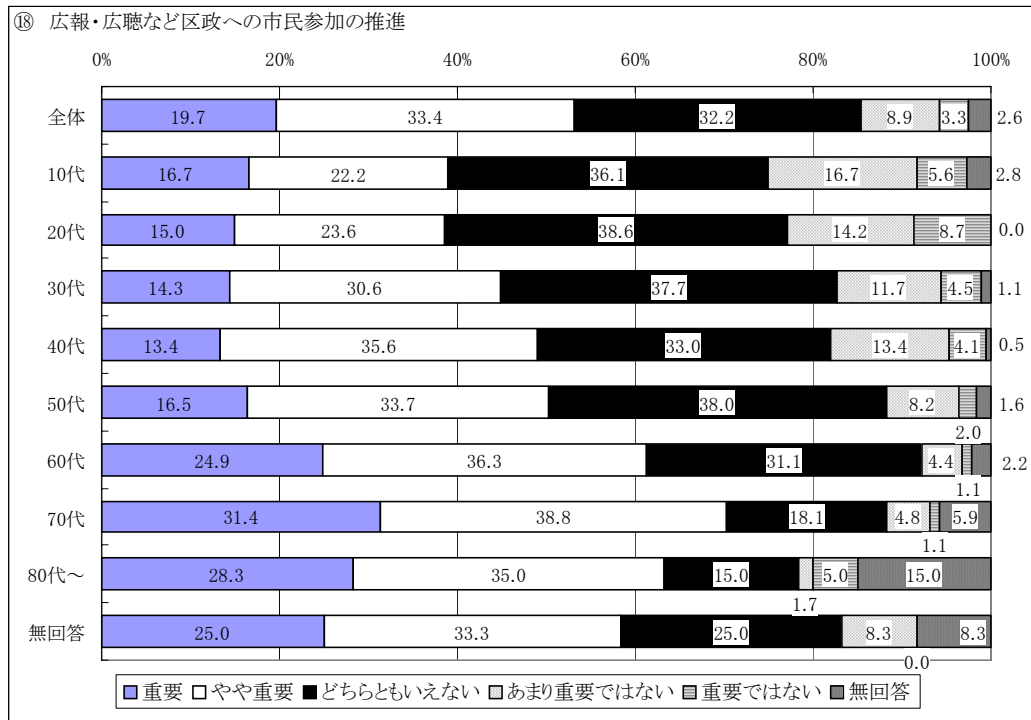
- ・ 「区民利用施設の充実」の以前と比べた変化は、戸塚区全体としては「変わらない」が最も多くなっている。
- ・ 年代別では、10代から30代までの世代で「わからない」が、40代以上の世代では「変わらない」が最も多くなっている。また、80代以上では「悪くなった」の数値が0である。
- ・ 地域別では、いずれの地域も「変わらない」が最も多くなっている。また、倉田地域で「良くなった」の割合が他の地域に比べてやや高い。



⑩ 広報・広聴など区政への市民参加の推進

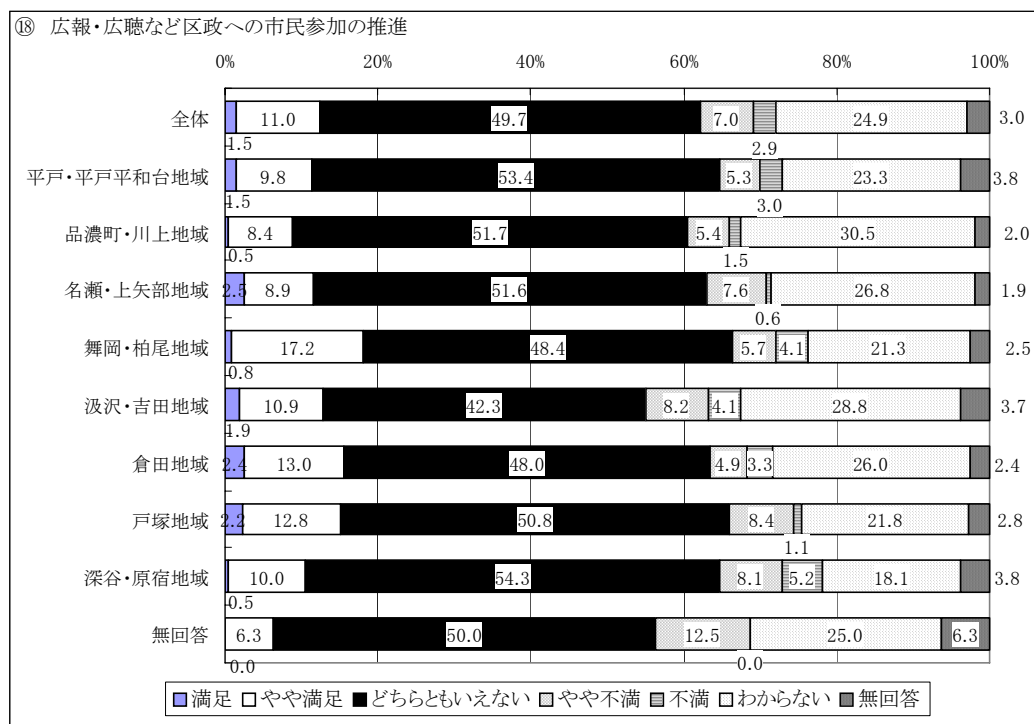
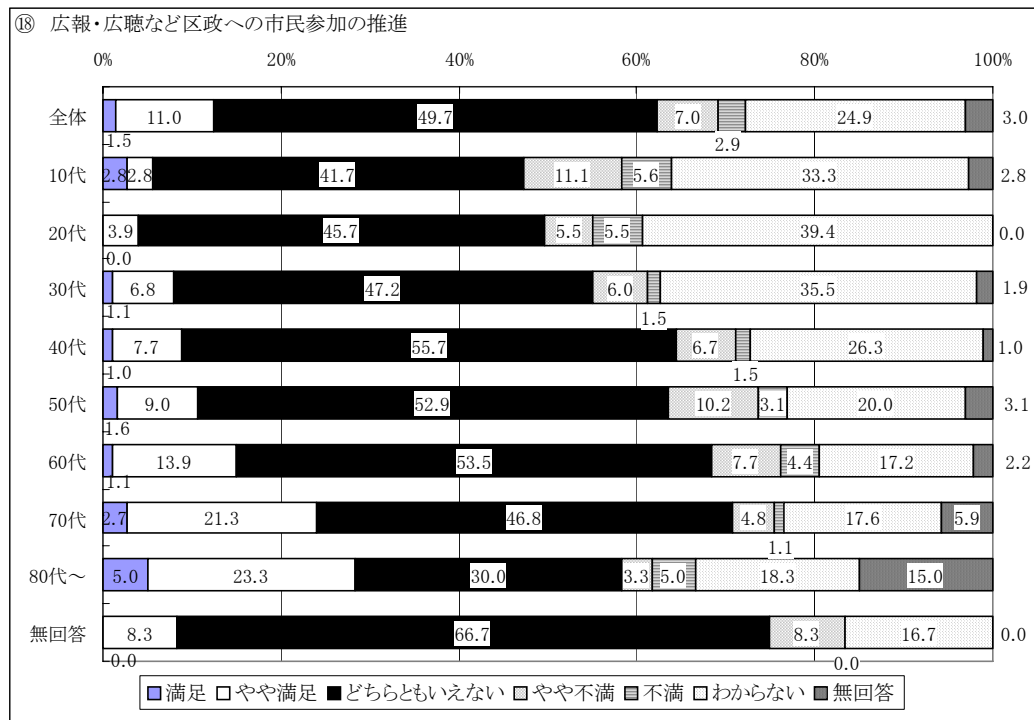
<重要度>

- ・ 「広報・広聴など区政への市民参加の推進」の重要度は、戸塚区全体としては、重要とする割合が53.1%、重要でないとする割合が12.1%と、重要の割合が高い。
- ・ 年代別では、60代以上の世代で区の数値よりも重要度が高いが、それ以外の年代では低く、若い世代ほどその傾向が顕著である。特に10代、20代では、「重要でない」とする数値が他に比べて高い。
- ・ 地域別では、名瀬・上矢部地域、舞岡・柏尾地域、汲沢・吉田地域、倉田地域で区全体より重要度が高く、それ以外では区の数値よりやや低い、大きな地域差は見られない。



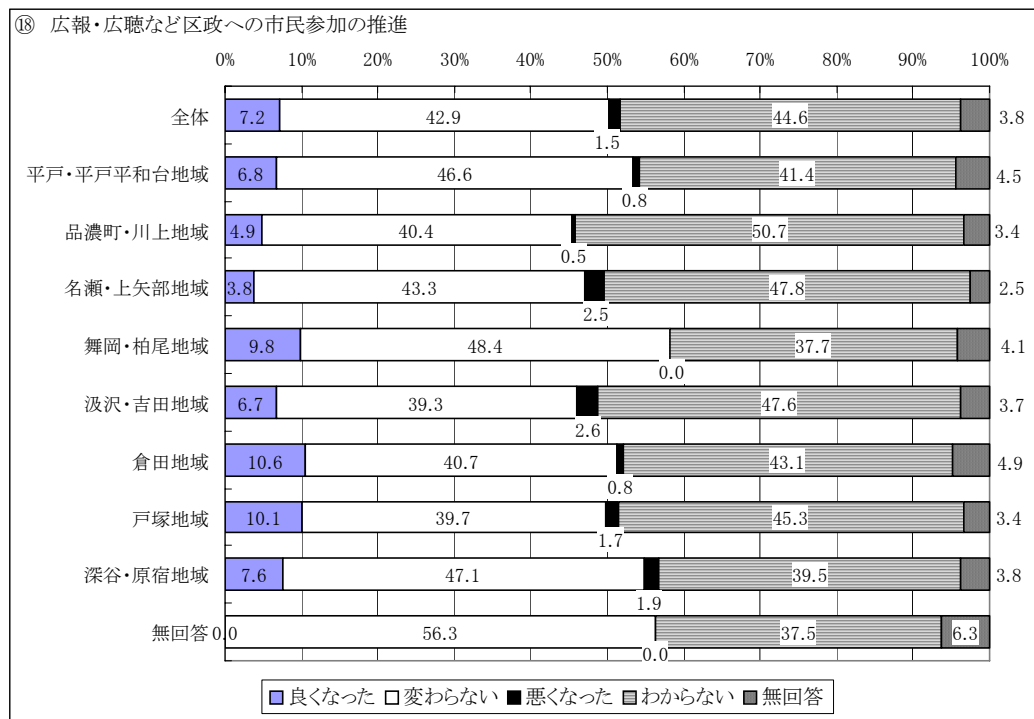
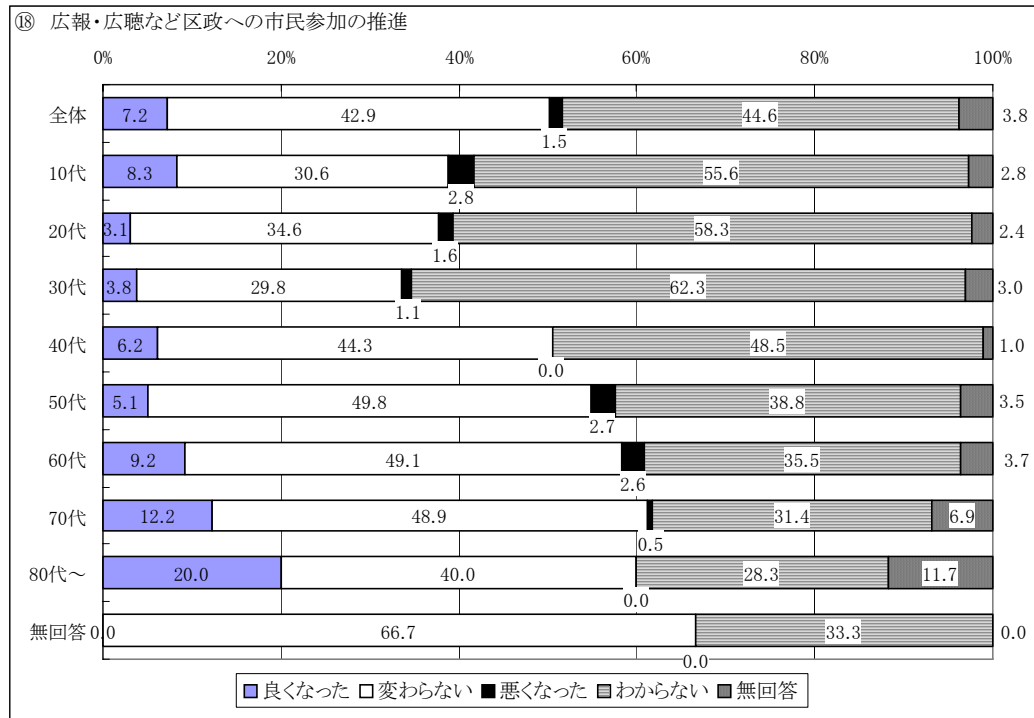
<満足度>

- ・ 「広報・広聴など区政への市民参加の推進」の満足度は、戸塚区全体としては、満足とする割合が 12.5%、不満とする割合が 9.9%と、満足の割合がやや高い。また「どちらともいえない」の数値が高くなっている。
- ・ 年代別では、60 代以上の世代で満足度が区の数値より高く、年齢が高いほどその傾向は顕著である。それ以外の世代では区全体の数値より満足度が低く、特に 10 代、20 代、50 代では不満の割合が満足の割合を上回っている。
- ・ 地域別では、舞岡・柏尾地域、汲沢・吉田地域、倉田地域、戸塚地域で区全体より満足度が高くなっている。それ以外の地域では区全体の満足度を下回り、また、深谷・原宿地域では不満の割合が満足度を上回っている。



＜以前と比べた変化＞

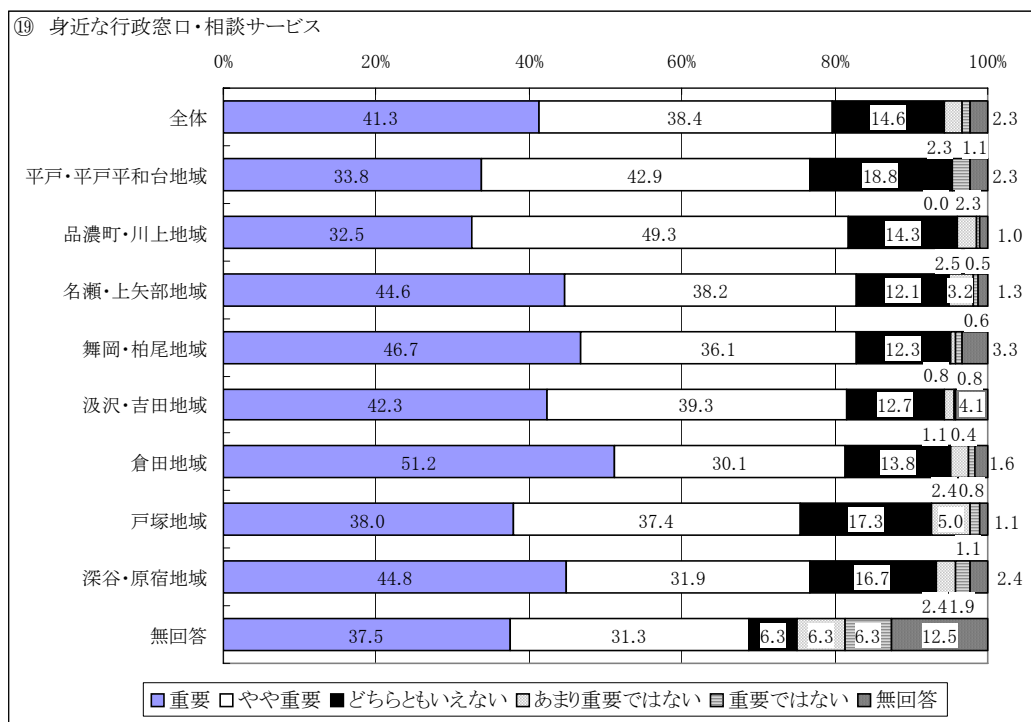
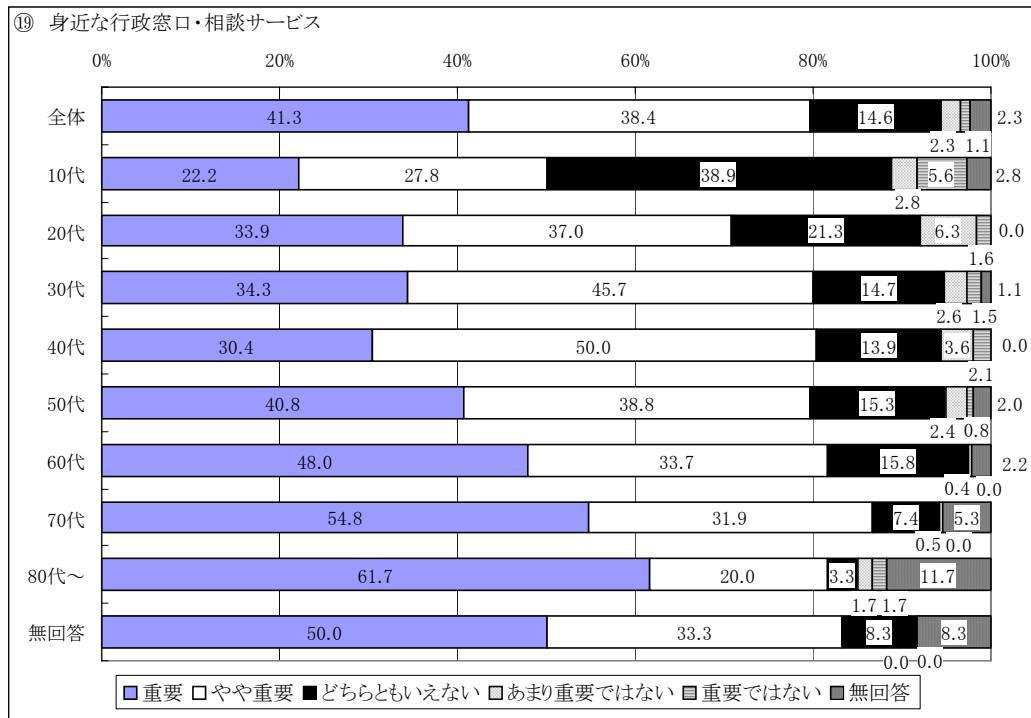
- ・ 「広報・広聴など区政への市民参加の推進」の以前と比べた変化は、戸塚区全体としては「わからない」が最も多く、次いで「変わらない」が僅差で続いている。
- ・ 年代別では、10代から40代までの世代で「わからない」が、50代以上の世代では「変わらない」が最も多くなっている。また、80代以上で「良くなった」の割合が他に比べて高いほか、40代、80代以上では「悪くなった」の数値が0である。
- ・ 地域別では、平戸・平戸平和台地域、舞岡・柏尾地域、深谷・原宿地域では「変わらない」が、それ以外の地域では「わからない」が最も多くなっている。舞岡・柏尾地域では「悪くなった」の数値が0である。



⑱ 身近な行政窓口・相談サービス

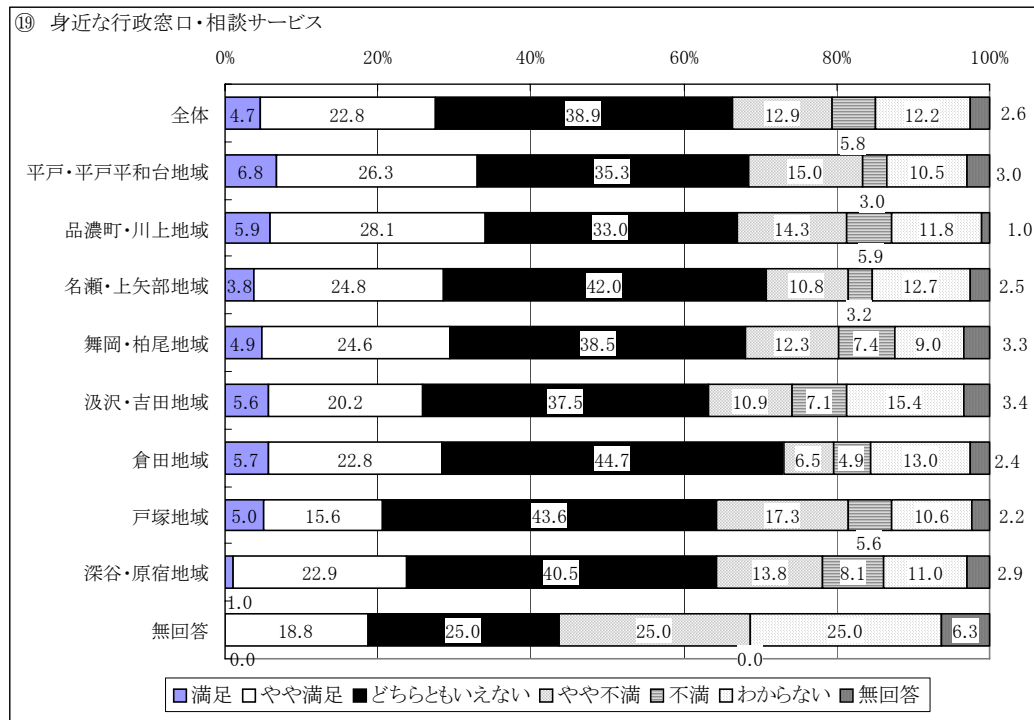
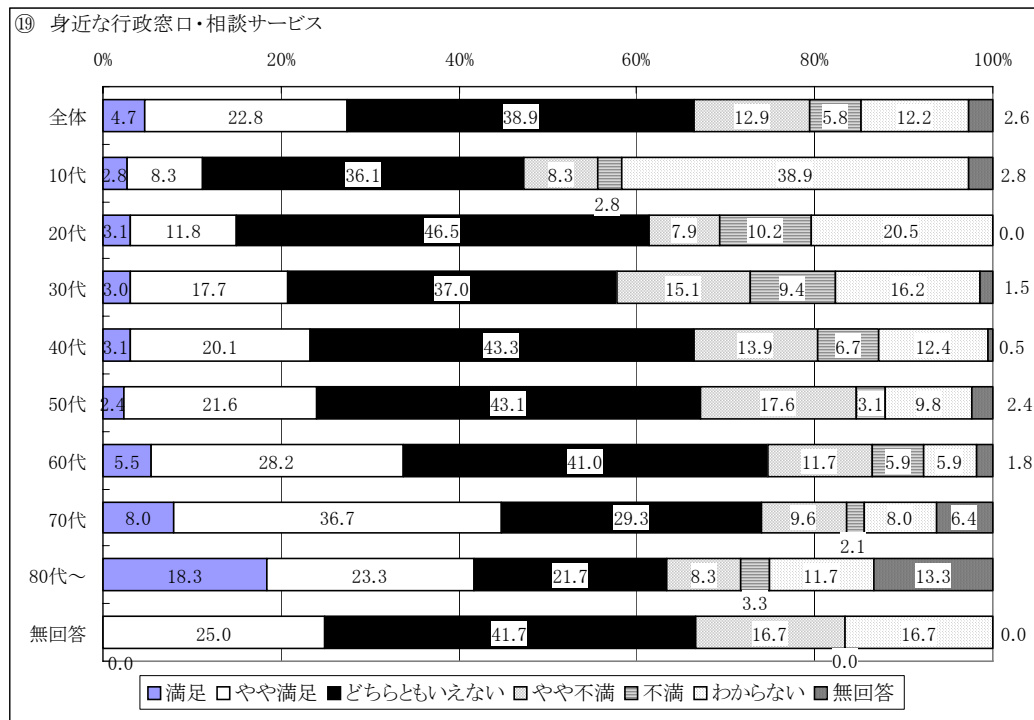
<重要度>

- ・ 「身近な行政窓口・相談サービス」の重要度は、戸塚区全体としては、重要とする割合が79.7%、重要でないとする割合が3.3%と、重要の割合が高い。
- ・ 年代別では、10代、20代、50代を除き、区の数値よりも重要度が高い。また10代で特に数値が低くなっている。
- ・ 地域別では、品濃町・川上地域、名瀬・上矢部地域、舞岡・柏尾地域、汲沢・吉田地域、倉田地域で区全体より重要度が高く、それ以外では区の数値より低くなっている。



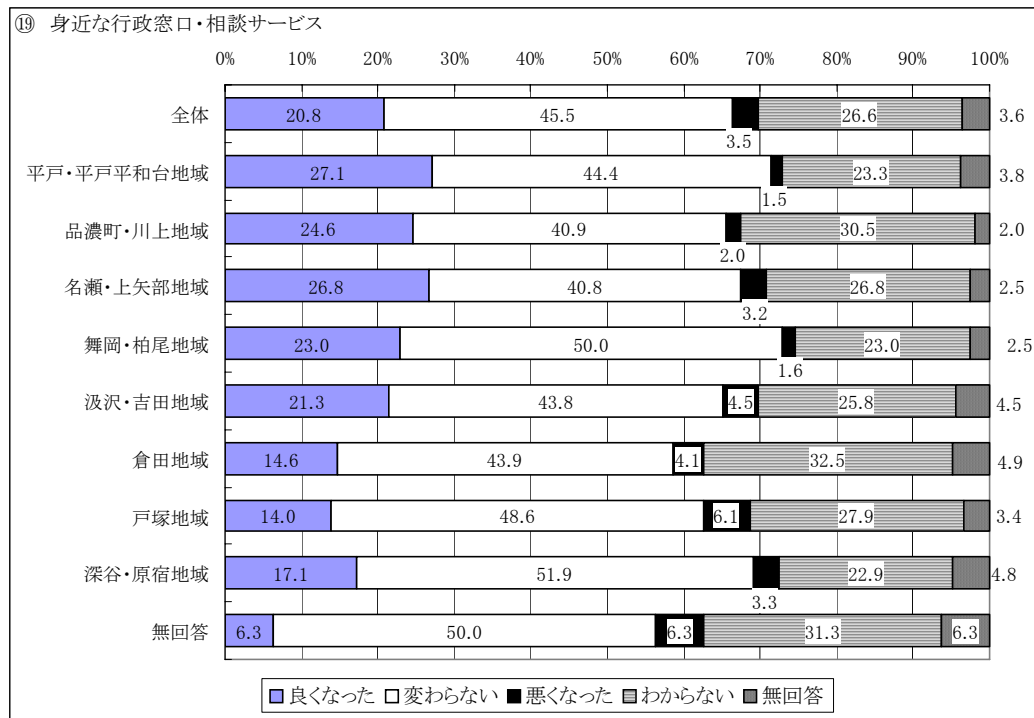
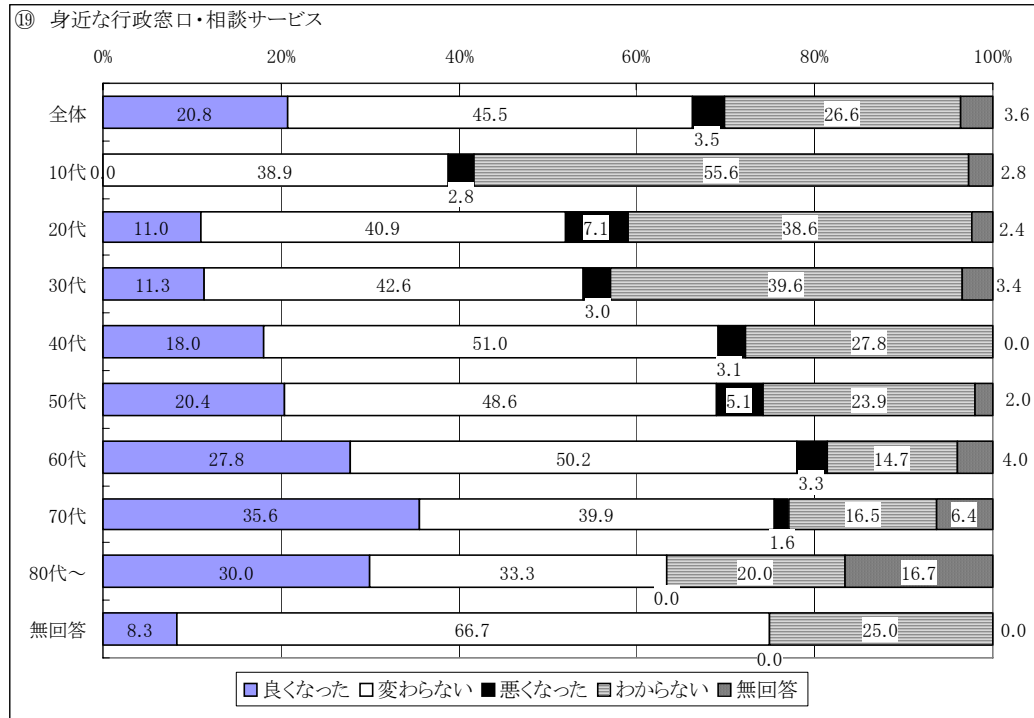
<満足度>

- ・ 「身近な行政窓口・相談サービス」の満足度は、戸塚区全体としては、満足とする割合が27.5%、不満とする割合が18.7%と、満足の割合が高い。
- ・ 年代別では、70代以上の世代で満足度が区全体を上回った高い数値となっており、それ以下の世代では区全体の数値より満足度が低くなっている。特に20代、30代では不満の割合が満足度を上回っている。また、10代では「わからない」の数値が特に高くなっている。
- ・ 地域別では、平戸・平戸平和台地域、品濃町・川上地域、名瀬・上矢部地域、舞岡・柏尾地域、倉田地域で区全体より満足度が高くなっている。また、戸塚地域では、不満の割合が満足度を上回っている。



＜以前と比べた変化＞

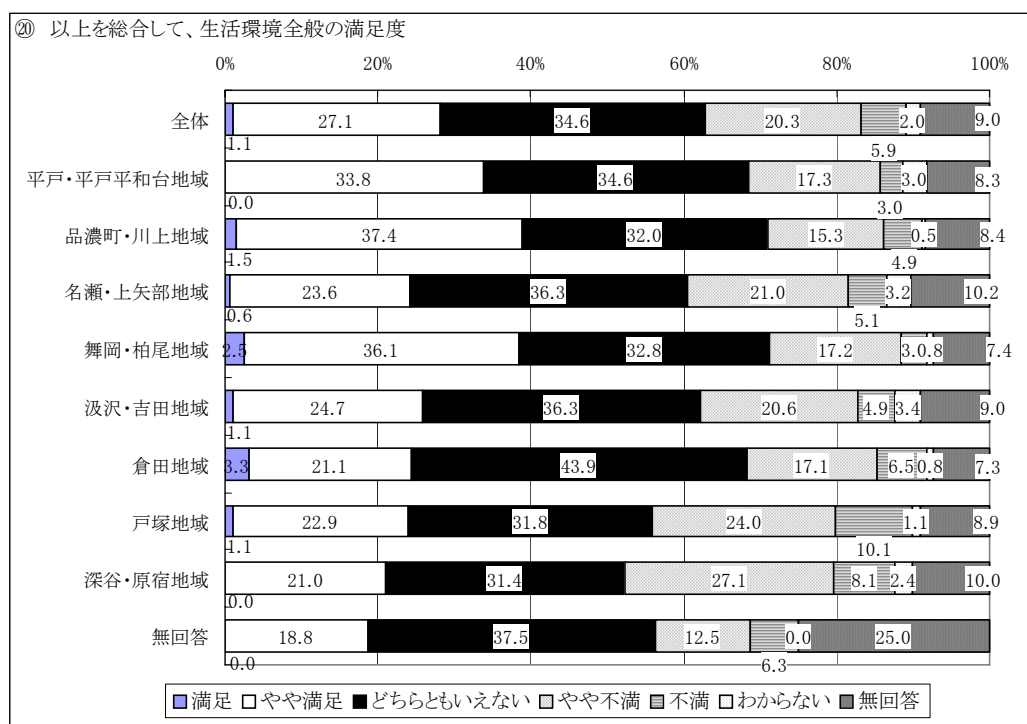
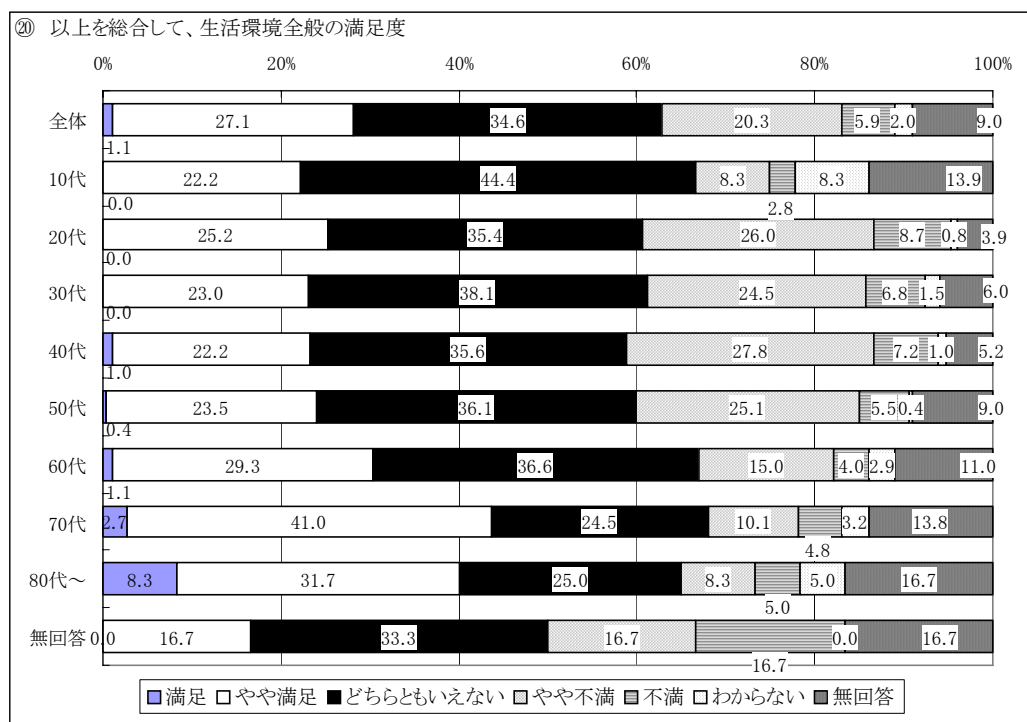
- ・ 「身近な行政窓口・相談サービス」の以前と比べた変化は、戸塚区全体としては「変わらない」が最も多くなっている。
- ・ 年代別では、10代で「わからない」が、20代以上の世代では「変わらない」が最も多くなっている。また、70代、80代以上で「良くなった」の割合が他に比べて高い。10代では「良くなった」、80代以上では「悪くなった」の数値が0である。
- ・ 地域別では、いずれの地域も「変わらない」が最も多くなっている。



㊫ 以上を総合して、生活環境全般の満足度

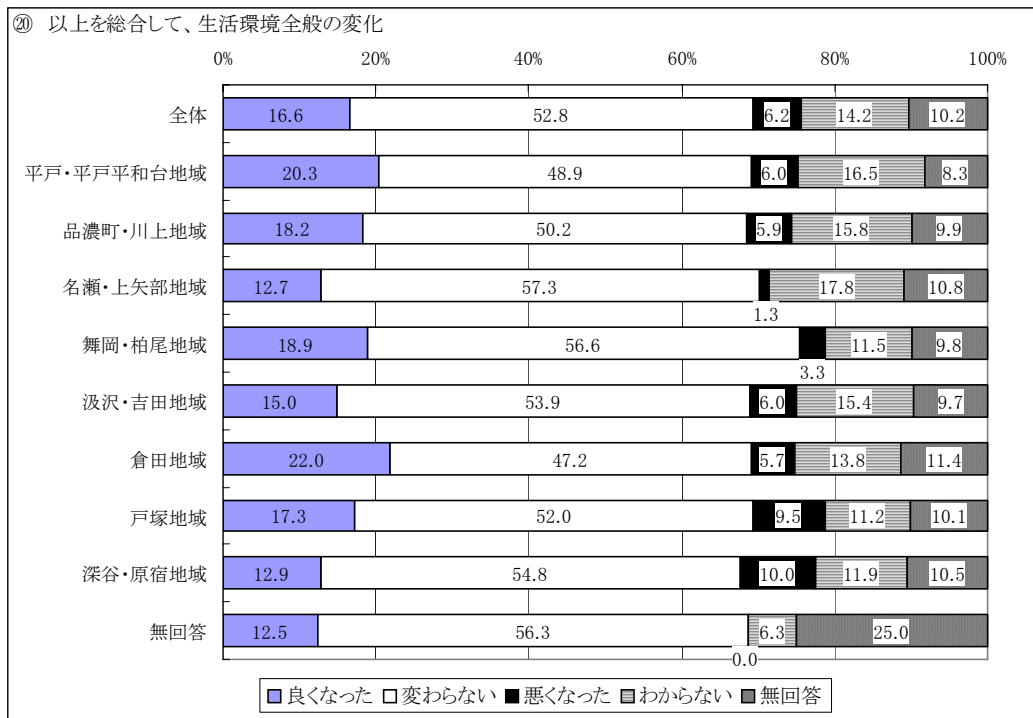
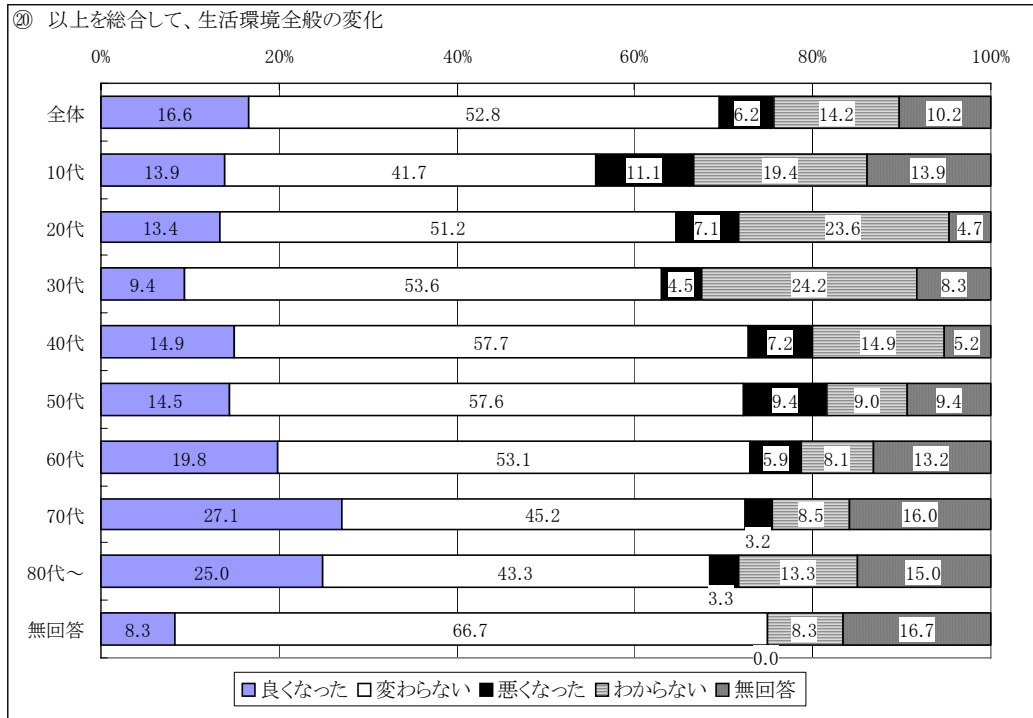
<満足度>

- ・ 「生活環境全般の満足度」は、戸塚区全体としては、満足とする割合が28.2%、不満とする割合が26.2%と、僅差で満足の割合が高い。
- ・ 年代別では、60代以上の世代で満足度が区全体を上回り、特に70代、80代以上では高い数値となっている。それ以下の世代では区全体の数値より満足度が低くなっている。特に20代から50代にかけての世代では不満の割合が満足度を上回っている。
- ・ 地域別では、平戸・平戸平和台地域、品濃町・川上地域、舞岡・柏尾地域では区全体より満足度が高くなっている。それ以外では区全体より満足度が低く、また、名瀬・上矢部地域、戸塚地域、深谷・原宿地域では、不満の割合が満足の割合を上回っている。



＜以前と比べた変化＞

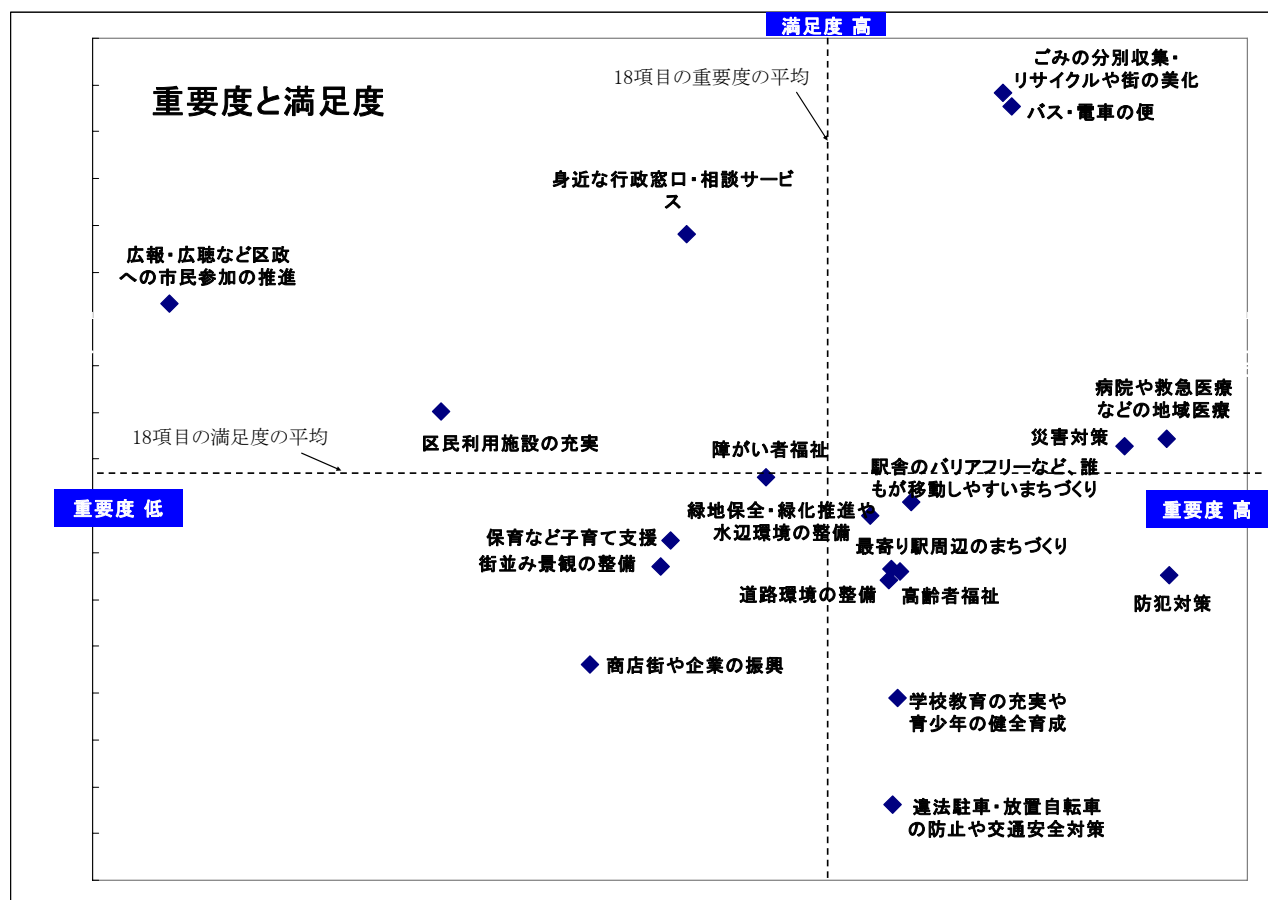
- ・ 「生活環境全般の満足度」の以前と比べた変化は、戸塚区全体としては「変わらない」が最も多くなっている。
- ・ 年代別では、いずれの世代も「変わらない」が最も多くなっている。また、70代で「良くなった」の割合が他に比べて高いなど、高齢者世代での満足度が高い傾向となっている。20代、30代では「わからない」が他に比べてやや高くなっている。
- ・ 地域別では、いずれの地域も「変わらない」が最も多くなっている。



項目の重要度と満足度の関係

- 戸塚区民の 18 項目の指標に関する重要度と満足度を、全 18 項目の平均値を中心にその分布を見たものが下図である。(満足・重要+2 点、やや満足・やや重要+1 点、やや不満・あまり重要ではない-1 点、不満・重要ではない-2 点として項目ごとに重要度、満足度の得点を算出し、重要度、満足度の全項目の平均値を軸に指標間の比較をしたものである。)
- 重要度も満足度もそれぞれ全項目の平均より高かった項目、すなわち、比較的満足はしているが、さらに向上が必要とされている項目は、「ごみの分別収集・リサイクルや街の美化」「バス、電車の便」「病院や救急医療などの地域医療」「災害対策」の 4 指標であった。
- 満足度は比較的低く、重要度の比較的高い項目、すなわち、不満に感じていて、向上が期待されている項目は「駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり」「緑地保全・緑化推進や水辺環境の整備」「高齢者福祉」「最寄り駅周辺のまちづくり」「道路環境の整備」「防犯対策」「学校教育の充実や青少年の健全育成」「違法駐車・放置自転車の防止や交通安全対策」の 8 項目であった。
- 満足度は平均より高いが、重要度は平均より低かった項目、すなわち、比較的満足しており、向上を図る必要性は他の項目よりも低いとされている項目は、「身近な行政窓口・相談サービス」「広報・広聴など区政への市民参加の推進」の 2 項目であった。
- 満足度は比較的低く、重要度も比較的低かった項目、すなわち、満足はしていないが、向上がそれほど期待されていない項目は、「障がい者福祉」「保育など子育て支援」「街並み景観の整備」「商店街や企業の振興」の 4 項目であった。

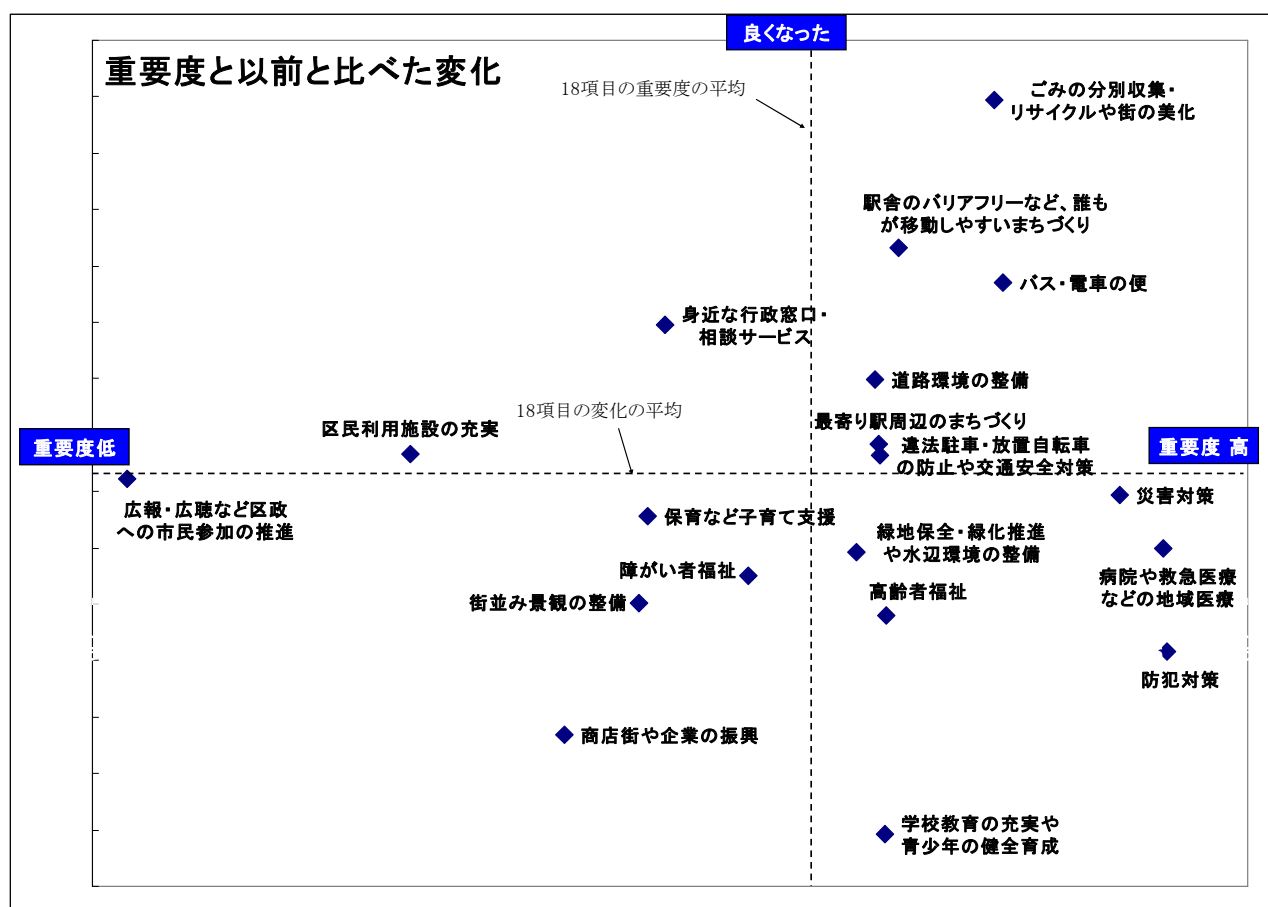
図 施策の重要度<問 1>と満足度<問 2>



項目の重要度と以前に比べた変化との関係

- 戸塚区民の18項目の指標に関する重要度と以前に比べた変化を、全18項目の平均値を中心にその分布を見たものが下図である。(重要+2点、やや重要+1点、あまり重要ではない-1点、重要ではない-2点、また、良くなった+1点、悪くなった-1点として項目ごとに重要度、変化の得点を算出し、重要度、変化の全項目の平均値を軸に指標間の比較をしたものである。)
- 重要度も変化の数値もそれぞれ全項目の平均より高かった項目、すなわち、比較的向上が期待されており、経過も良いとされている項目は、「ごみの分別収集・リサイクルや街の美化」「駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり」「バス、電車の便」「道路環境の整備」「最寄り駅周辺のまちづくり」「違法駐車・放置自転車の防止や交通安全対策」の6指標であった。
- 変化の数値は比較的低く、重要度の比較的高い項目、すなわち、向上が期待されているにもかかわらず状況があまり好転していない項目は「災害対策」「緑地保全・緑化推進や水辺環境の整備」「病院や救急医療などの地域医療」「高齢者福祉」「防犯対策」「学校教育の充実や青少年の健全育成」の6項目であった。
- 変化の数値は平均より高いが、重要度は平均より低かった項目、すなわち、状況が好転しているが、向上を図る必要性は他の項目よりも低いとされている項目は、「身近な行政窓口・相談サービス」「区民利用施設の充実」の2項目であった。
- 変化の数値は比較的低く、重要度も比較的低かった項目、すなわち、状況は好転していないが、向上がそれほど期待されていない項目は、「広報・広聴など区政への市民参加の推進」「保育など子育て支援」「障がい者福祉」「街並み景観の整備」「商店街や企業の振興」の5項目であった。

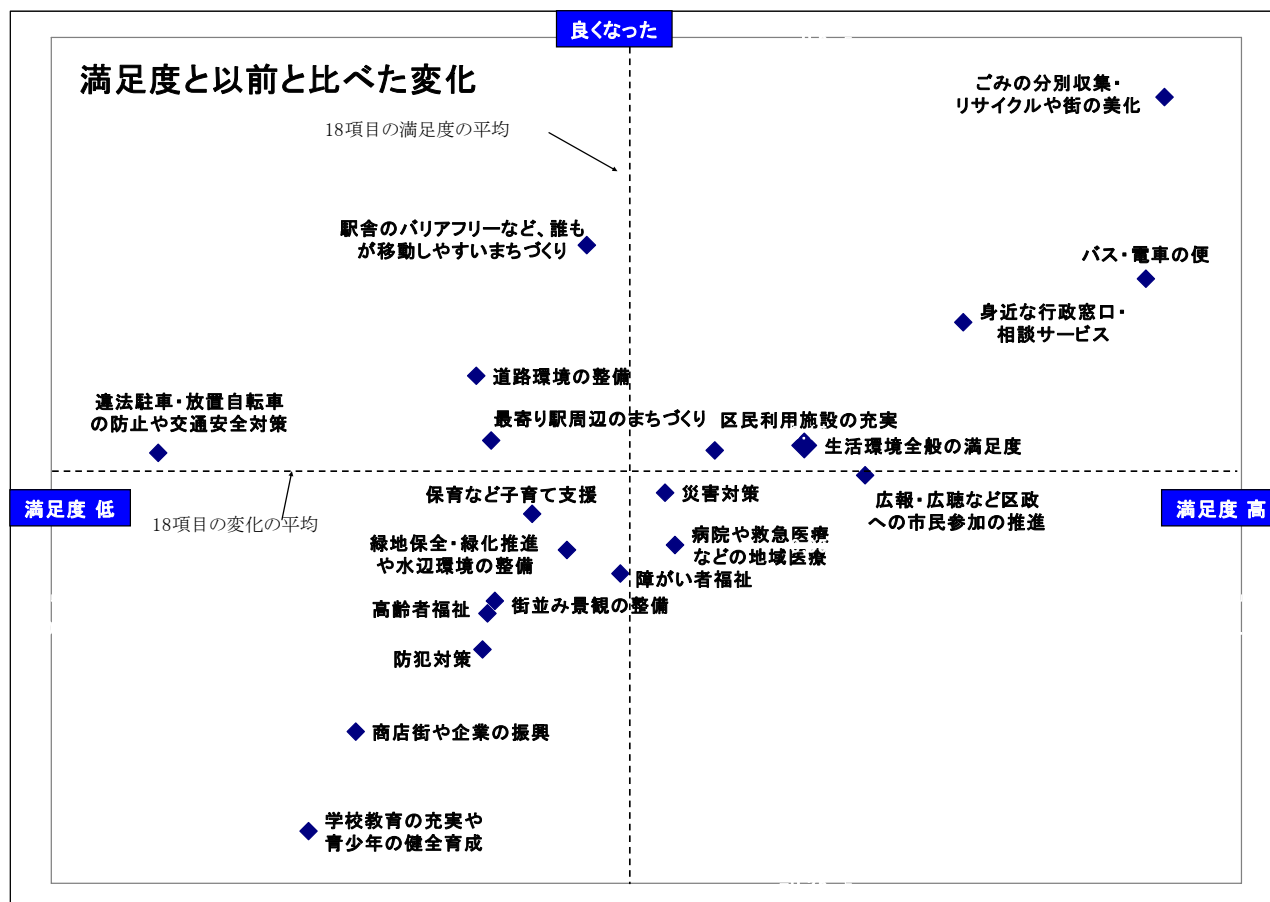
図 施策の重要度＜問1＞と以前に比べた変化＜問3＞



項目の満足度と以前に比べた変化との関係

- 戸塚区民の19項目の指標に関する満足度と以前に比べた変化を、全19項目の平均値を中心のその分布を見たものが下図である。(満足+2点、やや満足+1点、やや不満-1点、不満-2点、また、良くなった+1点、悪くなった-1点として項目ごとに満足度、変化の得点を算出し、重要度、変化の全項目の平均値を軸に指標間の比較をしたものである。)
- 満足度も変化の数値もそれぞれ全項目の平均より高かった項目、すなわち、比較的満足しており、経過も良いとされている項目は、「ごみの分別収集・リサイクルや街の美化」「バス、電車の便」「身近な行政窓口・相談サービス」「区民利用施設の充実」の4指標であった。なお、「生活環境全般」についてもここにあてはまる。
- 変化の数値は比較的低く、満足度の比較的高い項目、すなわち、比較的満足しているが、状況はあまり好転していない項目は「広報・広聴など区政への市民参加の推進」「災害対策」「病院や救急医療などの地域医療」の3項目であった。
- 変化の数値は平均より高いが、満足度は平均より低かった項目、すなわち、状況が好転しているが、まだ不満に感じている項目は、「駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり」「道路環境の整備」「最寄り駅周辺のまちづくり」「違法駐車・放置自転車の防止や交通安全対策」の4項目であった。
- 変化の数値は比較的低く、満足度も比較的低かった項目、すなわち、まだ満足していないが、状況も好転していない項目は、「保育など子育て支援」「緑地保全・緑化推進や水辺環境の整備」「障がい者福祉」「街並み景観の整備」「高齢者福祉」「防犯対策」「商店街や企業の振興」「学校教育の充実や青少年の健全育成」の8項目であった。

図 施策の満足度<問2>と以前に比べた変化<問3>

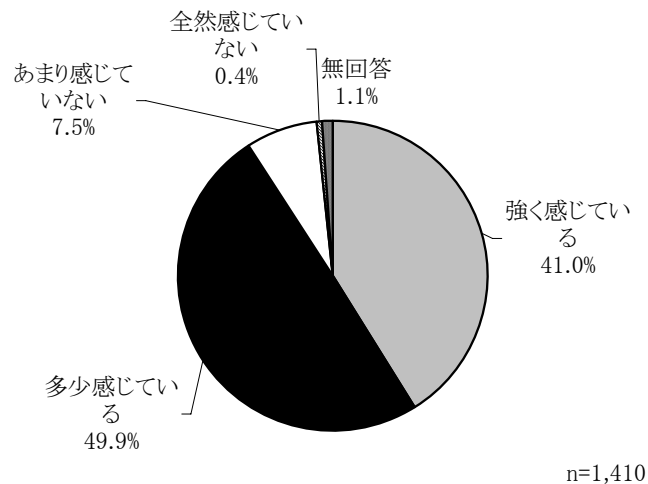


防災などについて

問2 あなたは自分の住んでいる地域で、大地震が近く起きるのではないかと不安を感じていますか、感じていませんか。(○は1つだけ)

- 最も多いのは「多少感じている」の49.9%で、全体のほぼ半数である。次に「強く感じている」が41.0%で、この2つを合わせると何らかの不安を感じている人は9割にのぼる。「あまり感じていない」は7.5%、「全然感じていない」は0.4%にとどまっている。

図 大地震への不安



■ 年齢別 大地震への不安(問2× 問25)

- 年齢別では、80代以上を除いて「多少感じている」が最も多く、80代以上では「強く感じている」が最も多くなっている。

図 年齢別 大地震への不安

問2 大地震が近く起きるのではないかと不安を感じていますか

		全体	強く感じている	多少感じている	あまり感じていない	全然感じていない	無回答
全 体		1,410	578	704	106	6	16
		100.0	41.0	49.9	7.5	0.4	1.1
問25 年齢	10代	36	36.1	47.2	13.9	2.8	0.0
	20代	127	40.9	54.3	2.4	0.0	2.4
	30代	265	40.0	48.7	10.6	0.4	0.4
	40代	194	39.2	54.1	6.2	0.5	0.0
	50代	255	40.4	51.8	7.1	0.8	0.0
	60代	273	40.7	47.6	10.3	0.0	1.5
	70代	188	42.6	48.9	4.8	0.0	3.7
	80代～	60	51.7	40.0	5.0	1.7	1.7
無回答		12	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0

■ 地域別 大地震への不安(問2× 問26)

- ・ 地域別では、「平戸平和台地域」を除いて「多少感じている」が最も多く、「平戸平和台地域」では「強く感じている」が最も多くなっている。

図 地域別 大地震への不安

問2 大地震が近く起きるのではないかと不安を感じていますか

		全体	強く感じている	多少感じている	あまり感じていない	全然感じていない	無回答
全 体		1,410 100.0	578 41.0	704 49.9	106 7.5	6 0.4	16 1.1
問26 居住地域	平戸・平戸平和台地域	133	47.4	43.6	8.3	0.8	0.0
	品濃町・川上地域	203	39.4	51.7	7.9	0.0	1.0
	名瀬・上矢部地域	157	41.4	49.7	7.6	0.0	1.3
	舞岡・柏尾地域	122	37.7	52.5	7.4	0.8	1.6
	汲沢・吉田地域	267	41.2	48.7	7.1	0.7	2.2
	倉田地域	123	43.1	50.4	4.1	1.6	0.8
	戸塚地域	179	40.2	52.0	7.8	0.0	0.0
	深谷・原宿地域	210	37.6	51.4	9.5	0.0	1.4
	無回答	16	62.5	37.5	0.0	0.0	0.0

■ 居住開始時期別 大地震への不安(問2× 問31)

- ・ 居住開始時期別では、「昭和20年（1945年）以前」「昭和20～29年（1945～1954年）」では「強く感じている」が最も多く、「昭和30～39年（1955～1964年）」では「強く感じている」と「多少感じている」が同率、それ以降の時期では「多少感じている」が最も多くなっている。

図 居住開始時期別 大地震への不安

問2 大地震が近く起きるのではないかと不安を感じていますか

		全体	強く感じている	多少感じている	あまり感じていない	全然感じていない	無回答
全 体		1,410 100.0	578 41.0	704 49.9	106 7.5	6 0.4	16 1.1
問31 居住開始 時期	昭和20年（1945年）以前	26	50.0	46.2	3.8	0.0	0.0
	昭和20～29年（1945～1954年）	19	52.6	36.8	5.3	5.3	0.0
	昭和30～39年（1955～1964年）	68	45.6	45.6	4.4	0.0	4.4
	昭和40～49年（1965～1974年）	177	37.9	52.5	7.9	0.0	1.7
	昭和50～59年（1975～1984年）	237	46.0	46.4	5.9	0.8	0.8
	昭和60～平成6年（1985～1994年）	261	37.5	51.0	10.0	0.4	1.1
	平成7～11年（1995～1999年）	162	41.4	49.4	8.0	0.6	0.6
	平成12～16年（2000～2004年）	218	39.0	54.1	6.4	0.0	0.5
	平成17年（2005年）以降	192	37.0	51.6	9.9	0.5	1.0
	無回答	50	54.0	42.0	2.0	0.0	2.0

問3 あなたのご家族では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。(〇はいくつでも)

- ・ 最も多いのは「携帯ラジオ、懐中電灯などを準備している」の 970 件である。次いで「消火器を準備している」「食料や飲料水を準備している」がそれぞれ 698 件、681 件でほぼ並び、続いて「近くの学校や公園など、避難する場所を決めている」が 575 件となっている。以下、「いつも風呂に水をためおきしている」(407 件)、「家具や冷蔵庫を固定し、転倒を防止している」(392 件)、「家族との連絡方法などを決めている」(344 件)、「貴重品などをすぐ持ち出せるように準備している」(314 件)、「防災訓練に参加している」(288 件)、「日用品(医薬品、おむつ等)をすぐ持ち出せるよう準備している」(276 件)、「建物の耐震対策をしている」(210 件) などとなっており、「特に何もしていない」は 128 件であった。
- ・ 「その他」10 件のうち具体的に記述があったのは 9 件で、計 12 件の意見が挙げられた。うち 3 件が「衣類(防寒、安全帽、靴)の準備」で、「トイレの準備」「発電機の準備」「バール等の準備」がそれぞれ 2 件となっている。

図 災害に備えてとっている対策

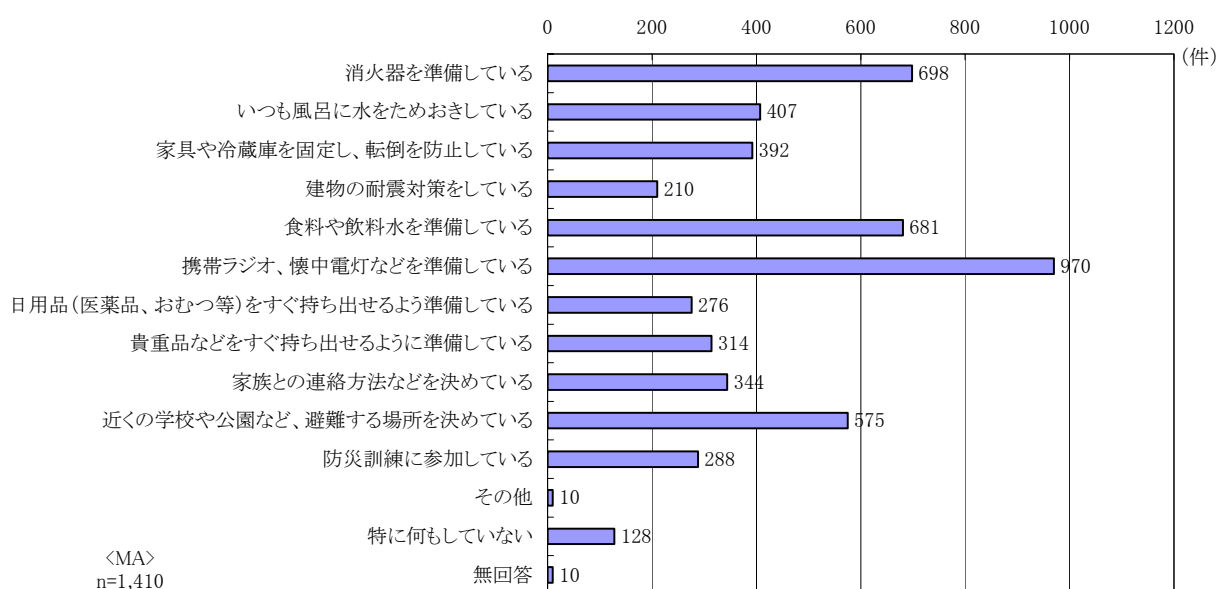


図 「その他」意見概要

意見内容	件数
衣類(防寒、安全帽、靴)の準備	3
トイレの準備	2
発電機の準備	2
バール等の準備	2
箆笥の上などに物を置かない	1
窓ガラス飛散防止対策	1
帰宅方法を決めている	1
計	12

■ 年齢別 災害に備えてとっている対策(問3× 問25)

- ・ いずれの世代も「携帯ラジオ、懐中電灯などを準備している」が最も多く、年齢が上がるにつれその割合も高まり、特に 80 代以上では 9 割に達する。また、60 代以上の世代ではそれ以下に比べて「消火器を準備している」「いつも風呂に水をためおきしている」「近くの学校や公園など、避難する場所を決めている」「防災訓練に参加している」の数値が高く、さらに 80 代以上では「食料や飲料水を準備している」「日用品（医薬品、おむつ等）をすぐ持ち出せるよう準備している」「貴重品などをすぐ持ち出せるように準備している」「家族との連絡方法などを決めている」も他世代より高くなっており、高齢者世代になるほど災害への備えを入念にしている様子が伺える。一方、10 代から 30 代にかけては、それ以上の世代に比べて「特に何もしていない」の割合がやや高く、1 割を超えている。

図 年齢別 災害に備えてとっている対策

問3 あなたのご家族では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、
どのような対策をとっていますか（複数回答）

		全体	消火器を準備している	いつも風呂に水をためおきしている	家具や冷蔵庫を固定し、転倒を防止している	建物の耐震対策をしている	食料や飲料水を準備している	携帯ラジオ、懐中電灯などを準備している	日用品（医薬品、おむつ等）をすぐ持ち出せるよう準備している
全 体		1,410 —	698 49.5	407 28.9	392 27.8	210 14.9	681 48.3	970 68.8	276 19.6
問25 年齢	10代	36	44.4	11.1	30.6	16.7	44.4	69.4	11.1
	20代	127	33.1	16.5	27.6	11.0	41.7	50.4	15.7
	30代	265	31.7	14.0	23.0	9.1	42.6	54.7	19.2
	40代	194	41.2	19.6	31.4	18.0	44.8	62.9	17.5
	50代	255	50.6	28.6	25.1	13.7	49.4	74.5	18.8
	60代	273	64.8	42.5	29.3	17.2	52.4	78.0	20.9
	70代	188	66.0	46.8	34.0	19.1	54.3	79.8	22.3
	80代～	60	65.0	45.0	23.3	21.7	60.0	90.0	31.7
	無回答	12	58.3	25.0	16.7	0.0	41.7	58.3	8.3

		全体	貴重品などをすぐ持ち出せるように準備している	家族との連絡方法などを決めている	近くの学校や公園など、避難する場所を決めている	防災訓練に参加している	その他	特に何もしていない	無回答
全 体		1,410 —	314 22.3	344 24.4	575 40.8	288 20.4	10 0.7	128 9.1	10 0.7
問25 年齢	10代	36	25.0	22.2	41.7	13.9	2.8	16.7	0.0
	20代	127	20.5	20.5	29.1	6.3	1.6	18.9	2.4
	30代	265	15.5	21.1	30.2	8.3	0.0	16.6	0.4
	40代	194	18.6	27.8	36.1	15.5	0.0	7.2	0.0
	50代	255	16.1	25.5	40.8	19.6	0.4	7.5	0.0
	60代	273	23.8	24.9	46.5	32.2	1.1	3.7	0.7
	70代	188	36.7	21.3	54.3	33.5	1.6	3.2	2.1
	80代～	60	40.0	38.3	55.0	31.7	0.0	6.7	0.0
	無回答	12	25.0	33.3	58.3	25.0	0.0	8.3	0.0

■ 地域別 災害に備えてとっている対策(問3× 問26)

- ・ いずれの地域も「携帯ラジオ、懐中電灯などを準備している」が最も多くなっている。また、「舞岡・柏尾地域」では「いつも風呂に水をためおきしている」、「倉田地域」では「建物の耐震対策をしている」、「平戸・平戸平和台地域」では「家族との連絡方法などを決めている」が他地域に比べてやや高くなっている。

図 地域別 災害に備えてとっている対策

問3 あなたのご家族では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか(複数回答)

		全体	消火器を準備している	いつも風呂に水をためおきしている	家具や冷蔵庫を固定し、転倒を防止している	建物の耐震対策をしている	食料や飲料水を準備している	携帯ラジオ、懐中電灯などを準備している	日用品(医薬品、おむつ等)をすぐ持ち出せるよう準備している
全 体		1,410 —	698 49.5	407 28.9	392 27.8	210 14.9	681 48.3	970 68.8	276 19.6
問26 居住地域	平戸・平戸平和台地域	133	45.1	29.3	26.3	18.8	48.9	66.2	15.8
	品濃町・川上地域	203	46.3	21.2	34.5	15.3	46.8	66.5	18.2
	名瀬・上矢部地域	157	51.6	29.3	24.2	7.0	48.4	61.8	22.3
	舞岡・柏尾地域	122	50.8	42.6	27.9	15.6	46.7	73.0	19.7
	汲沢・吉田地域	267	50.2	28.8	24.3	13.1	50.6	73.0	17.6
	倉田地域	123	51.2	32.5	31.7	23.6	49.6	71.5	22.8
	戸塚地域	179	46.4	20.1	26.8	16.2	45.3	66.5	15.1
	深谷・原宿地域	210	54.3	32.9	28.1	14.8	48.6	71.4	25.7
	無回答	16	43.8	31.3	25.0	0.0	56.3	56.3	18.8

		全体	貴重品などをすぐ持ち出せるように準備している	家族との連絡方法などを決めている	近くの学校や公園など、避難する場所を決めている	防災訓練に参加している	その他	特に何もしていない	無回答
全 体		1,410 —	314 22.3	344 24.4	575 40.8	288 20.4	10 0.7	128 9.1	10 0.7
問26 居住地域	平戸・平戸平和台地域	133	23.3	33.1	44.4	21.1	0.0	9.0	0.8
	品濃町・川上地域	203	21.7	27.6	41.4	21.7	1.0	6.9	0.5
	名瀬・上矢部地域	157	17.2	24.8	36.9	23.6	0.6	11.5	1.3
	舞岡・柏尾地域	122	27.0	18.9	34.4	19.7	0.0	5.7	1.6
	汲沢・吉田地域	267	18.7	22.5	38.2	18.4	1.5	9.4	0.4
	倉田地域	123	26.0	23.6	43.9	22.8	0.0	8.9	0.8
	戸塚地域	179	19.6	22.9	43.0	13.4	1.1	12.3	0.0
	深谷・原宿地域	210	27.1	22.4	44.3	23.8	0.5	7.6	1.0
	無回答	16	31.3	31.3	37.5	25.0	0.0	18.8	0.0

■ 居住開始時期別 災害に備えてとっている対策(問3× 問31)

- ・ いずれも「携帯ラジオ、懐中電灯などを準備している」が最も多く、特に「昭和 20 年（1945 年）以前」から「昭和 30～39 年（1955～1964 年）」までで高い数値となっている。全体に居住開始年数が古いほど対策をとっているとしている数値が高い傾向にあり、「消火器を準備している」は「昭和 20 年（1945 年）以前」から「昭和 50～59 年（1975～1984 年）」まで、「防災訓練に参加している」は「昭和 20 年（1945 年）以前」から「昭和 40～49 年（1965～1974 年）」までの年代で数値が高く、「いつも風呂に水をためおきしている」ではここから「昭和 20～29 年（1945～1954 年）」を除いた年代で数値が高くなっている。
- ・ その他には、「食料や飲料水を準備している」は「昭和 20 年（1945 年）以前」「昭和 30～39 年（1955～1964 年）」、「建物の耐震対策をしている」「家族との連絡方法などを決めている」では「昭和 20～29 年（1945～1954 年）」、「貴重品などをすぐ持ち出せるように準備している」は「昭和 30～39 年（1955～1964 年）」、「近くの学校や公園など、避難する場所を決めている」は「昭和 30～39 年（1955～1964 年）」「昭和 40～49 年（1965～1974 年）」で、それぞれ他に比べて数値が高くなっている。
- ・ 「平成 17 年（2005 年）以降」については「特に何もしていない」の数値が他に比べて高い。

図 居住開始時期別 災害に備えてとっている対策

問3 あなたの大家族では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか（複数回答）

		全体	消火器を準備している	いつも風呂に水をためおきしている	家具や冷蔵庫を固定し、転倒防止している	建物の耐震対策をしている	食料や飲料水を準備している	携帯ラジオ、懐中電灯などを準備している	日用品（医薬品、おむつ等）をすぐ持ち出せるよう準備している
全 体		1,410	698	407	392	210	681	970	276
		—	49.5	28.9	27.8	14.9	48.3	68.8	19.6
問31 居住開始 時期	昭和20年（1945年）以前	26	76.9	50.0	34.6	23.1	61.5	96.2	23.1
	昭和20～29年（1945～1954年）	19	63.2	26.3	21.1	42.1	57.9	78.9	15.8
	昭和30～39年（1955～1964年）	68	67.6	44.1	26.5	20.6	64.7	82.4	25.0
	昭和40～49年（1965～1974年）	177	63.3	41.2	29.9	18.1	46.9	73.4	20.3
	昭和50～59年（1975～1984年）	237	62.9	39.2	31.6	15.2	49.4	76.4	21.1
	昭和60～平成6年（1985～1994年）	261	48.7	26.8	29.1	11.9	51.7	70.1	17.2
	平成7～11年（1995～1999年）	162	45.1	23.5	25.3	11.7	42.6	65.4	20.4
	平成12～16年（2000～2004年）	218	34.4	20.2	26.1	12.4	52.3	63.3	19.3
	平成17年（2005年）以降	192	30.2	14.1	23.4	12.5	35.4	52.1	17.2
無回答		50	52.0	28.0	28.0	26.0	48.0	72.0	22.0

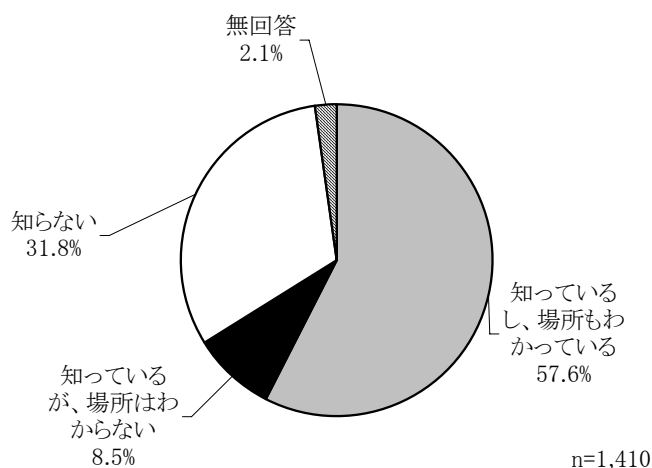
		全体	貴重品などをすぐ持ち出せるように準備している	家族との連絡方法などを決めている	近くの学校や公園など、避難する場所を決めている	防災訓練に参加している	その他	特に何もしていない	無回答
全 体		1,410	314	344	575	288	10	128	10
		—	22.3	24.4	40.8	20.4	0.7	9.1	0.7
問31 居住開始 時期	昭和20年（1945年）以前	26	26.9	30.8	50.0	38.5	0.0	3.8	0.0
	昭和20～29年（1945～1954年）	19	21.1	42.1	36.8	31.6	5.3	10.5	0.0
	昭和30～39年（1955～1964年）	68	44.1	26.5	55.9	35.3	0.0	1.5	2.9
	昭和40～49年（1965～1974年）	177	22.6	31.1	52.0	34.5	1.1	4.5	1.1
	昭和50～59年（1975～1984年）	237	23.2	20.3	46.0	26.6	1.7	4.6	0.4
	昭和60～平成6年（1985～1994年）	261	20.7	26.8	43.3	14.9	0.0	9.6	0.8
	平成7～11年（1995～1999年）	162	18.5	25.3	36.4	14.8	1.2	9.9	0.0
	平成12～16年（2000～2004年）	218	22.5	24.8	37.2	18.3	0.5	11.0	0.5
	平成17年（2005年）以降	192	16.7	14.6	21.9	7.3	0.0	19.8	0.5
無回答		50	26.0	28.0	42.0	14.0	0.0	4.0	2.0

問4 あなたはご自分のいつとき避難場所、広域避難場所、地域防災拠点、地域医療救護拠点について知っていますか。(それぞれに○は1つだけ)

(1) いつとき避難場所

- ・ 「知っているし、場所もわかっている」が57.6%と6割近くにのぼる。次いで「知らない」(31.8%)、「知っているが、場所はわからない」(8.5%)となっている。

図 いつとき避難場所の認知度



■ 年齢別 いつとき避難場所の認知度(問4-1× 問25)

- ・ 10代から30代にかけての若い世代では「知らない」、40代以上の世代では「知っているし、場所もわかっている」が最も多くなっており、世代で回答が2分化した。また、「知っているし、場所もわかっている」の数値は60代、70代で特に高くなっている。

図 年齢別 いつとき避難場所の認知度

問4 (1) いつとき避難場所について知っていますか

		全体	知っているし、場所もわかっている	知っているが、場所はわからない	知らない	無回答
全 体		1,410 100.0	812 57.6	120 8.5	448 31.8	30 2.1
問25 年齢	10代	36	44.4	2.8	52.8	0.0
	20代	127	42.5	7.1	48.0	2.4
	30代	265	38.9	5.7	54.3	1.1
	40代	194	54.1	8.8	37.1	0.0
	50代	255	65.5	9.0	24.7	0.8
	60代	273	69.6	8.8	18.7	2.9
	70代	188	72.9	12.8	10.6	3.7
	80代～ 無回答	60 12	51.7 75.0	8.3 16.7	28.3 8.3	11.7 0.0

■ 居住開始時期別 いっとき避難場所の認知度(問4-1× 問31)

- ・ 居住開始時期が「昭和 20 年（1945 年）以前」から「平成 7～11 年（1995～1999 年）」までにかけては「知っているし、場所もわかっている」が最も多く、「平成 12～16 年（2000～2004 年）」では「知っているし、場所もわかっている」と「知らない」が同率、「平成 17 年（2005 年）以降」では「知らない」が最も多くなっており、「平成 12～16 年（2000～2004 年）」を境に回答が 2 分化した。
- ・ また、「昭和 20～29 年（1945～1954 年）」では「知っているが、場所はわからない」の数値が他に比べて高くなっている。

図 居住開始時期別 いっとき避難場所の認知度

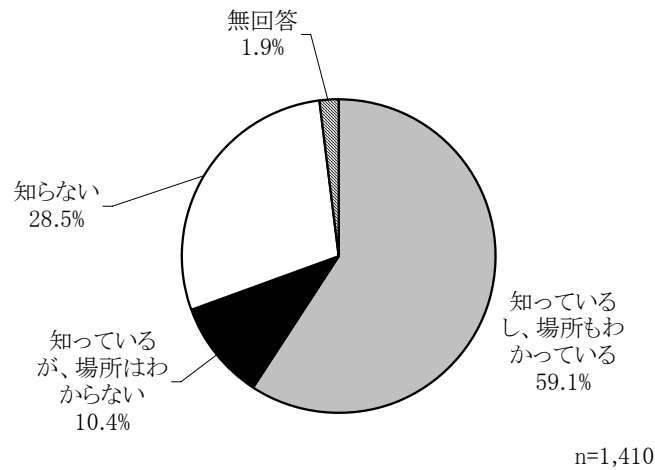
問 4（1）いっとき避難場所について知っていますか

		全体	知っている し、場所も わかっている	知っている が、場所は わからない	知らない	無回答
全 体		1,410 100.0	812 57.6	120 8.5	448 31.8	30 2.1
問31 居住開始 時期	昭和20年（1945年）以前	26	61.5	15.4	15.4	7.7
	昭和20～29年（1945～1954年）	19	57.9	21.1	15.8	5.3
	昭和30～39年（1955～1964年）	68	70.6	11.8	14.7	2.9
	昭和40～49年（1965～1974年）	177	65.5	11.3	20.3	2.8
	昭和50～59年（1975～1984年）	237	70.9	5.5	21.1	2.5
	昭和60～平成 6 年（1985～1994年）	261	63.2	8.8	26.1	1.9
	平成 7～11年（1995～1999年）	162	55.6	8.6	34.6	1.2
	平成12～16年（2000～2004年）	218	45.0	8.3	45.0	1.8
平成17年（2005年）以降		192	34.9	6.3	57.8	1.0
無回答		50	66.0	8.0	24.0	2.0

(2) 広域避難場所

- ・ 「知っているし、場所もわかっている」が59.1%とほぼ6割に達し、広域避難場所の認知度は比較的高くなっている。次いで「知らない」(28.5%)、「知っているが、場所はわからない」(10.4%)となっている。

図 広域避難場所の認知度



■ 年齢別 広域避難場所の認知度(問4-2× 問25)

- ・ いずれの世代でも「知っているし、場所もわかっている」が最も多い。特に60代以上の高齢者で認知度は高くなっている。
- ・ また、20代から30代では「知らない」の数値が他世代に比べて高くなっている。

図 年齢別 広域避難場所の認知度

問4(2) 広域避難場所について知っていますか

		全体	知っているし、場所もわかっている	知っているが、場所はわからない	知らない	無回答
全 体		1,410	834	147	402	27
		100.0	59.1	10.4	28.5	1.9
問25 年齢	10代	36	55.6	8.3	36.1	0.0
	20代	127	44.1	11.8	40.9	3.1
	30代	265	46.8	7.9	44.5	0.8
	40代	194	58.8	10.3	30.9	0.0
	50代	255	63.1	11.0	25.9	0.0
	60代	273	68.5	9.5	19.4	2.6
	70代	188	66.5	13.8	14.4	5.3
	80代～	60	65.0	6.7	21.7	6.7
無回答		12	66.7	33.3	0.0	0.0

■ 家族構成別 広域避難場所の認知度(問4-2× 問28)

- ・ 「ひとり暮らし」では「知らない」が、それ以外については「知っているし、場所もわかっている」が最も多くなっている。

図 家族構成別 広域避難場所の認知度

問4(2) 広域避難場所について知っていますか

		全体	知っている し、場所も わかっている	知っている が、場所は わからない	知らない	無回答
全 体		1,410 100.0	834 59.1	147 10.4	402 28.5	27 1.9
問28 家族構成	ひとり暮らし	91	36.3	16.5	40.7	6.6
	夫婦だけ	386	58.8	13.0	26.7	1.6
	親と子(2世代)	775	61.9	8.5	27.9	1.7
	祖父母と親と子(3世代)	107	59.8	9.3	29.9	0.9
	その他	20	55.0	5.0	40.0	0.0
	無回答	31	61.3	16.1	19.4	3.2

■ 居住開始時期別 広域避難場所の認知度(問4-2× 問31)

- ・ 居住開始時期が「昭和20年(1945年)以前」から「平成12～16年(2000～2004年)」にかけては「知っているし、場所もわかっている」が最も多く、「平成17年(2005年)以降」のみ「知らない」が最も多くなっている。

図 居住開始時期別 広域避難場所の認知度

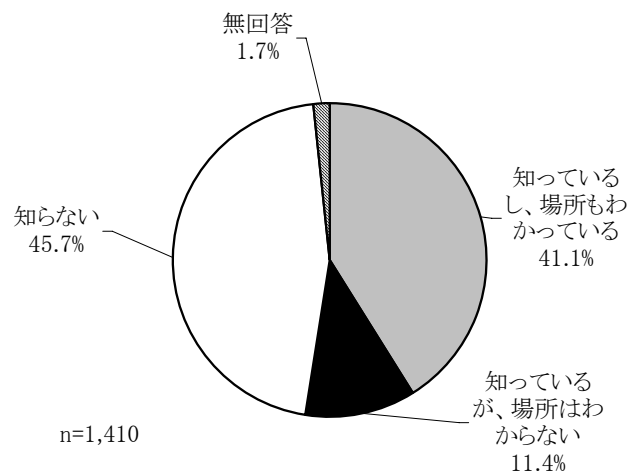
問4(2) 広域避難場所について知っていますか

		全体	知っている し、場所も わかっている	知っている が、場所は わからない	知らない	無回答
全 体		1,410 100.0	834 59.1	147 10.4	402 28.5	27 1.9
問31 居住開始 時期	昭和20年(1945年)以前	26	61.5	11.5	23.1	3.8
	昭和20～29年(1945～1954年)	19	57.9	10.5	26.3	5.3
	昭和30～39年(1955～1964年)	68	69.1	11.8	14.7	4.4
	昭和40～49年(1965～1974年)	177	68.4	13.6	15.3	2.8
	昭和50～59年(1975～1984年)	237	70.9	5.9	21.9	1.3
	昭和60～平成6年(1985～1994年)	261	66.3	10.7	21.1	1.9
	平成7～11年(1995～1999年)	162	56.2	11.7	31.5	0.6
	平成12～16年(2000～2004年)	218	51.4	11.5	35.8	1.4
	平成17年(2005年)以降	192	32.8	10.4	56.3	0.5
	無回答	50	64.0	8.0	20.0	8.0

(3) 地域防災拠点

- ・ 「知らない」が45.7%で最も多く、「知っているし、場所もわかっている」の41.1%をやや上回っている。「知らない」は11.4%となっている。

図 地域防災拠点の認知度



■ 年齢別 地域防災拠点の認知度(問4-3× 問25)

- ・ 40代、60代、70代では「知っているし、場所もわかっている」、それ以外の世代については「知らない」が最も多くなっている。
- ・ また、70代では「知っているが、場所はわからない」の数値が他世代に比べてやや高い。

図 年齢別 地域防災拠点の認知度

問4(3) 地域防災拠点について知っていますか

		全体	知っているし、場所もわかっている	知っているが、場所はわからない	知らない	無回答
全 体		1,410	580	161	645	24
		100.0	41.1	11.4	45.7	1.7
問25 年齢	10代	36	47.2	2.8	50.0	0.0
	20代	127	30.7	9.4	56.7	3.1
	30代	265	33.2	6.4	59.6	0.8
	40代	194	49.0	8.2	42.8	0.0
	50代	255	42.0	11.4	46.7	0.0
	60代	273	45.8	14.7	37.0	2.6
	70代	188	42.6	20.2	33.5	3.7
	80代～	60	36.7	8.3	48.3	6.7
	無回答	12	58.3	25.0	16.7	0.0

■ 地域別 地域防災拠点の認知度(問4-3× 問26)

- 「倉田地域」のみ「知っているし、場所もわかっている」が最も多くなっており、それ以外の地域については「知らない」が最も多くなっている。

図 地域別 地域防災拠点の認知度

問4(3) 地域防災拠点について知っていますか

		全体	知っている し、場所も わかっている	知っている が、場所は わからない	知らない	無回答
全 体		1,410 100.0	580 41.1	161 11.4	645 45.7	24 1.7
問26 居住地域	平戸・平戸平和台地域	133	38.3	13.5	47.4	0.8
	品濃町・川上地域	203	42.9	6.9	49.8	0.5
	名瀬・上矢部地域	157	42.7	8.9	45.9	2.5
	舞岡・柏尾地域	122	38.5	16.4	42.6	2.5
	汲沢・吉田地域	267	40.8	11.6	46.1	1.5
	倉田地域	123	45.5	8.1	43.9	2.4
	戸塚地域	179	42.5	10.6	46.4	0.6
	深谷・原宿地域	210	38.6	14.8	43.8	2.9
	無回答	16	37.5	25.0	31.3	6.3

■ 家族形態別 地域防災拠点の認知度(問4-3× 問27)

- 「同居している小学生の子ども」及び「同居・別居を問わず75歳以上の家族」が「いる」場合のみ「知っているし、場所もわかっている」が最も多くなっており、それ以外の家族形態では「知らない」が最も多くなっている。
- また「同居している未就学の子ども」が「いる」場合に「知らない」の数値が他に比べて高くなっている。

図 家族形態別 地域防災拠点の認知度

問4(3) 地域防災拠点について知っていますか

			全体	知っている し、場所も わかっている	知っている が、場所は わからない	知らない	無回答
全 体			1,410 100.0	580 41.1	161 11.4	645 45.7	24 1.7
問27 家族形態	A 同居している 未就学の子ども	いる	184	33.7	4.3	60.9	1.1
		いない	1,128	41.7	12.8	44.0	1.6
		無回答	98	49.0	9.2	37.8	4.1
	B 同居している 小学生の子ども	いる	162	47.5	6.2	45.1	1.2
		いない	1,150	39.8	12.2	46.5	1.5
		無回答	98	45.9	11.2	37.8	5.1
	C 同居・別居を問わず 65～74歳の家族	いる	540	41.9	11.1	45.2	1.9
		いない	718	40.9	10.9	47.4	0.8
		無回答	152	39.5	15.1	40.1	5.3
	D 同居・別居を問わず 75歳以上の家族	いる	451	45.5	10.9	42.4	1.3
		いない	817	38.3	11.3	49.2	1.2
		無回答	142	43.7	14.1	36.6	5.6
	E 日中、家で子どもの 世話をする方	いる	338	45.0	5.9	48.2	0.9
		いない	855	39.1	12.7	46.8	1.4
		無回答	217	43.3	14.7	37.8	4.1
	F 共働き	している	388	40.2	12.9	46.6	0.3
		していない	884	40.7	10.3	47.3	1.7
			138	46.4	14.5	33.3	5.8

■ 職業別 地域防災拠点の認知度(問4-3× 問29)

- 「主婦・主夫」「学生」「無職」は「知っているし、場所もわかっている」、「管理職」「専門技術職」「事務職」「現業職」では「知らない」が最も多く、「自営業」「その他」ではこれらが同率となっている。

図 職業別 地域防災拠点の認知度

問4(3) 地域防災拠点について知っていますか

		全体	知っている し、場所も わかっている	知っている が、場所は わからない	知らない	無回答
全 体		1,410 100.0	580 41.1	161 11.4	645 45.7	24 1.7
問29 職業	自営業	81	43.2	11.1	43.2	2.5
	管理職	76	36.8	6.6	55.3	1.3
	専門技術職	100	28.0	8.0	63.0	1.0
	事務職	177	37.9	8.5	52.5	1.1
	現業職	162	32.7	16.7	49.4	1.2
	主婦・主夫	352	47.7	9.4	42.3	0.6
	学生	57	49.1	1.8	47.4	1.8
	無職	267	44.6	16.5	35.6	3.4
	その他	76	40.8	17.1	40.8	1.3
	無回答	62	37.1	9.7	48.4	4.8

■ 居住開始時期別 地域防災拠点の認知度(問4-3× 問31)

- 居住開始時期が「昭和20年(1945年)以前」から「昭和60～平成6年(1985～1994年)」にかけては「知っているし、場所もわかっている」、「平成7～11年(1995～1999年)」から「平成17年(2005年)以降」では「知らない」が最も多くなっており、居住開始時期が新しいほど認知度は低い。
- また「昭和30～39年(1955～1964年)」では「知っているが、場所はわからない」の数値が他に比べて高くなっている。

図 居住開始時期別 地域防災拠点の認知度

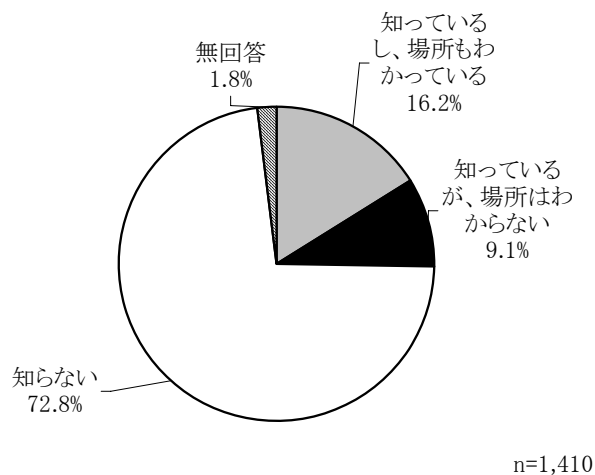
問4(3) 地域防災拠点について知っていますか

		全体	知っている し、場所も わかっている	知っている が、場所は わからない	知らない	無回答
全 体		1,410 100.0	580 41.1	161 11.4	645 45.7	24 1.7
問31 居住開始 時期	昭和20年(1945年)以前	26	50.0	11.5	34.6	3.8
	昭和20～29年(1945～1954年)	19	47.4	15.8	26.3	10.5
	昭和30～39年(1955～1964年)	68	48.5	23.5	25.0	2.9
	昭和40～49年(1965～1974年)	177	47.5	12.4	37.9	2.3
	昭和50～59年(1975～1984年)	237	46.0	11.8	41.4	0.8
	昭和60～平成6年(1985～1994年)	261	49.0	9.6	39.8	1.5
	平成7～11年(1995～1999年)	162	41.4	10.5	46.9	1.2
	平成12～16年(2000～2004年)	218	34.9	11.0	52.8	1.4
	平成17年(2005年)以降	192	20.3	9.4	69.3	1.0
	無回答	50	44.0	10.0	42.0	4.0

(4) 地域医療救護拠点

- ・ 「知らない」が72.8%で圧倒的に多い。「知っているが、場所はわからない」は9.1%、「知っているし、場所もわかっている」は16.2%に留まっており、地域医療救護拠点の認知度は低い。

図 地域医療救護拠点の認知度



■ 年齢別 地域医療救護拠点の認知度(問4－4× 問25)

- ・ いずれの世代も「知らない」が最も多い。特に若い世代で認知度が低く、10代、30代では「知らない」が8割を超えている。

図 年齢別 地域医療救護拠点の認知度

問4（4）地域医療救護拠点について知っていますか

		全体	知っている し、場所も わかっている	知っている が、場所は わからない	知らない	無回答
全 体		1,410 100.0	229 16.2	129 9.1	1,026 72.8	26 1.8
問25 年齢	10代	36	11.1	2.8	86.1	0.0
	20代	127	11.0	6.3	79.5	3.1
	30代	265	8.3	4.2	86.8	0.8
	40代	194	20.1	6.7	73.2	0.0
	50代	255	14.9	8.2	76.1	0.8
	60代	273	21.6	11.0	64.8	2.6
	70代	188	21.8	17.6	57.4	3.2
	80代～ 無回答	60 12	16.7 16.7	16.7 16.7	58.3 66.7	8.3 0.0

■ 居住開始時期別 地域医療救護拠点の認知度(問4-4× 問31)

- ・ いずれも「知らない」が最も多く、特に居住開始時期が新しいほど認知度が低い。
- ・ 「昭和 20～29 年(1945～1954 年)」では「知っているし、場所もわかっている」、「昭和 20 年(1945 年) 以前」と「昭和 30～39 年(1955～1964 年)」では「知っているが、場所はわからない」の数値が他に比べて高くなっている。

図 居住開始時期別 地域医療救護拠点の認知度

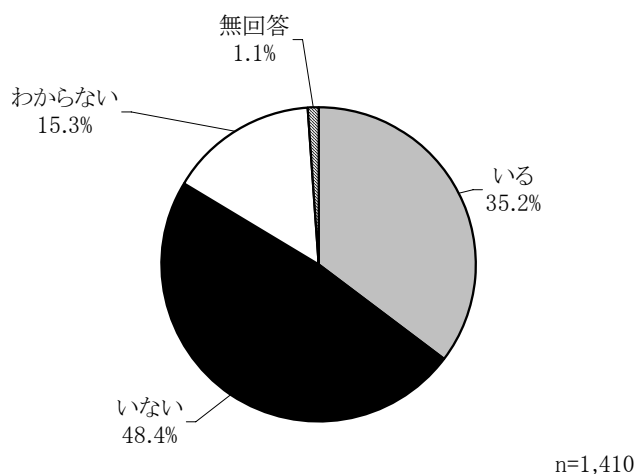
問 4 (4) 地域医療救護拠点について知っていますか

		全体	知っている し、場所も わかっている	知っている が、場所は わからない	知らない	無回答
全 体		1,410 100.0	229 16.2	129 9.1	1,026 72.8	26 1.8
問31 居住開始 時期	昭和20年(1945年)以前	26	19.2	19.2	53.8	7.7
	昭和20～29年(1945～1954年)	19	31.6	5.3	57.9	5.3
	昭和30～39年(1955～1964年)	68	25.0	19.1	51.5	4.4
	昭和40～49年(1965～1974年)	177	19.8	10.7	66.7	2.8
	昭和50～59年(1975～1984年)	237	19.4	9.3	70.9	0.4
	昭和60～平成6年(1985～1994年)	261	18.0	8.4	71.3	2.3
	平成7～11年(1995～1999年)	162	11.7	6.8	79.6	1.9
	平成12～16年(2000～2004年)	218	12.4	6.9	79.4	1.4
	平成17年(2005年)以降	192	8.3	8.3	82.8	0.5
無回答		50	22.0	10.0	66.0	2.0

問5 大地震などの災害が起こった時に、あなたの家やご近所に、ひとりで避難することが困難な方、例えば、高齢者や障がい者、乳幼児、病人・けが人、妊産婦、外国人などの心配な人はいますか。(○は1つだけ)

- ・ 半数近くの 48.4%が「いない」としているが、「いる」も 35.2%にのぼっている。「わからない」が 15.3%である。

図 災害時にひとりで避難することが困難な人の有無



■ 年齢別 災害時にひとりで避難することが困難な人の有無(問5× 問25)

- ・ 子育て世代の 30 代と高齢者世代の 80 代以上で「いる」、70 代では「いる」と「いない」が同率、それ以外の世代では「いない」が多い。

図 年齢別 災害時にひとりで避難することが困難な人の有無

問5 災害が起こった時に、あなたの家やご近所に、ひとりで避難することが困難な方はいますか

		全体	いる	いない	わからない	無回答
全 体		1,410	497	682	216	15
		100.0	35.2	48.4	15.3	1.1
問25 年齢	10代	36	25.0	55.6	19.4	0.0
	20代	127	29.9	51.2	17.3	1.6
	30代	265	46.0	41.9	11.7	0.4
	40代	194	25.3	54.6	19.6	0.5
	50代	255	27.8	58.8	13.3	0.0
	60代	273	32.6	47.6	17.9	1.8
	70代	188	41.0	41.0	14.9	3.2
	80代～	60	65.0	28.3	6.7	0.0
無回答		12	25.0	50.0	25.0	0.0

■ 地域別 災害時にひとりで避難することが困難な人の有無(問5× 問26)

- ・ 「深谷・原宿地域」では「いる」、それ以外の地域では「いない」が多くなっている。

図 地域別 災害時にひとりで避難することが困難な人の有無

問5 災害が起こった時に、あなたの家やご近所に、
ひとりで避難することが困難な方はいますか

		全体	いる	いない	わからない	無回答
全 体		1,410	497	682	216	15
		100.0	35.2	48.4	15.3	1.1
問26 居住地域	平戸・平戸平和台地域	133	33.1	52.6	11.3	3.0
	品濃町・川上地域	203	32.0	52.7	15.3	0.0
	名瀬・上矢部地域	157	31.2	49.7	17.8	1.3
	舞岡・柏尾地域	122	28.7	54.1	16.4	0.8
	汲沢・吉田地域	267	39.7	45.3	14.2	0.7
	倉田地域	123	30.1	48.0	18.7	3.3
	戸塚地域	179	34.6	50.3	14.5	0.6
	深谷・原宿地域	210	44.3	39.5	15.7	0.5
	無回答	16	37.5	50.0	12.5	0.0

■ 家族形態別 災害時にひとりで避難することが困難な人の有無(問5× 問27)

- ・ 「同居している未就学の子ども」が「いる」ケース、「日中、家で子どもの世話をする人」が「いる」ケースにおいて「いる」が多く、それ以外のケースでは「いない」が多くなっている。

図 家族形態別 災害時にひとりで避難することが困難な人の有無

問5 災害が起こった時に、あなたの家やご近所に、
ひとりで避難することが困難な方はいますか

			全体	いる	いない	わからない	無回答
全 体			1,410	497	682	216	15
			100.0	35.2	48.4	15.3	1.1
問27 家族形態	A 同居している 未就学の子ども	いる	184	74.5	15.8	9.2	0.5
		いない	1,128	28.2	54.3	16.7	0.9
		無回答	98	42.9	41.8	11.2	4.1
	B 同居している 小学生の子ども	いる	162	36.4	51.2	10.5	1.9
		いない	1,150	34.3	48.7	16.4	0.6
		無回答	98	44.9	39.8	10.2	5.1
	C 同居・別居を問わず 65～74歳の家族	いる	540	39.8	44.3	14.8	1.1
		いない	718	30.2	53.6	15.9	0.3
		無回答	152	42.8	38.2	14.5	4.6
	D 同居・別居を問わず 75歳以上の家族	いる	451	40.8	43.7	15.3	0.2
		いない	817	31.8	51.7	16.0	0.5
		無回答	142	37.3	44.4	11.3	7.0
	E 日中、家で子どもの 世話をする方	いる	338	50.0	39.1	10.4	0.6
		いない	855	28.4	53.1	18.0	0.5
		無回答	217	39.2	44.2	12.4	4.1
	F 共働き	している	388	27.6	55.7	16.2	0.5
		していない	884	37.7	45.9	15.6	0.8
			138	41.3	43.5	10.9	4.3

問5-1（問5で「1」と答えた方に）その方はどのような人ですか。（○はいくつでも）

- ・ 「高齢者（歩行困難や認知症等で介護が必要な方、ひとり暮らしの方など）」が 277 件で突出して多い。次いで「乳幼児」（152 件）、「障がい者」（80 件）、「病人・けが人（歩行が困難な方など）」（43 件）、「妊産婦」（31 件）、「外国人」（12 件）、「その他」（3 件）の順となっている。

図 災害時にひとりで避難することが困難な人

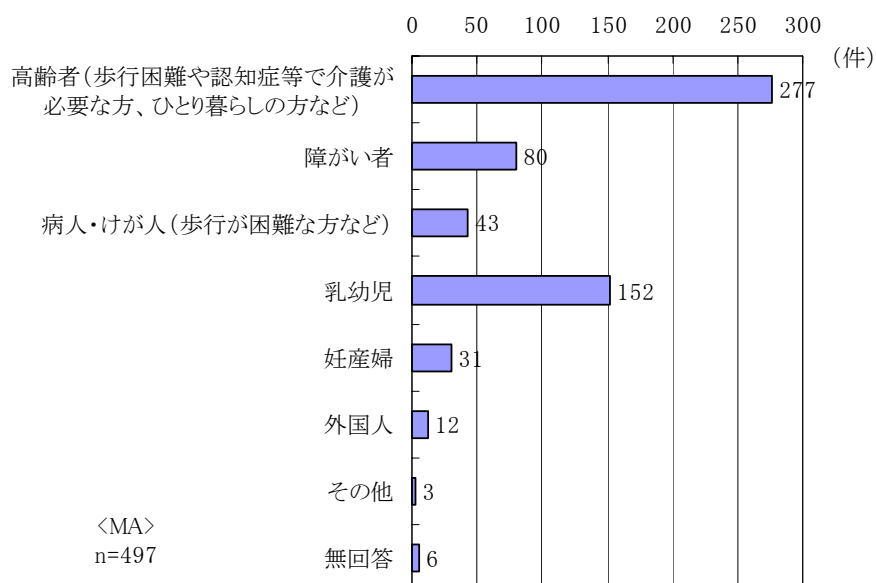


図 「その他」意見概要

意見内容	件数
子ども	2
コミュニケーションのとれない人	1
計	3

■ 年齢別 災害時にひとりで避難することが困難な人(問5-1 × 問25)

- ・ 10 代、20 代と 50 代以上の世代では「高齢者」、30 代、40 代では「乳幼児」が最も多くなっている。
- ・ また、20 代で「妊産婦」、60 代で「障がい者」の数値が他世代に比べて高い。

図 年齢別 災害時にひとりで避難することが困難な人

問5-1 その方はどのような人ですか（複数回答）

		全体	高齢者	障がい者	病人・けが人	乳幼児	妊産婦	外国人	その他	無回答
全 体		497	277	80	43	152	31	12	3	6
		—	55.7	16.1	8.7	30.6	6.2	2.4	0.6	1.2
問25 年齢	10代	9	55.6	11.1	0.0	33.3	0.0	0.0	11.1	0.0
	20代	38	47.4	15.8	5.3	39.5	21.1	2.6	2.6	0.0
	30代	122	20.5	8.2	4.9	76.2	13.1	0.8	0.8	0.0
	40代	49	38.8	14.3	8.2	40.8	2.0	4.1	0.0	2.0
	50代	71	76.1	15.5	8.5	4.2	1.4	1.4	0.0	1.4
	60代	89	67.4	28.1	11.2	11.2	3.4	4.5	0.0	0.0
	70代	77	74.0	20.8	16.9	7.8	1.3	3.9	0.0	3.9
	80代～	39	92.3	10.3	5.1	2.6	2.6	0.0	0.0	2.6
	無回答	3	100.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

■ 地域別 災害時にひとりで避難することが困難な人(問5-1× 問26)

- ・ いずれの地域でも「高齢者」が最も多くなっているが、「品濃町・川上地域」では「乳幼児」、「倉田地域」では「妊産婦」の割合が他の地域に比べて高くなっている。また「舞岡・柏尾地域」でも「障がい者」の割合が他よりやや高い。

図 地域別 災害時にひとりで避難することが困難な人

問5-1 その方はどのような人ですか（複数回答）

		全体	高齢者	障がい者	病人・けが人	乳幼児	妊産婦	外国人	その他	無回答
全 体		497	277	80	43	152	31	12	3	6
		—	55.7	16.1	8.7	30.6	6.2	2.4	0.6	1.2
問26 居住地域	平戸・平戸平和台地域	44	61.4	18.2	15.9	22.7	4.5	0.0	0.0	2.3
	品濃町・川上地域	65	49.2	16.9	4.6	41.5	7.7	1.5	0.0	1.5
	名瀬・上矢部地域	49	49.0	20.4	14.3	32.7	4.1	4.1	0.0	0.0
	舞岡・柏尾地域	35	60.0	25.7	5.7	22.9	2.9	2.9	0.0	2.9
	汲沢・吉田地域	106	59.4	13.2	9.4	25.5	6.6	1.9	0.9	0.9
	倉田地域	37	48.6	18.9	10.8	37.8	16.2	2.7	2.7	0.0
	戸塚地域	62	51.6	9.7	6.5	33.9	4.8	4.8	1.6	0.0
	深谷・原宿地域	93	61.3	15.1	5.4	28.0	5.4	2.2	0.0	2.2
	無回答	6	50.0	16.7	16.7	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0

■ 家族構成別 災害時にひとりで避難することが困難な人(問5-1× 問28)

- ・ 「親と子（2世代）」の場合のみ「乳幼児」、それ以外の家族構成では「高齢者」が最も多くなっている。また「ひとり暮らし」で「病人・けが人」の割合が他より高い。なお、「その他」についてはサンプル数が少ないため分析を割愛する。

図 家族構成別 災害時にひとりで避難することが困難な人

問5-1 その方はどのような人ですか（複数回答）

		全体	高齢者	障がい者	病人・けが人	乳幼児	妊産婦	外国人	その他	無回答
全 体		497	277	80	43	152	31	12	3	6
		—	55.7	16.1	8.7	30.6	6.2	2.4	0.6	1.2
問28 家族構成	ひとり暮らし	31	77.4	16.1	19.4	3.2	0.0	6.5	0.0	6.5
	夫婦だけ	112	73.2	19.6	12.5	8.9	6.3	6.3	0.0	0.0
	親と子（2世代）	273	40.7	15.0	5.1	44.0	7.0	0.7	1.1	0.7
	祖父母と親と子（3世代）	68	73.5	16.2	7.4	23.5	5.9	0.0	0.0	2.9
	その他	5	100.0	20.0	60.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0
	無回答	8	62.5	0.0	12.5	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0

■ 住居形態別 災害時にひとりで避難することが困難な人(問5-1× 問30)

- ・ 「持家（一戸建て）」「持家（マンション・共同住宅）」では「高齢者」、「借家（一戸建て）」「借家（マンション・共同住宅、社宅、公務員住宅、寮）」では「乳幼児」が最も多く、持家か借家かで傾向が2分化した。なお、「その他」についてはサンプル数が少ないため分析を割愛する。

図 住居形態別 災害時にひとりで避難することが困難な人

問5-1 その方はどのような人ですか（複数回答）

		全体	高齢者	障がい者	病人・けが人	乳幼児	妊産婦	外国人	その他	無回答
全 体		497	277	80	43	152	31	12	3	6
		—	55.7	16.1	8.7	30.6	6.2	2.4	0.6	1.2
問30 住居形態	持家（一戸建て）	264	66.3	15.5	5.7	23.5	4.2	0.4	0.8	1.9
	持家（マンション・共同住宅）	105	45.7	17.1	8.6	36.2	7.6	1.9	1.0	1.0
	借家（一戸建て）	12	33.3	16.7	16.7	41.7	8.3	16.7	0.0	0.0
	借家（マンション・共同住宅、社宅、公務員住宅、寮）	97	38.1	14.4	8.2	46.4	10.3	4.1	0.0	0.0
	その他	4	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	無回答	15	80.0	33.3	46.7	6.7	6.7	13.3	0.0	0.0

■ 居住開始時期別 災害時にひとりで避難することが困難な人(問5-1× 問31)

- ・ 居住開始時期が「昭和20年（1945年）以前」から「平成7～11年（1995～1999年）」にかけては「高齢者」が、「平成12～16年（2000～2004年）」「平成17年（2005年）以降」の場合のみ「乳幼児」が最も多くなっている。またサンプル数はやや少ないが「昭和20年（1945年）以前」で「病人・けが人」の割合が他より高い。

図 居住開始時期別 災害時にひとりで避難することが困難な人

問5-1 その方はどのような人ですか（複数回答）

		全体	高齢者	障がい者	病人・けが人	乳幼児	妊産婦	外国人	その他	無回答
全 体		497	277	80	43	152	31	12	3	6
		—	55.7	16.1	8.7	30.6	6.2	2.4	0.6	1.2
問31 居住開始 時期	昭和20年（1945年）以前	14	64.3	21.4	35.7	7.1	0.0	7.1	0.0	0.0
	昭和20～29年（1945～1954年）	9	77.8	22.2	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1
	昭和30～39年（1955～1964年）	37	78.4	10.8	13.5	10.8	2.7	0.0	0.0	2.7
	昭和40～49年（1965～1974年）	73	82.2	16.4	6.8	11.0	2.7	2.7	0.0	1.4
	昭和50～59年（1975～1984年）	74	73.0	18.9	8.1	6.8	1.4	4.1	1.4	0.0
	昭和60～平成6年（1985～1994年）	69	69.6	26.1	4.3	5.8	4.3	1.4	1.4	0.0
	平成7～11年（1995～1999年）	51	51.0	21.6	9.8	37.3	2.0	2.0	0.0	3.9
	平成12～16年（2000～2004年）	85	24.7	10.6	9.4	68.2	7.1	1.2	0.0	0.0
	平成17年（2005年）以降	74	18.9	4.1	2.7	70.3	20.3	2.7	1.4	1.4
	無回答	11	81.8	36.4	36.4	9.1	9.1	9.1	0.0	0.0

問6 大地震が起きた場合、あなたは、あなたの家族以外の、自力で避難することが困難で、援護を必要とする人に対して、どのような協力ができそうだと思いますか。あなたご自身や家族の安全はおおむね確保されていると仮定してください。(〇はいくつでも)

- ・ 「『大丈夫ですか』などの声かけ」が 1,071 件、「避難の手助け」が 976 件で、この 2 つが特に多くなっている。次いで「家族や親族・知人への連絡」(636 件)、「災害状況や避難情報などの伝達」(528 件)、「相談相手や話し相手になる」(451 件)、「介護や応急手当」(284 件)、「一時的な保護・預かり」(238 件)などと続く。「協力できそうにない」は 57 件、「わからない」は 75 件あった。

図 災害時に援護が必要な人に対する協力

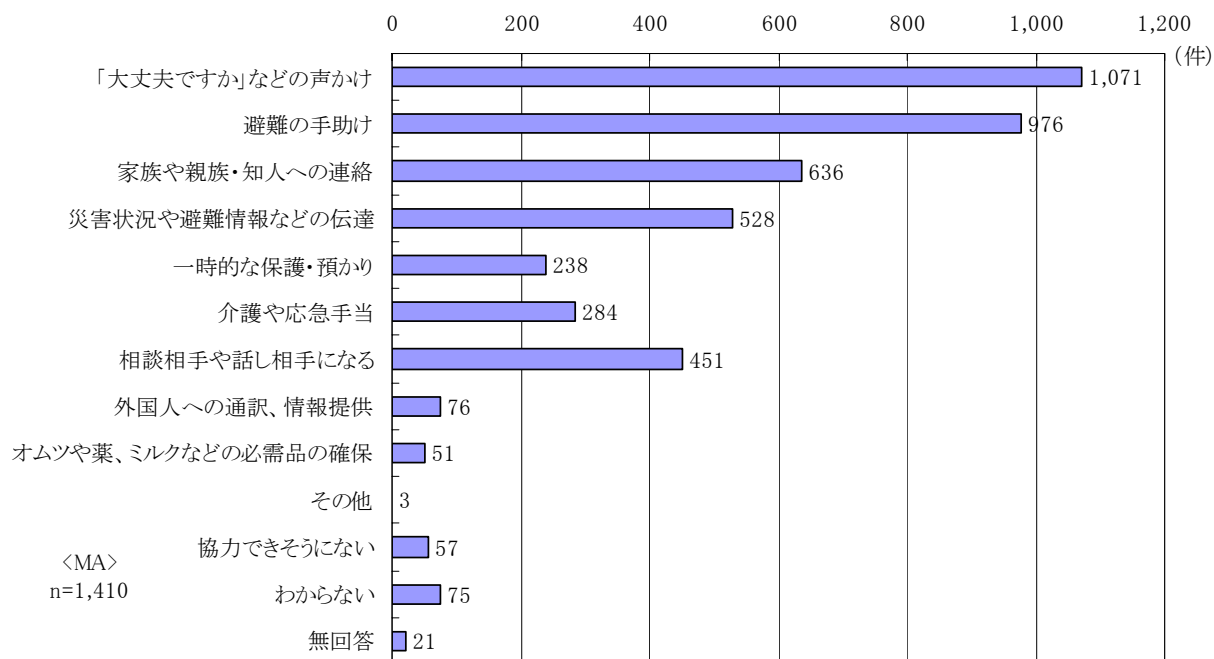


図 「その他」意見概要

意見内容	件数
スマイル	1
ペットの保護、世話	1
薬剤師なので、毎日服用している薬や状態の把握など	1
計	3

■ 男女別 災害時に援護が必要な人に対する協力(問6× 問24)

- ・ 男性は「避難の手助け」、女性は「『大丈夫ですか』などの声かけ」が最も多い。

図 男女別 災害時に援護が必要な人に対する協力

問6 大地震が起きた場合、家族以外の自力避難が困難な人に対して、
どのような協力ができそうだと思いますか（複数回答）

		全体	「大丈夫で すか」など の声かけ	避難の手助 け	家族や親族 ・知人への 連絡	災害状況や 避難情報な どの伝達	一時的な保 護・預かり	介護や応急 手当	相談相手や 話し相手に なる
全 体		1,410 —	1,071 76.0	976 69.2	636 45.1	528 37.4	238 16.9	284 20.1	451 32.0
問24 性別	男性	656	72.7	77.1	44.2	41.3	17.1	21.3	30.9
	女性	740	79.1	62.8	45.7	34.3	16.6	19.1	33.2
	無回答	14	64.3	35.7	57.1	21.4	21.4	21.4	14.3

		全体	外国人への 通訳、情報 提供	オムツや 薬、ミルク などの必需 品の確保	その他	協力ができそ うにない	わからない	無回答
全 体		1,410 —	76 5.4	51 3.6	3 0.2	57 4.0	75 5.3	21 1.5
問24 性別	男性	656	6.1	3.5	0.2	4.0	4.7	1.1
	女性	740	4.9	3.6	0.3	3.9	5.8	1.8
	無回答	14	0.0	7.1	0.0	14.3	7.1	7.1

■ 年齢別 災害時に援護が必要な人に対する協力(問6× 問24)

- ・ 50代で「避難の手助け」が最も多く、それ以外の世代では「『大丈夫ですか』などの声かけ」が最も多い。
- ・ また、80代以上では「協力ができそうにない」が他に比べて多くなっている。

図 年齢別 災害時に援護が必要な人に対する協力

問6 大地震が起きた場合、家族以外の自力避難が困難な人に対して、
どのような協力ができそうだと思いますか（複数回答）

		全体	「大丈夫で すか」など の声かけ	避難の手助 け	家族や親族 ・知人への 連絡	災害状況や 避難情報な どの伝達	一時的な保 護・預かり	介護や応急 手当	相談相手や 話し相手に なる
全 体		1,410 —	1,071 76.0	976 69.2	636 45.1	528 37.4	238 16.9	284 20.1	451 32.0
問25 年齢	10代	36	83.3	66.7	30.6	13.9	11.1	11.1	36.1
	20代	127	79.5	78.7	40.2	37.8	12.6	20.5	30.7
	30代	265	83.8	73.6	43.8	39.6	15.8	19.6	31.7
	40代	194	78.9	71.1	49.5	44.3	18.0	23.7	36.6
	50代	255	78.8	79.6	47.8	43.9	20.0	25.1	29.4
	60代	273	73.3	67.0	49.5	38.1	21.6	21.6	32.2
	70代	188	65.4	56.9	43.1	29.8	12.8	12.8	34.0
	80代～	60	55.0	33.3	28.3	11.7	8.3	11.7	23.3
	無回答	12	66.7	50.0	58.3	41.7	16.7	16.7	25.0

		全体	外国人への 通訳、情報 提供	オムツや 薬、ミルク などの必需 品の確保	その他	協力ができそ うにない	わからない	無回答
全 体		1,410 —	76 5.4	51 3.6	3 0.2	57 4.0	75 5.3	21 1.5
問25 年齢	10代	36	8.3	2.8	2.8	2.8	0.0	2.8
	20代	127	4.7	5.5	0.0	2.4	3.9	1.6
	30代	265	8.7	8.3	0.0	2.3	5.7	0.4
	40代	194	9.8	2.1	1.0	2.1	4.6	0.0
	50代	255	6.7	2.7	0.0	1.6	2.0	1.2
	60代	273	1.5	1.1	0.0	3.3	8.8	1.5
	70代	188	2.1	3.2	0.0	10.1	6.4	2.1
	80代～	60	0.0	0.0	0.0	15.0	6.7	10.0
	無回答	12	0.0	8.3	0.0	16.7	8.3	0.0

■ 職業別 災害時に援護が必要な人に対する協力(問6× 問29)

- ・ 「管理職」「専門技術職」「現業職」では「避難の手助け」、それ以外では『大丈夫ですか』などの声かけ」が最も多くなっている。
- ・ また、「自営業」では「家族や親族・知人への連絡」、「管理職」「事務職」では「災害状況や避難情報などの伝達」の割合が、他に比べて高くなっているほか、「管理職」で「外国人への通訳、情報提供」、「事務職」で「家族や親族・知人への連絡」も他に比べてやや高い。

図 職業別 災害時に援護が必要な人に対する協力

問6 大地震が起きた場合、家族以外の自力避難が困難な人に対して、どのような協力ができそうだと思いますか（複数回答）

		全体	「大丈夫ですか」などの声かけ	避難の手助け	家族や親族・知人への連絡	災害状況や避難情報などの伝達	一時的な保護・預かり	介護や応急手当	相談相手や話し相手になる
全 体		1,410 —	1,071 76.0	976 69.2	636 45.1	528 37.4	238 16.9	284 20.1	451 32.0
問29 職業	自営業	81	79.0	72.8	58.0	40.7	21.0	14.8	28.4
	管理職	76	72.4	82.9	51.3	47.4	17.1	25.0	30.3
	専門技術職	100	69.0	75.0	35.0	39.0	15.0	26.0	36.0
	事務職	177	83.1	78.5	54.2	50.8	14.1	18.1	32.8
	現業職	162	72.2	76.5	40.1	36.4	16.7	24.7	30.2
	主婦・主夫	352	83.0	63.4	47.2	36.4	20.2	21.0	35.5
	学生	57	78.9	71.9	33.3	17.5	10.5	15.8	29.8
	無職	267	63.7	59.2	42.3	30.0	15.7	16.9	30.0
	その他	76	86.8	75.0	43.4	43.4	23.7	23.7	34.2
	無回答	62	74.2	59.7	37.1	32.3	6.5	14.5	22.6

		全体	外国人への通訳、情報提供	オムツや薬、ミルクなどの必需品の確保	その他	協力できそうにない	わからない	無回答
全 体		1,410 —	76 5.4	51 3.6	3 0.2	57 4.0	75 5.3	21 1.5
問29 職業	自営業	81	0.0	3.7	0.0	1.2	3.7	1.2
	管理職	76	13.2	0.0	0.0	2.6	2.6	1.3
	専門技術職	100	11.0	5.0	1.0	7.0	6.0	1.0
	事務職	177	9.6	5.1	0.0	0.0	2.8	1.1
	現業職	162	3.1	4.9	0.0	2.5	6.8	1.2
	主婦・主夫	352	5.1	4.3	0.3	3.1	5.1	1.1
	学生	57	7.0	1.8	1.8	1.8	3.5	1.8
	無職	267	2.2	2.6	0.0	9.7	7.5	1.9
	その他	76	6.6	3.9	0.0	2.6	3.9	1.3
	無回答	62	0.0	0.0	0.0	4.8	8.1	4.8

■ 居住開始時期別 災害時に援護が必要な人に対する協力(問6× 問31)

- ・ 概ね『大丈夫ですか』などの声かけ」が最も多いが、「昭和 20 年（1945 年）以前」では「避難の手助け」が最も多くなっている。
- ・ また、「昭和 20～29 年（1945～1954 年）」では「家族や親族・知人への連絡」が、「昭和 20 年（1945 年）以前」「昭和 20～29 年（1945～1954 年）」では「一時的な保護・預かり」が他に比べて高い数値となっている。

図 居住開始時期別 災害時に援護が必要な人に対する協力

問 6 大地震が起きた場合、家族以外の自力避難が困難な人に対して、どのような協力ができそうだと思いますか（複数回答）

		全体	「大丈夫ですか」などの声かけ	避難の手助け	家族や親族・知人への連絡	災害状況や避難情報などの伝達	一時的な保護・預かり	介護や応急手当	相談相手や話し相手になる
全 体		1,410 —	1,071 76.0	976 69.2	636 45.1	528 37.4	238 16.9	284 20.1	451 32.0
問31 居住開始 時期	昭和20年（1945年）以前	26	65.4	69.2	42.3	42.3	26.9	26.9	30.8
	昭和20～29年（1945～1954年）	19	68.4	63.2	57.9	36.8	31.6	31.6	21.1
	昭和30～39年（1955～1964年）	68	67.6	66.2	42.6	30.9	17.6	14.7	36.8
	昭和40～49年（1965～1974年）	177	70.6	63.8	48.0	34.5	19.2	19.8	28.8
	昭和50～59年（1975～1984年）	237	76.8	73.4	50.6	43.0	19.8	21.9	32.5
	昭和60～平成6年（1985～1994年）	261	79.7	71.3	45.6	40.2	13.8	17.2	31.8
	平成7～11年（1995～1999年）	162	74.7	67.3	39.5	35.2	14.8	21.6	27.2
	平成12～16年（2000～2004年）	218	79.4	71.6	45.9	35.3	16.1	26.1	37.2
	平成17年（2005年）以降	192	78.1	69.3	40.1	35.9	17.2	15.1	35.4
無回答		50	72.0	60.0	40.0	36.0	8.0	16.0	20.0

		全体	外国人への通訳、情報提供	オムツや薬、ミルクなどの必需品の確保	その他	協力できそうにない	わからない	無回答
全 体		1,410 —	76 5.4	51 3.6	3 0.2	57 4.0	75 5.3	21 1.5
問31 居住開始 時期	昭和20年（1945年）以前	26	3.8	3.8	0.0	3.8	11.5	0.0
	昭和20～29年（1945～1954年）	19	0.0	10.5	0.0	5.3	5.3	5.3
	昭和30～39年（1955～1964年）	68	2.9	8.8	0.0	10.3	4.4	1.5
	昭和40～49年（1965～1974年）	177	3.4	2.3	0.0	5.6	6.8	1.7
	昭和50～59年（1975～1984年）	237	2.5	3.0	0.0	3.8	3.4	2.1
	昭和60～平成6年（1985～1994年）	261	8.0	1.5	0.8	4.2	4.6	1.1
	平成7～11年（1995～1999年）	162	3.7	1.9	0.0	2.5	6.2	1.9
	平成12～16年（2000～2004年）	218	7.3	6.4	0.0	1.8	5.0	0.5
	平成17年（2005年）以降	192	9.4	5.2	0.5	3.6	5.7	0.5
無回答		50	0.0	0.0	0.0	6.0	8.0	6.0

問7 あなたが防災に関して行政に力をいれてもらいたいことはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

- ・ 「水・食糧・毛布などの十分な備蓄」が1,079件、「電気、ガス、水道、電話などのライフライン施設の耐震性の向上」が1,078件でほぼ同数となっており、次いで「災害時における情報連絡体制の充実」(940件)、「医療救護の確保など、災害時の医療体制の強化」(880件)で、この4件が目立って多くなっている。以下「避難場所・避難道路の整備」(682件)、「学校や公共施設の耐震化・安全化」(631件)、「避難方法や避難場所の周知」(622件)、「災害要援護者(高齢者や体の不自由な方)の支援対策」(610件)などとなっている。災害に強いインフラの整備や災害に即応出来る体制の強化が期待されている。
- ・ 「その他」15件全てに具体的な記述があり、計16件の意見が挙げられた。最も多かったのは「トイレの整備」の3件、また「救出・救援力の強化」「防災情報周知のための整備」「避難場所の増加、整備」が各2件となっている。

図 防災に関して行政に力をいれてもらいたいこと

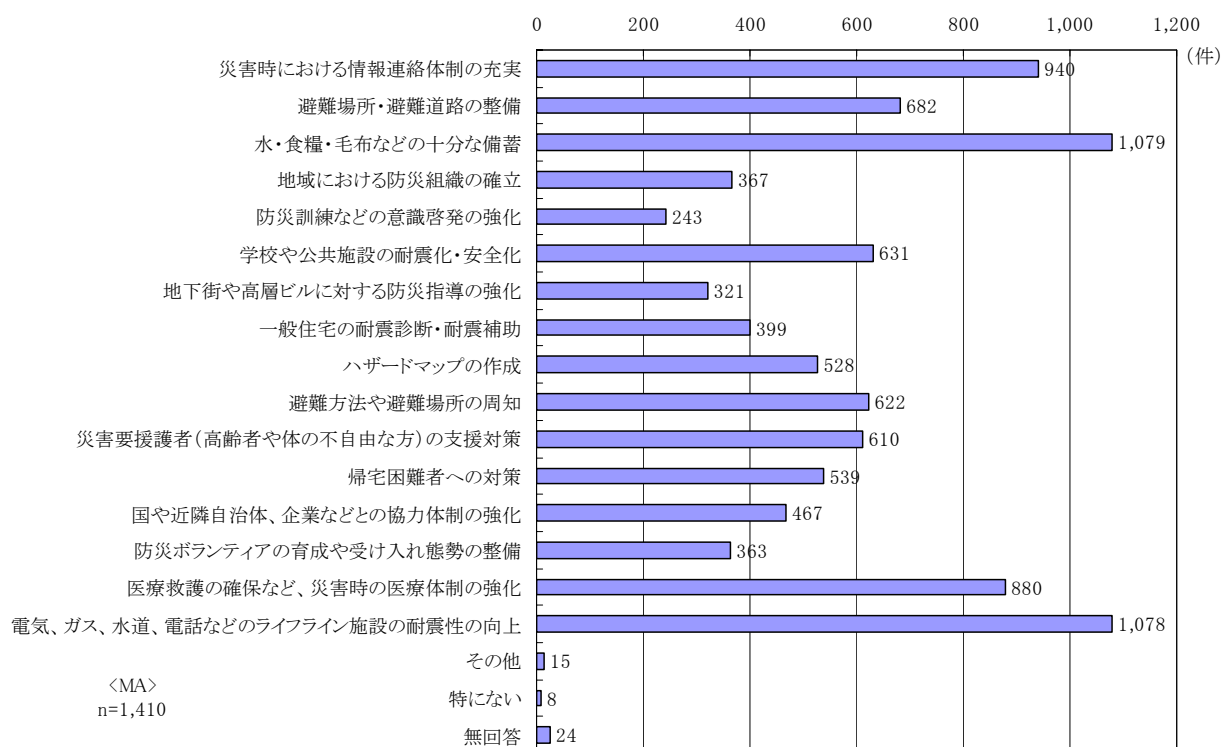


図 「その他」意見概要

意見内容	件数
トイレの整備	3
救出・救援力の強化	2
防災情報周知のための整備	2
避難場所の増加、整備	2
電柱の地中化	1
耐震評価	1
救援物資の円滑な配布	1
ボランティアの育成	1
早期に仮設住宅を建設できる体制	1
金銭的保証	1
医療救護拠点の備蓄薬の整備	1
合計	16

■ 年齢別 防災に関して行政に力をいれてもらいたいこと(問7× 問25)

- ・ 10代から40代までの世代と80代以上では「水・食糧・毛布などの十分な備蓄」、50代、60代では「電気、ガス、水道、電話などのライフライン施設の耐震性の向上」、70代では「災害時における情報連絡体制の充実」がそれぞれ最も多くなっている。
- ・ また、10代、20代の若い世代で「一般住宅の耐震診断・耐震補助」の割合が他世代に比べて多くなっているほか、10代で「帰宅困難者への対策」、70代で「災害要援護者（高齢者や体の不自由な方）の支援対策」が、他に比べて高い数値となっている。

図 年齢別 防災に関して行政に力をいれてもらいたいこと

問7 防災に関して行政に力をいれてもらいたいことはどのようなことですか（複数回答）

		全体	災害時における情報連絡体制の充実	避難場所・避難道路の整備	水・食糧・毛布などの十分な備蓄	地域における防災組織の確立	防災訓練などの意識啓発の強化	学校や公共施設の耐震化・安全化	地下街や高層ビルに対する防災指導の強化	一般住宅の耐震診断・耐震補助	ハザードマップの作成	避難方法や避難場所の周知
全 体		1,410 —	940 66.7	682 48.4	1,079 76.5	367 26.0	243 17.2	631 44.8	321 22.8	399 28.3	528 37.4	622 44.1
問25 年齢	10代	36	55.6	41.7	86.1	19.4	8.3	50.0	30.6	41.7	30.6	19.4
	20代	127	58.3	52.8	85.8	26.8	17.3	53.5	28.3	41.7	40.9	48.8
	30代	265	57.0	52.1	80.4	24.9	15.8	50.6	20.0	31.7	40.4	48.3
	40代	194	63.9	44.3	76.8	18.6	9.8	45.4	25.8	23.2	32.0	32.5
	50代	255	68.6	49.0	75.3	23.9	13.7	40.4	19.2	24.7	36.1	43.1
	60代	273	76.2	48.4	74.4	28.6	19.0	43.2	24.2	26.7	41.8	48.0
	70代	188	74.5	45.2	68.6	31.4	26.1	41.5	21.8	25.0	35.6	46.3
	80代～ 無回答	60 12	61.7 91.7	46.7 50.0	71.7 83.3	35.0 41.7	25.0 50.0	30.0 50.0	15.0 50.0	25.0 33.3	31.7 33.3	43.3 66.7

		全体	災害要援護者(高齢者や体の不自由な方)の支援対策	帰宅困難者への対策	国や近隣自治体、企業などとの協力体制の強化	防災ボランティアの育成や受け入れ態勢の整備	医療救護の確保など、災害時の医療体制の強化	電気、ガス、水道、電話などのライフライン施設の耐震性の向上	その他	特にない	無回答
全 体		1,410 —	610 43.3	539 38.2	467 33.1	363 25.7	880 62.4	1,078 76.5	15 1.1	8 0.6	24 1.7
問25 年齢	10代	36	30.6	55.6	13.9	33.3	47.2	77.8	0.0	5.6	0.0
	20代	127	41.7	45.7	41.7	31.5	59.1	73.2	3.9	0.0	3.1
	30代	265	38.9	46.0	28.7	23.0	64.2	79.2	0.4	0.0	1.1
	40代	194	29.9	42.3	34.5	22.2	62.9	76.3	1.5	0.0	1.0
	50代	255	42.7	42.0	34.5	22.7	63.1	78.4	0.0	0.4	1.6
	60代	273	45.4	31.9	32.2	27.8	62.3	78.0	1.1	0.4	0.7
	70代	188	60.1	22.9	37.8	29.3	66.0	72.3	1.6	1.6	2.7
	80代～ 無回答	60 12	51.7 66.7	21.7 58.3	25.0 33.3	21.7 41.7	53.3 75.0	65.0 91.7	0.0 0.0	1.7 0.0	6.7 0.0

■ 地域別 防災に関して行政に力をいれてもらいたいこと(問7× 問26)

- 「名瀬・上矢部地域」「舞岡・柏尾地域」「汲沢・吉田地域」では「水・食糧・毛布などの十分な備蓄」、「品濃町・川上地域」「倉田地域」「深谷・原宿地域」では「電気、ガス、水道、電話などのライフライン施設の耐震性の向上」が最も多くなっており、「平戸・平戸平和台地域」「戸塚地域」においてはこれらが同率となっている。

図 地域別 防災に関して行政に力をいれてもらいたいこと

問7 防災に関して行政に力をいれてもらいたいことはどのようなことですか（複数回答）

		全体	災害時における情報連絡体制の充実	避難場所・避難道の整備	水・食糧・毛布などの十分な備蓄	地域における防災組織の確立	防災訓練などの意識啓発の強化	学校や公共施設の耐震化・安全化	地下街や高層ビルに対する防災指導の強化	一般住宅の耐震診断・耐震補助	ハザードマップの作成	避難方法や避難場所の周知
全 体		1,410	940	682	1,079	367	243	631	321	399	528	622
		—	66.7	48.4	76.5	26.0	17.2	44.8	22.8	28.3	37.4	44.1
問26 居住地域	平戸・平戸平和台地域	133	69.2	46.6	72.9	23.3	18.8	43.6	15.0	23.3	33.1	42.9
	品濃町・川上地域	203	66.5	50.7	73.9	25.1	16.7	44.8	26.6	26.1	36.9	46.8
	名瀬・上矢部地域	157	60.5	45.2	73.9	21.0	13.4	42.7	20.4	34.4	35.7	40.1
	舞岡・柏尾地域	122	72.1	44.3	80.3	20.5	16.4	39.3	23.8	27.0	41.0	45.1
	汲沢・吉田地域	267	64.0	52.8	76.0	30.3	19.9	49.1	24.7	30.7	42.3	46.1
	倉田地域	123	68.3	49.6	75.6	30.9	16.3	46.3	27.6	25.2	39.0	39.8
	戸塚地域	179	69.3	50.8	80.4	25.1	16.2	46.9	20.1	31.8	40.2	50.3
	深谷・原宿地域	210	66.2	43.8	78.6	28.6	17.1	42.4	21.4	26.2	31.4	39.5
	無回答	16	75.0	43.8	81.3	18.8	31.3	37.5	31.3	18.8	25.0	43.8

		全体	災害要援護者(高齢者や体の不自由な方)の支援対策	帰宅困難者への対策	国や近隣自治体、企業などとの協力体制の強化	防災ボランティアの育成や受け入れ態勢の整備	医療救護の確保など、災害時の医療体制の強化	電気、ガス、水道、電話などのライフライン施設の耐震性の向上	その他	特になし	無回答
全 体		1,410	610	539	467	363	880	1,078	15	8	24
		—	43.3	38.2	33.1	25.7	62.4	76.5	1.1	0.6	1.7
問26 居住地域	平戸・平戸平和台地域	133	39.1	32.3	27.8	21.8	58.6	72.9	1.5	0.8	1.5
	品濃町・川上地域	203	37.9	43.3	34.5	25.6	66.5	82.3	1.5	0.0	1.0
	名瀬・上矢部地域	157	38.2	35.0	29.3	22.9	55.4	70.7	0.0	0.0	1.9
	舞岡・柏尾地域	122	40.2	32.8	36.1	32.0	64.8	73.0	0.8	0.0	2.5
	汲沢・吉田地域	267	47.6	36.7	33.0	27.0	60.7	73.0	1.5	1.5	3.4
	倉田地域	123	46.3	43.9	35.8	25.2	68.3	77.2	0.0	0.0	0.8
	戸塚地域	179	46.4	43.6	35.2	23.5	63.7	80.4	0.6	1.1	0.6
	深谷・原宿地域	210	45.7	35.2	33.8	26.7	62.4	80.0	1.9	0.5	1.4
	無回答	16	56.3	56.3	25.0	37.5	62.5	75.0	0.0	0.0	0.0

■ 職業別 防災に関して行政に力をいれてもらいたいこと(問7× 問29)

- ・ 「自営業」「専門技術職」「現業職」「学生」「その他」では「水・食糧・毛布などの十分な備蓄」、「管理職」「事務職」「主婦・主夫」「無職」では「電気、ガス、水道、電話などのライフライン施設の耐震性の向上」が最も多くなっている。
- ・ また、「学生」では「一般住宅の耐震診断・耐震補助」、「その他」では「避難方法や避難場所の周知」「医療救護の確保など、災害時の医療体制の強化」、「無職」では「災害要援護者（高齢者や体の不自由な方）の支援対策」がそれぞれ他より多くなっている
- ・ また、「管理職」で「避難場所・避難道路の整備」、「学生」で「学校や公共施設の耐震化・安全化」も他に比べてやや多くなっている。

図 職業別 防災に関して行政に力をいれてもらいたいこと

問7 防災に関して行政に力をいれてもらいたいことはどのようなことですか（複数回答）

		全体	災害時における情報連絡体制の充実	避難場所・避難道路の整備	水・食糧・毛布などの十分な備蓄	地域における防災組織の確立	防災訓練などの意識啓発の強化	学校や公共施設の耐震化・安全化	地下街や高層ビルに対する防災指導の強化	一般住宅の耐震診断・耐震補助	ハザードマップの作成	避難方法や避難場所の周知
全 体		1,410 —	940 66.7	682 48.4	1,079 76.5	367 26.0	243 17.2	631 44.8	321 22.8	399 28.3	528 37.4	622 44.1
問29 職業	自営業	81	74.1	39.5	75.3	24.7	16.0	33.3	19.8	22.2	34.6	34.6
	管理職	76	61.8	57.9	68.4	19.7	13.2	40.8	17.1	19.7	32.9	38.2
	専門技術職	100	61.0	44.0	74.0	23.0	16.0	43.0	20.0	28.0	39.0	43.0
	事務職	177	65.5	50.3	70.6	27.1	16.4	42.4	23.2	30.5	39.0	49.2
	現業職	162	63.6	49.4	79.0	22.2	13.0	46.9	23.5	26.5	31.5	37.7
	主婦・主夫	352	68.5	51.1	79.8	26.1	17.6	51.7	25.6	27.8	38.6	46.3
	学生	57	50.9	49.1	84.2	19.3	5.3	54.4	28.1	42.1	36.8	29.8
	無職	267	71.9	44.6	73.0	32.2	22.8	39.7	21.0	30.7	40.1	45.3
	その他	76	72.4	50.0	82.9	25.0	23.7	47.4	22.4	28.9	42.1	57.9
無回答		62	58.1	45.2	83.9	27.4	16.1	38.7	22.6	24.2	32.3	46.8

		全体	災害要援護者(高齢者や体の不自由な方)の支援対策	帰宅困難者への対策	国や近隣自治体、企業などとの協力体制の強化	防災ボランティアの育成や受け入れ態勢の整備	医療救護の確保など、災害時の医療体制の強化	電気、ガス、水道、電話などのライフライン施設の耐震性の向上	その他	特にない	無回答
全 体		1,410 —	610 43.3	539 38.2	467 33.1	363 25.7	880 62.4	1,078 76.5	15 1.1	8 0.6	24 1.7
問29 職業	自営業	81	37.0	33.3	33.3	32.1	58.0	65.4	2.5	0.0	1.2
	管理職	76	36.8	38.2	38.2	21.1	57.9	75.0	2.6	0.0	2.6
	専門技術職	100	31.0	42.0	38.0	19.0	57.0	68.0	2.0	0.0	1.0
	事務職	177	37.9	46.3	30.5	26.6	62.1	78.5	1.1	0.0	1.1
	現業職	162	42.6	42.0	34.0	23.5	58.0	76.5	0.0	0.6	1.2
	主婦・主夫	352	44.9	38.9	31.3	26.1	65.6	80.7	0.3	0.3	1.4
	学生	57	31.6	43.9	24.6	26.3	47.4	80.7	1.8	3.5	1.8
	無職	267	55.1	24.0	34.8	25.8	65.5	74.5	1.5	1.5	2.6
	その他	76	47.4	51.3	34.2	31.6	75.0	81.6	1.3	0.0	1.3
無回答		62	41.9	41.9	33.9	27.4	61.3	74.2	0.0	0.0	3.2

問8 あなたが地震以外で身近に不安を感じるものは何ですか。(〇は1つだけ)注

注 複数の項目に回答した人が多かったので複数回答として扱っている。

- 「犯罪（空き巣、ひったくり、子どもへの犯罪等）」が 885 件で、次点の「交通事故」（430 件）を倍以上上回り、抜きん出て多くなっている。以下、「火災」（387 件）、「風水害」（160 件）、「がけくずれ」（89 件）、「テロ・武力行為」（61 件）、「その他」（4 件）の順となっている。

図 地震以外で身近に感じる不安

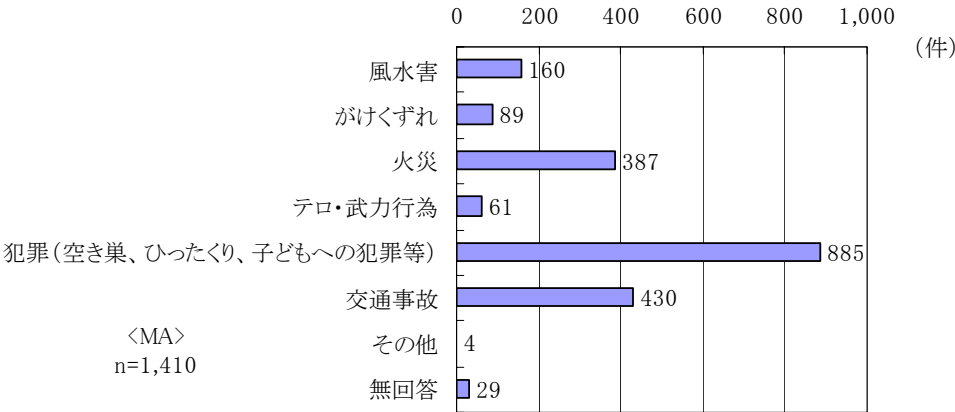


図 「その他」意見概要

意見内容	件数
所有しているアパートの借り主の動向	1
車の騒音	1
雷	1
計	3

■ 年齢別 地震以外で身近に感じる不安(問8× 問25)

- いずれの世代も「犯罪（空き巣、ひったくり、子どもへの犯罪 等）」が最も多く、特に 30 代では他世代に比べてやや高い数値となっている。
- また、10 代で「交通事故」の割合が他世代に比べて高いほか、70 代、80 代以上の高齢者世代では「火災」が他に比べてやや高い数値となっている。

図 年齢別 地震以外で身近に感じる不安

問8 地震以外で身近に不安を感じるものは何ですか

		全体	風水害	がけくず れ	火災	テロ・武 力行為	犯罪（空 き巣、 ひったく り、子ど もへの犯 罪 等）	交通事故	その他	無回答
全 体		1,410	160	89	387	61	885	430	4	29
		—	11.3	6.3	27.4	4.3	62.8	30.5	0.3	2.1
問25 年齢	10代	36	11.1	5.6	25.0	2.8	55.6	44.4	0.0	5.6
	20代	127	7.9	7.1	23.6	7.1	65.4	33.1	1.6	4.7
	30代	265	12.1	3.8	24.2	2.6	71.3	33.6	0.0	1.5
	40代	194	9.8	4.1	21.6	4.6	69.6	32.0	0.5	1.5
	50代	255	12.9	6.7	27.8	3.9	59.2	31.8	0.4	1.2
	60代	273	9.5	7.7	28.6	4.4	60.8	29.3	0.0	2.2
	70代	188	15.4	9.0	36.7	3.7	54.8	23.9	0.0	2.1
	80代～ 無回答	60 12	10.0 8.3	6.7 8.3	36.7 16.7	10.0 0.0	48.3 75.0	21.7 16.7	0.0 0.0	1.7 0.0

■ 地域別 地震以外で身近に感じる不安(問8× 問26)

- ・ いずれの地域も「犯罪（空き巣、ひったくり、子どもへの犯罪 等）」が最も多い。
- ・ また、「戸塚地域」では他地域に比べて「風水害」の数値がやや高い。

図 地域別 地震以外で身近に感じる不安

問8 地震以外で身近に不安を感じるものは何ですか

		全体	風水害	がけくずれ	火災	テロ・武力行為	犯罪（空き巣、ひったくり、子どもへの犯罪 等）	交通事故	その他	無回答
全 体		1,410	160	89	387	61	885	430	4	29
		—	11.3	6.3	27.4	4.3	62.8	30.5	0.3	2.1
問26 居住地域	平戸・平戸平和台地域	133	12.8	7.5	24.1	3.0	66.9	19.5	0.0	4.5
	品濃町・川上地域	203	5.9	2.5	27.1	3.0	68.0	31.0	1.0	2.0
	名瀬・上矢部地域	157	10.8	5.7	28.7	5.1	66.2	32.5	0.0	2.5
	舞岡・柏尾地域	122	10.7	9.8	26.2	3.3	59.0	35.2	0.0	1.6
	汲沢・吉田地域	267	10.9	6.4	27.7	3.4	63.3	33.7	0.4	2.6
	倉田地域	123	11.4	4.1	24.4	4.1	65.0	30.9	0.0	0.8
	戸塚地域	179	19.6	12.8	25.7	6.1	59.2	31.3	0.0	0.6
	深谷・原宿地域	210	10.0	2.9	34.3	6.7	54.8	28.1	0.5	1.9
	無回答	16	12.5	12.5	6.3	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0

■ 家族形態別 地震以外で身近に感じる不安(問8× 問27)

- ・ いずれも「犯罪（空き巣、ひったくり、子どもへの犯罪 等）」が最も多く、特に「同居している未就学の子ども」が「いる」場合は数値も高くなっている。
- ・ 「同居している未就学の子ども」が「いる」場合、「交通事故」の割合が他に比べてやや高い。

図 家族形態別 地震以外で身近に感じる不安

問8 地震以外で身近に不安を感じるものは何ですか

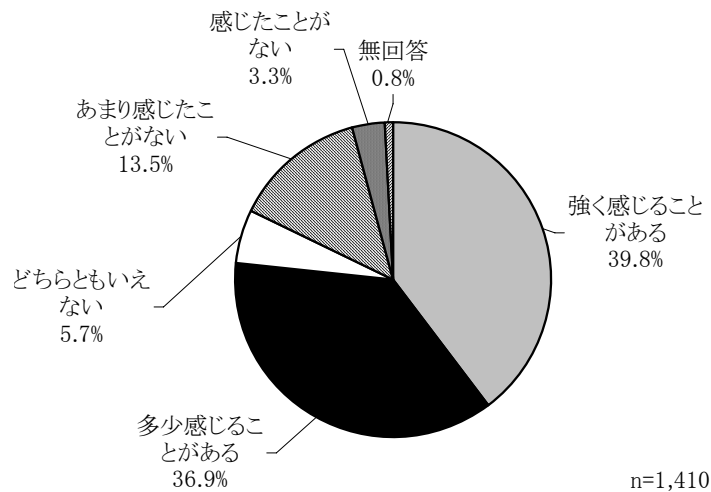
			全体	風水害	がけくずれ	火災	テロ・武力行為	犯罪（空き巣、ひったくり、子どもへの犯罪 等）	交通事故	その他	無回答
全 体			1,410	160	89	387	61	885	430	4	29
			—	11.3	6.3	27.4	4.3	62.8	30.5	0.3	2.1
問27 家族形態	A 同居している 未就学の子ども	いる	184	7.1	3.3	20.1	2.7	72.8	40.2	0.5	2.2
		いない	1,128	11.8	6.9	28.4	4.5	62.9	29.0	0.3	1.8
		無回答	98	14.3	5.1	30.6	5.1	42.9	29.6	0.0	5.1
	B 同居している 小学生の子ども	いる	162	9.9	4.9	21.6	3.1	69.8	30.9	0.6	2.5
		いない	1,150	11.4	6.6	28.2	4.4	63.6	30.4	0.3	1.6
		無回答	98	13.3	5.1	28.6	5.1	41.8	30.6	0.0	7.1
	C 同居・別居を問わず 65～74歳の家族	いる	540	10.9	7.0	26.5	3.5	67.4	31.3	0.0	1.9
		いない	718	12.0	6.1	26.6	4.7	62.7	31.3	0.6	1.3
		無回答	152	9.9	4.6	34.9	5.3	46.7	23.7	0.0	6.6
	D 同居・別居を問わず 75歳以上の家族	いる	451	9.8	8.0	28.8	4.7	62.7	28.2	0.4	1.8
		いない	817	11.9	5.5	25.6	4.3	65.5	32.7	0.2	1.3
		無回答	142	13.4	5.6	33.8	3.5	47.2	25.4	0.0	7.0
	E 日中、家で子どもの 世話をする方	いる	338	9.8	6.2	19.8	2.1	70.4	31.4	0.0	1.8
		いない	855	11.2	6.3	27.6	5.1	63.5	30.9	0.5	1.5
		無回答	217	14.3	6.5	38.7	4.6	47.9	27.6	0.0	4.6
	F 共働き	している	388	11.6	5.7	26.8	4.9	61.3	35.8	0.5	2.6
		していない	884	11.2	6.4	25.8	4.2	65.8	28.6	0.2	1.2
		無回答	138	11.6	7.2	39.9	3.6	47.1	27.5	0.0	5.8

少子高齢化などについて

問9 あなたは、戸塚区で高齢化が進んでいると感じることがありますか。(○は1つだけ)

- ・ 「強く感じることもある」が最も多く 39.8%、小差で「多少感じることもある」(36.9%)が続いており、多少なりとも高齢化を感じている割合が4分の3を超える。一方「あまり感じたことがない」は 13.5%、「感じたことがない」は 3.3%で、これらを合わせても2割に満たない。「どちらともいえない」は 5.7%であった。

図 高齢化の進行を感じているか



■ 年齢別 高齢化の進行を感じているか(問9×問25)

- ・ 10代から40代までの若い世代で「多少感じることもある」、50代以上の世代では「強く感じることもある」が最も多くなっている。
- ・ また、20代、30代では「あまり感じたことがない」の割合が他世代に比べて高くなっている。

図 年齢別 高齢化の進行を感じているか

問9 戸塚区で高齢化が進んでいると感じることがありますか

		全体	強く感じる ことがある	多少感じる ことがある	どちらとも いえない	あまり感じ たことがな い	感じたこと がない	無回答
全 体		1,410	561	520	80	191	47	11
		100.0	39.8	36.9	5.7	13.5	3.3	0.8
問25 年齢	10代	36	16.7	55.6	2.8	13.9	11.1	0.0
	20代	127	20.5	37.8	8.7	24.4	7.9	0.8
	30代	265	22.3	36.2	7.5	27.2	6.4	0.4
	40代	194	24.7	41.2	7.2	20.1	4.6	2.1
	50代	255	44.7	39.2	5.1	8.6	2.4	0.0
	60代	273	52.7	37.4	4.0	5.1	0.0	0.7
	70代	188	62.2	30.3	2.7	3.2	0.5	1.1
	80代～ 無回答	60	63.3	26.7	5.0	3.3	0.0	1.7
		12	75.0	8.3	16.7	0.0	0.0	0.0

■ 地域別 高齢化の進行を感じているか(問9× 問26)

- ・ 「平戸・平戸平和台地域」「舞岡・柏尾地域」「汲沢・吉田地域」「倉田地域」「深谷・原宿地域」では「強く感じることもある」が、「品濃町・川上地域」「名瀬・上矢部地域」「戸塚地域」では「多少感じることもある」が、最も多くなっている。
- ・ また、「品濃町・川上地域」では「あまり感じたことがない」の割合が他の地域に比べて高くなっている。

図 地域別 高齢化の進行を感じているか

問9 戸塚区で高齢化が進んでいると感じることがありますか

		全体	強く感じる ことがある	多少感じる ことがある	どちらとも いえない	あまり感じ たことがな い	感じたこと がない	無回答
全 体		1,410 100.0	561 39.8	520 36.9	80 5.7	191 13.5	47 3.3	11 0.8
問26 居住地域	平戸・平戸平和台地域	133	41.4	36.8	7.5	11.3	2.3	0.8
	品濃町・川上地域	203	25.6	35.0	3.4	29.6	5.9	0.5
	名瀬・上矢部地域	157	37.6	40.8	5.1	11.5	4.5	0.6
	舞岡・柏尾地域	122	50.0	34.4	5.7	7.4	2.5	0.0
	汲沢・吉田地域	267	42.3	35.6	6.4	11.6	3.4	0.7
	倉田地域	123	40.7	29.3	9.8	14.6	3.3	2.4
	戸塚地域	179	34.6	46.4	4.5	10.1	2.8	1.7
	深谷・原宿地域	210	47.6	36.7	3.8	10.0	1.9	0.0
	無回答	16	56.3	18.8	18.8	6.3	0.0	0.0

■ 家族形態別 高齢化の進行を感じているか(問9× 問27)

- ・ 「同居している未就学の子ども」「同居している小学生の子ども」「日中、家で子どもの世話をする方」が「いない」場合、「同居・別居を問わず 65～74 歳の家族」「同居・別居を問わず 75 歳以上の家族」が「いる」場合、「共働き」を「していない」場合において「強く感じることもある」が、それ以外では「多少感じることもある」が最も多くなっている。
- ・ また、「同居している未就学の子ども」「同居している小学生の子ども」が「いる」場合では「あまり感じたことがない」の割合が他に比べて高くなっている。

図 家族形態別 高齢化の進行を感じているか

問9 戸塚区で高齢化が進んでいると感じることがありますか

			全体	強く感じる ことがある	多少感じる ことがある	どちらとも いえない	あまり感じ たことがな い	感じたこと がない	無回答
全 体			1, 410 100. 0	561 39. 8	520 36. 9	80 5. 7	191 13. 5	47 3. 3	11 0. 8
問27 家族形態	A 同居している 未就学の子ども	いる	184	23. 4	34. 2	7. 6	28. 8	6. 0	0. 0
		いない	1, 128	41. 4	37. 9	5. 5	11. 2	3. 2	0. 9
		無回答	98	52. 0	30. 6	4. 1	12. 2	0. 0	1. 0
	B 同居している 小学生の子ども	いる	162	28. 4	38. 3	6. 2	23. 5	3. 7	0. 0
		いない	1, 150	40. 7	37. 0	5. 7	12. 3	3. 5	0. 9
		無回答	98	48. 0	32. 7	5. 1	12. 2	1. 0	1. 0
	C 同居・別居を問わず 65～74歳の家族	いる	540	43. 5	35. 7	4. 4	12. 2	3. 0	1. 1
		いない	718	34. 5	38. 0	6. 7	16. 2	4. 2	0. 4
		無回答	152	51. 3	35. 5	5. 3	5. 9	0. 7	1. 3
	D 同居・別居を問わず 75歳以上の家族	いる	451	41. 0	35. 9	5. 5	12. 4	4. 0	1. 1
		いない	817	35. 6	38. 9	6. 2	15. 2	3. 4	0. 6
		無回答	142	59. 9	28. 2	2. 8	7. 7	0. 7	0. 7
	E 日中、家で子どもの 世話をする方	いる	338	30. 5	37. 6	5. 3	21. 3	5. 0	0. 3
		いない	855	39. 6	38. 0	6. 1	12. 0	3. 5	0. 7
		無回答	217	54. 8	31. 3	4. 6	7. 4	0. 0	1. 8
	F 共働き	している	388	31. 7	38. 9	7. 5	17. 3	3. 6	1. 0
		していない	884	41. 3	36. 8	5. 0	12. 7	3. 7	0. 6
		138	52. 9	31. 9	5. 1	8. 7	0. 0	1. 4	

■ 家族構成別 高齢化の進行を感じているか(問9× 問28)

- ・ 「ひとり暮らし」「夫婦だけ」「その他」では「強く感じることもある」が、「親と子（2世代）」「祖父母と親と子（3世代）」では「多少感じることもある」が最も多くなっている。

図 家族構成別 高齢化の進行を感じているか

問9 戸塚区で高齢化が進んでいると感じることがありますか

		全体	強く感じる こともある	多少感じる こともある	どちらとも いえない	あまり感じ たことがな い	感じたこと がない	無回答
全 体		1,410 100.0	561 39.8	520 36.9	80 5.7	191 13.5	47 3.3	11 0.8
問28 家族構成	ひとり暮らし	91	45.1	27.5	6.6	9.9	8.8	2.2
	夫婦だけ	386	46.6	33.9	5.4	10.6	2.3	1.0
	親と子（2世代）	775	34.7	38.7	5.9	16.5	3.6	0.5
	祖父母と親と子（3世代）	107	39.3	43.9	4.7	9.3	1.9	0.9
	その他	20	50.0	45.0	0.0	5.0	0.0	0.0
	無回答	31	61.3	25.8	6.5	6.5	0.0	0.0

■ 居住開始時期別 高齢化の進行を感じているか(問9× 問31)

- ・ 居住開始時期が「昭和20年（1945年）以前」から「昭和50～59年（1975～1984年）」にかけては「強く感じることもある」が、「昭和60～平成6年（1985～1994年）」以降では「多少感じることもある」が最も多くなっている。
- ・ また「平成12～16年（2000～2004年）」「平成17年（2005年）以降」では「あまり感じたことがない」の割合が他に比べて高いなど、居住年数が浅いほど高齢化の実感が薄い傾向が伺われる。

図 居住開始時期別 高齢化の進行を感じているか

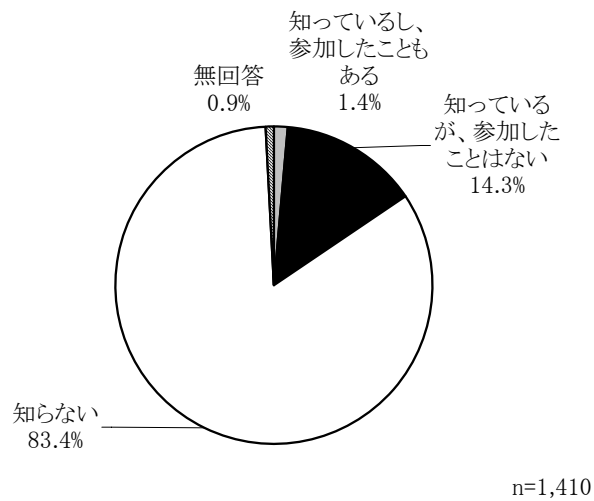
問9 戸塚区で高齢化が進んでいると感じることがありますか

		全体	強く感じる こともある	多少感じる こともある	どちらとも いえない	あまり感じ たことがな い	感じたこと がない	無回答
全 体		1,410 100.0	561 39.8	520 36.9	80 5.7	191 13.5	47 3.3	11 0.8
問31 居住開始 時期	昭和20年（1945年）以前	26	61.5	26.9	7.7	3.8	0.0	0.0
	昭和20～29年（1945～1954年）	19	68.4	26.3	5.3	0.0	0.0	0.0
	昭和30～39年（1955～1964年）	68	61.8	30.9	0.0	4.4	1.5	1.5
	昭和40～49年（1965～1974年）	177	60.5	32.2	4.0	3.4	0.0	0.0
	昭和50～59年（1975～1984年）	237	49.8	36.7	5.5	5.9	1.3	0.8
	昭和60～平成6年（1985～1994年）	261	33.3	45.6	5.0	13.8	1.9	0.4
	平成7～11年（1995～1999年）	162	34.6	38.3	6.8	16.7	3.1	0.6
	平成12～16年（2000～2004年）	218	28.0	33.9	6.4	23.4	7.8	0.5
	平成17年（2005年）以降	192	17.7	38.0	9.4	25.0	8.3	1.6
	無回答	50	54.0	30.0	2.0	10.0	0.0	4.0

問 10 あなたは、戸塚区で実施されている認知症予防教室を知っていますか。(○は1つだけ)

- ・ 「知らない」が 83.4%で圧倒的に多い。次いで「知っているが、参加したことはない」が 14.3%、「知っているし、参加したこともある」は 1.4%であった。

図 認知症予防教室の認知度



■ 男女別 認知症予防教室の認知度(問10× 問24)

- ・ 男女とも「知らない」が最も多い。特に男性は 9 割に達し、女性を 13.2 ポイント上回っている。また、女性は「知っているが、参加したことはない」が 12.1 ポイント男性より多くなっている。

図 男女別 認知症予防教室の認知度

問10 認知症予防教室を知っていますか

		全体	知っているし、参加したこともある	知っているが、参加したことはない	知らない	無回答
全 体		1,410	20	201	1,176	13
		100.0	1.4	14.3	83.4	0.9
問24 性別	男性	656	1.1	7.9	90.4	0.6
	女性	740	1.8	20.0	77.2	1.1
	無回答	14	0.0	7.1	85.7	7.1

■ 年齢別 認知症予防教室の認知度(問10× 問25)

- ・ いずれの年代においても「知らない」が最も多いが、若い世代ほど認知度が低く、10代、20代では「知らない」が9割台の後半に達している。
- ・ また、70代では「知っているが、参加したことはない」が他の世代よりやや高くなっている。

図 年齢別 認知症予防教室の認知度

問10 認知症予防教室を知っていますか

		全体	知っているし、参加したこともある	知っているが、参加したことはない	知らない	無回答
全 体		1,410 100.0	20 1.4	201 14.3	1,176 83.4	13 0.9
問25 年齢	10代	36	0.0	2.8	97.2	0.0
	20代	127	0.0	3.1	96.1	0.8
	30代	265	0.4	5.3	93.2	1.1
	40代	194	0.0	11.3	86.6	2.1
	50代	255	1.2	16.9	82.0	0.0
	60代	273	2.9	21.6	74.7	0.7
	70代	188	2.7	23.4	72.9	1.1
	80代～	60	5.0	21.7	71.7	1.7
	無回答	12	0.0	8.3	91.7	0.0

■ 居住開始時期別 認知症予防教室の認知度(問10× 問31)

- ・ いずれも「知らない」が最も多いが、居住年数が浅いほど認知度が低く、「平成17年（2005年）以降」では「知らない」が9割を超える。
- ・ また、「昭和20～29年（1945～1954年）」では「知っているし、参加したこともある」が、「昭和20年（1945年）以前」及び「昭和30～39年（1955～1964年）」「昭和40～49年（1965～1974年）」では「知っているが、参加したことはない」が他よりやや高くなっている。

図 居住開始時期別 認知症予防教室の認知度

問10 認知症予防教室を知っていますか

		全体	知っているし、参加したこともある	知っているが、参加したことはない	知らない	無回答
全 体		1,410 100.0	20 1.4	201 14.3	1,176 83.4	13 0.9
問31 居住開始 時期	昭和20年（1945年）以前	26	0.0	23.1	73.1	3.8
	昭和20～29年（1945～1954年）	19	10.5	15.8	73.7	0.0
	昭和30～39年（1955～1964年）	68	1.5	23.5	73.5	1.5
	昭和40～49年（1965～1974年）	177	3.4	23.2	73.4	0.0
	昭和50～59年（1975～1984年）	237	3.0	16.0	80.6	0.4
	昭和60～平成6年（1985～1994年）	261	0.0	13.8	85.4	0.8
	平成7～11年（1995～1999年）	162	0.6	13.6	84.6	1.2
	平成12～16年（2000～2004年）	218	0.9	9.6	88.5	0.9
	平成17年（2005年）以降	192	0.5	3.6	94.8	1.0
	無回答	50	0.0	22.0	74.0	4.0

問 11 10年後、戸塚区は4人に1人が 65 歳以上の高齢者となることが予測されています。「超高齢社会」を迎えるにあたって、持続可能な地域社会のために、あなたは何が必要だと思いますか。特に大切だと思うものを3つまで選んでください。

- ・ 「いつまでも元気に暮らせるための介護予防など高齢者支援の充実」が 625 件で最も多い。次いで「身近な地域での支えあい・助けあい」(595 件)、「病院や駅へ行くための身近な交通手段の確保」(564 件)、「高齢者を対象とした新たな雇用機会の創出」(496 件)、「高齢者を対象とした健診など健康管理体制の整備」(482 件)、「将来世代を生み育てやすくするための子育て支援の充実」(424 件) などが多くなっている。

図 「超高齢社会」を迎えるにあたって、持続可能な地域社会のために必要なこと

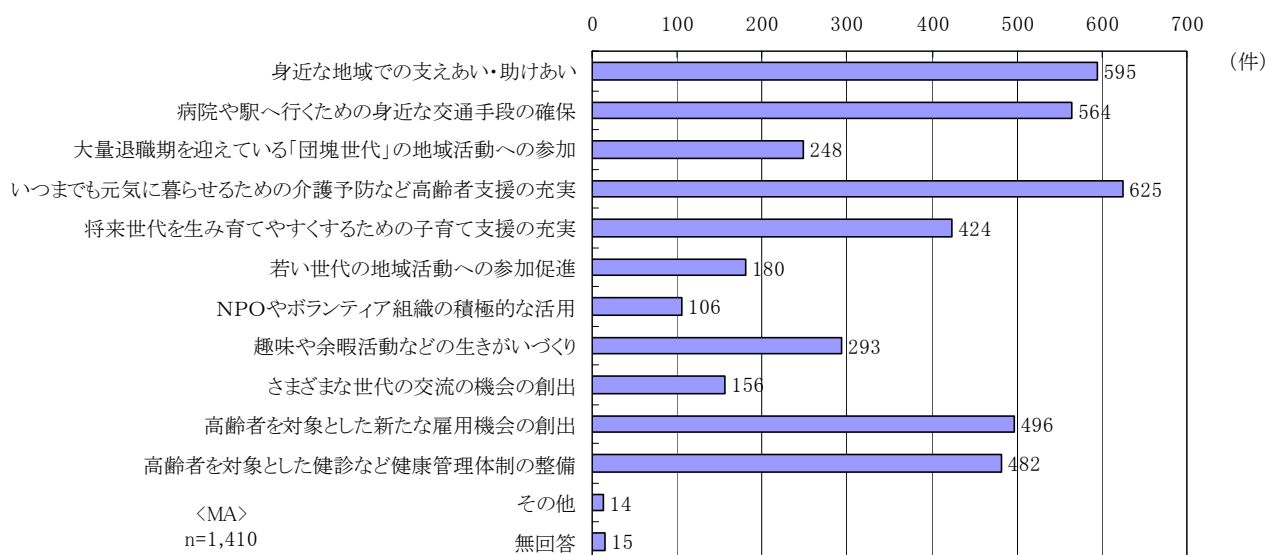


図 「その他」意見概要

意見内容	件数
誰でも気楽に出入りでき、お茶や食事、おしゃべり、趣味の手仕事等ができる場所があれば良い	1
要介護者、高齢者の病人などに対する医療、介護体制の整備・充実	1
バリアフリー、病院整備体制の見直し	1
介護施設（区営）	1
計	4

■ 男女別「超高齢社会」を迎えるにあたって、持続可能な地域社会のために必要なこと(問11×問24)

- ・ 男性は「いつまでも元気に暮らせるための介護予防など高齢者支援の充実」、女性は「身近な地域での支えあい・助けあい」が最も多くなっている。

図 男女別「超高齢社会」を迎えるにあたって、持続可能な地域社会のために必要なこと

問11 10年後、戸塚区は4人に1人が65歳以上の高齢者となることが予測されています。
「超高齢社会」を迎えるにあたって、何が必要だと思いますか（複数回答）

		全体	身近な地域 での支えあ い・助けあ い	病院や駅へ 行くための 身近な交通 手段の確保	大量退職期 を迎えている 「団塊世 代」の地域 活動への参 加	いつまでも 元気に暮ら せるための 介護予防な ど高齢者支 援の充実	将来世代を 生み育てや すくするた めの子育て 支援の充実	若い世代の 地域活動へ の参加促進	NPOやボ ランティア 組織の積極 的な活用
全 体		1,410	595	564	248	625	424	180	106
		—	42.2	40.0	17.6	44.3	30.1	12.8	7.5
問24 性別	男性	656	39.6	37.3	19.4	44.1	30.5	13.3	7.8
	女性	740	44.6	41.8	16.1	44.5	29.9	12.4	7.4
	無回答	14	35.7	71.4	14.3	50.0	21.4	7.1	0.0

		全体	趣味や余暇 活動などの 生きがいづ くり	さまざまな 世代の交流 の機会の創 出	高齢者を対 象とした新 たな雇用機 会の創出	高齢者を対 象とした健 診など健康 管理体制の 整備	その他	無回答
全 体		1,410	293	156	496	482	14	15
		—	20.8	11.1	35.2	34.2	1.0	1.1
問24 性別	男性	656	20.6	10.5	37.7	38.1	0.9	0.8
	女性	740	20.9	11.8	33.2	30.5	1.1	1.2
	無回答	14	21.4	0.0	21.4	42.9	0.0	7.1

■ 年齢別「超高齢社会」を迎えるにあたって、持続可能な地域社会のために必要なこと(問11×問25)

- ・ 10代は「病院や駅へ行くための身近な交通手段の確保」、子育て中あるいは子育て準備世代である20代は「将来世代を生み育てやすくするための子育て支援の充実」、親世代が高齢者世代に入っていく30代、40代では「高齢者を対象とした新たな雇用機会の創出」、50代は「身近な地域での支えあい・助けあい」、高齢者世代あるいは今後高齢者に向かう世代である60代以上では「いつまでも元気に暮らせるための介護予防など高齢者支援の充実」が最も多くなっており、ライフステージで回答が分かれた。

図 年齢別「超高齢社会」を迎えるにあたって、持続可能な地域社会のために必要なこと

問11 10年後、戸塚区は4人に1人が65歳以上の高齢者となることが予測されています。
「超高齢社会」を迎えるにあたって、何が必要だと思いますか（複数回答）

		全体	身近な地域 での支えあ い・助けあ い	病院や駅へ 行くための 身近な交通 手段の確保	大量退職期 を迎えている 「団塊世 代」の地域 活動への参 加	いつまでも 元気に暮ら せるための 介護予防な ど高齢者支 援の充実	将来世代を 生み育てや すくするた めの子育て 支援の充実	若い世代の 地域活動へ の参加促進	NPOやボ ランティア 組織の積極 的な活用
全 体		1,410	595	564	248	625	424	180	106
		—	42.2	40.0	17.6	44.3	30.1	12.8	7.5
問25 年齢	10代	36	38.9	47.2	11.1	36.1	30.6	19.4	8.3
	20代	127	31.5	42.5	22.8	33.9	47.2	10.2	10.2
	30代	265	36.2	40.4	21.9	31.7	48.7	8.3	6.0
	40代	194	39.2	38.7	16.5	39.7	30.4	10.3	6.2
	50代	255	44.3	37.6	29.8	42.7	19.2	12.2	5.9
	60代	273	45.8	39.9	11.4	54.2	24.9	17.2	8.1
	70代	188	51.1	39.9	5.9	56.9	18.1	16.5	10.6
	80代～	60	55.0	40.0	8.3	60.0	16.7	15.0	8.3
	無回答	12	16.7	58.3	16.7	66.7	33.3	0.0	0.0

		全体	趣味や余暇 活動などの 生きがいづ くり	さまざまな 世代の交流 の機会の創 出	高齢者を対 象とした新 たな雇用機 会の創出	高齢者を対 象とした健 診など健康 管理体制の 整備	その他	無回答
全 体		1,410	293	156	496	482	14	15
		—	20.8	11.1	35.2	34.2	1.0	1.1
問25 年齢	10代	36	41.7	11.1	25.0	19.4	0.0	0.0
	20代	127	28.3	14.2	46.5	31.5	2.4	0.8
	30代	265	19.2	11.7	50.2	22.3	1.1	0.8
	40代	194	18.0	9.8	41.2	30.4	2.1	2.6
	50代	255	20.8	11.4	40.4	37.3	1.2	0.4
	60代	273	21.6	12.1	22.3	43.6	0.0	0.4
	70代	188	18.1	9.6	19.1	42.6	0.5	1.6
	80代～	60	13.3	6.7	16.7	30.0	0.0	3.3
	無回答	12	16.7	0.0	41.7	41.7	0.0	0.0

■ 地域別「超高齢社会」を迎えるにあたって、持続可能な地域社会のために必要なこと(問11×問26)

- ・ 「名瀬・上矢部地域」「深谷・原宿地域」では「身近な地域での支えあい・助けあい」、「舞岡・柏尾地域」では「病院や駅へ行くための身近な交通手段の確保」、それ以外の地域では「いつまでも元気に暮らせるための介護予防など高齢者支援の充実」が最も多くなっている。
- ・ また、「品濃町・川上地域」では「大量退職期を迎えている「団塊世代」の地域活動への参加」の数値が他の地域に比べて高くなっている。

図 地域別「超高齢社会」を迎えるにあたって、持続可能な地域社会のために必要なこと

問11 10年後、戸塚区は4人に1人が65歳以上の高齢者となることが予測されています。
「超高齢社会」を迎えるにあたって、何が必要だと思いますか（複数回答）

	全体	身近な地域での支えあい・助けあい	病院や駅へ行くための身近な交通手段の確保	大量退職期を迎えている「団塊世代」の地域活動への参加	いつまでも元気に暮らせるための介護予防など高齢者支援の充実	将来世代を生き育てやすくなるための子育て支援の充実	若い世代の地域活動への参加促進	NPOやボランティア組織の積極的な活用
全 体	1,410	595	564	248	625	424	180	106
	—	42.2	40.0	17.6	44.3	30.1	12.8	7.5
問26 居住地域								
平戸・平戸平和台地域	133	36.8	39.8	16.5	40.6	31.6	12.0	7.5
品濃町・川上地域	203	36.5	30.0	27.6	44.8	29.1	10.8	6.9
名瀬・上矢部地域	157	46.5	37.6	17.2	40.1	26.1	15.3	5.1
舞岡・柏尾地域	122	45.9	47.5	10.7	44.3	28.7	10.7	11.5
汲沢・吉田地域	267	40.4	40.8	20.2	44.2	29.6	14.6	8.6
倉田地域	123	45.5	39.0	16.3	47.2	31.7	13.0	10.6
戸塚地域	179	39.7	42.5	16.2	46.4	35.2	11.2	5.6
深谷・原宿地域	210	49.0	42.9	11.0	44.3	28.6	14.3	6.7
無回答	16	31.3	62.5	25.0	68.8	37.5	0.0	0.0

	全体	趣味や余暇活動などの生きがいづくり	さまざまな世代の交流の機会の創出	高齢者を対象とした新たな雇用機会の創出	高齢者を対象とした健康診断など健康管理体制の整備	その他	無回答
全 体	1,410	293	156	496	482	14	15
	—	20.8	11.1	35.2	34.2	1.0	1.1
問26 居住地域							
平戸・平戸平和台地域	133	26.3	12.8	36.8	33.1	0.0	0.8
品濃町・川上地域	203	23.6	9.9	38.9	36.0	1.5	0.5
名瀬・上矢部地域	157	22.9	14.6	35.7	31.2	1.3	0.6
舞岡・柏尾地域	122	18.0	9.0	38.5	40.2	0.8	0.0
汲沢・吉田地域	267	17.2	10.1	37.5	29.6	0.4	1.5
倉田地域	123	18.7	18.7	28.5	34.1	1.6	1.6
戸塚地域	179	18.4	10.1	35.8	34.6	0.0	2.8
深谷・原宿地域	210	22.4	8.1	28.6	38.1	2.4	0.5
無回答	16	18.8	0.0	37.5	25.0	0.0	0.0

■ 職業別「超高齢社会」を迎えるにあたって、持続可能な地域社会のために必要なこと(問11×問29)

- ・ 「自営業」「主婦・主夫」では「身近な地域での支えあい・助けあい」、「管理職」では「高齢者を対象とした健診など健康管理体制の整備」、「専門技術職」では「将来世代を生み育てやすくするための子育て支援の充実」、「事務職」「現業職」「学生」では「高齢者を対象とした新たな雇用機会の創出」、「無職」では「いつまでも元気に暮らせるための介護予防など高齢者支援の充実」、「その他」では「病院や駅へ行くための身近な交通手段の確保」が最も多くなっており、職業によって回答が分散した。

図 職業別「超高齢社会」を迎えるにあたって、持続可能な地域社会のために必要なこと

問11 10年後、戸塚区は4人に1人が65歳以上の高齢者となることが予測されています。
「超高齢社会」を迎えるにあたって、何が必要だと思いますか(複数回答)

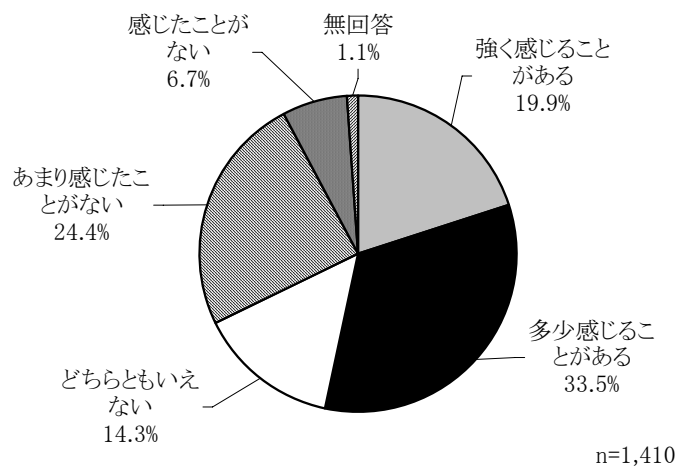
		全体	身近な地域での支えあい・助けあい	病院や駅へ行くための身近な交通手段の確保	大量退職期を迎えている「団塊世代」の地域活動への参加	いつまでも元気に暮らせるための介護予防など高齢者支援の充実	将来世代を生み育てやすくするための子育て支援の充実	若い世代の地域活動への参加促進	NPOやボランティア組織の積極的な活用
全 体		1,410	595	564	248	625	424	180	106
		—	42.2	40.0	17.6	44.3	30.1	12.8	7.5
問29 職業	自営業	81	49.4	39.5	24.7	45.7	33.3	14.8	4.9
	管理職	76	32.9	26.3	34.2	38.2	23.7	7.9	13.2
	専門技術職	100	38.0	31.0	25.0	32.0	51.0	10.0	6.0
	事務職	177	31.6	45.8	20.9	37.3	37.9	13.6	8.5
	現業職	162	39.5	38.9	18.5	45.1	29.6	11.1	2.5
	主婦・主夫	352	47.2	39.2	18.2	44.3	29.3	13.6	6.0
	学生	57	36.8	40.4	12.3	31.6	29.8	10.5	10.5
	無職	267	49.8	43.1	7.9	58.1	21.0	13.5	12.0
	その他	76	32.9	39.5	17.1	38.2	26.3	13.2	7.9
無回答		62	43.5	50.0	8.1	48.4	27.4	16.1	3.2

		全体	趣味や余暇活動などの生きがいづくり	さまざまな世代の交流の機会の創出	高齢者を対象とした新たな雇用機会の創出	高齢者を対象とした健診など健康管理体制の整備	その他	無回答
全 体		1,410	293	156	496	482	14	15
		—	20.8	11.1	35.2	34.2	1.0	1.1
問29 職業	自営業	81	21.0	11.1	34.6	30.9	1.2	2.5
	管理職	76	15.8	11.8	35.5	51.3	2.6	1.3
	専門技術職	100	20.0	13.0	44.0	18.0	2.0	0.0
	事務職	177	18.6	9.6	48.6	32.2	1.1	1.7
	現業職	162	16.7	16.0	46.9	34.0	0.0	0.0
	主婦・主夫	352	23.3	11.4	31.0	31.8	1.4	0.9
	学生	57	38.6	10.5	42.1	31.6	1.8	0.0
	無職	267	15.7	7.5	23.2	43.8	0.0	1.1
	その他	76	31.6	15.8	31.6	38.2	0.0	0.0
無回答		62	22.6	6.5	25.8	19.4	1.6	4.8

問 12 あなたは、戸塚区で少子化が進んでいることを感じるがありますか。(○は1つだけ)

- ・ 「多少感じるがある」が 33.5%で最も多い。次いで「あまり感じたことがない」(24.4%)、「強く感じるがある」(19.9%)、「どちらともいえない」(14.3%)、「感じたことがない」(6.7%)の順となっている。「強く感じるがある」「多少感じるがある」は合わせて 53.4%、「あまり感じたことがない」「感じたことがない」は 31.5%となっており、何らかの形で少子化を実感している層は半数を超えている。

図 少子化の進行を感じているか



■ 年齢別 少子化の進行を感じているか(問12× 問25)

- ・ 10代と50代以上の世代においては「多少感じるがある」が最も多いが、20代から40代にかけての世代では「あまり感じたことがない」が最も多くなっており、現在子育て中の世代よりもそれ以外の世代において、少子化の進行が実感されていることが伺われる。
- ・ とくに60代、70代では他に比べて「強く感じるがある」の割合が高くなっている。

図 年齢別 少子化の進行を感じているか

問12 戸塚区で少子化が進んでいることを感じるがありますか

		全体	強く感じる がある	多少感じる がある	どちらとも いえない	あまり感じ たことがな い	感じたこと がない	無回答
全 体		1,410	281	472	202	344	95	16
		100.0	19.9	33.5	14.3	24.4	6.7	1.1
問25 年齢	10代	36	16.7	33.3	11.1	30.6	8.3	0.0
	20代	127	13.4	23.6	13.4	37.0	11.8	0.8
	30代	265	9.1	24.5	12.8	38.1	14.7	0.8
	40代	194	10.8	26.8	17.5	33.0	9.3	2.6
	50代	255	19.2	38.4	15.3	23.5	2.7	0.8
	60代	273	30.0	40.7	14.7	11.7	2.6	0.4
	70代	188	35.6	38.8	11.7	9.6	2.7	1.6
	80代～ 無回答	60 12	21.7 16.7	43.3 41.7	15.0 25.0	16.7 8.3	1.7 0.0	1.7 8.3

■ 地域別 少子化の進行を感じているか(問12× 問26)

- ・ 「品濃町・川上地域」で「あまり感じたことがない」が最も多くなっている以外は「多少感じることもある」が最も多い。
- ・ また「深谷・原宿地域」では「強く感じることもある」の割合が他に比べて高くなっている。

図 地域別 少子化の進行を感じているか

問12 戸塚区で少子化が進んでいると感じることがありますか

		全体	強く感じる ことがある	多少感じる ことがある	どちらとも いえない	あまり感じ たことがな い	感じたこと がない	無回答
全 体		1,410 100.0	281 19.9	472 33.5	202 14.3	344 24.4	95 6.7	16 1.1
問26 居住地域	平戸・平戸平和台地域	133	19.5	33.8	15.0	25.6	5.3	0.8
	品濃町・川上地域	203	11.3	27.1	14.3	33.0	12.8	1.5
	名瀬・上矢部地域	157	19.1	35.0	13.4	27.4	4.5	0.6
	舞岡・柏尾地域	122	24.6	42.6	10.7	17.2	4.9	0.0
	汲沢・吉田地域	267	19.1	34.5	16.9	23.2	5.6	0.7
	倉田地域	123	18.7	32.5	15.4	26.0	4.9	2.4
	戸塚地域	179	16.8	30.2	15.6	27.4	8.4	1.7
	深谷・原宿地域	210	31.0	35.2	11.4	16.2	5.7	0.5
	無回答	16	18.8	31.3	18.8	12.5	6.3	12.5

■ 家族形態別 少子化の進行を感じているか(問12× 問25)

- ・ 「同居している未就学の子ども」「同居している小学生の子ども」「日中、家で子どもの世話をする方」が「いる」場合において「あまり感じたことがない」が最も多く、それ以外では「多少感じることもある」が最も多くなっている。
- ・ 「同居している未就学の子ども」が「いる」場合は「感じたことがない」の数値も他に比べて高く、年齢別と同様、現在子育てに直面している場合にはそれほど少子化の進行を実感していない様子が伺われる。

図 家族形態別 少子化の進行を感じているか

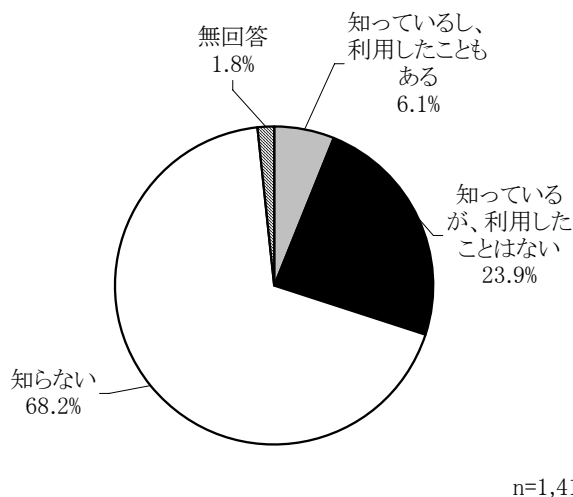
問12 戸塚区で少子化が進んでいると感じることがありますか

			全体	強く感じる ことがある	多少感じる ことがある	どちらとも いえない	あまり感じ たことがない	感じたこと がない	無回答
全 体			1,410	281	472	202	344	95	16
問27 家族形態	A 同居している 未就学の子ども	いる	184	7.6	21.7	12.0	41.8	16.8	0.0
		いない	1,128	21.9	34.4	14.5	22.7	5.3	1.2
		無回答	98	20.4	44.9	16.3	11.2	4.1	3.1
	B 同居している 小学生の子ども	いる	162	12.3	27.8	16.7	34.0	9.3	0.0
		いない	1,150	21.0	33.4	13.7	23.9	6.8	1.1
		無回答	98	19.4	43.9	17.3	14.3	2.0	3.1
	C 同居・別居を問わず 65～74歳の家族	いる	540	21.5	35.9	13.1	21.7	6.5	1.3
		いない	718	19.1	29.7	14.9	27.6	8.1	0.7
		無回答	152	18.4	42.8	15.8	19.1	1.3	2.6
	D 同居・別居を問わず 75歳以上の家族	いる	451	17.7	36.6	15.1	23.1	6.4	1.1
		いない	817	20.4	30.6	14.1	26.1	8.0	0.9
		無回答	142	23.9	40.1	13.4	19.0	0.7	2.8
	E 日中、家で子どもの 世話をする方	いる	338	13.9	27.2	12.4	34.0	12.1	0.3
		いない	855	21.2	33.3	14.6	23.7	6.0	1.2
		無回答	217	24.4	43.8	16.1	12.0	1.4	2.3
	F 共働き	している	388	16.5	33.0	16.0	27.1	5.7	1.8
		していない	884	21.3	31.9	13.5	24.8	8.1	0.5
		138	21.0	44.9	15.2	14.5	0.7	3.6	

問 13 戸塚区では子育て支援の一環として、地区センターや地域ケアプラザなど地域の身近な場所(13 か所)で週1回、おもちゃで遊んだりおしゃべりしたり、子育ての相談もできる「遊び場・しゃべり場・ほっとタイム」を行っています。あなたはこの取組を知っていますか。(○は1つだけ)

- ・ 「知らない」が 68.2%で、7 割弱である。次いで「知っているが、参加したことはない」が 23.9%、「知っているし、参加したこともある」は 6.1%であった。

図 「遊び場・しゃべり場・ほっとタイム」の認知度



■ 男女別 「遊び場・しゃべり場・ほっとタイム」の認知度(問13×問24)

- ・ いずれも「知らない」が最も多いが、特に男性の認知度が低く、女性を約 20 ポイント上回って「知らない」が 8 割近くに達している。女性は「知っているが、利用したことはない」が男性より約 12 ポイント高い。

図 男女別 「遊び場・しゃべり場・ほっとタイム」の認知度

問13 「遊び場・しゃべり場・ほっとタイム」の取組を知っていますか

		全体	知っているし、利用したこともある	知っているが、利用したことはない	知らない	無回答
全 体		1,410	86	337	962	25
		100.0	6.1	23.9	68.2	1.8
問24 性別	男性	656	2.9	17.5	78.8	0.8
	女性	740	9.1	29.6	58.9	2.4
	無回答	14	0.0	21.4	64.3	14.3

■ 年齢別「遊び場・しゃべり場・ほっとタイム」の認知度(問13×問25)

- ・ いずれも「知らない」が最も多いが、特に10代、20代において認知度が低い。
- ・ 30代では「知っているし、利用したこともある」が他世代に比べて高くなっている。

図 年齢別「遊び場・しゃべり場・ほっとタイム」の認知度

問13 「遊び場・しゃべり場・ほっとタイム」の取組を知っていますか

		全体	知っている し、利用した こともある	知っている が、利用した ことはない	知らない	無回答
全 体		1,410 100.0	86 6.1	337 23.9	962 68.2	25 1.8
問25 年齢	10代	36	0.0	11.1	88.9	0.0
	20代	127	4.7	11.8	82.7	0.8
	30代	265	17.4	28.3	53.2	1.1
	40代	194	7.7	26.3	63.9	2.1
	50代	255	0.4	19.6	79.2	0.8
	60代	273	4.0	28.6	66.7	0.7
	70代	188	2.7	26.6	66.0	4.8
	80代～	60	3.3	21.7	70.0	5.0
	無回答	12	0.0	8.3	83.3	8.3

■ 家族形態別「遊び場・しゃべり場・ほっとタイム」の認知度(問13×問27)

- ・ 「同居している未就学の子ども」が「いる」場合のみ「知っているが、利用したことはない」が最も多く、それ以外ではいずれも「知らない」が最も多くなっている。
- ・ また「同居している未就学の子ども」が「いる」場合は「知っているし、利用したこともある」が他に比べて高く3割近くになっている。「日中、家で子どもの世話をする方」が「いる」としたケースにおいてもやや数値が高くなっている。

図 家族形態別「遊び場・しゃべり場・ほっとタイム」の認知度

問13 「遊び場・しゃべり場・ほっとタイム」の取組を知っていますか

			全体	知っている し、利用した こともある	知っている が、利用した ことはない	知らない	無回答
全 体			1,410 100.0	86 6.1	337 23.9	962 68.2	25 1.8
問27 家族形態	A 同居している 未就学の子ども	いる	184	27.2	37.5	34.8	0.5
		いない	1,128	2.6	22.1	73.6	1.8
		無回答	98	7.1	19.4	69.4	4.1
	B 同居している 小学生の子ども	いる	162	12.3	37.7	49.4	0.6
		いない	1,150	5.2	22.2	70.9	1.7
		無回答	98	6.1	21.4	68.4	4.1
	C 同居・別居を問わず 65～74歳の家族	いる	540	8.0	27.6	62.4	2.0
		いない	718	5.0	22.1	72.0	0.8
		無回答	152	4.6	19.1	71.1	5.3
	D 同居・別居を問わず 75歳以上の家族	いる	451	5.1	18.8	74.3	1.8
		いない	817	6.7	26.8	65.4	1.1
		無回答	142	5.6	23.2	65.5	5.6
E 日中、家で子どもの 世話をする方	いる	338	15.7	29.9	53.8	0.6	
	いない	855	3.2	21.8	73.8	1.3	
	無回答	217	2.8	23.0	68.7	5.5	
F 共働き	している	388	4.9	24.2	68.6	2.3	
	していない	884	6.9	24.4	67.6	1.0	
		138	4.3	19.6	71.0	5.1	

問 13-1 (問 13 で「1」と答えた方に)今後、どのようなことを望みますか。(〇はいくつでも)

- ・ 「もっと周知することが必要だと思う」が 35 件、「場所や回数を増やして欲しい」が 33 件である。
以下「このままの内容で継続的に開催して欲しい」(25 件)、「相談だけでなく、養育者向けの講座も行って欲しい」(19 件)、「その他」(3 件)となっている。

図 「遊び場・しゃべり場・ほっとタイム」に今後望むこと

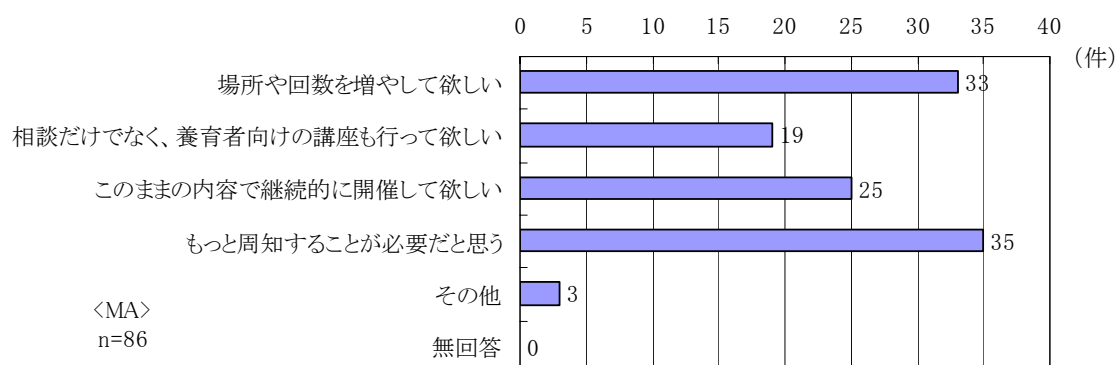


図 「その他」意見概要

意見内容	件数
対象年齢の拡大	1
専門家のアドバイス	1
計	2

■ 男女別 「遊び場・しゃべり場・ほっとタイム」に今後望むこと(問13-1 × 問24)

- ・ 男性は「もっと周知することが必要だと思う」が最も多く、女性より 15.3 ポイント多い。女性は「場所や回数を増やして欲しい」が最も多く、男性を 22.2 ポイント上回っている。

図 男女別 「遊び場・しゃべり場・ほっとタイム」に今後望むこと

問13-1 今後、どのようなことを望みますか (複数回答)

		全体	場所や回数を増やして欲しい	相談だけでなく、養育者向けの講座も行って欲しい	このままの内容で継続的に開催して欲しい	もっと周知することが必要だと思う	その他	無回答
全 体		86	33	19	25	35	3	0
		—	38.4	22.1	29.1	40.7	3.5	0.0
問24 性別	男性	19	21.1	15.8	47.4	52.6	0.0	0.0
	女性	67	43.3	23.9	23.9	37.3	4.5	0.0
	無回答	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 13-2（問 13 で「2」と答えた方に）利用しない理由は何ですか。（○はいくつでも）

- ・ 「利用する必要がある」が 254 件で、この一点に回答は集中している。以下「時間がない」（36 件）、「場所が遠い」（26 件）、「その他」（14 件）である。
- ・ 「その他」14 件全てに具体的な記述があった。「利用方法（場所、日程）がわからない」「出産したばかり、子どもがまだ小さいから」「特に参加しようと思わない」が各 2 件となっている。

図 「遊び場・しゃべり場・ほっとタイム」を利用しない理由

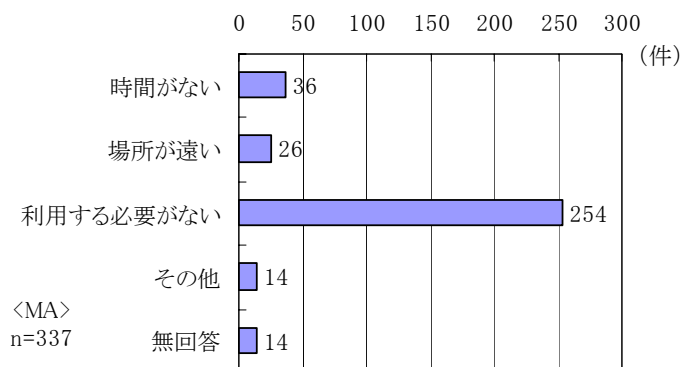


図 「その他」意見概要

意見内容	件数
利用方法（場所、日程）がわからない	2
出産したばかり、子どもがまだ小さいから	2
特に参加しようと思わない	2
まだ知ったばかりだから	1
考え方が合わない	1
階段があってベビーカーで行くには不便だから	1
場所が狭い	1
他の活動に参加しているから	1
日程があわない	1
苦手な人がいたらイヤだと思ったから	1
利用しづらい	1
計	14

■ 年齢別 「遊び場・しゃべり場・ほっとタイム」を利用しない理由(問13-2× 問25)

- ・ いずれも「利用する必要がある」が最も多い。30 代では「時間がない」が他世代に比べて多いほか、「場所が遠い」の数値も高くなっている。

図 「遊び場・しゃべり場・ほっとタイム」を利用しない理由

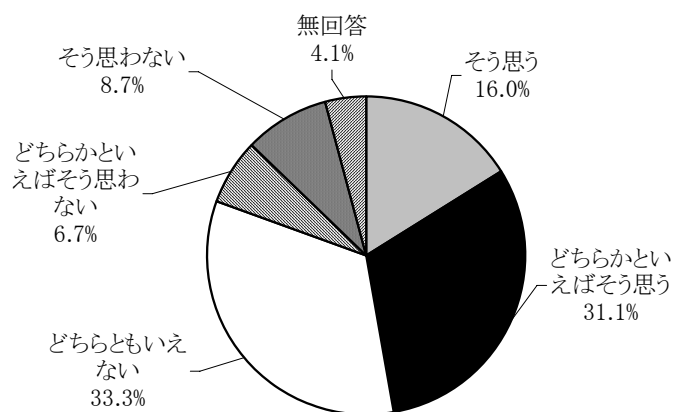
問13-2 利用しない理由は何ですか（複数回答）

		全体	時間がない	場所が遠い	利用する必要がある	その他	無回答
全 体		337	36	26	254	14	14
		—	10.7	7.7	75.4	4.2	4.2
問25 年齢	10代	4	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	20代	15	13.3	0.0	80.0	0.0	6.7
	30代	75	21.3	18.7	50.7	13.3	4.0
	40代	51	7.8	5.9	72.5	7.8	5.9
	50代	50	10.0	6.0	82.0	0.0	2.0
	60代	78	3.8	3.8	89.7	0.0	2.6
	70代	50	10.0	2.0	82.0	0.0	8.0
	80代～	13	0.0	15.4	84.6	0.0	0.0
無回答		1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 14 今後あなたは、ご自分の力(特技、技術ほか)をボランティア・市民活動や自治会・町内会等の地域活動で生かしていきたいと思いますか。(〇は1つだけ)

- ・ 「どちらともいえない」が 33.3%で最も多く、「どちらかといえばそう思う」が 31.1%と僅差でこれに続いている。以下「そう思う」(16.0%)、「そう思わない」(8.7%)、「どちらかといえばそう思わない」(6.7%)と続く。また、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は合わせて 47.1%であり、自分の力を地域活動に活かしたいと思っている割合は半数近くに達している。

図 自分の力を地域活動で生かしていきたいと思うか



n=1,410

■ 年齢別 自分の力を地域活動で生かしていきたいと思うか(問14× 問25)

- ・ 40代、70代で「どちらかといえばそう思う」が最も多くなっている以外は、「どちらともいえない」が最も多い。
- ・ また、60代では「そう思う」が、20代と80代以上では「そう思わない」が他世代に比べてやや多くなっている。

図 年齢別 自分の力を地域活動で生かしていきたいと思うか

問14 今後、ご自分の力をボランティアや自治会等の地域活動で生かしていきたいと思いますか

		全体	そう思う	どちらかとい えばそう 思う	どちらとも いえない	どちらかとい えばそう 思わない	そう思わな い	無回答
全 体		1,410	226	439	470	94	123	58
		100.0	16.0	31.1	33.3	6.7	8.7	4.1
問25 年齢	10代	36	19.4	27.8	30.6	8.3	13.9	0.0
	20代	127	8.7	31.5	33.9	7.1	17.3	1.6
	30代	265	9.1	35.1	35.5	9.8	8.7	1.9
	40代	194	12.9	35.6	35.1	6.7	5.7	4.1
	50代	255	20.0	33.3	36.1	5.9	3.9	0.8
	60代	273	24.5	27.8	33.0	3.3	8.4	2.9
	70代	188	18.1	27.7	26.6	8.5	8.0	11.2
	80代～ 無回答	60 12	11.7 0.0	20.0 16.7	28.3 41.7	5.0 0.0	18.3 25.0	16.7 16.7

■ 地域別 自分の力を地域活動で生かしていきたいと思うか(問14× 問26)

- ・ 「品濃町・川上地域」「舞岡・柏尾地域」「深谷・原宿地域」で「どちらかといえばそう思う」が最も多くなっている以外は、「どちらともいえない」が最も多い。

図 地域別 自分の力を地域活動で生かしていきたいと思うか

問14 今後、ご自分の力をボランティアや自治会等の地域活動で生かしていきたいと思いますか
8.5

	全体	そう思う	どちらかとい えばそう 思う	どちらとも いえない	どちらかとい えばそう 思わない	そう思わな い	無回答
全 体	1,410 100.0	226 16.0	439 31.1	470 33.3	94 6.7	123 8.7	58 4.1
問26 居住地域							
平戸・平戸平和台地域	133	15.8	30.1	31.6	7.5	10.5	4.5
品濃町・川上地域	203	17.2	32.5	30.0	5.9	12.3	2.0
名瀬・上矢部地域	157	12.7	30.6	36.3	8.9	5.7	5.7
舞岡・柏尾地域	122	18.9	33.6	26.2	4.9	10.7	5.7
汲沢・吉田地域	267	13.9	33.0	36.3	7.9	6.4	2.6
倉田地域	123	15.4	32.5	34.1	7.3	6.5	4.1
戸塚地域	179	16.2	27.4	39.1	7.3	5.0	5.0
深谷・原宿地域	210	20.0	31.0	29.0	4.3	11.9	3.8
無回答	16	0.0	12.5	50.0	0.0	18.8	18.8

■ 職業別 自分の力を地域活動で生かしていきたいと思うか(問14× 問29)

- ・ 「管理職」「専門技術職」「学生」で「どちらかといえばそう思う」が最も多くなっている以外は、「どちらともいえない」が最も多い。
- ・ また、「学生」では「そう思わない」も他に比べて多くなっている。

図 職業別 自分の力を地域活動で生かしていきたいと思うか

問14 今後、ご自分の力をボランティアや自治会等の地域活動で生かしていきたいと思いますか
8.5

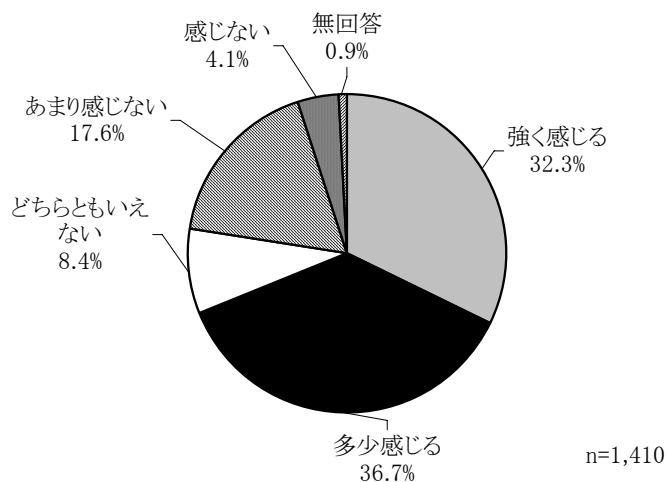
	全体	そう思う	どちらかとい えばそう 思う	どちらとも いえない	どちらかとい えばそう 思わない	そう思わな い	無回答
全 体	1,410 100.0	226 16.0	439 31.1	470 33.3	94 6.7	123 8.7	58 4.1
問29 職業							
自営業	81	21.0	34.6	34.6	3.7	2.5	3.7
管理職	76	19.7	44.7	21.1	5.3	6.6	2.6
専門技術職	100	12.0	34.0	28.0	13.0	11.0	2.0
事務職	177	14.7	29.9	33.3	7.9	10.7	3.4
現業職	162	13.0	34.6	39.5	6.2	6.8	0.0
主婦・主夫	352	17.6	33.8	35.2	6.3	4.5	2.6
学生	57	14.0	28.1	24.6	7.0	26.3	0.0
無職	267	15.7	22.5	34.1	6.4	12.0	9.4
その他	76	17.1	30.3	35.5	6.6	7.9	2.6
無回答	62	16.1	25.8	30.6	3.2	9.7	14.5

緑の保全などについて

問 15 あなたは、お住まいの地域で、身近な緑が減ってきたと感じますか。(○は1つだけ)

- ・ 「多少感じる」が 36.7%で最も多く、次いで「強く感じる」が 32.3%と、緑の減少を実感している割合は7割近くに達している。「あまり感じない」は 17.6%、「感じない」は 4.1%で、合わせて4分の1弱となっている。「どちらともいえない」は 8.4%である。

図 身近な緑が減ってきたと感じるか



■ 年齢別 身近な緑が減ってきたと感じるか(問15× 問25)

- ・ 20代、60代、80代以上で「強く感じる」、10代、30代、40代、50代、70代では「どちらかといえばそう思う」が最も多くなっている

図 年齢別 身近な緑が減ってきたと感じるか

問15 お住まいの地域で、身近な緑が減ってきたと思いますか

		全体	強く感じる	多少感じる	どちらともいえない	あまり感じない	感じない	無回答
全 体		1,410	456	517	119	248	58	12
		100.0	32.3	36.7	8.4	17.6	4.1	0.9
問25 年齢	10代	36	33.3	38.9	11.1	11.1	5.6	0.0
	20代	127	33.9	31.5	10.2	17.3	5.5	1.6
	30代	265	24.2	35.1	11.7	22.3	6.8	0.0
	40代	194	32.0	36.6	9.3	19.1	2.6	0.5
	50代	255	33.3	41.6	7.5	14.5	3.1	0.0
	60代	273	41.0	32.6	6.6	15.8	2.9	1.1
	70代	188	26.6	43.6	8.0	18.1	3.2	0.5
	80代～	60	36.7	31.7	1.7	20.0	6.7	3.3
無回答		12	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0

■ 地域別 身近な緑が減ってきたと感じるか(問15× 問26)

- ・ 「平戸・平戸平和台地域」「倉田地域」で「強く感じる」が最も多くなっており、特に「倉田地域」での数値が比較的高くなっている。それ以外の地域では「どちらかといえばそう思う」が最も多くなっている

図 地域別 身近な緑が減ってきたと感じるか

問15 お住まいの地域で、身近な緑が減ってきたと思いますか

		全体	強く感じる	多少感じる	どちらとも いえない	あまり感じ ない	感じない	無回答
全 体		1,410 100.0	456 32.3	517 36.7	119 8.4	248 17.6	58 4.1	12 0.9
問26 居住地域	平戸・平戸平和台地域	133	35.3	33.1	11.3	17.3	2.3	0.8
	品濃町・川上地域	203	32.5	39.4	6.4	16.3	5.4	0.0
	名瀬・上矢部地域	157	27.4	43.3	7.6	19.1	2.5	0.0
	舞岡・柏尾地域	122	30.3	32.8	8.2	23.8	4.9	0.0
	汲沢・吉田地域	267	33.0	36.7	10.9	15.4	3.4	0.7
	倉田地域	123	41.5	35.8	7.3	11.4	2.4	1.6
	戸塚地域	179	30.7	40.8	8.9	15.1	3.4	1.1
	深谷・原宿地域	210	30.0	31.0	6.7	23.8	7.6	1.0
	無回答	16	37.5	31.3	6.3	6.3	0.0	18.8

■ 居住開始時期別 身近な緑が減ってきたと感じるか(問15× 問31)

- ・ 「昭和 20～29 年（1945～1954 年）」「昭和 30～39 年（1955～1964 年）」で「強く感じる」が最も多くなっており、特に「昭和 20～29 年（1945～1954 年）」での数値が高い。それ以外では「どちらかといえばそう思う」が最も多くなっている

図 居住開始時期別 身近な緑が減ってきたと感じるか

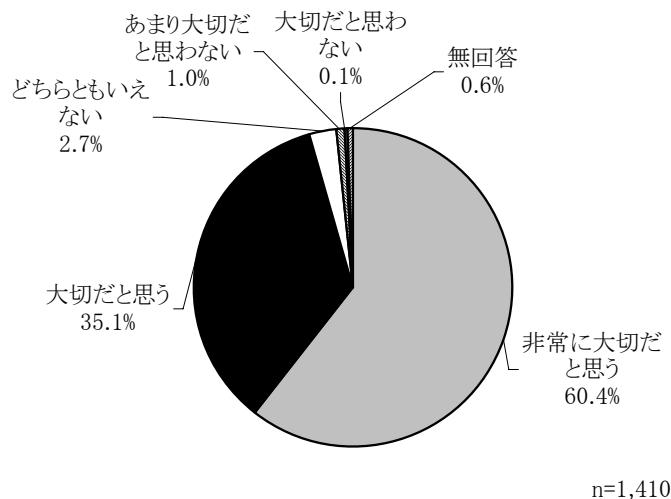
問15 お住まいの地域で、身近な緑が減ってきたと思いますか

		全体	強く感じる	多少感じる	どちらとも いえない	あまり感じ ない	感じない	無回答
全 体		1,410 100.0	456 32.3	517 36.7	119 8.4	248 17.6	58 4.1	12 0.9
問31 居住開始 時期	昭和20年（1945年）以前	26	38.5	42.3	11.5	3.8	3.8	0.0
	昭和20～29年（1945～1954年）	19	47.4	26.3	0.0	10.5	0.0	15.8
	昭和30～39年（1955～1964年）	68	41.2	36.8	2.9	17.6	1.5	0.0
	昭和40～49年（1965～1974年）	177	37.3	41.2	5.6	13.0	2.8	0.0
	昭和50～59年（1975～1984年）	237	35.0	36.7	6.8	16.5	3.4	1.7
	昭和60～平成6年（1985～1994年）	261	35.6	39.1	6.9	14.6	3.4	0.4
	平成7～11年（1995～1999年）	162	32.1	34.6	6.2	21.6	5.6	0.0
	平成12～16年（2000～2004年）	218	24.8	37.6	12.4	19.7	5.5	0.0
	平成17年（2005年）以降	192	22.9	28.6	15.6	25.0	6.8	1.0
	無回答	50	34.0	42.0	6.0	14.0	0.0	4.0

問 16 あなたは、身近な緑を保全し増やしていくことは大切だと思いますか。(〇は1つだけ)

- ・ 「非常に大切だと思う」が 60.4%で最も多く、全体の約 6 割である。次いで「大切だと思う」が 35.1%で続き、緑の保全が大切だとする層は全体の 95%以上を占める。「どちらともいえない」は 2.7%、「あまり大切だと思わない」は 1.0%、「大切だと思わない」は 0.1%で、大切だと思わない層は全体の 1 %程度に留まった。

図 身近な緑を保全し増やしていくことの重要性



■ 年齢別 身近な緑を保全し増やしていくことの重要性(問16× 問25)

- ・ いずれも「非常に大切だと思う」が最も多くなっており、年齢による差異は特に見られない。

図 年齢別 身近な緑を保全し増やしていくことの重要性

問16 身近な緑を増やしていくことは大切だと思いますか

		全体	非常に大切 だと思う	大切だと思 う	どちらとも いえない	あまり大切 だと思わな い	大切だと思 わない	無回答
全 体		1,410	852	495	38	14	2	9
		100.0	60.4	35.1	2.7	1.0	0.1	0.6
問25 年齢	10代	36	55.6	41.7	2.8	0.0	0.0	0.0
	20代	127	64.6	32.3	0.8	0.8	0.0	1.6
	30代	265	63.0	33.2	1.1	2.3	0.4	0.0
	40代	194	59.3	36.1	3.1	1.0	0.0	0.5
	50代	255	58.4	38.4	2.7	0.4	0.0	0.0
	60代	273	62.6	33.3	2.6	0.7	0.0	0.7
	70代	188	55.3	39.4	4.3	1.1	0.0	0.0
	80代～	60	60.0	28.3	8.3	0.0	1.7	1.7
無回答		12	66.7	8.3	0.0	0.0	0.0	25.0

■ 地域別 身近な緑を保全し増やしていくことの重要性(問16× 問26)

- ・ いずれも「非常に大切だと思う」が最も多くなっている。地域による大きな差異は特にない。

図 地域別 身近な緑を保全し増やしていくことの重要

問16 身近な緑を増やしていくことは大切だと思いますか

		全体	非常に大切 だと思う	大切だと思 う	どちらとも いえない	あまり大切 だと思わな い	大切だと思 わない	無回答
全 体		1,410 100.0	852 60.4	495 35.1	38 2.7	14 1.0	2 0.1	9 0.6
問26 居住地域	平戸・平戸平和台地域	133	60.9	35.3	2.3	0.8	0.0	0.8
	品濃町・川上地域	203	63.5	32.5	3.4	0.5	0.0	0.0
	名瀬・上矢部地域	157	54.1	41.4	1.9	2.5	0.0	0.0
	舞岡・柏尾地域	122	65.6	32.0	1.6	0.0	0.0	0.8
	汲沢・吉田地域	267	59.2	35.6	4.5	0.0	0.4	0.4
	倉田地域	123	63.4	33.3	0.8	1.6	0.0	0.8
	戸塚地域	179	61.5	33.5	2.8	1.7	0.0	0.6
	深谷・原宿地域	210	57.1	38.1	2.4	1.4	0.5	0.5
	無回答	16	68.8	12.5	0.0	0.0	0.0	18.8

■ 職業別 身近な緑を保全し増やしていくことの重要性(問16× 問29)

- ・ いずれも「非常に大切だと思う」が最も多く、特に「その他」で数値が高い。
- ・ また「学生」では「大切だと思う」の数値が他に比べて高くなっている。

図 地域別 身近な緑を保全し増やしていくことの重要性

問16 身近な緑を増やしていくことは大切だと思いますか

		全体	非常に大切 だと思う	大切だと思 う	どちらとも いえない	あまり大切 だと思わな い	大切だと思 わない	無回答
全 体		1,410 100.0	852 60.4	495 35.1	38 2.7	14 1.0	2 0.1	9 0.6
問29 職業	自営業	81	55.6	38.3	4.9	1.2	0.0	0.0
	管理職	76	55.3	42.1	0.0	1.3	0.0	1.3
	専門技術職	100	66.0	29.0	1.0	4.0	0.0	0.0
	事務職	177	62.7	34.5	1.7	1.1	0.0	0.0
	現業職	162	60.5	38.3	1.2	0.0	0.0	0.0
	主婦・主夫	352	59.7	35.8	3.4	0.6	0.3	0.3
	学生	57	52.6	45.6	1.8	0.0	0.0	0.0
	無職	267	59.6	33.7	4.1	1.1	0.4	1.1
	その他	76	71.1	25.0	1.3	1.3	0.0	1.3
	無回答	62	59.7	30.6	4.8	0.0	0.0	4.8

■ 住居形態別 身近な緑を保全し増やしていくことの重要性(問16× 問30)

- ・ 概ね「非常に大切だと思う」が最も多いが、「借家（一戸建て）」のみ「大切だと思う」が最も多い。

図 住居形態別 身近な緑を保全し増やしていくことの重要性

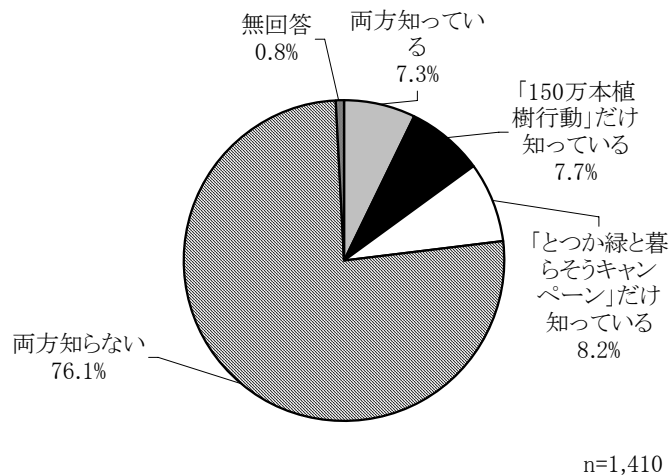
問16 身近な緑を増やしていくことは大切だと思いますか

		全体	非常に大切 だと思う	大切だと思 う	どちらとも いえない	あまり大切 だと思わな い	大切だと思 わない	無回答
全 体		1,410 100.0	852 60.4	495 35.1	38 2.7	14 1.0	2 0.1	9 0.6
問30 住居形態	持家（一戸建て）	691	58.5	36.2	2.9	1.6	0.1	0.7
	持家（マンション・共同住宅）	382	62.6	35.1	2.1	0.0	0.0	0.3
	借家（一戸建て）	25	44.0	52.0	0.0	4.0	0.0	0.0
	借家（マンション・共同住宅、社宅、公務員住宅、寮）	254	64.2	31.5	2.8	0.8	0.4	0.4
	その他	4	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無回答	54	59.3	31.5	5.6	0.0	0.0	3.7

問 17 あなたは、横浜市が取り組んでいる「150万本植樹行動」、戸塚区が取り組んでいる「とつか緑と暮らそうキャンペーン」を知っていますか。(〇は1つだけ)

- ・ 「両方知らない」が 76.1%で、4分の3強を占めている。次いで「『とつか緑と暮らそうキャンペーン』だけ知っている」が 8.2%、「『150万本植樹行動』だけ知っている」は 7.7%で、2事業の認知度にはさほど大きな差は見られない。「両方知っている」は 7.3%であった。

図 「150万本植樹行動」「とつか緑と暮らそうキャンペーン」の認知度



■ 年齢別「150万本植樹行動」「とつか緑と暮らそうキャンペーン」の認知度(問17× 問25)

- ・ いずれも「両方知らない」が最も多い。特に若い世代での認知度は低く、10代では9割以上、20代から40代でも8割以上が「知らない」としている。
- ・ 年齢が上がるほど「知らない」の数値が下がる一方、80代以上では「両方知っている」の割合が他に比べてやや高い。

図 年齢別「150万本植樹行動」「とつか緑と暮らそうキャンペーン」の認知度

問17 横浜市が取り組んでいる「150万本植樹行動」、戸塚区が取り組んでいる「とつか緑と暮らそうキャンペーン」を知っていますか

		全体	両方知っている	「150万本植樹行動」だけ知っている	「とつか緑と暮らそうキャンペーン」だけ知っている	両方知らない	無回答
全 体		1,410	103	108	115	1,073	11
		100.0	7.3	7.7	8.2	76.1	0.8
問25 年齢	10代	36	0.0	5.6	0.0	94.4	0.0
	20代	127	4.7	7.1	3.1	83.5	1.6
	30代	265	4.5	6.8	6.4	81.9	0.4
	40代	194	5.7	8.2	4.1	81.4	0.5
	50代	255	5.5	6.7	9.8	77.6	0.4
	60代	273	10.6	7.7	9.5	71.1	1.1
	70代	188	9.6	9.6	14.9	66.0	0.0
	80代～	60	16.7	8.3	10.0	63.3	1.7
	無回答	12	25.0	16.7	8.3	33.3	16.7

■ 地域別「150万本植樹行動」「とつか緑と暮らそうキャンペーン」の認知度(問17× 問26)

- ・ いずれも「両方知らない」が最も多く、中でも「品濃町・川上地域」では数値がやや高くなっている。

図 地域別「150万本植樹行動」「とつか緑と暮らそうキャンペーン」の認知度

問17 横浜市が取り組んでいる「150万本植樹行動」、戸塚区が取り組んでいる「とつか緑と暮らそうキャンペーン」を知っていますか

		全体	両方知っている	「150万本植樹行動」だけ知っている	「とつか緑と暮らそうキャンペーン」だけ知っている	両方知らない	無回答
全 体		1,410 100.0	103 7.3	108 7.7	115 8.2	1,073 76.1	11 0.8
問26 居住地域	平戸・平戸平和台地域	133	6.0	6.8	6.8	78.9	1.5
	品濃町・川上地域	203	2.5	9.4	3.9	84.2	0.0
	名瀬・上矢部地域	157	5.1	6.4	12.1	76.4	0.0
	舞岡・柏尾地域	122	8.2	7.4	10.7	73.0	0.8
	汲沢・吉田地域	267	7.9	7.9	6.4	76.8	1.1
	倉田地域	123	11.4	7.3	15.4	65.0	0.8
	戸塚地域	179	6.1	6.1	10.1	77.1	0.6
	深谷・原宿地域	210	11.4	9.0	5.2	73.8	0.5
	無回答	16	12.5	6.3	6.3	62.5	12.5

■ 居住開始時期別「150万本植樹行動」「とつか緑と暮らそうキャンペーン」の認知度(問17× 問31)

- ・ いずれも「両方知らない」が最も多いが、居住年数が古いほど認知度が高い傾向が見られ、「昭和20年（1945年）以前」「昭和30～39年（1955～1964年）」では「両方知っている」が他よりやや高くなっている。

図 居住開始時期別「150万本植樹行動」「とつか緑と暮らそうキャンペーン」の認知度

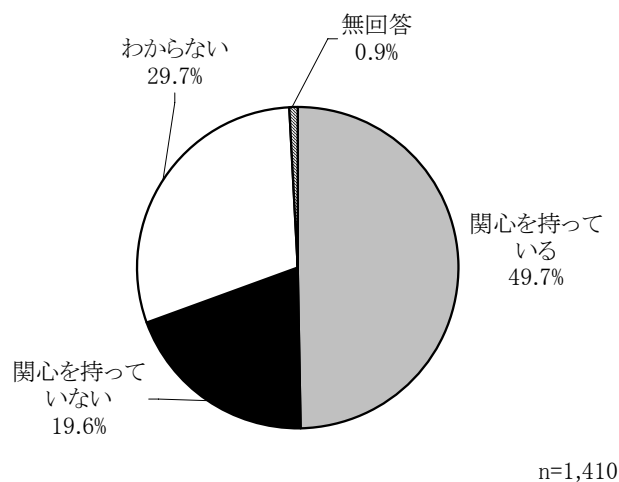
問17 横浜市が取り組んでいる「150万本植樹行動」、戸塚区が取り組んでいる「とつか緑と暮らそうキャンペーン」を知っていますか

		全体	両方知っている	「150万本植樹行動」だけ知っている	「とつか緑と暮らそうキャンペーン」だけ知っている	両方知らない	無回答
全 体		1,410 100.0	103 7.3	108 7.7	115 8.2	1,073 76.1	11 0.8
問31 居住開始時期	昭和20年（1945年）以前	26	15.4	7.7	3.8	69.2	3.8
	昭和20～29年（1945～1954年）	19	10.5	0.0	10.5	73.7	5.3
	昭和30～39年（1955～1964年）	68	16.2	8.8	8.8	64.7	1.5
	昭和40～49年（1965～1974年）	177	14.1	9.6	11.3	65.0	0.0
	昭和50～59年（1975～1984年）	237	4.6	7.6	11.8	74.3	1.7
	昭和60～平成6年（1985～1994年）	261	4.6	7.7	6.9	80.5	0.4
	平成7～11年（1995～1999年）	162	7.4	4.9	4.9	82.7	0.0
	平成12～16年（2000～2004年）	218	8.7	8.7	5.5	76.6	0.5
	平成17年（2005年）以降	192	2.1	7.8	7.3	82.8	0.0
	無回答	50	6.0	6.0	12.0	72.0	4.0

問 18 区役所では、自然や緑の多い特性を活かして、体験農業や農業教室などを今後実施していくことを検討しているところです。あなたはこうした「農」に関する取組に関心を持っていますか。(○は1つだけ)

- ・ 「関心を持っている」が 49.7%で、半数弱を占める。次いで「わからない」が 29.7%、「関心を持っていない」は 19.6%であった。

図 「農」に関する取組への関心度



■ 男女別 「農」に関する取組への関心度(問18× 問24)

- ・ 男女とも「関心を持っている」が最も多く、特に男性は女性より 8.5 ポイント高くなっている。女性は「わからない」が男性より 13.2 ポイント高い。

図 男女別 「農」に関する取組への関心度

問18 「農」に関する取組に関心を持っていますか

		全体	関心を持 っている	関心を持 ていない	わからない	無回答
全 体		1,410	701	277	419	13
		100.0	49.7	19.6	29.7	0.9
問24 性別	男性	656	54.3	22.6	22.7	0.5
	女性	740	45.8	17.3	35.9	0.9
	無回答	14	42.9	7.1	28.6	21.4

■ 年齢別「農」に関する取組への関心度(問18× 問25)

- ・ いずれの年代も「関心を持っている」が最も多くなっている。
- ・ 10代では「関心を持っていない」の割合が他に比べてやや高い。

図 年齢別「農」に関する取組への関心度

問18 「農」に関する取組に関心を持っていますか

		全体	関心を持 っている	関心を持 ていない	わからない	無回答
全 体		1,410 100.0	701 49.7	277 19.6	419 29.7	13 0.9
問25 年齢	10代	36	44.4	27.8	27.8	0.0
	20代	127	47.2	17.3	33.9	1.6
	30代	265	51.7	20.0	27.9	0.4
	40代	194	45.4	22.2	32.0	0.5
	50代	255	47.8	22.4	29.8	0.0
	60代	273	54.9	16.1	28.2	0.7
	70代	188	50.0	18.6	28.7	2.7
	80代～ 無回答	60 12	48.3 41.7	20.0 8.3	31.7 33.3	0.0 16.7

■ 居住開始時期別「農」に関する取組への関心度(問18× 問31)

- ・ いずれも「関心を持っている」が最も多くなっている。
- ・ 「昭和20年(1945年)以前」では「関心を持っていない」の割合が他に比べて特に低く、そのかわり「わからない」の数値が高くなっている。

図 居住開始時期別「農」に関する取組への関心度

問18 「農」に関する取組に関心を持っていますか

		全体	関心を持 っている	関心を持 ていない	わからない	無回答
全 体		1,410 100.0	701 49.7	277 19.6	419 29.7	13 0.9
問31 居住開始 時期	昭和20年(1945年)以前	26	46.2	7.7	42.3	3.8
	昭和20～29年(1945～1954年)	19	52.6	26.3	21.1	0.0
	昭和30～39年(1955～1964年)	68	50.0	19.1	27.9	2.9
	昭和40～49年(1965～1974年)	177	56.5	18.1	24.9	0.6
	昭和50～59年(1975～1984年)	237	45.6	21.9	30.8	1.7
	昭和60～平成6年(1985～1994年)	261	46.0	22.6	31.0	0.4
	平成7～11年(1995～1999年)	162	46.9	22.2	30.9	0.0
	平成12～16年(2000～2004年)	218	53.7	18.3	27.5	0.5
	平成17年(2005年)以降	192	52.6	17.2	30.2	0.0
	無回答	50	46.0	10.0	38.0	6.0

区制 70 周年・開港 150 周年に向けた取組について

問 19 あなたは、平成 21 年(2009 年)に戸塚区が区制 70 周年、横浜が開港 150 周年を迎えることを知っていますか。(○は1つだけ)

- ・ 「横浜が開港 150 周年を迎えることだけ知っている」が 39.8%で最も多く、開港 150 周年についてはある程度の認知度を得ているといえる。以下「両方知らない」(39.4%)、「両方知っている」(17.3%)で、「戸塚区が区制 70 周年を迎えることだけ知っている」は 2.6%であった。

図 戸塚区制 70 周年、横浜開港 150 周年の認知度

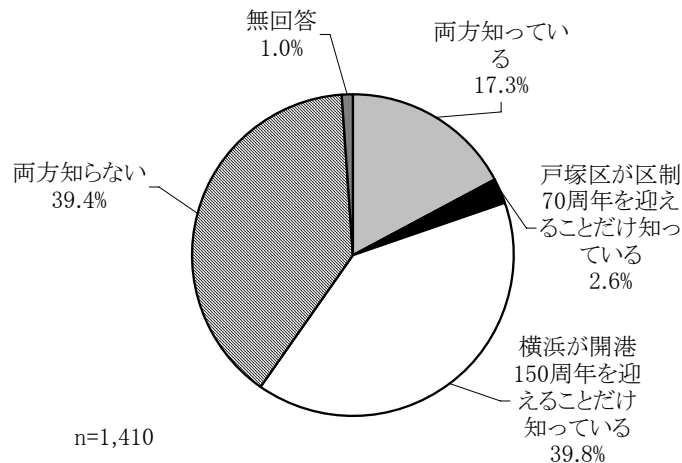


図 「その他」意見概要

意見内容	件数
知人から聞いた	1
勉強した	1
地下鉄の駅で	1
計	3

■ 年齢別 戸塚区制 70 周年、横浜開港 150 周年の認知度(問19× 問25)

- ・ 80 代以上では「両方知っている」、20 代、30 代、50 代では「両方知らない」、40 代、60 代、70 代は「横浜が開港 150 周年を迎えることだけ知っている」がそれぞれ最も多く、10 代では「横浜が開港 150 周年を迎えることだけ知っている」と「両方知らない」とが同率となっている。

図 年齢別 戸塚区制 70 周年、横浜開港 150 周年の認知度

問19 平成21年に戸塚区が区制70周年、横浜が開港150周年を迎えることを知っています

		全体	両方知っている	戸塚区が区制 70 周年を迎えることだけ知っている	横浜が開港 150 周年を迎えることだけ知っている	両方知らない	無回答
全 体		1,410	244	36	561	555	14
		100.0	17.3	2.6	39.8	39.4	1.0
問25 年齢	10代	36	5.6	0.0	47.2	47.2	0.0
	20代	127	10.2	1.6	40.9	46.5	0.8
	30代	265	9.4	1.5	44.2	44.9	0.0
	40代	194	12.4	3.1	46.9	37.1	0.5
	50代	255	12.2	1.2	39.6	47.1	0.0
	60代	273	24.9	4.4	35.2	34.1	1.5
	70代	188	31.4	4.3	32.4	28.7	3.2
	80代～	60	35.0	1.7	33.3	30.0	0.0
無回答		12	8.3	0.0	50.0	25.0	16.7

■ 職業別 戸塚区制 70 周年、横浜開港 150 周年の認知度(問19× 問29)

- ・ 「管理職」「専門技術職」「事務職」「主婦・主夫」「学生」では「横浜が開港 150 周年を迎えることだけ知っている」が、「自営業」「現業職」「無職」「その他」では「両方知らない」が最も多くなっている。
- ・ また「無職」では「両方知っている」が他に比べて高くなっている。

図 職業別 戸塚区制 70 周年、横浜開港 150 周年の認知度

問19 平成21年に戸塚区が区制70周年、横浜が開港150周年を迎えることを知っています

		全体	両方知っている	戸塚区が区制70周年を迎えることだけ知っている	横浜が開港150周年を迎えることだけ知っている	両方知らない	無回答
全 体		1,410 100.0	244 17.3	36 2.6	561 39.8	555 39.4	14 1.0
問29 職業	自営業	81	23.5	1.2	32.1	42.0	1.2
	管理職	76	10.5	1.3	46.1	40.8	1.3
	専門技術職	100	9.0	2.0	49.0	40.0	0.0
	事務職	177	9.6	1.7	48.0	40.7	0.0
	現業職	162	17.3	2.5	34.6	45.7	0.0
	主婦・主夫	352	18.2	3.7	42.3	35.5	0.3
	学生	57	5.3	0.0	49.1	45.6	0.0
	無職	267	28.1	1.9	32.6	34.8	2.6
	その他	76	14.5	3.9	32.9	47.4	1.3
	無回答	62	16.1	6.5	33.9	38.7	4.8

■ 居住開始年数別 戸塚区制 70 周年、横浜開港 150 周年の認知度(問19× 問31)

- ・ 「昭和 20～29 年（1945～1954 年）」「昭和 30～39 年（1955～1964 年）」では「両方知っている」が、「昭和 60～平成 6 年（1985～1994 年）」「平成 7～11 年（1995～1999 年）」「平成 12～16 年（2000～2004 年）」では「両方知らない」が、「昭和 20 年（1945 年）以前」「昭和 40～49 年（1965～1974 年）」「平成 17 年（2005 年）以降」は「横浜が開港 150 周年を迎えることだけ知っている」がそれぞれ最も多く、「昭和 50～59 年（1975～1984 年）」では「横浜が開港 150 周年を迎えることだけ知っている」と「両方知らない」とが同率となっている。

図 居住開始年数別 戸塚区制 70 周年、横浜開港 150 周年の認知度

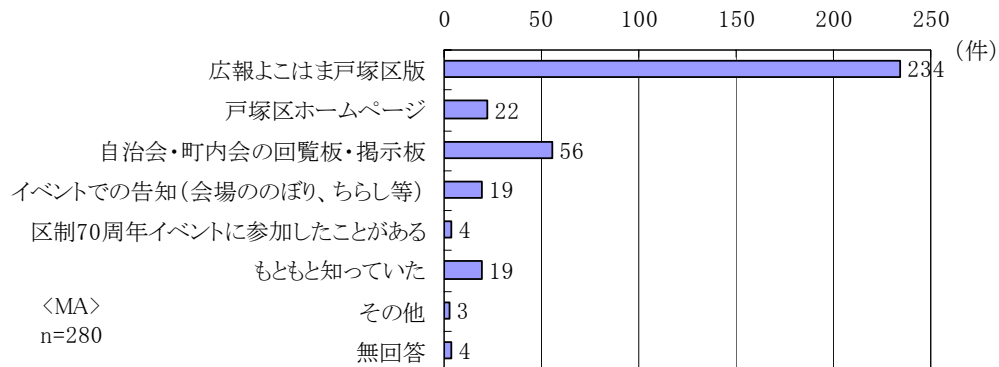
問19 平成21年に戸塚区が区制70周年、横浜が開港150周年を迎えることを知っています

		全体	両方知っている	戸塚区が区制70周年を迎えることだけ知っている	横浜が開港150周年を迎えることだけ知っている	両方知らない	無回答
全 体		1,410 100.0	244 17.3	36 2.6	561 39.8	555 39.4	14 1.0
問31 居住開始 時期	昭和20年（1945年）以前	26	26.9	3.8	42.3	26.9	0.0
	昭和20～29年（1945～1954年）	19	42.1	0.0	21.1	36.8	0.0
	昭和30～39年（1955～1964年）	68	38.2	2.9	35.3	20.6	2.9
	昭和40～49年（1965～1974年）	177	27.1	3.4	36.2	31.1	2.3
	昭和50～59年（1975～1984年）	237	18.6	4.6	37.6	37.6	1.7
	昭和60～平成 6 年（1985～1994年）	261	13.4	1.5	40.6	44.1	0.4
	平成 7～11年（1995～1999年）	162	17.3	1.9	38.3	42.6	0.0
	平成12～16年（2000～2004年）	218	11.0	1.8	43.1	44.0	0.0
	平成17年（2005年）以降	192	8.3	1.0	46.9	43.8	0.0
	無回答	50	16.0	6.0	34.0	38.0	6.0

問 19-1 (問 19 で「1」「2」と答えた方に)区制 70 周年について、どこで知りましたか。(〇はいくつでも)

- ・ 「広報よこはま戸塚区版」が 234 件で突出している。以下「自治会・町内会の回覧板・掲示板」(56 件)、「戸塚区ホームページ」(22 件)、「イベントでの告知 (会場ののぼり、ちらし等)」 「もともと知っていた」(共に 19 件)、「区制 70 周年イベントに参加したことがある」(4 件)、「その他」(3 件) の順となっている。

図 区制 70 周年について知った場所



■ 年齢別 区制 70 周年について知った場所(問19-1 × 問25)

- ・ いずれも「広報よこはま戸塚区版」が最も多い。
- ・ 20 代で「イベントでの告知 (会場ののぼり、ちらし等)」、80 代以上で「自治会・町内会の回覧板・掲示板」が、他世代に比べて高くなっている。
- ・

図 年齢別 区制 70 周年について知った場所

問19-1 区制70周年について、どこで知りましたか (複数回答)

		全体	広報よこはま戸塚区版	戸塚区ホームページ	自治会・町内会の回覧板・掲示板	イベントでの告知 (会場ののぼり、ちらし等)	区制70周年イベントに参加したことがある	もともと知っていた	その他	無回答
全 体		280	234	22	56	19	4	19	3	4
		—	83.6	7.9	20.0	6.8	1.4	6.8	1.1	1.4
問25 年齢	10代	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	20代	15	40.0	13.3	20.0	20.0	0.0	0.0	13.3	0.0
	30代	29	72.4	6.9	20.7	6.9	0.0	6.9	3.4	0.0
	40代	30	83.3	10.0	16.7	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	50代	34	91.2	14.7	11.8	8.8	0.0	5.9	0.0	0.0
	60代	80	90.0	7.5	18.8	5.0	2.5	8.8	0.0	0.0
	70代	67	83.6	4.5	20.9	3.0	3.0	9.0	0.0	4.5
	80代～	22	90.9	4.5	36.4	9.1	0.0	4.5	0.0	4.5
無回答		1	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 20 あなたは、区制 70 周年で区役所が区民と共にどのようなことを行うとよいと思いますか。

(〇はいくつでも)

- ・ 「道路や河川環境など、まちの魅力がアップする取組」(737 件)、「自然の豊かさ・大切さを再認識する取組」(730 件)の2点が特に多くなっている。次いで「子どもたちが自分のまちを好きになる取組」(581 件)、「地域や世代を越えた交流が生まれる取組」(398 件)、「郷土愛が育まれる取組」(334 件)、「歴史を振り返る機会に結びつく取組」(314 件)、「文化芸術活動が活発になる取組」(239 件)、「その他」(24 件)の順となっている。
- ・ 「その他」24 件のうち 19 件に具体的な記述があった。このうち最も多かったのは「特別なこと、イベントは必要ない」の 7 件、次いで「安全・安心できるまちづくり」の 2 件であった。

図 区制 70 周年で区役所が区民と行うとよいこと

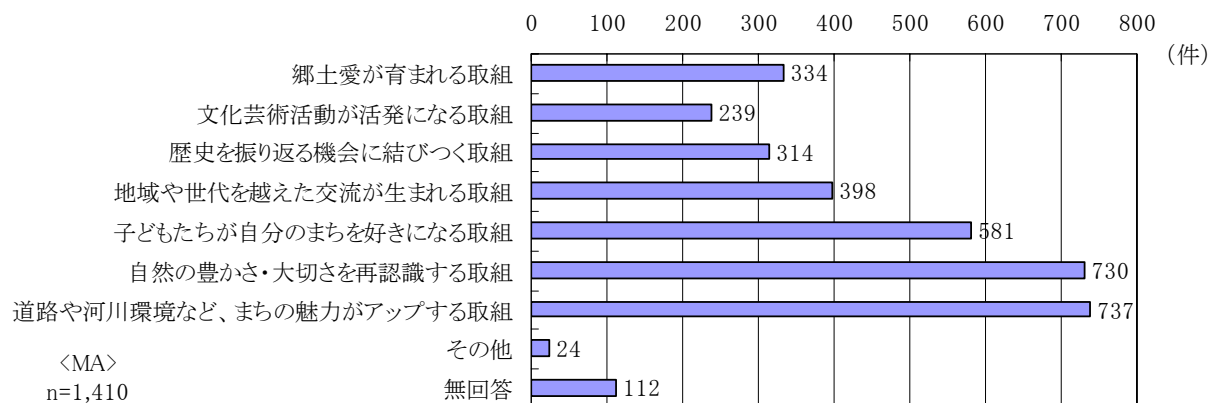


図 「その他」意見概要

意見内容	件数
特別なこと、イベントは必要ない	7
安全・安心できるまちづくり	2
街並みの美観整備	1
福祉の見直し	1
戸塚の夏祭りを盛り上げたい	1
住民と区とが一体化できる自治体の確立	1
自分のまちをすきになる取り組み	1
差別（人種・障害）のない街	1
子どもと年寄りがギャップのないように	1
経済発展への取り組み	1
規律ある日常生活の重要性を周知する運動	1
駅周辺の利便性向上	1
計	19

■ 年齢別 区制 70 周年で区役所が区民と行うとよいこと(問20× 問25)

- ・ 10 代から 50 代までの世代と 80 代以上で「道路や河川環境など、まちの魅力がアップする取組」が、60 代、70 代では「自然の豊かさ・大切さを再認識する取組」が最も多くなっており、30 代ではこれらが同率となっている。
- ・ 70 代では「郷土愛が育まれる取組」と「歴史を振り返る機会に結びつく取組」の数値が他世代に比べて高くなっている。また 20 代では「子どもたちが自分のまちを好きになる取組」の数値が高い。

図 年齢別 区制 70 周年で区役所が区民と行うとよいこと

問20 区制70周年で区役所が区民と共にどのようなことを行うとよいと思いますか（複数回答）

		全体	郷土愛が育まれる取組	文化芸術活動が活発になる取組	歴史を振り返る機会に結びつく取組	地域や世代を越えた交流が生まれる取組	子どもたちが自分のまちを好きになる取組	自然の豊かさ・大切さを再認識する取組	道路や河川環境など、まちの魅力がアップする取組	その他	無回答
全 体		1,410 —	334 23.7	239 17.0	314 22.3	398 28.2	581 41.2	730 51.8	737 52.3	24 1.7	112 7.9
問25 年齢	10代	36	13.9	8.3	13.9	30.6	44.4	36.1	50.0	0.0	11.1
	20代	127	22.8	19.7	22.0	29.9	51.2	51.2	61.4	1.6	3.9
	30代	265	15.5	13.2	13.6	31.7	46.0	49.8	49.8	1.5	6.8
	40代	194	18.6	15.5	18.0	23.7	41.8	44.3	45.4	4.6	9.3
	50代	255	22.4	16.1	20.8	32.9	35.3	52.5	54.5	1.6	8.2
	60代	273	27.1	20.1	27.5	27.1	39.6	59.3	51.6	0.4	7.7
	70代	188	38.8	21.3	33.0	23.4	38.3	59.6	56.4	1.6	6.4
	80代～	60	28.3	13.3	30.0	28.3	41.7	38.3	51.7	1.7	16.7
	無回答	12	16.7	16.7	16.7	0.0	16.7	25.0	33.3	0.0	25.0

■ 地域別 区制 70 周年で区役所が区民と行うとよいこと(問20× 問26)

- ・ 「平戸・平戸平和台地域」「舞岡・柏尾地域」「深谷・原宿地域」では「自然の豊かさ・大切さを再認識する取組」が、「名瀬・上矢部地域」「汲沢・吉田地域」「倉田地域」「戸塚地域」では「道路や河川環境など、まちの魅力がアップする取組」が最も多くなっており、「品濃町・川上地域」ではこれらが同率となっている。

図 地域別 区制 70 周年で区役所が区民と行うとよいこと

問20 区制70周年で区役所が区民と共にどのようなことを行うとよいと思いますか（複数回答）

		全体	郷土愛が育まれる取組	文化芸術活動が活発になる取組	歴史を振り返る機会に結びつく取組	地域や世代を越えた交流が生まれる取組	子どもたちが自分のまちを好きになる取組	自然の豊かさ・大切さを再認識する取組	道路や河川環境など、まちの魅力がアップする取組	その他	無回答
全 体		1,410 —	334 23.7	239 17.0	314 22.3	398 28.2	581 41.2	730 51.8	737 52.3	24 1.7	112 7.9
問26 居住地域	平戸・平戸平和台地域	133	30.1	14.3	17.3	21.8	46.6	51.9	48.1	1.5	4.5
	品濃町・川上地域	203	18.2	14.3	18.7	25.6	41.4	54.7	54.7	3.0	8.4
	名瀬・上矢部地域	157	21.7	17.8	26.8	24.2	40.8	48.4	52.9	1.9	7.6
	舞岡・柏尾地域	122	19.7	19.7	20.5	30.3	36.9	59.0	51.6	0.8	7.4
	汲沢・吉田地域	267	25.1	16.1	19.9	35.6	44.2	47.6	52.4	3.4	8.6
	倉田地域	123	25.2	21.1	27.6	29.3	32.5	51.2	55.3	0.8	8.9
	戸塚地域	179	21.2	17.9	22.3	26.8	46.9	53.1	57.0	0.0	5.6
	深谷・原宿地域	210	28.6	17.1	26.7	29.5	39.0	52.9	46.7	1.0	10.0
	無回答	16	18.8	12.5	18.8	6.3	12.5	37.5	50.0	0.0	18.8

■ 家族形態別 区制 70 周年で区役所が区民と行うとよいこと(問20× 問27)

- ・ 「同居している未就学の子ども」が「いない」場合、「同居・別居を問わず 65～74 歳の家族」「同居・別居を問わず 75 歳以上の家族」「日中、家で子どもの世話をする方」がそれぞれ「いる」場合で、「自然の豊かさ・大切さを再認識する取組」が最も多い。
- ・ 「同居している小学生の子ども」が「いる」場合は「子どもたちが自分のまちを好きになる取組」が最も多い。
- ・ それ以外のケースでは「道路や河川環境など、まちの魅力がアップする取組」が最も多くなっている。

図 家族形態別 区制 70 周年で区役所が区民と行うとよいこと

問20 区制70周年で区役所が区民と共にどのようなことを行うとよいと思いますか（複数回答）

			全体	郷土愛が育まれる取組	文化芸術活動が活発になる取組	歴史を振り返る機会に結びつく取組	地域や世代を越えた交流が生まれる取組	子どもたちが自分のまちを好きになる取組	自然の豊かさ・大切さを再認識する取組	道路や河川環境など、まちの魅力がアップする取組	その他	無回答
全 体			1,410	334	239	314	398	581	730	737	24	112
			—	23.7	17.0	22.3	28.2	41.2	51.8	52.3	1.7	7.9
問27 家族形態	A 同居している 未就学の子ども	いる	184	12.5	10.9	12.0	25.5	51.6	42.4	53.3	1.6	7.1
		いない	1,128	25.4	17.8	23.7	28.8	39.8	53.6	52.6	1.9	7.8
		無回答	98	25.5	18.4	25.5	26.5	37.8	48.0	46.9	0.0	11.2
	B 同居している 小学生の子ども	いる	162	18.5	17.9	21.0	27.8	61.1	47.5	45.1	3.1	7.4
		いない	1,150	24.4	16.8	22.3	28.5	38.8	52.9	53.8	1.6	7.7
		無回答	98	23.5	17.3	23.5	25.5	36.7	45.9	45.9	1.0	12.2
	C 同居・別居を問わず 65～74歳の家族	いる	540	26.1	18.3	22.6	29.4	42.8	52.4	50.2	2.0	7.8
		いない	718	21.4	15.6	21.9	27.9	40.8	52.2	53.5	1.5	7.2
		無回答	152	25.7	18.4	23.0	25.7	37.5	47.4	53.9	1.3	11.8
	D 同居・別居を問わず 75歳以上の家族	いる	451	23.7	15.3	21.7	28.8	40.6	50.3	49.2	1.8	10.6
		いない	817	23.0	17.3	21.9	29.4	42.5	52.4	54.6	1.7	6.0
		無回答	142	27.5	20.4	26.1	19.7	35.9	52.8	48.6	1.4	10.6
	E 日中、家で子どもの 世話をする方	いる	338	20.1	14.5	21.6	27.8	49.7	51.2	50.3	2.4	6.2
		いない	855	24.2	17.4	22.6	28.8	39.9	52.0	54.5	1.5	7.5
		無回答	217	27.2	18.9	22.1	26.7	33.2	51.6	46.5	1.4	12.4
	F 共働き	している	388	19.3	14.9	16.2	30.7	46.1	47.2	49.0	1.8	8.2
		していない	884	24.9	17.8	24.3	28.1	39.8	53.4	54.0	1.8	7.2
無回答		138	28.3	17.4	26.1	22.5	36.2	54.3	50.7	0.7	11.6	

■ 職業別 区制 70 周年で区役所が区民と行うとよいこと(問20× 問29)

- ・ 「自営業」「現業職」「主婦・主夫」「無職」「その他」では「自然の豊かさ・大切さを再認識する取組」が、「管理職」「事務職」「学生」は「道路や河川環境など、まちの魅力がアップする取組」が最も多く、「専門技術職」ではこれらが同率となっている。
- ・ また、「無職」では「郷土愛が育まれる取組」の数値が他に比べて高い。

図 職業別 区制 70 周年で区役所が区民と行うとよいこと

			全体	郷土愛が育まれる取組	文化芸術活動が活発になる取組	歴史を振り返る機会に結びつく取組	地域や世代を越えた交流が生まれる取組	子どもたちが自分のまちを好きになる取組	自然の豊かさ・大切さを再認識する取組	道路や河川環境など、まちの魅力がアップする取組	その他	無回答
全 体			1,410	334	239	314	398	581	730	737	24	112
			—	23.7	17.0	22.3	28.2	41.2	51.8	52.3	1.7	7.9
問29 職業	自営業		81	23.5	18.5	22.2	33.3	35.8	49.4	48.1	1.2	4.9
	管理職		76	21.1	19.7	22.4	23.7	31.6	39.5	48.7	7.9	9.2
	専門技術職		100	17.0	16.0	18.0	29.0	47.0	52.0	52.0	0.0	6.0
	事務職		177	20.9	12.4	15.3	28.8	42.9	45.2	55.4	0.6	8.5
	現業職		162	20.4	13.0	21.0	30.9	46.3	54.3	51.2	1.2	4.9
	主婦・主夫		352	20.7	21.3	19.9	31.3	43.8	56.0	53.4	1.4	6.8
	学生		57	14.0	12.3	15.8	26.3	36.8	49.1	56.1	1.8	8.8
	無職		267	33.7	16.5	30.7	23.6	39.0	54.7	51.3	1.5	10.5
	その他		76	31.6	14.5	26.3	26.3	39.5	53.9	52.6	0.0	7.9
	無回答		62	27.4	21.0	30.6	24.2	33.9	45.2	50.0	6.5	14.5

■ 居住開始時期別 区制 70 周年で区役所が区民と行うとよいこと(問20× 問31)

- ・ 「昭和 20 年（1945 年）以前」「昭和 20～29 年（1945～1954 年）」「昭和 40～49 年（1965～1974 年）」「昭和 50～59 年（1975～1984 年）」「平成 7～11 年（1995～1999 年）」では「自然の豊かさ・大切さを再認識する取組」が最も多く、「昭和 30～39 年（1955～1964 年）」「昭和 60～平成 6 年（1985～1994 年）」「平成 12～16 年（2000～2004 年）」「平成 17 年（2005 年）以降」では「道路や河川環境など、まちの魅力がアップする取組」が最も多くなっている。
- ・ 「昭和 20 年（1945 年）以前」「昭和 20～29 年（1945～1954 年）」では「歴史を振り返る機会に結びつく取組」がその他に比べて多く、これと「昭和 40～49 年（1965～1974 年）」では「郷土愛が育まれる取組」の数値がそれ以外のケースに比べて高いなど、居住年数が古いほど郷土や歴史に関する取組への支持が高い傾向が見られる。

図 居住開始時期別 区制 70 周年で区役所が区民と行うとよいこと

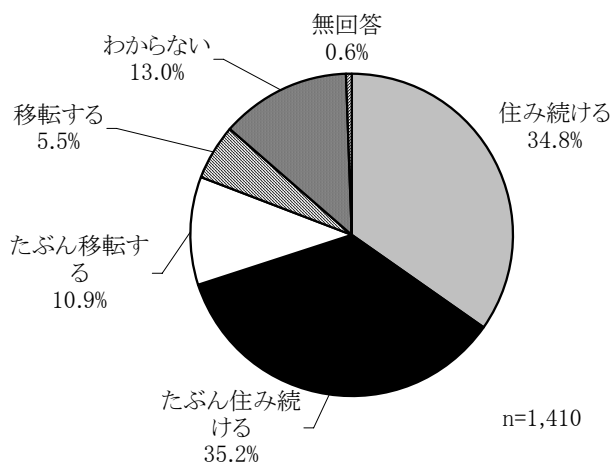
		全体	郷土愛が育まれる取組	文化芸術活動が活発になる取組	歴史を振り返る機会に結びつく取組	地域や世代を越えた交流が生まれる取組	子どもたちが自分のまちを好きになる取組	自然の豊かさ・大切さを再認識する取組	道路や河川環境など、まちの魅力がアップする取組	その他	無回答
全 体		1,410	334	239	314	398	581	730	737	24	112
問31 居住開始 時期	昭和20年（1945年）以前	—	23.7	17.0	22.3	28.2	41.2	51.8	52.3	1.7	7.9
	昭和20～29年（1945～1954年）	26	34.6	11.5	38.5	15.4	38.5	50.0	46.2	3.8	7.7
	昭和30～39年（1955～1964年）	19	47.4	5.3	47.4	31.6	42.1	57.9	42.1	0.0	5.3
	昭和40～49年（1965～1974年）	68	30.9	19.1	30.9	20.6	25.0	54.4	55.9	4.4	8.8
	昭和50～59年（1975～1984年）	177	35.6	20.9	25.4	32.2	49.7	54.2	51.4	0.0	9.6
	昭和60～平成6年（1985～1994年）	237	28.3	19.4	25.7	30.4	36.7	58.2	51.1	0.8	5.9
	平成7～11年（1995～1999年）	261	21.1	16.1	21.5	30.3	37.9	52.5	54.0	1.5	9.2
	平成12～16年（2000～2004年）	162	19.8	17.9	21.6	28.4	42.0	47.5	45.7	1.2	9.3
	平成17年（2005年）以降	218	17.4	13.8	13.8	22.0	48.2	50.5	53.7	3.2	7.8
	無回答	192	14.1	15.1	16.1	32.3	43.2	47.4	55.2	0.5	5.2
		50	26.0	18.0	32.0	20.0	32.0	40.0	58.0	8.0	12.0

定住意向について

問 21 あなたは、これからもずっと今のお住まいに住み続けるお気持ちですか。(○は1つだけ)

- ・ 「たぶん住み続ける」が最も多く 35.2%、「住み続ける」の 34.8%を合わせると、約 7 割が定住意向を持っている。「わからない」は 13.0%である。「たぶん移転する」は 10.9%、「移転する」は 5.5%で、移転意向は 2 割に達していない。

図 戸塚区への定住意向



■ 年齢別 戸塚区への定住意向(問21× 問25)

- ・ 10代では「わからない」が最も多く、20代では「たぶん住み続ける」と「たぶん移転する」が同率、30代から50代では「たぶん住み続ける」、60代以上では「住み続ける」が最も多くなっており、世代によってははっきり傾向が分かれ、高齢世代ほど定住意向が強くなっている。
- ・ 20代では他世代に比べて「移転する」の割合が高くなっている。

図 年齢別 戸塚区への定住意向

問21 これからもずっと今のお住まいに住み続けるお気持ちですか

		全体	住み続ける	たぶん住み続ける	たぶん移転する	移転する	わからない	無回答
全 体		1,410	490	497	153	78	184	8
		100.0	34.8	35.2	10.9	5.5	13.0	0.6
問25 年齢	10代	36	2.8	27.8	16.7	13.9	38.9	0.0
	20代	127	9.4	27.6	27.6	18.9	16.5	0.0
	30代	265	16.6	33.6	20.4	10.6	18.9	0.0
	40代	194	29.4	40.2	11.9	5.2	13.4	0.0
	50代	255	31.8	44.7	5.1	2.0	16.5	0.0
	60代	273	46.9	39.6	4.8	1.8	7.0	0.0
	70代	188	65.4	25.5	4.3	0.5	3.2	1.1
	80代～	60	71.7	25.0	0.0	0.0	3.3	0.0
無回答		12	8.3	0.0	8.3	0.0	33.3	50.0

■ 地域別 戸塚区への定住意向(問21× 問26)

- ・ 「平戸・平戸平和台地域」「舞岡・柏尾地域」「戸塚地域」「深谷・原宿地域」では「住み続ける」、
「品濃町・川上地域」「名瀬・上矢部地域」「汲沢・吉田地域」「倉田地域」では「たぶん住み続ける」が最も多くなっている。

図 地域別 戸塚区への定住意向

問21 これからもずっと今のお住まいに住み続けるお気持ちですか

		全体	住み続ける	たぶん住み続ける	たぶん移転する	移転する	わからない	無回答
全 体		1,410 100.0	490 34.8	497 35.2	153 10.9	78 5.5	184 13.0	8 0.6
問26 居住地域	平戸・平戸平和台地域	133	43.6	30.1	11.3	4.5	10.5	0.0
	品濃町・川上地域	203	26.1	40.9	13.8	6.9	11.8	0.5
	名瀬・上矢部地域	157	29.9	40.1	10.8	5.1	14.0	0.0
	舞岡・柏尾地域	122	41.8	28.7	7.4	3.3	18.9	0.0
	汲沢・吉田地域	267	30.3	36.3	13.9	5.6	13.9	0.0
	倉田地域	123	30.9	41.5	7.3	8.1	12.2	0.0
	戸塚地域	179	36.3	35.8	10.6	5.0	11.7	0.6
	深谷・原宿地域	210	44.8	30.0	8.6	4.3	12.4	0.0
	無回答	16	18.8	6.3	6.3	18.8	12.5	37.5

■ 職業別 戸塚区への定住意向(問21× 問29)

- ・ 「自営業」「主婦・主夫」「無職」で「住み続ける」、「管理職」「専門技術職」「事務職」「現業職」「その他」では「たぶん住み続ける」、「学生」は「わからない」が最も多くなっている。
- ・ また、「専門技術職」では「たぶん移転する」、「学生」では「移転する」の割合が他に比べて高くなっている。

図 職業別 戸塚区への定住意向

問21 これからもずっと今のお住まいに住み続けるお気持ちですか

		全体	住み続ける	たぶん住み続ける	たぶん移転する	移転する	わからない	無回答
全 体		1,410 100.0	490 34.8	497 35.2	153 10.9	78 5.5	184 13.0	8 0.6
問29 職業	自営業	81	43.2	35.8	8.6	2.5	9.9	0.0
	管理職	76	25.0	53.9	7.9	1.3	11.8	0.0
	専門技術職	100	15.0	37.0	21.0	10.0	16.0	1.0
	事務職	177	19.2	40.1	12.4	9.0	19.2	0.0
	現業職	162	29.6	34.0	16.7	5.6	14.2	0.0
	主婦・主夫	352	39.8	35.5	7.4	5.7	11.6	0.0
	学生	57	3.5	28.1	17.5	15.8	35.1	0.0
	無職	267	54.3	30.7	6.0	1.5	6.0	1.5
	その他	76	31.6	38.2	14.5	2.6	13.2	0.0
	無回答	62	45.2	19.4	11.3	8.1	11.3	4.8

■ 住居形態別 戸塚区への定住意向(問21× 問30)

- ・ 「持家（一戸建て）」では「住み続ける」、「持家（マンション・共同住宅）」「その他」では「たぶん住み続ける」、「借家（マンション・共同住宅、社宅、公務員住宅、寮）」では「たぶん移転する」が最も多く、「借家（一戸建て）」は「移転する」と「わからない」が同率となっており、住居形態別では回答が分散した。

図 住居形態別 戸塚区への定住意向

問21 これからもずっと今のお住まいに住み続けるお気持ちですか

		全体	住み続ける	たぶん住み続ける	たぶん移転する	移転する	わからない	無回答
全 体		1,410	490	497	153	78	184	8
		100.0	34.8	35.2	10.9	5.5	13.0	0.6
問30 住居形態	持家（一戸建て）	691	48.0	35.2	4.5	1.9	10.0	0.4
	持家（マンション・共同住宅）	382	27.2	47.4	7.9	1.8	15.4	0.3
	借家（一戸建て）	25	16.0	16.0	20.0	24.0	24.0	0.0
	借家（マンション・共同住宅、社宅、公務員住宅、寮）	254	9.1	23.2	31.5	18.9	16.5	0.8
	その他	4	25.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	無回答	54	48.1	14.8	13.0	7.4	13.0	3.7

■ 居住開始時期別 戸塚区への定住意向(問21× 問31)

- ・ 「昭和20年（1945年）以前」から「昭和50～59年（1975～1984年）」までは「住み続ける」、それ以降は「たぶん住み続ける」が最も多く、居住年数が浅いほど定住意向も弱くなる傾向が見られる。
- ・ また「平成17年（2005年）以降」では「移転する」の割合が他に比べて高い。

図 居住開始時期別 戸塚区への定住意向

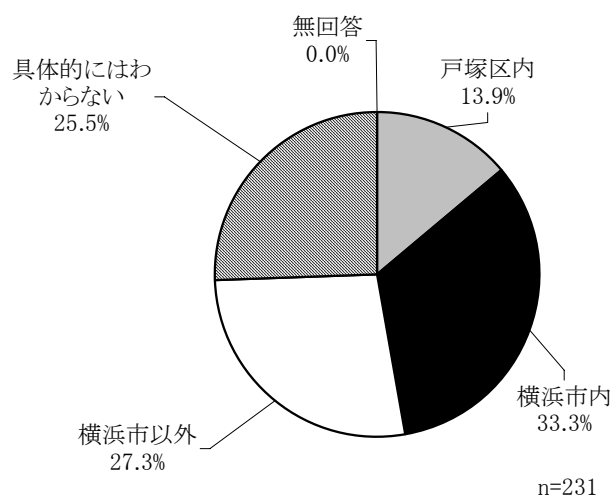
問21 これからもずっと今のお住まいに住み続けるお気持ちですか

		全体	住み続ける	たぶん住み続ける	たぶん移転する	移転する	わからない	無回答
全 体		1,410	490	497	153	78	184	8
		100.0	34.8	35.2	10.9	5.5	13.0	0.6
問31 居住開始 時期	昭和20年（1945年）以前	26	69.2	23.1	3.8	3.8	0.0	0.0
	昭和20～29年（1945～1954年）	19	63.2	26.3	0.0	5.3	0.0	5.3
	昭和30～39年（1955～1964年）	68	75.0	13.2	4.4	0.0	4.4	2.9
	昭和40～49年（1965～1974年）	177	51.4	39.5	1.7	1.1	5.6	0.6
	昭和50～59年（1975～1984年）	237	40.5	36.3	8.0	2.5	12.2	0.4
	昭和60～平成6年（1985～1994年）	261	28.0	42.5	7.3	3.1	19.2	0.0
	平成7～11年（1995～1999年）	162	24.1	38.9	18.5	3.7	14.8	0.0
	平成12～16年（2000～2004年）	218	22.0	34.4	18.3	9.6	15.1	0.5
	平成17年（2005年）以降	192	18.8	33.9	16.7	15.1	15.6	0.0
	無回答	50	52.0	14.0	12.0	8.0	10.0	4.0

問 21-1 (問 21 で「3」「4」と答えた方に)現実の問題は別として、次の移転先としては、戸塚区内、横浜市内、横浜市以外のいずれを希望されますか。(○は1つだけ)

- ・ 「横浜市内」が最も多く 33.3%である。以下「横浜市以外」(27.3%)、「具体的にはわからない」(25.5%)と続き、「戸塚区内」は 13.9%であった。

図 希望する移転先



■ 住居形態別 戸塚区への定住意向(問21× 問30)

- ・ 「持家(マンション・共同住宅)」で「横浜市以外」、それ以外では「横浜市内」が最も多くなっている。
- ・ また、「借家(一戸建て)」では「戸塚区内」の割合が他に比べて高くなっている。

図 住居形態別 戸塚区への定住意向

問21-1 次の移転先としては、いずれを希望されますか

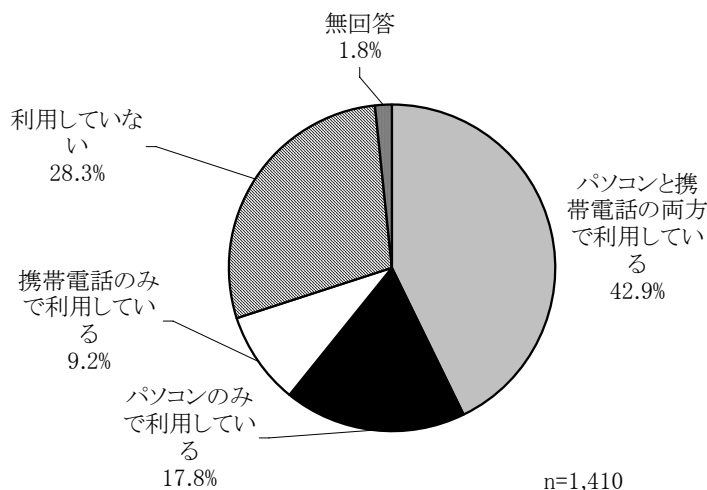
		全体	戸塚区内	横浜市内	横浜市以外	具体的にはわからない	無回答
全 体		231	32	77	63	59	0
		100.0	13.9	33.3	27.3	25.5	0.0
問30	持家(一戸建て)	44	15.9	34.1	31.8	18.2	0.0
住居形態	持家(マンション・共同住宅)	37	10.8	27.0	37.8	24.3	0.0
	借家(一戸建て)	11	27.3	36.4	9.1	27.3	0.0
	借家(マンション・共同住宅、社宅、公務員住宅、寮)	128	12.5	35.9	23.4	28.1	0.0
	その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無回答	11	18.2	18.2	36.4	27.3	0.0

その他

問 22 あなたは、インターネットを利用していますか(電子メールのみを使用している場合も含みます)。
(○は1つだけ)

- ・ 「パソコンと携帯電話の両方で利用している」が最も多く 42.9%で、全体の4割以上に達するが、次に多かったのは「利用していない」(28.3%)の3割弱であった。「パソコンのみで利用している」は17.8%、「携帯電話のみで利用している」は9.2%であった。

図 インターネット利用の有無



■ 年齢別 インターネット利用の有無(問22× 問25)

- ・ 10代から50代までは「パソコンと携帯電話の両方で利用している」が最も多く、10代、20代では7割を超えるなど若い世代ほど高い割合となっている。60代以上では「利用していない」が最も多くなっており、年齢が高いほどその割合も高く80代以上では8割に近い。
- ・ 50代では他世代に比べて「パソコンのみで利用している」の割合が高くなっている。

図 年齢別 インターネット利用の有無

問22 インターネットを利用していますか

		全体	パソコンと携帯電話の両方で利用している	パソコンのみで利用している	携帯電話のみで利用している	利用していない	無回答
全 体		1,410	605	251	130	399	25
		100.0	42.9	17.8	9.2	28.3	1.8
問25 年齢	10代	36	77.8	8.3	11.1	0.0	2.8
	20代	127	76.4	7.9	9.4	3.9	2.4
	30代	265	69.8	15.5	9.4	4.5	0.8
	40代	194	63.4	19.1	9.8	7.7	0.0
	50代	255	39.2	27.1	7.5	26.3	0.0
	60代	273	19.4	20.5	9.5	48.4	2.2
	70代	188	8.0	15.4	11.2	62.8	2.7
	80代～	60	5.0	8.3	5.0	78.3	3.3
無回答		12	8.3	8.3	8.3	25.0	50.0

■ 地域別 インターネット利用の有無(問22× 問26)

- ・ 「深谷・原宿地域」のみ「利用していない」が最も多く、それ以外の地域では「パソコンと携帯電話の両方で利用している」が最も多くなっている。

図 地域別 インターネット利用の有無

問22 インターネットを利用していますか

		全体	パソコンと携帯電話の両方で利用している	パソコンのみで利用している	携帯電話のみで利用している	利用していない	無回答
全 体		1,410 100.0	605 42.9	251 17.8	130 9.2	399 28.3	25 1.8
問26 居住地域	平戸・平戸平和台地域	133	36.1	17.3	15.8	30.1	0.8
	品濃町・川上地域	203	54.7	19.2	7.4	17.7	1.0
	名瀬・上矢部地域	157	43.9	15.3	12.1	28.0	0.6
	舞岡・柏尾地域	122	37.7	17.2	13.9	29.5	1.6
	汲沢・吉田地域	267	39.7	19.1	10.9	28.1	2.2
	倉田地域	123	49.6	16.3	8.1	23.6	2.4
	戸塚地域	179	51.4	18.4	3.4	25.7	1.1
	深谷・原宿地域	210	32.9	19.0	5.7	41.4	1.0
	無回答	16	18.8	0.0	6.3	37.5	37.5

■ 家族構成別 インターネット利用の有無(問22× 問26)

- ・ 「ひとり暮らし」「夫婦だけ」では「利用していない」が最も多く、それ以外では「パソコンと携帯電話の両方で利用している」が最も多くなっている。

図 家族構成別 インターネット利用の有無

問22 インターネットを利用していますか

		全体	パソコンと携帯電話の両方で利用している	パソコンのみで利用している	携帯電話のみで利用している	利用していない	無回答
全 体		1,410 100.0	605 42.9	251 17.8	130 9.2	399 28.3	25 1.8
問28 家族構成	ひとり暮らし	91	30.8	15.4	12.1	40.7	1.1
	夫婦だけ	386	32.4	17.1	7.8	41.5	1.3
	親と子（2世代）	775	50.1	19.7	9.7	19.5	1.0
	祖父母と親と子（3世代）	107	47.7	13.1	6.5	29.9	2.8
	その他	20	35.0	10.0	15.0	30.0	10.0
	無回答	31	19.4	6.5	12.9	41.9	19.4

■ 職業別 インターネット利用の有無(問22× 問29)

- ・ 「無職」のみ「利用していない」が最も多い。それ以外では「パソコンと携帯電話の両方で利用している」が最も多く、特に「学生」では8割を超える。

図 職業別 インターネット利用の有無

問22 インターネットを利用していますか

		全体	パソコンと携帯電話の両方で利用している	パソコンのみで利用している	携帯電話のみで利用している	利用していない	無回答
全 体		1,410 100.0	605 42.9	251 17.8	130 9.2	399 28.3	25 1.8
問29 職業	自営業	81	40.7	19.8	11.1	27.2	1.2
	管理職	76	75.0	22.4	1.3	1.3	0.0
	専門技術職	100	71.0	20.0	4.0	3.0	2.0
	事務職	177	66.7	18.6	5.1	9.0	0.6
	現業職	162	45.1	16.0	15.4	22.2	1.2
	主婦・主夫	352	36.4	16.5	11.9	34.7	0.6
	学生	57	80.7	8.8	10.5	0.0	0.0
	無職	267	12.7	19.1	8.2	55.8	4.1
	その他	76	42.1	22.4	6.6	27.6	1.3
無回答		62	21.0	12.9	11.3	46.8	8.1

■ 住居形態別 インターネット利用の有無(問22× 問30)

- ・ 「持家（一戸建て）」「借家（一戸建て）」では「利用していない」が、「持家（マンション・共同住宅）」「借家（マンション・共同住宅、社宅、公務員住宅、寮）」「その他」では「パソコンと携帯電話の両方で利用している」が最も多くなっている。

図 住居形態別 インターネット利用の有無

問22 インターネットを利用していますか

		全体	パソコンと携帯電話の両方で利用している	パソコンのみで利用している	携帯電話のみで利用している	利用していない	無回答
全 体		1,410 100.0	605 42.9	251 17.8	130 9.2	399 28.3	25 1.8
問30 住居形態	持家（一戸建て）	691	35.6	17.5	8.8	36.3	1.7
	持家（マンション・共同住宅）	382	52.6	22.5	6.5	17.8	0.5
	借家（一戸建て）	25	28.0	20.0	16.0	36.0	0.0
	借家（マンション・共同住宅、社宅、公務員住宅、寮）	254	53.5	11.8	14.2	17.3	3.1
	その他	4	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0
	無回答	54	24.1	14.8	7.4	48.1	5.6

問 23 戸塚区政について、具体的なご意見、ご要望、ご提案などございましたら、自由にご記入ください。

- ・ 戸塚区についての意見や提案として、420 件の具体的な記述があり、計 713 件の意見が出された。
- ・ 大分類の内訳としては、「施設・区政・地域」221 件、「緑・街並み・駅開発」182 件、「道路・交通・電車・駅」170 件、「子育て・教育」60 件、「医療・福祉」41 件、「防犯・防災」39 件となっており、施設・区政・地域に対する意見が最も多かった。
- ・ 中分類を見ると、「施設・区政・地域」の「区政・税金など」90 件が最も多かった。同じく「施設・区政・地域」の「区民利用施設の充実」は 62 件、「緑・街並み・駅開発」の「最寄り駅周辺のまちづくり」68 件、「道路・交通・電車・駅」の「バス・電車の便」61 件、「道路環境の整備」60 件なども多くなっている。
- ・ さらに個別に小分類の内容を見ると、最も多く出されていたのは「戸塚駅」65 件（「緑・街並み・駅開発－最寄り駅周辺のまちづくり」）、次いで「区政」38 件（「施設・区政・地域－区政・税金など」）、「バス」（「道路・交通・電車・駅－バス・電車の便」）30 件などとなっている（次ページ表を参照）。

図 戸塚区についての意見・提案(大分類・中分類)

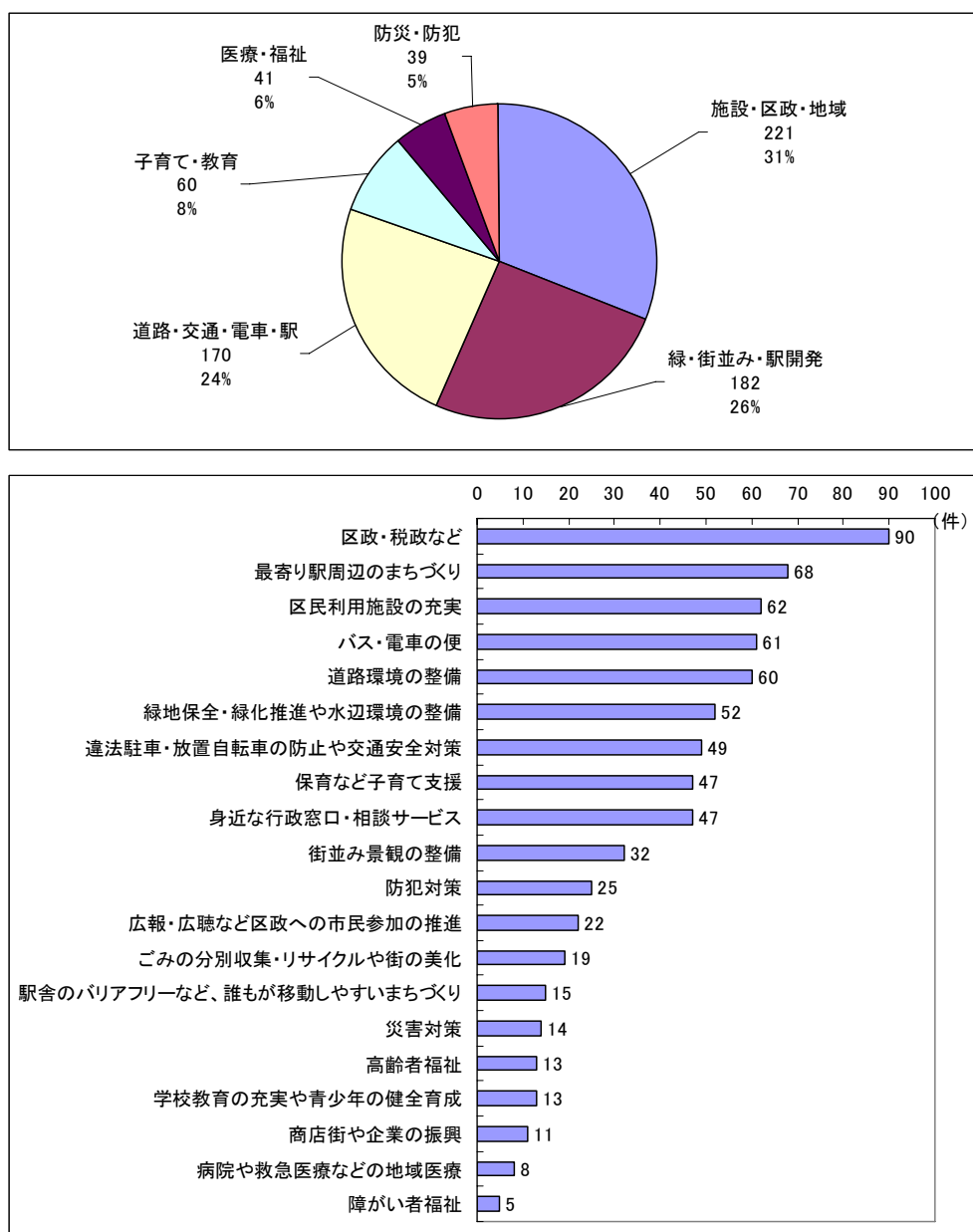


図 戸塚区についての意見・提案(一覧)

大分類		中分類		小分類		大分類		中分類		小分類					
施設・区政・地域	221	区政・税政など	90	区政	38	道路・交通・電車・バス	170	バス・電車の便	61	バス	30				
				財政関係	26					東戸塚駅	21				
				情報周知	9					戸塚駅	5				
				その他	8					電車	3				
				アンケート	6					駅	1				
				職員	2					乗り継ぎ	1				
				市民の声を反映	1					道路	27				
				区民利用施設の充実	62					区役所	18	道路環境の整備	60	歩道	24
										図書館	11			踏み切り	3
	地区センター	8	自転車					2							
	コンサートホール	5	信号					2							
	運動施設	4	電車					1							
	イベント	3	歩行					1							
	施設の充実	3	違法駐車・放置自転車の防止や交通安全対策					49	駐輪場	11					
	区役所支所	2							路上喫煙	10					
	憩いの場	2							違法駐車	9					
	市民ギャラリー	2							危ない車	5					
	トイレ	1		危ないバイク	3										
	身近な行政窓口・相談サービス	47	プール	1	危ない自転車			3							
			選挙投票所	1	取り締まり強化			3							
			郵便局	1	安全対策			2							
			広報・広聴など区政への市民参加の推進	22	区職員対応			23	放置自転車	2					
					行政サービス			13	駐車場	1					
	区職員教育	4			子育て支援	21									
	情報周知	4			保育園	11									
	便利性の強化	3			児童公園	8									
	緑・街並み・駅開発	182	地域交流	15	健診	3									
			市民ボランティア	6	母子家庭	2									
			市民活動	1	イベント	1									
最寄り駅周辺のまちづくり			68	戸塚駅	65	学童保育	1								
				東戸塚駅	2	学校環境	6								
	戸塚駅・東戸塚駅	1		学校教育	5										
緑地保全・緑化推進や水辺環境の整備	52	緑地保全	19	学校給食	1										
		柏尾川	10	健全育成	1										
		環境整備	7	全体	5										
		公園	6	バリアフリー	3										
		河川環境	5	駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり	15	バス	2								
		遊歩道	2			駅	2								
		阿久和川	1			歩道	2								
		環境改善	1			横断歩道	1								
		空き地利用	1			高齢者福祉	10								
		街並み景観の整備	32	環境整備	14	施設の充実	3								
文化保存	9			病院不足	4										
マンション乱立	6			健康診断	2										
街並み整備	3			病院の駐車場	1										
ごみ収集	11			病院の入院	1										
ごみの分別収集・リサイクルや街の美化	19	産業廃棄物投棄	4	障がい者福祉	5	障害者福祉	4								
		リサイクル	1			障害者の居場所	1								
		街の美化	1			防災・防犯	39	治安の維持	9						
		具体例	1	街路灯	7										
		落書き	1	少年非行	4										
商店街や企業の振興	11	商店街	9	交番	3										
		環境規制	1	パトロール	2										
		企業	1	災害対策	9										
総計					713										

自由意見一覽(問 23)

道路・交通・電車・駅 バス・電車の便

駅のエレベーターをもう少し大きくしてほしい。ベビーカーが大変。老人がダッシュで割り込んできて、何度も待つ羽目になり困っています。
市営地下鉄の路線を拡大してほしい。
電車の本数を増やしてほしい。20分も間隔が空くのは不便です。
原宿方面は交通手段はバスのみで、駅までの時間がかかる。地下鉄とかきてくれたら大変嬉しい。
戸塚駅西口よりホーム2Fに上がる広い階段をエスカレーターに改造する
戸塚駅東口のバスターミナルの利用で、もっとスッキリと階段利用の少ないターミナルにしてほしいです。
西口駅にエスカレーター、エレベーターを多く設置してほしい。手すりもつけてほしい。
戸塚駅西口にはエレベーターがなく、ベビーカーを担いで昇降しなくてはならない。
戸塚駅東口のタクシー乗り場の位置を改善してほしい。高齢者はどこから行っても危険であるし、エレベーターはPM10:00で止まるので、夜間は非常に危ない。若い人もバスの前や隙間をぬってタクシー乗り場へ行っている。ぜひ調査し、直してください。
バス、電車の乗り継ぎの便が悪い
戸塚、東戸塚の朝夕のバス対策を早急
戸塚～藤沢間のバス81を11時から16時まで4本から5本に増やして欲しい
バス停に屋根とベンチが欲しい
バス便をよくしてほしい
環状4号線は完成したので、一日も早く路線バスを通してください
区政の高齢者福祉対策として、バス停腰掛けの整備を促すようバス会社を指導してもらいたい
もう少しバスの本数を増やしてほしい
戸塚→港南台方面行きのバスを作って欲しい
戸塚駅からバスを利用しています。バスは冷房のきかない車両がある
東戸塚から出る深夜バスの本数を増やして欲しい。
すべてのバスにスイカやバスモが使えるようになるといい
地下鉄が通ってからバスが減られ、不便な上に長後街道の混雑は変わらず
柏尾台住宅を経由東戸塚駅行きのバスの便数を増やしてほしい。終バスが9時(休日)、10時(平日)はあまりにも早すぎる。
環状4号線が開通し、車の移動が便利になっているが、バス便があるとさらに良いと思う。
戸塚周辺(駅周辺以外の広域)のバスのダイヤを増やし、自家用車を減らすべき
地下鉄ができてから、立場に行くに1時間にバス2本になってしまい不便
バス便も悪いので、増発するなど公共交通機関の充実を図ってほしいです(バス料金の値下げもしてほしい)。
平戸1丁目の山の上で雪が積もると、2週間は動きがとれず、車も走れず、不便を感じています。平戸2・3丁目は巡回バス(東戸塚行き)が通りましたが、1丁目の山の上は残されました。国道1号線・平戸桜木線のバス停まで行っても20分、30分と待たされ、高齢になると引越しする人が出てきています。東戸塚駅までの巡回バスが通ってくれたらと希望します。
国道1号線を走るバスの本数が少なすぎだと思います。戸塚→藤沢行きをもっと増やしてほしいです。
高齢になると車の運転もできなくなりますので、バスの運行がスムーズになると良いと思います。循環バスが走ることを期待します(小型バス)。
バスセンターと戸塚駅が遠すぎるので、足の悪い私はタクシーを使っております。開発後も同じと聞きました。なぜ駅前からバスが出るようにならないのでしょうか？
朝の通勤時間帯にバスが遅れないように、道路の整備や特定の時間だけバスを優先に通すなど、何らかの対策をしてほしい。
バスが連なって来ることが多く、次のバス時間まで長く待たされる(特に柏尾町)。
バスセンターは駅の前になってほしい。
二俣川～東戸塚の直通バス(現在のバスは遠回りをして、40分以上かかってしまう)。
神奈中バスのマナーが悪すぎる。こんな会社に営業を任せるのは公共のためにならない。行政の指導ができないか。
バスセンターだけでも早く駅前から使えるようにしてほしい。
ミニバスがあると良い。
しかし、バスの利便性ももう少しなんとかならないかと思います。坂が多いため自転車での移動が大変です。若者でも不便なのだから、高齢者はもっと不便なのでは？バスの本数を増やし、できるだけ時間通りの運行をしてもらいたいです。
バスは本数が少なく、時間もあてにならず不便である。
東戸塚の人口増加に伴い、駅の改善が必要(駅の改札の混雑、ホームの階段が狭く、エスカレーターも渋滞)
朝、東戸塚駅は人が乗り切れないほどの混雑となるため、東海道線が止まるようにすべき
東戸塚周辺の人口増加に伴い、東海道線を停めるなど、何か対策をとって貰いたい

JR東戸塚駅混雑に対する改善依頼 今回のアンケート調査の機会を利用し、頭書の件に関して下記の通り改善依頼を申し上げますので、早急な対策の検討をお願いします。 なお、本件はこれまでたびたびインターネットや自治会などで問題になっている事項であり、住民の安全を預かる行政として、放置せず、責任を持って対処し、その経過について遅滞なく広報などで情報公開をすべきと考えます。
1. JR東戸塚駅の現状 JR東戸塚駅周辺には近年大規模なマンションが乱立し（現在も進行中のプロジェクトが多数あり）、朝夕の混雑は異常状況である。JRの資料によると、東戸塚駅の一日の乗降客数は約6万人となっているが、それに反し駅の施設は、改札が1箇所、階段が1箇所、エスカレーター1基（上下）、エレベーター1基と貧弱な設備のまま、改善の様子が見られない。このままでは、近年関西で発生した歩道橋事故（花火大会時）のような大規模な災害が発生する恐れが十分ある。
2. 改善対策案 ①東海道線を停車させ、横須賀線のホームに集中している乗降客を分散させる。 ②戸塚駅側に改札を増設し、乗降客を分散させる。 ③現状のホームに階段等を増設する。
東戸塚駅の利用が日々多くなり、改札口を増やして欲しい
東戸塚駅の利用者が多くなっているのに、それに沿った整備がされていないように思います。
東戸塚駅周辺にはマンション、戸建てが増え、駅使用者が増えています。ホーム、エスカレーター、エレベーターも混雑しています。子連れで出かける際も不安ですが、お年寄りの方も大変そうです。何か解決策はないのでしょうか？
東戸塚周辺はマンションが多く造られ、人口の増加が著しい。横須賀線はパンク状態だ。早急に東海道線が停車できるように望む。
東戸塚駅のホーム～改札の階段、エスカレーター混雑を緩和してほしい。
東戸塚はここ2、3年のマンション増設で、人口が急増していると思う。それなのに横須賀線のみなので、とても不便に思う。
東戸塚に住んでいますが、早く東海道線や新宿ラインの特別快速が停まるようにしてほしい（昔から、乗降客が増えた場合は停まるようになっていたと思いますが）。
東戸塚駅の乗降客が非常に多くなっていますので、駅をもう少し充実させてほしい。具体的には改札の数を増やす、エレベーターの数を増やす、トイレ改修等。
東戸塚に東海道線が停まるように、JR東日本へ要請してほしい。
東戸塚駅の拡大（朝夕ラッシュの緩和など）。
毎日東戸塚駅を利用しています。駅のエレベーターができた際、横浜側の改札とホームをつなぐ階段がなくなったため、夜などホームから改札へ上がる時に5分近くかかり、皆さん大変不自由を感じていると思います。バリアフリー化も理解できますが、だからといって一般利用者に大幅な不便を強いるのは、どうかと思います。一般利用者にも配慮した、もう少しいいやり方があったのではないのでしょうか？今後の改善を望みます。
東戸塚駅に東海道線を止めてほしい。
東戸塚周辺はマンションの建設ラッシュだが、駅は許容量をオーバーしている。ラッシュ時などホームに溢れている人の数は恐ろしいほど。マンションの建設許可をする前に、受け入れる環境準備してほしい。
東戸塚駅の人口の増加が止まらないようです。どのように考えているのでしょうか？このままでは危険です。問題にしてください。
現在、東戸塚駅を最寄駅として利用していますが、いつも（どの時間）でもホームは混雑しています。エスカレーターに乗るのも時間がかかります。
東戸塚駅の混雑を何とかしてほしい（→湘南新宿ラインの快速を止めてほしい）。マンションが増える一方で、ホームが狭すぎる。
東戸塚について、大規模マンションが次々と建設中で、すでに駅の許容量を超えています。ラッシュ時などホームの混雑は、事故の危険を感じます。現在改札が一つしかありませんが、まずは二つ以上に増やしてほしい。ホームの拡張などJRと協議してほしい。事故が起きてからでは遅いと思います。

道路・交通・電車・駅 道路環境の整備

区役所周辺、小雀町、区役所や地区センター周辺に自転車専用レーンが欲しい
自転車走行路の充実
東戸塚駅近くのスクランブル交差点の歩行者青信号が非常に短く危ない
境木中学校近くのSHOP99前の道に信号をつけてほしいと思います。お店に来ているお客さんなのか、付近に路上駐車が多く、車を運転していても、止まっている車で歩行者が見えないことがある。また、歩行中に横断歩道で待っていても、なかなか渡ることができなかつたり、止まって道を譲ってくれる車があっても、反対車線の車が止まってくれないと逆に危ない。近くには小学校もあり、子どもがたくさん利用している道なので、早く改善してもらいたい！もし保土ヶ谷区の管轄ならば、以上の件を報告し、改善してもらえよう伝えてください。よろしく願いいたします。
環状2号や国道1号にモノレールを！
富士橋から戸塚駅西口までの線路沿いの道路は、狭い上に電柱が道に1mほど出ていて危ない
原宿立体化、戸塚駅東口開発、不動坂立体化、戸塚踏切立体化の5年以内完全実施
計画・施工中の幹線道路を5年以内に完成させる
旧1号線の立体交差、早く現実化して欲しい
国道1号線、戸塚駅の立体交差を望む
渋滞の緩和
市道471号線の道路拡張について 平成9年に地元説明会は終了しているが、それから10年、わずか100m足らずの場所がいまだに解決を見ていない。地元は反対はしていないが、行政はどう動いているのか。舞台を作るのが行政であり、それで踊るのが地元であるので、早急に地元が踊れる舞台を作っていただきたい。1年に1回地元顔を出すようでは、解決は難しい。
東戸塚から消防署方面に行くJRの上を渡る陸橋が狭く、車の量も多いので、いつ橋が落ちるか心配です。

横浜新道戸塚料金所のそばに入口はあるが、出口が廃止された。長後街道まで出口がなく、渋滞の原因になっているので整備が必要と思う。
 上矢部に住んでいます。駅までの道(線路沿い)に歩道がなく、電柱が出っ張っていて、自転車通学する時にとても危険です。道路整備をお願いします。
 交通事情の改善を期待。
 道路の路面に新素材を取り入れてほしい。
 道路の整備をもっときちんとしてもらいたい。自動車、人、自転車と往来が多いのに道が狭く、いつ事故が起きてもおかしくない道がある。
 あまり道路を作ってほしくない。昔は車を気にせず、子どもと手をつないで町を歩いたもの。今では買い物に行くときは、いつも車を気にして歩きます。昔の歩行者ばかりの道が懐かしいです。
 長後街道と横浜新道の交差する矢沢という交差点近くに住んでいます。長い工事期間を経て、最近道路が全面開通したのですが、長後方面から横浜新道へ乗るための車線が、常に渋滞するようになってしまいました。以前から混んではいたのですが、新しい道路ができれば解消されると期待していたのに、さらに渋滞がひどくなっているのでは、何のための工事だったのか。
 駅ビル、商店街再整備より、道路整備を優先させるべき(緊急の課題)。駅踏切、原宿交差点等渋滞解消必要。
 国道の近くに住んでいるが、今、立体交差点の工事をしていたり、駅の再開発をしているので、これからの戸塚に期待をした小田急分譲地内に住んでいるが、団地内の道路がたいぶ痛んでいる。メイン道路から入った道はアスファルトが切り貼り状態で、デコボコが目立つ。
 矢沢交差点が道路改良で整備されたが、特に長後から横浜方面に向かう道路が改良前より混雑している。信号等、改良の余地はないでしょうか。
 幹線道路の開発が行われているが、騒音対策を行ってほしい。
 道路整備がアバウト。工事跡がパッチワークのよう。
 狭い道路が多い(戸塚駅～戸塚ボーリング場)。
 道が狭く、その上、車がスピードを緩めないのでもいつも危険を感じます。
 まず道路の整備をしていただきたいと思います。
 国道1号線の交通渋滞をなくすこと。
 道路幅を4m以上に早くなってほしい(土地整備)。
 戸塚区も人口の増加に伴い、道路が渋滞するようになってきました。道路の整備をもっと進めてください。
 戸塚駅前の開かずの踏み切りを早くなんとかして欲しい
 開かずの踏切の待ち時間が非常に長く、なかなか改善されない。
 あかずの大踏切をなんとかしてほしい。
 戸塚駅西口から谷矢部の線路沿いの道路は、バスも通っているのに歩道が一部なく、大変危険である。早期整備をお願いします。
 駅に至るまでのバス道路に歩道を完備する(5年以内)
 歩道の確保をしっかりしてほしい。歩道が狭く、段差もひどいので、自転車も利用する気になれない。
 富士橋～戸塚ボーリング～戸塚駅の東海道線に沿った道路の道幅を広くするため、街灯柱は保持したままで道路脇の電柱の埋設化の検討をお願いしたい
 ドリームランド下から立場へ行く道路が車道と歩道の区別がなく危険
 道路にセットバックしない電柱があり、災害時の不安を感じるので、区民の安全を確保いただきたい
 区内の歩道をもっと増やしてほしいです。
 バス便が多いので、道路整備をきちんとしてほしい。バス通り沿いの建物はどいてもらうくらいの気合いで、車道、歩道の確保をしてほしい。できれば自転車専用道路も。
 矢部町から戸塚駅西口に向かう線路沿いの道が狭く、歩道を作っていただきたいと思います
 自転車で駅に向かう場合、車道も歩道も狭いため、事故の危険を感じます。
 道路が狭い。歩行者が危険。歩道の整備を。
 線路沿いの道(西口から上矢部方面)をもっと広げてほしい。歩道を作ってほしい。
 車道、歩道の整備。段差のない歩道(ベビーカーがスムーズに通れるように)。
 車社会からの脱却のため、自転車道や歩道の整備を積極的に行ってほしい。
 西口から富士橋への歩行通勤は大変危険(道路が狭い、車が法定速度オーバー)。何か対策を考えてほしい。
 歩行者が歩きやすい道路に整備してほしい。
 よく散歩をするのですが、歩道が一人がやっと通れる幅であったり、広い所から急に狭くなったりしています。もう少し歩行者の目線で整備をしていただけたらと思います(車椅子の方も通りやすいように)。
 歩道の狭い、もしくは無い道が多すぎる。
 歩道と車道を分けて、道幅が徐々に広がってきていてうれしいです。
 正養寮にかけての長い坂道は学生も通学する道ですが、朝は車も多く、小さな子ども達が危険にさらされている。どうか対策をお願いします。
 戸塚ボールから国道1号の下のトンネルまでが、歩行者に危険なので何とかしてほしい。
 住宅街の歩道をキレイにしてほしい。
 道路が狭い所が多く、二人の子どもを連れて外出するのに不便を感じる。道路の整備などもっとちゃんとしてほしい。
 道を造る際は必ず歩道を造っていただきたいです。歩道がない所を子どもや高齢者が歩くというのはかなり負担がかかることだと思います。実際、私も戸塚に移り住んでから、歩道のなさストレスを感じることがあります。
 歩道を造ってほしい。バス通りで大型トラックもたくさん走っているのに歩道がなく、危険です。

道路・交通・電車・駅 違法駐車・放置自転車の防止や交通安全対策

朝夕、裏道をスピードを出して走る車、エンジン音を高らかに鳴らして通る車にうんざり。住居優先に住みよい町であってほしいと祈るばかり
カーナビのせいで、どんな細い道でも車が入ってくる。人が安心して歩ける道路づくりをしてほしい。
平戸の住宅街のスクールゾーンを、トラック・バイクが制限速度をほとんど守らず、轟音を立てて通り抜けて迷惑しているし、子どもを歩かせられない。歩行者用ガードレールを設置するか、時間を指定して重機を載せたトラック通行禁止にしてほしい。
狭い道が時として抜け道となっているものもあり、子どもの交通安全に不安を持ちます。ドライバーのモラルも低下しており、モラルに期待しているだけでは、一向に良くなりません。必要に応じ、法で縛ることもありだと思いますが、
住宅街の道路にバンプ(凸部)を設けて、スピードを出せないようにしてほしい(タクシーなどが裏道として通行し、スピードを出して危ない)。
歩道の自転車速度制限取締実施。
自転車や歩行者のマナーが悪いので、重点区域にチェックする人を置いていただきたい。
自転車に乗る方のマナーを徹底できるように対策をしていただけたらと思います。歩道を歩いていて自転車にぶつけられて転んでも、自転車の方はそのまま行ってしまったこともあったので、お願いをしたいと思います。
柏尾川沿い(戸塚～大船方面)は自転車しか通れないはずなのに、バイクが通る。取り締まってほしい。また、夜スケートボードをやっている男性がいるのでやめてほしい。
柏尾川の遊歩道のバイク、スケボーの取締り強化をしてほしい。
夜、暴走族風のバイク音がして気になります。
交通事故防止対策
道路上にミラーをもっと設置してほしい(事故防止のため)。
団地や住宅街の駐車違反車の取り締まりをお願いしたい。
戸塚区のはずれの地域にも目を配り、違法駐車、放置自転車パトロールなどをして欲しい。
歩道上の駐車取締強化。
路上駐車が多すぎます。子ども達が通学路として使っている道にスーパーがあるため、警察やスーパーの方に路駐を注意するようにお願いしているのですが、警察は何もしてくれず、スーパーの方も言った時だけ注意する感があります。子どもが車の陰から出てきても気づかず、事故につながりますので路駐対策をお願いします。
住宅街での路上駐車が目につきます。狭い道に車が止めてあり、立ち往生しました。
最低限、路上駐車の取り締まりは徹底してほしい。
道路にも駐車していることが多く、バスなどなかなか前へ進まず、電車に乗り遅れたことが何回もあり、もっと取り締まりをしてほしい)。
現在住んでいる所の周辺は、路上駐車や違法駐車、事故車両の放置などが多いように感じます。危険であるだけでなく、犯罪を招くことも考えられます。街の美観を守るために、また、こういったことを防ぐためにも、違法駐車や事故車の放置をなくしてほしいと思っています。
住宅街の中での違法駐車がが多い。特に公園周辺等は休日になると通行に危険を感じることもある。警察の取締強化もしてほしいが、公園等の周囲には駐車場を設けてほしい。
土日祝日、駐車場を解放してほしい。
駐輪場の整備
駐輪場を増やしてほしい。申込みをして2年になる。どうにかもう少し早く順番が巡ってくるようにしてほしい。
駐輪場を増やしてほしい。先日、駐輪場を申し込んだら、7ヶ月待ちと言われ、困っています。
西口駅前に自転車の駐輪が多くなって邪魔だから、何とかしてほしい。
駐輪場がもっとあると良いです。
無料自転車置き場の充実(特に大型店舗の周辺)。
ようやく西口の開発が始まり、ホッとした。戸塚駅前の渋滞の解消を切に願う。また、駐輪場もたくさん作って、路上駐車のない町にしてほしい。
駅前の自転車置き場(月極)が空くのにな5年待ちと言われた。駅まで自転車で行けないと通勤がとても不便なので、自転車置き場を増やしてほしい。雨の日でも濡れないように屋根付きにしてほしい。
駐輪場が少ない(湘南台のように駅の下(地下)に作ったらどうでしょうか)。
今一番の気かりは駐輪場。違法駐輪の取締りが厳しいのはいいが、根本的な駐輪場不足をどうにかしてほしい。個人の駐輪場は高いため、戸塚駅第〇～(区営)を3箇所申請しているが、空きがなく、もう3年も待っている状態。改善されることを切に願います。
西口駅前に月極ではなく、1日ずっと止められる駐輪場を作してほしい(1号線より戸塚駅より自転車置き所がない)。
駐車取締のように、一般区民にできることをきちんと明確化すべき。老人参加型のボランティア活動ばかりではダメだと思う。
ルール違反に対する監視、強制を強化してほしい。
神奈川県警の問題かも知れませんが、暴走族、放置自転車・バイク、違法駐車等の取締りを本気でやっていただきたい。
東戸塚駅前の放置自転車対策(TSUTAYA前は歩けない)
放置自転車の取り締まり強化。
道路上での喫煙禁止提案。
まだ歩きタバコが多くて、路地に入るとたくさん吸い殻が棄ててあり汚い。
ある区間だけではなく、戸塚区全域をポイ捨て禁止、歩きタバコ禁止にしてほしい。
横浜でもビッグタウンの戸塚が、あっと驚くような施策で横浜をひっぱってほしい。
駅前周辺でタバコを吸っている人が多い(歩きタバコ)。朝は人通りが多いし、禁止にするべきでは。
駅周辺に灰皿設置が必要(行政として)。タクシーも禁煙で、マナーの悪い喫煙者のポイ捨てが増加。

学校、駅周辺の歩きタバコ禁止条例の制定。
 歩きタバコを禁止してほしいと思います。先日横浜市議会の定例会で「指定区域内での喫煙を禁止し、違反者にペナルティを科す条例を可決した」とのことですが、全然喫煙者は少くなりません。大勢の人々が通る中、平気で火を付けて喫煙している人が多いです。大変不快な思いをしている人達が多いのが(特に幼い子がいるのに)わからないのでしょうか。禁止してほしいです。
 歩きタバコを禁止してほしい。空気も悪いし、ポイ捨てのゴミもなくなる。
 歩きタバコ、レストラン、カフェ等のタバコの禁止をお願いします。
 歩き煙草など徹底的に取り締まるべきだと思います。

緑・街並み・駅開発 最寄り駅周辺のまちづくり

戸塚駅前の道路事情が悪くベビーカーやお年寄りが危ない
 戸塚駅周辺整備の具体的進捗状況の報告
 戸塚駅前の再開発工事の着手が遅い
 戸塚駅前がパチンコ屋や居酒屋ばかりで魅力がない
 駅前再開発を早くしてほしい。近道や日除けがなくて困る。
 戸塚駅西口の開発を早期にお願いしたい
 駅ビルに太陽光発電や屋上緑化、涼しい木陰など、温暖化対策をしてほしい
 戸塚駅周辺に駐車場が欲しい
 駅前の整備をできるだけ早く
 戸塚駅周辺の更なる環境整備の推進、特に道路の整備
 駅前の再開発を成功させてほしい。中途半端なものにならないことを願っています。
 駅周辺の開発と道路整備は、なるべく早めによりしっかりとお願いします。今現在、日陰もないので
 待望の戸塚駅前西口の開発工事、5年後の平成24年には全国に誇れる駅前商店街が完成するのを期待しています
 西口開発や大踏切の通路など、スタートに時間がかかりすぎる
 大きなショッピングモールがほしい。
 駐車場の拡大。
 早く駅前を整備してほしい。
 並びすぎたタクシーをどうにかしてほしい
 西口の再開発、踏切などの交通、街づくりを早急にはじめて、活気のある美しい戸塚を作っていってほしいです
 週末の夜、西口バスターミナル付近にタクシーが大量に停車し迷惑
 戸塚駅周辺(バスロータリー付近)で路駐が多く、バスが通れないことがあり不便です。
 駅前再開発のスピードが非常に遅いと思われる。整備中にしても、あまり防犯上良い環境とはいえないので、早い時期に改善を希望する。
 戸塚駅前の踏切の早期廃止、立体化を希望します。工期がズルズルと延びています。早期の完成を望みます。
 戸塚は今、やっと変わろうとしている。西口再開発、原宿交差点の立体化工事。戸塚に住んで36年、死ぬまでには何とかなるだろうと思ってきた。やっと動き出したところで、街づくりに大いに期待したい！
 西口駅前整備中ですが、できたら駅ビルの中に映画館を作してほしいです。
 西口再開発が早く完成することを期待しています。
 西口開発はようやく着工したが、東口にはパチンコ店や飲み屋などが多く、浮浪者も多い。全体的に小さなビルが乱立し、道路は狭い。治安も悪く、全体的に街が汚いように思う。駅前の鳩だけでも駆除できないものだろうか。
 戸塚区に住んで32年、その間の変革を思い出してみると、やはり一番のネックは交通(バス便)の悪さ、そして西口再開発です。やっと着工しましたが、何年もかかったのはどうしてでしょう？戸塚はもう少し洗練された街になってほしいと願っています。駅前にはパチンコ屋さん、飲み屋さんだらけで、東戸塚や大船の方について行ってしまいます。
 いよいよ駅周辺の工事が始まりましたね。さぞや近代的な建物になるのでしょう。もう青写真もできているのだと思いますが、少しは昔の戸塚宿のイメージも残ると良いとも思います。とにかくお役所仕事になりませんようにと願います。区民に愛される町になると良いですね。
 駅前再開発を早く終わらせてほしい。
 戸塚駅周辺の整備の遅れから、駅周辺へ行くのが嫌！図書館を利用したくても、駐車場が少なすぎる。区役所についても同様。
 駅周辺に大型店舗を入れることが重要だと思う。
 戸塚駅前がやっと再開発に動いて、きっと数年後には変わるでしょうが、そこばかりに力が注がれていくような気がして不安でなりません。
 戸塚駅前の駐車場、駐輪場の十分な確保。
 最近引越してきたばかりだが、戸塚駅周辺は思った以上に店が少ない。西側を再開発中だからというのものもあるだろうが、すでに再開発済みの東口は、早くも寂れ始めている。乗降客数年内2位とはとても思えない。どこの地区でも問題になっているようだが、パチンコ屋ばかりできて、景観上もどうかと思う。多少規制できないのか。
 駅に車で迎えに行った時に、駐車して待っているスペースがないので作ってほしい。
 駅開発について、良くわからない。パチンコ店、カラオケ店、居酒屋等、駅近くに行くとがっかりする。品のある街にしてほしい。
 西口の再開発が進行し、新たな駅前ができるのを楽しみにしていますが、5年ほど工事日数がかかるようで、その日まで駅まで大きく迂回路を通らなければいけないのかと思うと、少々うんざりします。
 誰もが利用しやすい、集客性のある駅前開発、期待しています。
 地下道が無事に(無事故で)できることを心より望みます。

戸塚駅前の再開発、私はしなくても良かったんじゃないかと思えます。
駅周辺の再開発に期待している。
再開発が当初の予定よりだいぶ遅れていることは、切実な問題です。もちろん難しいことはあるでしょうが、計画をもっと慎重に考えるべきだったのでは。
上記のことを含め、区政のことを区民にわかりやすく、多くの手段で伝えるべきだと思います。
駅前の開発で、今まで買い物をしていた店の移動先がわからない。
駅周辺の住宅が高額過ぎて、若い世代が新しく入ってこられない。昔から住んでいる高齢者だけになるのは当たり前。郷土愛では生活できないので、若い世代は離れていくしかない。
駅前再開発の整備は、最初の計画より10年以上の遅れがあります。今後遅れることなく実施していくよう努力してください。
西口開発早く完成してほしい。楽しみです。
戸塚駅周辺に駐輪場を増やしてほしい。3年待ちと言われた。今まで多くの街で生活してきたが、駐輪場も設置しない戸塚区に、放置自転車を撤去する権利はないと思う。
戸塚の町は古くさい感じがする。現在改造中で、結果が今ひとつイメージできないので気になる。明るい町づくりがほしい。
戸塚駅周辺をもう少し活性化させてほしい。
西口周辺の再開発は、東口のように(ターミナルでタクシーに乗るのもいちいち階段を利用しなければならないし、丸井が撤退し街が後退しているようだ)失敗しないよう、検討を重ねてほしい
駅近くに子どもを遊ばせる場所が少ない。
駅周辺にパチンコ店が多く、環境がいいとは言えない。
戸塚の駅前は、きれいで住みやすいようになると期待しています。
何年か前から携帯電話が増えているせいか、公衆電話が減ってきていると思います。若い人達はいいいのですが、お年寄りの方は持っていない人が多いので、特に駅とかに増やしていただくと良いと思います。
戸塚駅前はパチンコ屋ばかりです。戸塚区の文化程度は、こんなものなのでしょうか。区の中心部として恥ずかしい限りです。ですから定住意向についても“わからない”という回答になってしまいます。
戸塚区西口開発は、もう少しセンス良く行ってほしい。完成後、ガッカリしそう…。
戸塚駅前の再開発、仮設ビルが建ってから数年待ったため、先行きが不安。まだ何年かかるのかと思うと、交通規制(歩道の変更)等、不便なので困るなあ…という思い。
戸塚駅の再開発について、少し広い範囲でもっと情報提供をしてほしい。
駅周辺の再開発を行っているが、フリーマーケットの場所を提供するなど、人が集まるようにしたほうが良いと思う。
西口駅前再開発を最優先で実施してほしい。
車で駅前まで送り迎えできるようにしてほしい。
工事中の戸塚駅周辺が良くなることを期待している。
駅周辺の再開発事業の完成を見ないと何とも言えないが、駅並びに駅周辺は戸塚の「顔」です。駅舎についても行政とJRと共同で充実させてほしい。現状、駅構内はどうしても大船等と比較してしまう。
戸塚駅の再開発を楽しみしている。
戸塚、東戸塚駅前の整備を早急に
東戸塚の急激な人口増加について、生活の基本インフラをもっと計画的にやって欲しい
今後、東戸塚を含めた戸塚区のシンボル地域としてのプロジェクトの推進が望まれる(桜木町～平戸線の着工)

緑・街並み・駅開発 街並み景観の整備

街灯、歩道の整備、雑草の刈り取りが必要など、生活しやすい町にして欲しい
駅西口の開発も踏切の混雑解消も大切です。並行して身近なところで「心休まる場所」のある町づくりを。
できる限り多く、緑と花を増やしてほしい。目障りになる電柱や看板などは取り除いてほしい。静かな環境を望む。
人口の集中している地域に密集した一戸建てでは、お互いにカーテンや窓を開けることもできず、快適な暮らしとは言えない。もっと高層のマンションなどを増やし、ゆったりとした緑の共有スペースを計画した方がよい。
大正地区は非常に不便です。鉄道なし、大型商業施設なし。公園や緑は他に比べれば多いので、生活に密着した部分の整備、誘致を望む。
戸塚に越えてきて10年あまりの間に田畑がどんどん宅地化され、柏尾川沿いにも大きなマンションが建ったりと、自然がたくさんあって良いところだと思っていたので残念でなりません。農業に従事する方々の高齢化も一因なのでしょうが、そのようなところを宅地ではなく、公園にするといった方法もとれなかったのかと思います。また、駅を降りるとパチンコ屋が目につくのもイメージとしてマイナスだと思います。なんとかならないでしょうか。
舞岡公園や柏尾川の桜、所々きれいな場所があるものの、西口を中心にきれいな街、住みたい街とはまだまだ言えないのが戸塚の街だと思います。市民の意識も低いのですが、きれいな素敵な街になるよう区長が引っ張って行くべきではないで公共事業は箱物ではなく、電柱の地中化等、建てるばかりでなくメンテナンスをきちんとしていただいて、国民のためにしてください。
看板や店頭ののぼり等は強風で倒れて非常に危険なので、規制をかけていただきたい。先進国でこんなに街並みが汚い国は他にないと思う。
7月に転居してきたばかりですが、緑が多く、街並み(道路や道路脇の木等)もキレイ、買い物をするにも適当なお店の数で、大変気に入っています。これからも、この点は変わらないで、ずっと住みやすい環境を維持してもらいたいと思います。
東戸塚はキレイな街並みが魅力ですが、パチンコ屋の雑音、煙草の匂いなどがとても違和感を感じます。
町が汚い。地主の言いなり。こんな汚い町で、こんな歩道もない、整備されていない道路もみっともない。友人、知人、兄弟は笑っている。「横浜ってイナカでキタナイ～みなとみらいだけだれ～って…本当にそう思う。
とにかくキレイに住みやすくしてほしい。かといって古いものを全て壊すのではなく、良いものはとっておいてほしい。戸塚区の色を出してほしい。
建物が古い。
戸塚風土は自然に恵まれている。そこで生まれた有名人も多々いるはず(特にスポーツ選手)。
戸塚区は歴史的価値物の保存・維持への取り組みが不足している

緑や自然や文化を次の世代に残せるような街づくり
護良親王の首洗い井戸の旧跡をもっときれいにしてもらいたいのです。
宿場町として栄えた面影を、後々まで残してほしいです。
戸塚は歴史と伝統のある街です。文化遺産・遺産を大切にしていってほしい。
戸塚は東海道の宿場であったはずですが街並みはその面影が残っていません。吉田大橋から大踏切までの間はちょっと残っているので、歩道を広く足にやさしい舗装にして、高齢者が歩いて楽しめる昔なつかしい商店街を作してほしいです。
伝統ある宿場町としての景観を保存し、特徴のある町、地域作りを目指してほしい。どの駅に降りても同じという町にしたい。
駅前開発について、周辺と同じような街はいらない。生活感と歴史を感じるような街づくりをしてほしい。例えば御徒町や浅草のような町に！
東海道五十三次の歴史的風土を大切にしてほしい。
ヨーロッパの街並みのように統一感のある美しい街並みになれば良いと思う。戸塚に限らず日本の街並みは、バラバラで汚い。
横浜市に住み続けて25年くらいになります。これからもできればずっと住み続けられればと思っております。安全で美しい横浜(街並み景観の整備)をお願いしたいと思います。
電線の地中化をできるだけ早く進めてほしい。
近隣地域の山林の宅地化(マンション建設等)が諸処で行われ、環境が激変している。
住宅地域に住んで22年になりますが、周辺に学生のためのアパートが増加し、その周辺からは明らかに緑が減少。マッチ箱のような学生アパートの乱立は防げないものか。静かな住宅地と思っていたが、いつの間にかこの団地にアパートが多くなってしまった。
緑をなくすマンション開発はよくない。
マンション建設が多く、東戸塚駅が大変混雑しており、何か具体的な案を考えていただきたいと思います。
東戸塚に住んでいますが、マンション乱立で、人が異常に多く、駅が小さく、狭く危険な状態です。キャッチセールスも流れています。東戸塚は戸塚区行政の手が十分届いていないと思います。
緑を減らさないでほしい。山を崩してマンションを造りすぎだと思う。子どもの遊ぶ自然がどんどんなくなってしまう。

緑・街並み・駅開発 商店街や企業の振興

パチンコ、風俗を規制してください。
日立の工場の集中、高層化を要求すべき
原宿の大正小・中学校周辺に本屋、時計屋、眼鏡屋が欲しい
商店会が元気になれば、町も活発になると思う。
商店街をなくして、今新しく再開発をしているが、どういう目的で、これからどうしていくかを、もっとみんながわかるようにしていった方がいいと思う。なぜ、再開発をする必要があるのかわからないから。
戸塚商店街の営業時間の延長および活性化。
15年前に原宿に転居してきましたが、この間に周りから子ども達がいなくなり、商店街が病院・薬局街になり、今戸塚西口から「地域の店」が消え、何一つ良くなったと感じるものがありません。高齢化が大きな原因の一つであるとは思いますが、他区の真似ではなく、戸塚だから住みたいと思わせる施策を若年層に打ち出していきたいです。私は、山も川も田畑もあり、海にも近いここで子育てしたいと思い、転入してきました。
横浜のはずれという印象がぬぐえず、もともとの開発により道路は分断され、公園も少なく残念です。防災放送、公園、買い物、病院(出産)等日常生活は藤沢市にお世話になっていることがほとんどです。
駅前開発もすてきなことですが、昔ながらの風情あるお店がなくなったのは大変残念です。
商店街はどうなるのですか？
あさひ街商店街は、あれで良かったように思う。新設ビルは空間が残っているように見える。

緑・街並み・駅開発 緑地保全・緑化推進や水辺環境の整備

空き地が多いので、しばらく利用予定のない場所をドッグランやドッグプールなどに使用することはできないでしょうか？ノードで運動させてやりたいです。犬を飼う家庭も増え、今や人間の赤ちゃんより多いそうです。解放時の事故等は区で一切関知せず、「マナー厳守」「使用者は初回のみ登録」などとしてくだされば、皆さんありがたく思うと考えます。(増加するカラス対策にも犬の存在を利用できるかも？)
阿久和川沿いの美化活動を願います。
柏尾川の周りがもう少し整備され、水辺に親しめる戸塚になると良い思います。
柏尾川の川底が汚い。堤防の草刈りだけでなく、川底の掃除をしてほしい。
柏尾川の整備について、もう少し川をきれいにしてほしい。桜並木の周辺など、特に川の中の草など刈って、すっきりと清潔にしてほしい。戸塚の町を少しでもきれいにし、皆さんに来てもらって話をしたり、誰にでも自慢できるようにしてほしいです。戸塚は好きです。もっときれいな町にしてください。
柏尾川の桜保全と川整備。
柏尾川の整備。
柏尾川の河川敷の草を刈ってほしい。ゴミも取り払ってほしい。
柏尾川の底をさらったため、水草が無くなり、小魚がいなくなり、鷺がいなくなってしまった。工事と自然保護を両立してほしい。
柏尾川の遊歩道の草、紫陽花を早く刈ってほしい。
柏尾川をもっときれいにしてほしい
柏尾川の水質浄化
河川環境の緑化(コンクリート化の撤去)
豪雨の際の河川の溢れがなくなるようにしてほしい。
川が汚いので、自転車等の大きな物だけでも取り除いてほしい。

戸塚区は川に恵まれていますか、草が茂り、いい環境とは言えないと思います。京都の河川のように魅力的な川になるとよいと願います。
河川環境を重視してほしい。大雨により河川の水が溢れる地域の整備(特に大雨が降った後は巡回してほしい)。
街並みが汚く、歩くのが危険な場所や開かずの踏切があります。空気の改善を早急をお願いいたします。
ここ何年、公園や道路の草刈りなどの整備が良くなったと思います。
ゴミの落ちていない緑と花に溢れた街作りをしてほしい。区民も協力します。
子どもがのびのびと安全に安心して遊べる、お年寄りがゆっくりとのんびり散策を楽しめるような街の整備をお願いします。
柏尾河畔(区センター裏)のベンチの老朽化。この周辺だけ改善希望。
植樹、農業教室の実施、河川環境等の充実はとても大切なことで、大いに賛成ですが、現実には、家の近くでは農家の方々の畑が多くあり、そこでは周りの草に除草剤をまき、畑にも除草剤をまいて野菜を作り売っておりますし、梨畑では4～7月には週に一度くらいの割合で農薬を機会で散布し、白い煙を吹き上げております。住宅から数メートルしか離れていません。その時は、洗濯物は干しません。目や喉が痛くなります。緑政課にも何度もお願いしてことはありますが、積み重なりが環境に悪影響を与えたいと思います。
差別のないおおらかな未来を育める環境作り。
歩道の草刈りを早めに実施してほしい。東戸塚地域センター前の歩道の草が、大人の背丈ほどある。センターの職員が30分前に出勤するとか、手分けして行動すべき。税金に頼るべきではない！
戸塚駅周辺に憩いの場所があれば良い。小公園、小さな子ども達が安心して遊べる場所
公園に日除けがまるでないのが気になります。
野球(キャッチボール可)ができる公園の拡大。
品濃町には大きな公園があります。かつてその公園に沿った道路の公園側に広い歩道があり、車椅子なども楽々動かせる状況でしたが、何年か前にそこに自転車・バイクなどが置かれることを防ぐためと思われる鉄製の柵が設置され、自転車・バイクは置かれなくなった反面、そこは一般の人もほとんど歩かない草の茂る道となってしまいました。「角をためて、牛を殺す」という古い諺を地で行くようなこの鉄柵は一体の誰の考案なんのでしょうか？こんなことがあるようだと、市の職員が税金を本当に正しく使う方法について考えているのだろうかと考えてしまい、区政全体に対して批判的にならざるを得ません。
バス停以外にも、公園、広い歩道の隅、ショッピング前に椅子を設置してほしい。
公園や柏尾川河岸、公共施設地等に緑を増やし、「緑の戸塚区」と言われるようにしてほしい。
遊歩道の充実(緑化)を図るべき。
舞岡公園と打越の緑地をつなげる遊歩道を完備する等、自然を生かして町の魅力を高めるような施策が必要と思う。
日立のプールが2つなくなり、日立病院にも産科と小児科がなくなり、私の子育ての時より環境が悪くなっていると思います。せめて今ある緑は守りたいと思います。
次世代のために、緑を増やし、住みよい地区になること。
開発により緑がなくなっている
森林が多く、ありがたい環境です。草刈りなどありがとうございます
これ以上山や森などの自然を壊さないでほしい。
くぬぎやこならの植林を進めたいです。
緑化
自然がたくさんある区なので、もっと自然を大切にしてほしいです(交通や住宅などで自然に手を入れるのはわかりますが、人間が手を入れてしまえば、自然は自然でなくなります)。崖崩れなど、自然を壊してしまったために起こるものだと思います。杉などを植えるのではなく、その地にある木を増やしてあげるのいいのではないのでしょうか。
マンション等の開発で自然が少なくなっているの、自然を守ってほしい。
小さい時から舞岡に住んでいて、自然の中でよく遊んでいました。今では自由に遊べる自然もなくなり、身近にあった桜の木や街路樹も切られて、アスファルトやコンクリートになってしまいました。これじゃ自然と仲良くしようなんて言われても、どうしようもないですね。個人レベルじゃ木を植えたりすることって難しいと思うので、企業と手を組んでせめて木々を増やしてほしいです。
開発が優先し、緑地保全が後回しになってきたと思う。50年、100年先を見た行政的指導を。
緑地を十分残した上で、街づくりを行ってほしい。
昔から住んでいるが、町づくりが非常に遅れている。緑を残すなら地主の税金などもっと減らして、山を残せるよう考えてほしい(緑、木を植えても時間がかかる)。
美化(環境)
街路樹を増やしてほしい。
最近“緑”がどんどん減ってきていてビックリです。広報とつかに緑比率が39%とあり驚かされました。私の家の近くでも木が切られ、家がたくさん建てられようとしています。“緑”がなくなってしまうのではないかと心配になります。150万本植樹行動のキャンペーンなど、もっと広報で知らせるなどして、区民に“緑”を増やすことに協力してもらえばいいのに…と思っています。広報とつかもいいけど、自治会の回覧板などにも記事として載せればいいのではないかな…とも思います。
緑を豊かに！園芸に興味がある方には、道路に花木を植えるなど管理をしてもらう。
エコのため木々を植えて木陰を作してほしい。
緑化に対する取り組みをもっと活発に実施し、環境対策に十分対応できる“区”としてほしい。

緑・街並み・駅開発 ごみの分別収集・リサイクルや街の美化

環2の下野空地为物置にしないほしい。
街のゴミ箱の数を増やしてほしい
150万本植樹については賛成ですが、木は年々育っていくので、そうした場合、剪定ゴミの処分について配慮をお願いしたい。

ごみの分別の教育を徹底してほしいです。ごみ箱の数を増やしてほしいです。ペットボトルを入れるためのゴミ箱も増やしてほしい。ラベルも分別できた方が良いでしょう。

ゴミの分別が徹底されていない地域が見られます。さらなる情報周知等を。

ゴミ分別も大切であるが、ゴミ回収車(業者)のマナーは目にあまるものがある。朝から大音響で音楽を鳴らしてゴミ回収。それ以外は猛スピードで走行。茶髪、ロングのバカ丸出しの職員の態度(特に戸塚駅西口担当)。中田市長が知ったら絶句しますよ(ゴミ分別先進都市ですから)。

ゴミの分別収集は、住民の意識改革にも力点を置いて進めるべきだと思います。

ゴミの分別処理方法に納得していない。ゴミの分別は大いに賛成であるが、プラゴミ回収が週1回では少なすぎると思います。紙ゴミも月2回では少なく、積極的に協力したくても家族数の多い家族では難しい。何とかならないものか…。プラゴミは週2回、紙ゴミは週1回あれば生活しやすい。

ゴミの分別・収集のことですが、ダンボール・紙の収集、現在月1回ですが、もう少し回数を増やしてほしい。

生ゴミの回収は週3回にしてほしい。

ゴミ収集について。分別は大切なことで良いことだと思うが、プラスチックゴミが水曜日しかなく、量がたまってしまう。プラスチックゴミの収集日を増やしてほしい。

ゴミは分別を重視し、ゴミ袋を有料にしないでほしい。

東戸塚のゴミ山問題

近くの山林内に産廃棄て山があります。整備計画の看板が掲げてあるが、一向に進捗しません。現在も投棄が続いているようですが、行政の監視、今後の対処はどうか。他にも同様の事例があるのか等含めて、改善を願いたい。

ゴミ不法投棄の取締強化と処理の迅速化。

東戸塚(境木幼稚園近く)のゴミ山はみっともないので、何とかしてほしい。

川や道路のゴミが多い。

公共物への落書きなどを消してほしい。

ゴミ袋有料化、ゴミ出し有料化等、県と連係して環境対策、温暖化対策を最優先に行ってほしい

防災・防犯 災害対策

現実問題は坂や崖が多く集まること事態が困難なため、災害対策強化するべき

人口が増加していると思われるが、地域社会の結びつきが薄く、災害時などに不安を感じるので、防災訓練などの充実

防災に関する行政に目を見張るようなものがない。70周年、150周年の行事を「防災を目玉」にして、施策を見直しては如何。大災害対策は最優先時効であり、県政・市政・区政の共通した大課題だと思う。

防災システムの発災時の有効性について、どのように検証し、能力を高めているのか。「防災PDCA」を充実させてほしい。

青指、体指に加え、「防災指導員」の制度を創設し、地域より意見を求め、防災体制に反映させてはどうか。地域の巻き込み方に工夫が足りないように思う。

水害対策

防災用に雨水の利用ができるシステムを作り、夏の気温上昇を抑えるのにも利用できると、水の確保ができると思う。

災害対策を強化してもらいたい。

火事などの時、消火する町内の設備などを充実してほしい。

柏尾川沿いの川の増水が不安。

水害対策が不十分。50mm/hの雨対策では不足。200mm/hの雨水でも大丈夫なようにしてほしい。

地震などの時、指定避難所が遠いのですが、決められた避難所でないと至急は受けられないのか

上坂上に住んでおりますが、災害の時に戸塚南小学校まで行かなければならないのですが、75歳以上です南小学校まではとても無理だと思います。今少し近くで何とかしてほしいと思います。

避難用駐車場確保

防災・防犯 防犯対策

春日神社あたりの防犯灯の増設

暗い道に街灯を設置して欲しい

外灯を増やし、夜でも安心して歩けるようにしてほしい。

子どもを持つ身としては、柏尾川沿いが電灯の少なさも気になります。大きな事件が起きずにいるのが不思議なほどです。

街灯が少ない。防犯対策のためにもっと作って。

柏尾川沿いの道が夜になると真っ暗でとても怖い。

街灯が少ない

交番の現在地は不便なので、以前のように原宿交差点に戻してもらいたい。

交番が近くにないので不安に感じる。人口(マンション)が増えるのに、疑問に思う。

品濃町地域の交番を増やしてほしい。

少年犯罪対策。不良が多い。

夜間の子どもの夜遊びなどが増えてきている。スーパーやコンビニが24時間営業になったこともあってだろうから、しっかりと子ども達への対策をしてもらいたい。

たばこの自販機など見回りをしてください。

夜に若者がたむろしている等、身近な防犯面で非常に不安を感じる。区内の細部に目を向けて、その辺に力を入れてほしいです。

犯罪のない、建物や施設の崩壊等の危険のない街にすること

防犯対策をお願いしたい。

治安の浄化

空き巣、ひったくり等減るように、安全に暮らせるように治安を良くしてほしい。

一般家庭の防犯対策。

治安が悪いなど感じるが多々ある。

防犯はニューヨークのブローケンウィンドウズの法則を見習うと良いと思います。

小学校の登下校に対し、対策をとってほしい。

防犯対策を強化してもらいたい。

警察の人に防犯パトロールを強化してほしい

防犯について

子ども達が安心して外で遊べる環境になるよう、地域での見守りが大切になってきていると思います。例えば、ワンワンパトロールを任意で参加できるよう呼びかけるとか、地域活動の防犯の補助運動をもっと強化してほしいです(現実問題として、防犯の予算が地域においても、夜回りの人々の飲食にあてられてしまうのは、どうかと思います)。

子育て・教育 保育など子育て支援

子ども向けイベントをやってほしいです。

小学生が通う学童保育の充実。どこの学童も、壊れかけたようなプレハブ小屋で生活しています。雨・風はしのげますが、もう少し修繕費のかからないような所になればと思います。少ない資金が修繕費にかかっているのが現状です。

昨年越してきて1週間足らずの時に、子どもの4ヶ月健診がありました。問診を担当していただいた方が、ちょうど住んでいる地区担当の保健師さんで、とても親切に赤ちゃん教室の案内をしてくださったり、「ひらど福祉医療マップ(製作:地域ケアサポート平戸)」を渡してくださいました。南区、保土ヶ谷区と隣接しているので、区の枠を越えたマップに大感激！こういったパンフレット等が増えると嬉しいです。

福祉保健センターで行う健診の場合は人数が多く、必ずしも地区担当の保健師さんに問診してもらえとは限らないのは理解しつつも、その後の生活に関わるので、できる限り地区担当の方で行っていただけると嬉しいです。すでに地区別に行ってくださっているとしたら、区民として嬉しい限りです。

子どもの集団検診で区役所に行くたびに保健師さんから「お子さんの様子をみたいから後日また電話します」と言われるが、一度も電話がかかってきたことがない！出産後1ヶ月までの訪問も忘れられて、3ヶ月くらいして電話があった。健診のたびに親を脅すようなことを言っておいて、その後のフォローをまったくしてくれない保健師さんは、本当に必要なか疑問だ！！

充実した子育て支援(お金、保育園etc.)

少子化対策の一環として、出産祝い金を支給してほしい。例えば第一子10万円、第二子以降は子ども一人につき20万円

会津若松と世田谷区に住んでいました。会津は子育て支援活動がきめ細かく充実していました。世田谷区は医療補助が手厚く(所得制限なし)、助かりました。横浜の環境に惹かれて永住地として引っ越してきましたが、子育て支援活動も医療補助も会津や世田谷に比べると格段に下がったので、二人目を諦め、一人っ子でいくことにしました。

子育てしやすい町づくり(手当等も含めて)。子育て世代が多い→若い世代が多い→高齢化地域社会の緩和。

若者の健全育成

子どもを育てる、産める区であってほしいと思います。産婦人科の減少、学校教育への不安etc.、それが少子化につながると思います。子どもがほしくてもつくれる人達もたくさんいると思います。治療代や通院にかかるお金が高すぎて、病院に行くことすらできません。何か区で考えてほしいと思います。

乳児医療証の年収制限なし、かつ未就学時までの延長希望。

共働きの私たちにとって最大の悩みは子育てです。特に「病気の我が子」を預ける施設が望まれます。困難であることは承知していますが、少子高齢化を支えるためには乗り越えるべきハードルだと思います。

人に意見を聞いたからには、必ず答えを出すような行政を心がけてください。

戸塚区だけではなく、少子化を問題にする割には産科が利用できないことに腹が立つ。自分の近所で通いやすいところがないければ、2人目、3人目と産むには困る。もっと福祉面も強化してほしい。

子育て支援、システムの充実。

子育て、教育

再開発がようやく進み出しましたが、若い世代(これから家を購入したり、子育てをする)の方々の、今の戸塚にはあまり魅力がないなあという声を耳にするので、この先、戸塚は住みやすいところだよねと思われるような街作りをしていただけたらうれしいと思っています。

医療控除、児童手当などは子育て世代にとってとてもありがたいことなので、ぜひ今後も続けていただきたいと思います。

ハードよりソフトに力を入れて、子育てや教育に税金を使ってほしい。

若い人が入って来なくなると高齢化が加速するので、早く手を打つことが必要です。

以前住んでいた東京某区は子育て支援が充実していた。保育園も親の都合で柔軟に対応してもらえた。こちらに来て費用が1万円も上がり、負担は大きい。

子ども3人を育てていますが、収入のラインが区切りギリギリのラインで、公費も助成金も利用させてもらったことがありません(平成2年、5年、7年)。区は本当に子育て支援をしたいのでしょうか？お金がないと子は育たない時代です。

少子化対策と言っていますが、子どもを生むまでの健診など、何かとお金がかかります。生まれてからの医療費などには保証はあるのですが、一人生まれた後、すぐもう一人と思える余裕はないかなという感じです。妊婦から全て無料という具合じゃないと、少子化ストップは無理かと思えます。

少子化対策として、生まれてくる子どもや乳幼児のための支援は多く行われているようですが、なかなか子どもができず、不妊治療に多くの時間やお金を費やしている人が世の中には数多くおり、そういった人達への支援は手薄であると感じます。金銭的な援助は区政の範囲ではないかもしれませんが、それ以外のサポートがあればと思います。

戸塚区は子育て支援が充実しておらず残念に思う。

子育て支援(幼稚園前の子が遊べる内容のものを増やしてほしい。水遊びができる噴水なども少ない)

この区では子どもを育てたくないと思っています。

下郷公園に砂場が欲しい

小雀町にトイレ付き児童公園が欲しい

子ども達が安全に遊べる場所もないので、考えてほしい。

マンション増加に対し、子どものための公園の数が少ない。

子ども達が安心して外で遊べる環境作り。

横浜各区内には大きな公園が数々ありますが、子ども達がのびのびと運動、アスレチック、森林の中での冒険遊び、網を持っての昆虫採集等々できる公園がほとんどありません。多くの公園は高齢者または静かに散策する大人向き公園で、規制が多すぎます。この規制を取り払い、少し手を加えて子ども達の遊びを目的とした公園を造ってやってほしいと思います。

身近に公園が少ない。あったとしても遊具がほとんどなく、以前に比べて子どもが公園に行きたがらない。

少子化が問題となっている現在、戸塚区もやはり子育てしやすいとは思えません。公園が少なく、近くの公園も周辺道路や住宅からは見えず、安全ではないのでは？との声をよく聞きますし、私自身もそう思います。

保育園、または定員を増やしてほしい。働きたくても働けない女性はたくさんいます。ぜひお願いします。

保育園などの“子育ての充実”をお願いしたいと思います。

マンション建設で人口がますます増えているが、小児科・保育園などの受け入れ体制をもっと強化してほしい。

もうすぐ妻が出産するが、保育所についてとても不安がある。安心して子育てできる環境ができれば、住み続けても良いと思う。

子どもを育てながら仕事も続けられるような対策を、今以上に進めてほしい。保育園の数も増加させてほしいが、それと同時に保育時間の延長や、病気の場合にも預かってもらえるなど、サービス内容も充実させてほしい。

少子化の原因は子どもにお金がかかりすぎることと、安心して預けられる保育園が足りないこと。駅前に作る等しいと若者夫婦は引越します。

戸塚駅前再開発のおかげで、マンション増加により、人の流入が増えてきていると思います。保育園、幼稚園の拡充について検討していただきたい。20代後半～30代が安心して暮らせる街は、活気にあふれると思います。

ちょっと働きたいと思っても、保育施設が定員でいっぱいなのが困る。

保育園を民営化せず、待機児童を減らし、子どもを産み育てやすい環境を作してほしい。

子どもの幼稚園の件ですが、預かり保育が充実している幼稚園が少ないように思います。また、水曜日は午前保育となっている幼稚園が多いのですが、預かってもらえるのかと思います。共働きしようにも、このような援助がないと働けません。

幼稚園の入園申込のために徹夜で並ぶところが多いと聞いたが、そのような状況を改善できないものか。幼稚園に関する情報をどのように得ていいかわからないし、とても不安を感じる。区役所に相談できる窓口があるのかもしれないが、行く時間がないので身近なところで情報を得られるといいと思う。

母子家庭における子どもの手当が、2人目から極端に減少する制度であるが、2人目からの子どもにも同等の扱いを切望する。多産児の場合、1人目も2人目もない扱いをしてほしい。

母子家庭手当を上げてほしい。年々母子家庭が増えていて、毎年手当額が下がってきています。子どもはお金がかかるので大変です。老人の援助も大切ですが、未来のために子どもへの支援をお願いします。

子育て・教育 学校教育の充実や青少年の健全育成

小・中学校では5月頃から教室の温度は30℃になります。ブラインドやカーテン、遮光フィルムが必要です。また、戸塚中学校の校舎は耐震化されているのでしょうか。

この2、3年でマンションが増えていると思います。小学校等一点集中した場合の対策等をお願いします。

大型マンションが林立されているのに、学校や学童、保育園の体制がついていないのではないかな？

昨年まで中学生でしたが、プールの水の援助がないと、水泳部は廃止となり、体育の授業は水泳がなくなりました。マンションはまだまだ出来るそうですが、学校は一杯です。区は計画性を持っているのでしょうか？東戸塚区にこれ以上マンションは必要なのではないかな？

小学校区について、自宅から最寄の品濃小は学区外だと聞いています。品濃小より10分以上も遠い川上小に通うのは小学生にとって負担です。この学区については、生活環境に合わせて再考してほしい。学校の受け入れ許容量という話があると思いますが、特に品濃小の学区は人口増が予想されるので、品濃小の拡張など検討してほしい。

中学給食の導入もぜひ検討してください。環境よりも人に優しい戸塚区になってください。

公立の先生の優秀な先生を採用するべき

小学校、中学校と安心して通わせられる地域づくり、学校の質の向上を希望しています

3年前から小学生相手に科学教室を開き(横浜市内中心に昨年76回、児童1900人)、戸塚区でもPRLしたが、地区センター・コミュニティハウス、小学校校長とも関心を示さなかった。他区では積極的なリーダーがおられて、我々の出張教室を呼んでくれている。忙しいのかもしれませんが、お会いした方々「良いことです」と言うが、自分から何かしようという意欲がない人が多いと感じています。

子ども達の教育の充実をしてほしい。

公教育の充実に力を入れてもらいたい。新任教師が多く、実力的にも、人格的にも未成熟な印象を強く受ける。学級崩壊も事実上発生しており、こういう風評が伝わると更に少子化につながると思う。

子ども達が明るく暮らせる町づくりをしてほしい。便利さを優先しすぎて、子ども達が非行に走る事柄が多いように感じる。乳幼児だけが子どもではなく、人とのコミュニケーションの取り方を学ぶ小学生から、行動範囲が広がり社会を学び始める高校生と、人格の基礎となるこの時期にもとても大切だと感じます。学習だけでなく、心の通う先生が必要であるとも感じます。また、親同士の交流も少ない上、毎年受験がいろいろ変わる事もあり、不安なことを相談できずにいる方もとても多くいます。子どもの心の成長にうまくついていけない親もいて、やはり相談する方がいない。周りの人から「親子で自己中ね」と言われる方も多い気がします。子ども達の心と体の健康が大切だと思います。

医療・福祉 病院や救急医療などの地域医療

健康診断の充実もしてほしい。都内では女性に対するマンモグラフィなどの診断もできる所があると聞いている。健康診断を充実させることで、いつまでも健康で、高齢になっても安心できる。

専業主婦は定期的な検診を受ける機会がありません。都内の某区では、年1回の無料の健診を受けられたのですが、戸塚区にもぜひお願いしたい。また、ガン検診についても、もっと力を入れるべきだと思う。

高齢者社会になり、通院する機会が多くなります。その移動は家族が車で送迎となります。病院等は駐車場の確保をお願いしたいです。土地の問題があり、難しい点も多いと思いますが、このところ強く感じています。

病院等入院期間の延長(現在は3ヶ月で退院させられる)

大病院がない不安。高齢化に伴い介護充実を。

小児科が少ない。

色々な病院が入っているクリニックビルを増やしてほしい。
矢部町あたりに病院がほしい。耳鼻科が少ない。

医療・福祉 駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり

老人は下りが大変なので、駅に下りのエスカレーターを増やして欲しい
障害者、高齢者が地下へ行くのに段差だらけで住みにくい
老人のために陸橋をやめて横断歩道にして欲しい
高齢者や介護をする者が住みやすい区にしてほしい。
バリアフリーをもっと普及させてほしい。
駅前再開発工事中につき、今は不便ですが、完成した時には障害者や高齢者にやさしい街になってほしいと切に願います。もう一度身体の不自由な方々の目線になって街を作っていただきたいし、現在ある施設でも再点検を願うものであります。
戸塚はバリアフリーが駅周辺はもちろんのこと、遅れていると思います。年をとると階段の一段の上り下りが大変なこともあります。バスの障害者用(高齢者用)も少ないと思います。高齢者に優しい街作りをお願いいたします。
人は皆年を取ります。駅、病院などに行きやすい交通網の整備など、弱者の住みやすい街づくりをぜひお願いいたします。

バス停が少ないので増やしてほしい。ベビーカーで乗り降りしやすくしてほしい。
足の悪い一人暮らしの老人です。戸塚駅東口バスを降りると、必ず階段を昇るか、降りるか、しなければなりません。いつも困っています。楽な場所で昇降できるよう考えてください。
戸塚駅西口の再開発と原宿四つ角の高架整備をバリアフリーでお願いしたい
駅周辺が身体不自由者、年寄り等に不便を感じさせる
戸塚駅・東戸塚駅の老人の対策を充実して欲しい。
街はベビーカーでは段差が多く、歩きづらい危険です。お年寄りも不便ではないでしょうか。子どもやお年寄りにやさしい街づくりを期待します。駅周辺、バス通りのバリアフリー、歩道の整備を希望します。
歩道が急に無くなる所があります。また、歩道に電柱がありベビーカーや傘を差していると歩きにくくなります。東口のユニー～下倉田～豊田陸橋方面へかけて。

医療・福祉 高齢者福祉

高齢者福祉の充実
高齢者の医療費も自己負担が増え、弱者は切り捨てるべき存在と思わざるを得ない
老人にやさしい町づくり
高齢者とは一般的に70歳以上の人と区切ってしまうが、80歳でも元気でいられる人もいれば、55歳位で老齢を迎える人もいます。個人個人の体力の差はあります。行政はこういうところに目を向けてほしいです。
高齢者にやさしい街づくりをぜひ進めてもらいたい。
高齢者のためのサービス充実。
高齢化対策を強化してもらいたい。
敬老バスはなくさないでほしい。
高齢化に伴い、高齢者に対する施設を増やしてほしい。実際に、今、その問題に直面して困っている。有料の老人ホームは高くて…。もう少し年金の範囲で暮らせる施設を増やしてほしい。安い所だと入居待ちが長いとか、3ヵ月で退居してくださいとか、そういう問題から早く解決できる街にしてほしい。
老人ホーム等に入れないお年寄りの住宅を造ってほしい。今、県営の住宅に一人で暮らしているおじいちゃんが、退却を言われているのですが、そこを出ると受け入れてくれる住宅がないのです。多家族向けに住んでいるので仕方ないとは思いますが、病気でもあるし、退却して家が無いのでは可哀想です。
老人ホームの充実
一人住まいの人の緊急援助要請に対する対応制度の充実。
認知症予防教室ではなく、実際の認知症施設を知りたい。

医療・福祉 障がい者福祉

戸塚区政に、もし欠けているものがあるとすれば、障害者(知的、精神、身体)が働き、または集い、憩う場所に対する配慮ではないでしょうか。例えば、保土ヶ谷区役所前にあるレストランでは、障害者と健常者が共に働き、町田の小田急線駅近くには障害者の作品とその他の品が並べられ、販売されています。いずれもちょっと町を歩いて目につきますので、一般の人も気楽に利用できます。いくら立派な設備でも、遠く離れていたり、人目につきにくい場所では利用できません。町の一角にぜひそのような人々(障害者)の働ける場所を設けてください。
高齢者、障害者は友達作りも苦手です。健常者を含む全ての人々が気楽に集い、おしゃべりができて、軽食も可能な(安価で)場所の提供をぜひお願いいたします。その時々で、気が向けば特技を教え合ったり、ゲームをしたり、歌ったり、気楽に利用できる施設ができれば良いと思います。人間にとって一番辛いのは「孤独」だと思います。
障害者福祉の充実
今年から授産所に通うには1月約9,000円納めることになり、一ヶ月の作業代でも少し足りないくらい。
身体障害者への補助を切望します(タクシー券など)。
障害児・者の福祉に、更に力を入れてほしい。

施設・区政・地域 区民利用施設の充実

戸塚駅前に各年代の人達が集う施設や、障害者、お年寄り、子ども達が楽しめる娯楽の場があれば良いと思います。
高齢者が集う場所が少ない。市の補助が少なくなったのか、なくなったかのせいで、地区センター、その他民間の施設(補助を受けていたと思われる)も借り賃が高くなって、借りにくくなった。もっと安い施設が近くにあればいいと思う。出掛けたり、人と話すことが健康のために良いと思うからです。
引っ越してきた頃、バス旅行、見学がありましたが、計画してほしいです。
イベントを増やしてください。

子育てサークルなど参加しやすくなると良い。初産に限定しないで、母親教室など参加できると、引っ越して来てからの情報や友人作りに役立つと思う。

子どもを預かってくれるスポーツジムがあるとうれしいです。

公園や運動施設が足りない。

体育館を増設する。

芝のサッカー場がほしい。

戸塚区役所の建物が古い。駐車場がない。

区役所の階段が大変。磯子区のようなエスカレーターがほしい。

区役所に行くのが不便。

区役所が不便なので、なかなか行きづらい。

東戸塚に住んでいるが、区役所や市の施設(図書館やスポーツセンターetc.)が近所がない。戸塚まで電車に乗らねばならない。

区役所に用事があっても、周辺がゴチャゴチャして行きにくい(どうしようもないと思うが)。

区役所前の通りが狭く、全体的にとっても歩きづらいので、歩道をもっと広くしてほしい。

区役所前の通りを一方通行にしてほしい(交通量が多く、たまに歩道に乗り上げて走っていく車がある)。

駅前に区役所はいらない。駅前は日祭日や夜も開いている店が連なっているのがよい。

区役所を駅の近くに、もっと近代的な建物に作り直す必要がある。区役所等公共施設は区民のシンボリック的存在であるから、近代的な建物にするべきである。

区役所を駅近くなど、もっと便利な所に移設してほしい。それができれば駐車場を増やすなどしてほしい。

東俣野に住んでいますが、区役所が遠くて不便です。もっと近くでいろいろできないでしょうか？

駅前に区役所が移転し、便利になることは望ましいことですが、このご時世、あまり華美な建造物、内装にすると区民の反感を買うかもしれません。質実剛健、節約・エコをうたったような区役所になることを願っています。

区役所が遠すぎる(もう少し駅に近くにしてほしい)。

役所関係が駅からちょっと離れているので不便。

区役所は月一回程度土曜日に開いてほしい。

区役所の駐車場が狭いので、広く利用しやすくしてほしい。

税務署と社会保健事務所とが、区役所と離れすぎているので、子連れや車椅子で回るのは困難。駅なかに役所が移転するなら、せめてその跡地にこの2つを移動させてほしい。

市役所支所センターの利用方法や場所のPRが必要。知らない方が多い。

行政サービスコーナーの充実非常に感謝しております(東戸塚駅)。職員の対応にいつも満足しております。

芸術文化向上の一環として、300席以下の小規模コンサートホールがほしい

本格的なコンサートホールが欲しい

東戸塚駅周辺に文化芸術活動を活発にする街作りをしてほしい。

舞岡公園などの自然を生かした公園はよく整備され、戸塚区民として誇れるものの一つだが、文化施設が乏しいのが難。音楽会場や劇自傷とか映画館がほしい。

コンサートや演劇が見られる一流(大きな)の会場がほしい。

地域の施設の充実

子育て支援に関しては、広いスペースを使えてのびのび遊べる支援センターのような施設(いつでも利用可能な)があればよいと思います。

公共施設(図書館、体育館など)が戸塚駅周辺に集中しているため利用しにくい状況なので、出張所などを設けてもらいたい。

戸塚区民ギャラリーがぜひ必要。区内には市民ギャラリーがありますが、あんなに大きい必要はありません。

- ・小さくても照明設備がしっかりしていること。個人でもグループでも借りることができる(有料)。
- ・区のデモンストレーションの展示もする。
- ・展示用具が常備されていること。
- ・区役所の一室でも良いが、天井が50～60cm高いこと。空箱を入れる小さい物置があること。
- ・壁の色は落ち着いたグレーが良い。

ほとんど満足しておりますが、区民小ホールを造っていただきたいです。趣味の会の発表等ができるような施設です。公会堂だけでは足りません。

選挙の事前投票所を増やしてください(立場のヨーク堂)。

年を重ねることにより、地区センター、その他の仕組みがわかりにくい。場所取りの方法ももっと遅くしていただけたらと思います。何日前の午前中等は我々は無理と思います。

バスケができる地区センターの拡大。

地区センターのスポーツ施設の充実。

子どもから大人までスポーツの行きやすい環境を増やしてほしい。

戸塚駅へは電車やバスを利用しないと行けないので、あまり区で行われている催しに参加できません。子ども対象、大人対象のスポーツなど参加したいので、地区センターで行ってほしいです。自主サークルという形で体操はあるようですが、マット、鉄棒が使えず、あまり楽しんだり充実できていません。自主サークルでも使えるようにしてほしいです。

東戸塚地区センターの図書ルームを時々利用しますが、以前はソファなども置いてあり、そこで本を読むことができました。ところが今は図書ルームの一般用のスペースがなくなってしまい、壁際の席も勉強している中学生に占領されているため、一般の人が座る席がほとんどありません。代わりに通路を隔てたところにテーブルと椅子を置いたスペースができたのですが、図書スペースとの関係が張り紙等で明示されているわけではないので、そこで地区センターの本を読んでいいのか、悪いのか理解に苦しむところです。

東戸塚地区センターの講座や教室の募集は数も少なく、毎年同じようなものの繰り返しばかりで、区内の他の地区センターと比べて見劣りがします。もっと新たな取り組みや工夫が必要ではないでしょうか。

介護支援されない老人の集いの場所を地区センター以外に、もっと学校の空き部屋など提供してほしい。
公衆トイレの整備(数・質とも)を進めてほしい。
早く図書館を作してほしい
駅から離れると図書館が遠くて不便
図書館の駐車場が狭い
東戸塚に市民図書館を作してほしい
保土ヶ谷との境の区域に図書館や人が集まり易い施設が欲しい
図書館が駅周辺にしかないのも不便なので、ドリームランド跡地や4号線沿いに作っていただけると良いと思う。
図書館、児童館を拡充してほしい。そういう公共施設が不足しています
図書館を身近に。
東戸塚周辺に図書館(体育館等)の設立。
図書館の勉強机をもうちょっと立派にしてほしい。せめてセパレートをしっかりと。
図書館運営 19時のかなり前から客を追い出そうとする。民営化してサービスを向上してほしい。
自由に使えるプールを作してほしい。
駅から離れると郵便局が遠くて不便

施設・区政・地域 広報・広聴など区政への市民参加の推進

市民活動に活性化を！！
様々な世代の交流の機会作りに、ボランティアで外国語、華道、茶道、講義(世界の国々の滞在の思い出など、もと社会人、教員などで得た体験・知識の分かち合いなど)など無料で行えるサークルを企画
公園の管理、子育て支援等、市民参加型にしたらい
退職者による各種ボランティア活動ができる機会を設ける。
特技や経験を生かしたボランティア活動をしたいが糸口がない
公務員は週1回ボランティアなど地域の向上、美化など参加してほしい。
高齢者の特技を次世代につなぎましょう。
近所との接点を区を通して持ちたい
近所との接点を区を通して持ちたい
挨拶、思いやり、心遣いのある人間関係が大事
計画的に町づくりを進める一つとして、戸塚の町を誇りに思う町に。環境が人を育てる、清潔な町、きれいな町→あたたかいやさしい人を育てることに通じる。
住民参加しやすい行事等で地域社会の活性化を促してもらいたい
戸塚に移り住んで20年近くになるが、地域の連帯感等感じられない。全国的な問題(特に都市部において)であろうが、重要な問題だと考えます
市営住宅に引越をしたいのですが、団地内で孤立してしまったり、嫌がらせをされるのが少し不安。スーパーや病院へ通うための交通の便が悪くなるのが心配。
町内会等組織の充実と活動。
近所では長年住み続けている方も多く、自主的な清掃活動、緑や花を大切に育てる、また近所の方と親しくし、協力し合ったり、当たり前のようにしています。戸塚の住みやすい地域性(人間性)のあらわれかなと思っています
10年前、5年前に比べれば区政について明確に見えるようになりましたが、新興住宅街の誘致で町の形態が変わりました。古い住宅の方々と新しい住宅の方々との交流も大切だと思います。それが災害とか子育て、高齢者の絆の発達となりますので、区政も手助けした方がよいと思います
戸塚駅の東と西の交流強化。
旧住民と新住民との意識の差を埋める努力がない。
汲沢七・八丁目は、いくつかの問題を抱えていると感じています。朝夕の車の渋滞、交通事故の恐れ、火事や地震などの地域ぐるみの防災、高齢者の多さです。
これは、区に何かをしてほしいわけではなく、個人の意見として、もっとお互い思いやりのある、意思疎通の通った地域にしてほしいと思っています。
私がかつて学生で、日本の都市や農村について調べていた頃、阪神大震災のあった神戸市長田区真野地区の住民意識の高さについて、地域の思いやりや意思疎通が通っていて感心した文献があります。日頃から高齢者を助けたり、町内会の呼びかけに参加する市政が、老朽密集住宅地で大きな被害を出しましたが、延焼による二次被害を比較的食い止めることができたと記しています。私達の地域でも、住んでいる人々の心掛けで地域を守れるように取り組みたいところです。
現在町内会、自治会等の会員が減少し、災害時等の対応に危機感を抱く。このことについて行政としてもっと区民の啓蒙・啓発に努力すべきと考える。
民生委員で不評な人は入れ替えを！

施設・区政・地域 身近な行政窓口・相談サービス

戸塚駅にある行政サービスの枠をもっと広げてほしい。
戸塚駅前の休日サービスは大変良い。
戸塚区役所は「これだけは他の区よりも力を入れている」ことがわかるようなサービスの宣言
他の区から「戸塚に住みたい」と思われるような行政サービス
「土日休み」業務を行ってください。
地区センターで住民票等の発行ができるようにしてほしい。
住民票の提出や印鑑登録など証明書は東戸塚駅の出先機関でできるが、それ以外はすべて戸塚まで行く必要がある。
我が家は転勤族でいろいろな県を巡ったが、これほど出生の出張所がない区も珍しい。
区民一人一人に対して、気配りのある、思いやりのある、愛を持った、心のこもった行政の対応を期待しています。

区内といっても一番はずれで、銀行や買い物、駅は藤沢市である。はずれに住む者、まして高齢者には、区民利用施設が戸塚駅周辺では遠く、利用も恩恵も希少である。身近な行政サービスを区の端まで十分行き渡るよう、推進していただきたい。

平戸1丁目に住んでいます。出張所は近いですが、区役所まではバス、徒歩だととても遠く、足が遠のきます。戸塚駅にもう少し近いところに移転等できないのでしょうか。新しいビルができていますが、利用されているのでしょうか？有効利用行政サービスは平日になっていますが、土曜日の利用、昼休みの受付など、一般の企業と同じようにしてもらいたいです。

以前、子育て関係のことで社協→区役所→ケアプラザ…と次々「その内容はここではない」と言われ、聞き回ったことがあった。福祉に関して、区の福祉保健センター、社協、ケアプラザ…など色々なところに関わっていることが多いが、私達にはどこで何をしているのか、サービス内容がわかりにくいことがある。横の連携を取ってもらい、どこに問い合わせればよいかを的確に教えてもらえるような形になると良いと思う。

行政手続きができる出張所を増やしてほしい。各種届出など、区役所まで足を運ぶのが大変です。せめて、主要な駅近辺に証書発行以外のサービスを提供する窓口を置いてほしいです。

役所で働いている方には、区民のためという精神で努めてほしい

高齢化社会を迎えるにあたって、区は職員にどれだけ“高齢者”の学習をさせているのか、区役所等の窓口業務を見て疑問に感じる。効率的にスピーディーになったとは思いますが、老人はそのスピードにはついていられないだろうし、一人一人に対応していると時間がかかるから、他の人はイライラするかも。これからどんどん老人は増えるから、老人向けの対応(ソフト面での)を考えるべきではないか。例えばスーパーのレジみたいに、急ぐ人用窓口とゆっくり説明をしてもらいたい人用窓口を分けるなど。フロアに質問できる人はいるけれど、専門的になるとわからないみたいだし。

前に友人に付き添って母子手帳をもらいに行ったら、窓口におじさんが鼻クソをほじった手で手帳を渡してきました。別のをくださいと言うと、番号が付いているんでと言って、謝りもせずそのまま渡してきました。ムッとしたのである議員さんの名を出し、あなたのことを言いますよと言ったら、急に謝りだしました。もう少し相手のことを考えて行動してほしいです。私たち

区民に頭を下げながら仕事をすることを望む。

役所の窓口の手際が悪い(特に国保)

役所関係の対応が大変良くなった。今後もよりスピーディーな対応を望みます。

役所の対応が悪い

役所の対応がいい加減で信用できない

相談窓口の対応は全て女性職員にしてほしいです。以前、中年の男性が対応して、使いものにならなかったから

老人の生活状態の相談窓口をもっと増やしてほしい

サービス業で働いているので、いろいろな区役所に何回か行きましたが、どこの役所も対応が悪く、「あっちに行って」「こっちに行って」といつも不満に思います。私たちがこのようなことをしたら、お客様はすぐに怒り、苦情係に行き、注意されるか、会社に迷惑がかかり、自分の進退問題になる場合もあります。区役所の方にとって一般市民の皆様は大切なお客様です。だから挨拶もきちんとし、「ありがとうございます」のかけ声も各自、自覚を持って接してください。また、教育もきちんとして、毎日忙しく同じことの繰り返しかもしれませんが、いつも笑顔で対応してほしいです。

支援センターの職員はいつも怒ったような対応なので行きたくない。職員同士のおしゃべりも感じ悪い。

就職の世話ももっと親身になって相談に乗ってほしい。

何年も前のことですが、住民票をもらいに行きました。若い男の方の対応が悪く、二度と行きたくありませんでした。今は駅の近くにできて、親切に教えてくださいますので、助かっております。

区役所、出張所へ出かける度に腹が立つ(多くの人の意見は同じ)。暇そうに仕事している人多すぎる。

親切さが不足している。

泉区より転居してきましたが、サービス内容以前の、区役所における対応の悪さに驚いています。

区役所の大まかな取り組みに関しては評価いたしますが、役所の方々の対応には、腹立たしく思うことが度々です。接客の態度について、もう一度考えてください。

窓口は以前よりだいぶ改善されたように思いますが、なお努力してもらいたい。

人員が余分すぎると思う。受付2人も不要→対応不親切

税金が高くても、ちゃんと市民のために使ってもらっていたら、誰も何も言わないと思う。職員が態度でかいと腹が立つ。

区役所はどうも敷居が高い感が出て、区民が気軽に相談に足を運ぶ雰囲気を感じられません。書類作成でも「ああ、お役所対応だな」、遅い、無愛想、不親切と感ずることが多いです。区政と区民をつなぐ窓口、明るくスピーディ、親切的なイメージ作りをお願いします。

区役所内での職員の対応があまりにも不親切で、とても不安になったことが何度ありました。区民のことを考えていただければ、もう少し対応の仕方を勉強してもらいたいと願っています。お互いに気持ちよく過ごすためには、行きやすさからも、区が行っている行事やら対策にもっと興味を持ち、いろいろと協力できると思います。

区民の私たちも、もっと目を向け、考え、協力していかなければならないと感じています。

時間外、休日等も窓口業務をやってほしい。

区役所、図書館など、やさしく丁寧に対応してほしい(電話でも)。

職員の意識改革、柔軟な発想と効率化。公務員は楽ちんで、親方日の丸と民間企業の人達は見えています。

区役所の職員の方の接客マナーの向上をお願いします。

日限山地区(港南区)との連携がもう少しあれば便利。港南区の情報も、もう少し入ってくると、この街は住みやすい。

我々一般区民は、広報戸塚区版でしか区政を知ることができないので、広報の内容充実を希望します。

公共の催し物を広く知ってもらうように努めてもらいたい。

区や市からのお知らせをメールで配信してほしい。

区役所の便民性強化を希望する。例えばへき地などでは、他の区役所の方が近くて便利である。したがって、区にとらわれずに使用できるようにするか、出張区役所を多く設けてほしい。またはパソコン等による返信での処理の強化を希望する。

窓口の担当の方々の対応は、非常に良くなっています。手続の書類で記入欄が多く、わかりにくいところがあります。できるだけ記入内容を簡素化してください。

健康保険証変更時、夫の代理で身分証明書持参で行きましたが、窓口で直接渡してもらえず、郵送とのこと。できているのに郵送するとは不経済ではないでしょうか。すぐに渡しても不都合はないと思います。

施設・区政・地域 区政・税政など

市民の意見はこういうアンケートで拾っているのですか？市民の声が反映される場はどこでしょうか。

問27のE、Fは子どものいない家庭や未婚の人に対して、おかしい質問だと思います。

問7の質問はおかしいと思います。「力を入れてもらいたい」ではなく、「力を入れるべきもの」なので、聞くこと自体間違いです。私たちの税金を有効に使ってください。

意見・要望を訴えても取り上げないので、書いても意味はない！

このようなアンケートの結果について、要望・提案に対しての回答および対応策と、その期限についても言及していただいてのフィードバックを希望します。

区民へのアンケート等を頻繁に行い、役立ててほしい。

戸塚区がよくなるようにお願いします

安全、安心、安定した区政をお願いしたい

区政として何をしているのか、何をしていきたいのかが伝わらない。このアンケートの結果も発表されるのか、されないのかもその一つです。

遠い光を見通して計画的に「政治」を
より良い町づくり、よろしくお願いします。

全体的にもっとヤル気を出してください。何でもいいかげんすぎ。

駅西口再開発を例にしても、区の指導力不足を強く感じる。新しい駅ビルに文化ホールが入るとの噂があるのに、地区センターの回送をしていたり、やりたいことの方向性が見えてこない

戸塚区は住みやすく満足している

緑化、マンション、公共施設、医療体制をバランス良く充実させていただきたいです。あまり急な人口増加は行政で何とか考えてください。越して来てもよい街と思えるような戸塚であってほしいです。

区長が現場に顔を見せる。区長の顔が見える区政の実施。

単純で常識的に考えて、本当に住みやすい環境を作ってください。住民の心技体をより良くする方法を検討してください。今までの自分勝手な役所だけ良ければ良い方針とか、政治家とか一部の人に気を配る方針ではなく、住民のための方針計画を望みます。

生まれ育った区なので、より住みやすくあって(なって)ほしいと思います。

ペットと過ごしやすい町作りを行ってほしい。

役所が主役になるのではなく、社会の土台作りに積極的になり、その上で民間が主役になるように社会の仕組みを構築するべきである。

四季を感じ取れる町並み、お年寄りが心地よく住める区に。和の心。

区の政策は正直言ってあまり耳に入ってきません。たまに区役所をのぞかせていただいています。横柄な方も多く、不愉快なことが度々です。もっと何か変わってくれんことを望んでいます。

“戸塚区らしさ”をあまり感じない。今まで住んだところはそれなりのイメージがあったが、ここにはない。もしあるならアピール

仕事の合理化。無駄を減らすこと。

区政そのものについて何も知らず、税収の使い方、年度予算などをきちんと報告すべきでは。少しはコストと期間等の目標管理をしたらどうですか。役所は単に金を使うだけで、効果も成果も目標も何もないので、893と同じ。

区民の生活向上に努めていると思うが、一部の権利意識の強い人達に区政が振り回されている傾向がある。区民の存在を忘れないでほしい。

区に何かをやってもらっていると感じたことがない。

小さな区政の実現を希望する。

全てにおいて「区民のために」という意識を持ってやっていただければと思います。

過ごしやすく、頼ることができる戸塚区であってほしいと願っています。

安心して暮らせる町にしてほしいです。

税金は国民の生活、幸福、安全、将来のために使われるようお願い申し上げます。世界の流れにも目を向けてください。

区民のためにこういうことをしたい・しているということが伝わってこない。

市全体が大きく、市内であればどこでも役所等の手続きができるのは便利だが、本当に市全体に目が行き届いているのか不安。

行政の役割をもっと検討すべきだと思う。

住みよい戸塚にさせていただく努力をよろしくお願いいたします。

戸塚区の端に住んでいる。港南区、保土ヶ谷区、南区にも近く、「戸塚」を感じるものが少ないのが淋しい。

人口を増やそうというのはいただけません。最近特に住みにくくなりました。

あまりこれといって特色がなく、誇れるものがない戸塚区は、これからの人口減少の時代にゴースタウン化していくのではないと思う。魅力ある街づくりを目指してこれからも努力してほしい。

泉区から引っ越して来た者ですが、泉区と比べて人口が多い割には、新しいことにチャレンジ、改善する見込みがやや低い。また、窓口もわかりにくい。

緑と文化の街と一目でわかる街づくりを期待します。

戸塚区民が誇りを持てるよう、横浜市の中でも特に優れていることをわかりやすく区役所などに表示してほしい。

いろいろと努力をされているのだとは思いますが、なかなかそれらが伝わってきません。我々と役所の距離が開いてしまわないよう、アピールしていただきたいと思います。

区全体の雰囲気は粗雑です。

広報誌以外の情報伝達手段を考え、いつも市民の声を聞く姿勢を持った行政であって欲しい

区職員を減らすことが重要

以前、産後支援について相談したところ、教科書的な回答しかもらえずに、がっかりしたことがある。立場上、そのような発言しかできないのもわかるが、やはり一人一人の状況に応じた丁寧なサポートをしていただければと思う。その時は感じの良い若い女性が担当していたが、やはり子育て経験があり、公務員ではない人(公務員は制度等恵まれた所にいるので、苦勞がわからない可能性があるため)を採用する等、人選にも気を配り、子育てについて相談しやすい環境作りをしてほしい。
番地制(わかりづらく、親近感がない)ではなく、丁目に変更しては。
栄橋から泉区寄りの名瀬町を、戸塚区から泉区にしてもらいたい。小学校に行くにもバス料金も違うし、区役所も遠すぎて不便です。
以前、とつか区報で、ベビーカーを利用することに批判的な記事が区役所の意見として載っていたが、それはナンセンス！ベビーカー利用のマナーについて考えることは良いことだが、利用の制限は母親の行動範囲を狭め、育児を大変なものにするということを認識してほしい。
建ぺい率等の緩和。
戸塚祭はなくさないでください。
ウェストは何の意味があるのかわからない。
戸塚区サッカー協会を正常にしてもらいたい。横浜市の中でも異常ですよ。子どもが可哀想ですよ。
公共施設は民間に運営させる
住民税を安くしてほしいです。とてもじゃないけど住めません。子どもも作れません
余計なことに行政が手を広げて、財政負担をかけることは絶対に避けるべき
国民保険、介護保険等の保険料の引き下げ
老人の地方税の軽減。
「国民健康保険医療費通知書」は何のために発行しているのか。事務上の制約により年間を通じて全ての受診についてお知らせすることはできません、と記してあるが、こんな無駄、無意義の仕事をする必要性がどこにあるのか理解できない。事務費、人件費、郵便料が無駄である。被保険者は自分の支払分についてのみ関心があり、全体の医療費は自己負担額を負担割合で除すれば算出できるし、国保負担も簡単に計算できるのに、手間暇かけて区が通知する必要性はない。国保負担が何某であるから病院に行くのは控えろと言わんばかりの通知にしか受け止められない。2年前に区の窓口に出向き、異議を申し立てたが、文言を変えただけで無駄を続行している。年間を通じて全員に通知するわけでもない。誰も好きこのんで病院に行く人はいない。そして支払った結果に対し、通知して何が活かされているか。真剣に検討し、税の無駄遣いは止めてほしい。
高額医療費の返還について役所から知らせがあつて、返還の手続をしましたが、これは病院と行政の連係が良いことで、うれしく、また安心しました。今後ともこの積極的な福祉のやり方をすべてにお願いします。
H18年、H19年と2年連続で増加している市民税、県民税がどのように使われているか、住民に示してもらいたい。
税金の無駄遣いはやめましょう！
税金の無駄遣いは止めてほしい。
日本全体で言えることだろうが、不必要ないし、非効率な道路掘り返しが多い。税金はもっともっと節約できるはず。とにかく歳出削減に努めるべし。
税金を無駄遣いしないで、よく計画を立てて行ってほしい。
年金問題はどうすればいいの？
住民税、県民税の通知がきたが、見てびっくり。隔月に3万円も増えています。窓口で相談に行きましたが、これは政府の方で決めたので区役所ではどうにもならないとの返事でした。税率が変わったと言われましたが、納得がいきません。健康保険料も増えています。年金だけで生きているのに、不安でたまりません。財政状況を考慮した区政をお願いしたい。
税金の無駄遣いや天下りの防止、仕事に対して不誠実な公務員のリストラの推進。
定率減税の廃止
高齢者控除の廃止
市民税アップ
医療保険料、医療費自己負担のアップ
後期高齢者医療制度の実施(負担増が予想される)
税金への投入状況を詳しく教えてほしい。
収入が年金だけの方々に、税の公正を考えてほしい。
税金が高い。
市の職員の年収が高すぎる。
区政70周年の取り組みは、単なるイベントの実施のみでお金の無駄遣いとなるようなことは避けていただきたい。
現在18歳で親元を離れて暮らしていますが、金銭的に辛いです。誰かを養う人や母子家庭には援助があるのだから、未成年で家を出ざるを得なくなった人にも福祉の援助がほしいです。実際、20歳以上なら就職できるのに、18歳だから就職できない会社も多いです。
区のビジョン、取り組みなどの周知、広報
高い住民税が何に使われているかわからない。情報周知(HPの整備)に力を入れた方が良いのではないかな。
市報・区報は読みづらいし、面白くない。もう少し工夫できるのでは。
身近なこと、原宿立体交差、戸塚西口開発等広報の数を増やしてほしい。
「区たより」など、今後は見るようにしたい→情報発信されていると思いますが、活用したい。
最近年のせいか、随時ご案内いただく県や市の書類がなかなか判読できぬ傾向があります。なるべくやさしい用語で、理解できるようにしていただくよう希望します。
区役所に行けば参加できるイベントや教室があることがわかるが、なかなか行けないので地域の掲示板などにこまめに情報を載せてほしい。
広報に図書館の情報なども載せてほしい。

区役所の仕事以外、何かしているとは知らなかった。毎日届く便りも活字の羅列で読みにくい。教室があっても申込みしにくいし、参加しにくい。活動状況がわかりにくい。

調查票

平成19年度 戸塚区区民意識アンケート調査票

生活環境全般に対する重要度・満足度について伺います

問1 あなたは以下（①～⑳）のことがらについて、

【1】あなたにとって、どの程度重要だと思いますか。

【2】現在、どの程度満足していますか。

【3】また、以前に比べてどのように変化していると思いますか。

（それぞれについて○は1つだけ）

	【1】重要度					【2】現在の満足度						【3】以前に比べて			
	重要	やや重要	どちらとも いえない	どちらとも ではない	あまり重要 ではない	重要ではない	満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	不満	わからない	良くなった	変わらない	悪くなった
① バス・電車の便	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
② 道路環境の整備	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
③ 違法駐車・放置自転車の 防止や交通安全対策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
④ 最寄り駅周辺のまち づくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑤ 街並み景観の整備	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑥ 商店街や企業の振興	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑦ 緑地保全・緑化推進や 水辺環境の整備	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑧ ごみの分別収集・リサ イクルや街の美化	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑨ 災害対策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑩ 防犯対策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑪ 保育など子育て支援	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑫ 学校教育の充実や青 少年の健全育成	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑬ 病院や救急医療など の地域医療	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑭ 駅舎のバリアフリー など、誰もが移動しや すいまちづくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑮ 高齢者福祉	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑯ 障がい者福祉	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑰ 区民利用施設の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑱ 広報・広聴など区政へ の市民参加の推進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑲ 身近な行政窓口・相談 サービス	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑳ 以上を総合して、 生活環境全般の満足度						1	2	3	4	5	6	1	2	3	4

防災などについて伺います

問2 あなたは自分の住んでいる地域で、大地震が近く起きるのではないかと不安を感じていますか、感じていませんか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------|-------------|
| 1 強く感じている | 3 あまり感じていない |
| 2 多少感じている | 4 全然感じていない |

問3 あなたのご家族では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。(○はいくつでも)

- | |
|---------------------------------|
| 1 消火器を準備している |
| 2 いつも風呂に水をためおきしている |
| 3 家具や冷蔵庫を固定し、転倒を防止している |
| 4 建物の耐震対策をしている |
| 5 食料や飲料水を準備している |
| 6 携帯ラジオ、懐中電灯などを準備している |
| 7 日用品(医薬品、おむつ等)をすぐ持ち出せるよう準備している |
| 8 貴重品などをすぐ持ち出せるように準備している |
| 9 家族との連絡方法などを決めている |
| 10 近くの学校や公園など、避難する場所を決めている |
| 11 防災訓練に参加している |
| 12 その他(具体的に) |
| 13 特に何もしていない |

問4 あなたはご自分のいつとき避難場所、広域避難場所、地域防災拠点、地域医療救護拠点について知っていますか。(それぞれに○は1つだけ)

(1) いつとき避難場所(※)

(※) あらかじめ自治会・町内会など地域で決めておく、一時的に避難する場所です。主に公園や空き地など広くて安全な場所です。

- | | | |
|--------------------|-------------------|--------|
| 1 知っているし、場所もわかっている | 2 知っているが、場所はわからない | 3 知らない |
|--------------------|-------------------|--------|

(2) 広域避難場所(※)

(※) 避難している小中学校や公園、空き地などが周辺の火災の延焼などで危険になりそうな時に避難する場所です。

- | | | |
|--------------------|-------------------|--------|
| 1 知っているし、場所もわかっている | 2 知っているが、場所はわからない | 3 知らない |
|--------------------|-------------------|--------|

(3) 地域防災拠点(※)

(※) 身近な市立小・中学校を、震災時避難場所(地域防災拠点)に指定し、情報受伝達の機能や防災資機材、食料等を保管する防災備蓄庫を備えています。

- | | | |
|--------------------|-------------------|--------|
| 1 知っているし、場所もわかっている | 2 知っているが、場所はわからない | 3 知らない |
|--------------------|-------------------|--------|

(4) 地域医療救護拠点(※)

(※) 負傷者の応急医療等を行う救護所で、区内の市立中学校全11校を指定しています。医薬品、医療用資機材を備蓄し、派遣された医師や看護師等が応急手当などを行います。

- | | | |
|--------------------|-------------------|--------|
| 1 知っているし、場所もわかっている | 2 知っているが、場所はわからない | 3 知らない |
|--------------------|-------------------|--------|

問5 大地震などの災害が起こった時に、あなたの家やご近所に、ひとりで避難することが困難な方、例えば、高齢者や障がい者、乳幼児、病人・けが人、妊産婦、外国人などの心配な人はいますか。(○は1つだけ)

1 いる

2 いない

3 わからない

(問5で「1」と答えた方に)

問5-1 その方はどのような人ですか。(○はいくつでも)

- | | | |
|---------------------|----------------------------------|---------|
| 1 高齢者 | 〔 歩行困難や認知症等で介護が必要な方、ひとり暮らしの方など 〕 | 5 妊産婦 |
| 2 障がい者 | | 6 外国人 |
| 3 病人・けが人(歩行が困難な方など) | | 7 その他 |
| 4 乳幼児 | | (具体的に) |

問6 大地震が起きた場合、あなたは、あなたの家族以外の、自力で避難することが困難で、援護を必要とする人に対して、どのような協力ができそうだと思いますか。あなたご自身や家族の安全はおおむね確保されていると仮定してください。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1 「大丈夫ですか」などの声かけ | 7 相談相手や話し相手になる |
| 2 避難の手助け | 8 外国人への通訳、情報提供 |
| 3 家族や親族・知人への連絡 | 9 オムツや薬、ミルクなどの必需品の確保 |
| 4 災害状況や避難情報などの伝達 | 10 その他(具体的に) |
| 5 一時的な保護・預かり | 11 協力できそうにない |
| 6 介護や応急手当 | 12 わからない |

問7 あなたが防災に関して行政に力をいれてもらいたいことはどのようなことですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------|----------------------------------|
| 1 災害時における情報連絡体制の充実 | 11 災害要援護者(高齢者や体の不自由な方)の支援対策 |
| 2 避難場所・避難道路の整備 | 12 帰宅困難者への対策 |
| 3 水・食糧・毛布などの十分な備蓄 | 13 国や近隣自治体、企業などとの協力体制の強化 |
| 4 地域における防災組織の確立 | 14 防災ボランティアの育成や受け入れ態勢の整備 |
| 5 防災訓練などの意識啓発の強化 | 15 医療救護の確保など、災害時の医療体制の強化 |
| 6 学校や公共施設の耐震化・安全化 | 16 電気、ガス、水道、電話などのライフライン施設の耐震性の向上 |
| 7 地下街や高層ビルに対する防災指導の強化 | 17 その他(具体的に) |
| 8 一般住宅の耐震診断・耐震補助 | 18 特になし |
| 9 ハザードマップ(※)の作成 | |
| 10 避難方法や避難場所の周知 | |

(※)ハザードマップとは、予測される災害の発生地点、被害の拡大範囲および被害程度、さらには避難経路、避難場所などの情報を地図上に表したものです。

問8 あなたが地震以外で身近に不安を感じるものは何ですか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------|---------------------------|
| 1 風水害 | 5 犯罪(空き巣、ひったくり、子どもへの犯罪 等) |
| 2 がけくずれ | 6 交通事故 |
| 3 火災 | 7 その他(具体的に) |
| 4 テロ・武力行為 | |

少子高齢化などについて伺います

問9 あなたは、戸塚区で高齢化が進んでいることを感じるがありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------|---------------|
| 1 強く感じるがある | 4 あまり感じたことがない |
| 2 多少感じるがある | 5 感じたことがない |
| 3 どちらともいえない | |

問10 あなたは、戸塚区で実施されている認知症予防教室を知っていますか。(○は1つだけ)

- | |
|--------------------|
| 1 知っているし、参加したこともある |
| 2 知っているが、参加したことはない |
| 3 知らない |

問11 10年後、戸塚区は4人に1人が65歳以上の高齢者となることが予測されています。「超高齢社会」を迎えるにあたって、持続可能な地域社会のために、あなたは何が必要だと思いますか。特に大切だと思うものを3つまで選んでください。

- | |
|---------------------------------|
| 1 身近な地域での支えあい・助けあい |
| 2 病院や駅へ行くための身近な交通手段の確保 |
| 3 大量退職期を迎えている「団塊世代」の地域活動への参加 |
| 4 いつまでも元気に暮らせるための介護予防など高齢者支援の充実 |
| 5 将来世代を生み育てやすくするための子育て支援の充実 |
| 6 若い世代の地域活動への参加促進 |
| 7 NPOやボランティア組織の積極的な活用 |
| 8 趣味や余暇活動などの生きがいづくり |
| 9 さまざまな世代の交流の機会の創出 |
| 10 高齢者を対象とした新たな雇用機会の創出 |
| 11 高齢者を対象とした健診など健康管理体制の整備 |
| 12 その他(具体的に |

問12 あなたは、戸塚区で少子化が進んでいることを感じるがありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------|---------------|
| 1 強く感じるがある | 4 あまり感じたことがない |
| 2 多少感じるがある | 5 感じたことがない |
| 3 どちらともいえない | |

問 13 戸塚区では子育て支援の一環として、地区センターや地域ケアプラザなど地域の身近な場所(13 か所)で週1回、おもちゃで遊んだりおしゃべりしたり、子育ての相談もできる「遊び場・しゃべり場・ほっとタイム」を行っています。あなたはこの取組を知っていますか。(○は1つだけ)

- 1 知っているし、利用したこともある
- 2 知っているが、利用したことはない
- 3 知らない

(問 13 で「1」と答えた方に)

問 13-1 今後、どのようなことを望みますか。(○はいくつでも)

- 1 場所や回数を増やして欲しい
- 2 相談だけでなく、養育者向けの講座も行なって欲しい
- 3 このままの内容で継続的に開催して欲しい
- 4 もっと周知することが必要だと思う
- 5 その他(具体的に)

(問 13 で「2」と答えた方に)

問 13-2 利用しない理由は何ですか。(○はいくつでも)

- 1 時間がない
- 2 場所が遠い
- 3 利用する必要がない
- 4 その他(具体的に)

問 14 今後あなたは、ご自分の力(特技、技術ほか)をボランティア・市民活動や自治会・町内会等の地域活動で生かしていきたいと思いますか。(○は1つだけ)

- 1 そう思う
- 2 どちらかといえばそう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえばそう思わない
- 5 そう思わない



緑の保全などについて伺います

問 15 あなたは、お住まいの地域で、身近な緑が減ってきたと感じますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------|-----------|
| 1 強く感じる | 4 あまり感じない |
| 2 多少感じる | 5 感じない |
| 3 どちらともいえない | |

問 16 あなたは、身近な緑を保全し増やしていくことは大切だと思いますか。(○は1つだけ)

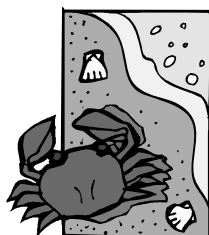
- | | |
|-------------|---------------|
| 1 非常に大切だと思う | 4 あまり大切だと思わない |
| 2 大切だと思う | 5 大切だと思わない |
| 3 どちらともいえない | |

問 17 あなたは、横浜市が取り組んでいる「150万本植樹行動」、戸塚区が取り組んでいる「とつか緑と暮らそうキャンペーン」を知っていますか。(○は1つだけ)

- | |
|----------------------------|
| 1 両方知っている |
| 2 「150万本植樹行動」だけ知っている |
| 3 「とつか緑と暮らそうキャンペーン」だけ知っている |
| 4 両方知らない |

問 18 区役所では、自然や緑の多い特性を活かして、体験農業や農業教室などを今後実施していくことを検討しているところです。あなたはこうした「農」に関する取組に関心を持っていますか。(○は1つだけ)

- | |
|-------------|
| 1 関心を持っている |
| 2 関心を持っていない |
| 3 わからない |



区制 70 周年・開港 150 周年に向けた取組について伺います

問 19 あなたは、平成 21 年(2009 年)に戸塚区が区制 70 周年、横浜が開港 150 周年を迎えることを知っていますか。(○は1つだけ)

- 1 両方知っている
- 2 戸塚区が区制 70 周年を迎えることだけ知っている
- 3 横浜が開港 150 周年を迎えることだけ知っている
- 4 両方知らない

(問 19 で「1」「2」と答えた方に)

→ 問 19-1 区制 70 周年について、どこで知りましたか。(○はいくつでも)

- 1 広報よこはま戸塚区版
- 2 戸塚区ホームページ
- 3 自治会・町内会の回覧板・掲示板
- 4 イベントでの告知(会場ののぼり、ちらし等)
- 5 区制 70 周年イベントに参加したことがある
- 6 もともと知っていた
- 7 その他(具体的に

)

問 20 あなたは、区制 70 周年で区役所が区民と共にどのようなことを行うとよいと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 郷土愛が育まれる取組
- 2 文化芸術活動が活発になる取組
- 3 歴史を振り返る機会に結びつく取組
- 4 地域や世代を越えた交流が生まれる取組
- 5 子どもたちが自分のまちを好きになる取組
- 6 自然の豊かさ・大切さを再認識する取組
- 7 道路や河川環境など、まちの魅力がアップする取組
- 8 その他(具体的に

)

定住意向について伺います

問 21 あなたは、これからもずっと今のお住まいに住み続けるお気持ちですか。(○は1つだけ)

- 1 住み続ける
- 2 たぶん住み続ける
- 3 たぶん移転する
- 4 移転する
- 5 わからない

(問21で「3」「4」と答えた方に)

→ 問 21-1 現実の問題は別として、次の移転先としては、戸塚区内、横浜市内、横浜市以外のいずれを希望されますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------|--------------|
| 1 戸塚区内 | 3 横浜市以外 |
| 2 横浜市内 | 4 具体的にはわからない |

そ の 他

問 22 あなたは、インターネットを利用していますか(電子メールのみを使用している場合も含みます)。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1 パソコンと携帯電話の両方で利用している | 3 携帯電話のみで利用している |
| 2 パソコンのみで利用している | 4 利用していない |

問 23 戸塚区政について、具体的なご意見、ご要望、ご提案などございましたら、自由にご記入ください。

問 29 あなたの現在のご職業をお聞かせください。(○は1つだけ)

- 1 自営業(農林漁業、商工サービス業、自由業の自営業主および家族従業者)
- 2 管理職(会社の部長級以上、官公庁の課長級以上など)
- 3 専門技術職(勤務医師、研究所研究員、技師など)
- 4 事務職(事務職、営業職、教員など)
- 5 現業職(生産工程、販売・サービス、運転手、保安職などの従事者)
- 6 主婦・主夫
- 7 学生
- 8 無職
- 9 その他

問 30 あなたのお住まいは、この中のどれにあたりますか。(○は1つだけ)

- 1 持家(一戸建て)
- 2 持家(マンション・共同住宅)
- 3 借家(一戸建て)
- 4 借家(マンション・共同住宅、社宅、公務員住宅、寮)
- 5 その他(具体的に)

問 31 あなたは、こちら(現住所)にいつごろからお住まいになっていますか。(○は1つだけ)

- 1 昭和 20 年(1945 年)以前 [終戦前、63 年以上前]
- 2 昭和 20～29 年(1945～1954 年) [終戦後、53～62 年前]
- 3 昭和 30～39 年(1955～1964 年) [43～52 年前]
- 4 昭和 40～49 年(1965～1974 年) [33～42 年前]
- 5 昭和 50～59 年(1975～1984 年) [23～32 年前]
- 6 昭和 60～平成6年(1985～1994 年) [13～22 年前]
- 7 平成7～11 年(1995～1999 年) [8～12 年前]
- 8 平成 12～16 年(2000～2004 年) [3～7年前]
- 9 平成 17 年(2005 年)以降 [3年未満]

お疲れ様でした。質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
お手数ですが同封の返信用封筒に入れ、**8月28日(火)**までにご投函ください。

平成 19 年度戸塚区民意識調査報告書

平成 1 9 年 1 1 月

発 行：戸塚区役所 区政推進課 広報相談担当
〒244-0003
横浜市戸塚区戸塚町 157-3
電 話 0 4 5 (8 6 6) 8 3 2 2
F a x 0 4 5 (8 6 2) 3 0 5 4

◆調査実施機関：株式会社 地域環境計画